

令和8年度
授 業 概 要
(シラバス)



東北生活文化大学短期大学部

シラバス使用の手引き

シラバスは本年度開講されている科目の授業内容や年間授業計画などを、担当者ごとに説明しているものです。履修登録する科目を決める際や、受講に際しての準備や確認のために役立ててください。

【記載例】

① 科目名	⑦ 【科目ナンバリング】
② 単位（総授業時間＋自習時間）：	
③ 対象学科：	
④ 授業形態： 学期： 必・選：	
⑤ 履修科目：	
⑥ 担当者：	
◆ 授業の概要	
◆ 授業の到達目票	
◆ 学位授与の方針との関連	
◆ 授業計画の内容	
◆ 自習（事前・事後学習の内容）	
◆ 履修上の注意	
◆ 成績評価方法・基準	
◆ 教科書	
◆ 参考書	
◆ 備考	

【科目情報の見かた】

- ① 科目名：授業科目名を記載しています。
- ② 単位（総授業時間＋自習時間）：単位数，授業で学ぶ時間数と授業外で自習が求められる時間数を記載しています。
- ③ 対象学科：対象の学科・専攻，学年を記載しています。
- ④ 授業形態／学期／必・選：授業科目の形態を演習，講義，実験，実習，実技，集中で区分／授業科目の開講期間を前期，後期，通年で区分／必修科目，選択科目で区分し記載しています。
- ⑤ 履修科目：大学共通教養科目，基幹科目，学科専攻科目，教職に関する科目，博物館に関する科目で区分し記載しています。
- ⑥ 担当者：科目担当者の氏名を記載しています。
- ⑦ 科目ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階，順序等をあらわします。

大分類	中分類	小分類	科目番号	レベル	学年
A	1	a	01	1	1

大分類：学科・専攻の区分

A・・・食物栄養学専攻

B・・・子ども生活専攻

K・・・学科共通

中分類：科目の区分

1・・・学科共通教養科目

2・・・基幹科目

3・・・専攻科目

小分類：科目群

項目	内容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 ※学位授与の方針との関連：次のページを参照ください。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
自習(事前・事後学習)	事前：授業時間外の予習について記載しています。 事後：授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修した方がよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数$1/3$を超えて欠席した場合は、その時点で不合格となりますので注意してください。
教科書および参考書	授業で使用するため、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。 参考書籍がある場合、記載しています。

学習成果（ディプロマポリシーに基づく観点目標）

生活文化学科 食物栄養学専攻

〔知識・理解〕

1. 基礎的な学習能力・知識と社会人としての豊かな教養を身につけること。
2. 家庭と社会との関りを理解できること。
3. 栄養士に必要な専門知識・技術と、食分野の幅広い知識を身につけること。

〔汎用的技能〕

4. 栄養士として指導力を発揮できる実践力・コミュニケーション能力を身につけること。

〔態度・主体性〕

5. 基準や法令を遵守し、安全でおいしい食事を提供するための態度や倫理観・責任感をもつこと。

〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

6. 実習・演習・講義などを通して修得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立し、主体的に行動できる能力を身につけること。

生活文化学科 子ども生活専攻

〔知識・理解〕

1. 基礎的な学習能力・知識と社会人としての豊かな教養を身につけること。
2. 家庭と社会との関りを理解できること。
3. 保育士と幼稚園教諭に必要な専門知識・技術と、保育に関する幅広い知識を身につけること。

〔汎用的技能〕

4. 保育の現場で自ら課題の解決に取り組むことができる実践力・コミュニケーション能力を身につけること。

〔態度・主体性〕

5. 保育者として子どもの安全や健全な成長にかかわることへの態度や倫理観・責任感をもつこと。

〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

6. 実習・演習・講義などを通して修得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立し、主体的に行動できる能力を身につけること。

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈短大 子ども生活専攻科目〉 39単位

科目名	単位数	担当者
保育の計画と評価	2	高橋 恵美
保育内容総論	1	
保育内容(環境)	1	
教育・保育方法論	2	
保育内容の指導法	1	
保育の実技と演習	1	
保育実習指導Ⅰ	2	
保育・教職実践演習(幼稚園)	2	
児童文化	1	高橋 恵美 ・ 門脇 梢
保育内容(表現Ⅱ)	1	高橋 恵美 ・ 田宮 希砂
保育内容(表現Ⅰ)	1	武田 早苗
子どもと造形表現	1	
子ども家庭福祉論	2	米川 純子
発達心理学	2	
子ども家庭支援の心理学	2	
教育・保育相談	2	千葉 明子
子どもの保健	2	
子どもの食と栄養Ⅰ	1	渡辺 勝枝
子どもの食と栄養Ⅱ	1	
保育内容(言葉)	1	佐藤 深雪
子どもと言葉	1	
子どもと環境	1	小森谷 一朗
子どもと音楽表現	1	大友 詠里子
乳児保育Ⅰ	2	嶺岸 祐子
子どもの健康と安全	1	新沼 映子
ピアノⅠ	1	大友 詠里子 ・ 阿部 玲子 渡邊 恵 ・ 渡邊 祐子
ピアノⅡ	1	
ピアノⅢ	1	
ピアノⅣ	1	

〈短大 食物栄養学専攻科目〉 23単位

科目名	単位数	担当者
解剖生理学	2	大崎 雄介
臨床栄養学実習	1	益田 裕司
給食管理学	2	
給食管理基礎演習Ⅰ	1	
給食管理基礎演習Ⅱ	1	
給食管理実習Ⅰ	1	
給食管理実習Ⅱ	1	
給食管理実習Ⅲ(給食運営に係る校外実習)	1	
栄養士基礎演習	1	
ライフステージ栄養学実習Ⅱ	1	益田 裕司 ・ 渡辺 勝枝 済渡 久美 ・ 松田 実花
臨床栄養学概論	2	木下 ゆり
臨床栄養学各論	2	
栄養指導論Ⅱ	2	済渡 久美 ・ 松田 実花
栄養指導論実習	1	
テーブルコーディネートⅠ(テーブルマナーを含む。)	1	小林 知恵子
テーブルコーディネートⅡ	1	
フードマネジメント	2	森田 明 ・ 作田 竜一 ・ 丹治 朋子

2026年度 シラバス科目情報一覧

生活文化学科 子ども生活専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
B-3-a-01-2-1	保育原理	前期	子専1	伊 藤 利 恵	講義	1	2	30201
B-3-a-02-2-1	教育原理	後期	子専1	倉 品 有 佳	講義	1	2	30202
B-3-a-03-2-1	子ども家庭福祉論	前期	子専1	大瀬戸 美 紀	講義	1	2	30203
B-3-a-04-2-1	社会福祉論	前期	子専1	大瀬戸 美 紀	講義	1	2	30204
B-3-a-05-2-2	地域福祉論	後期	子専2	大瀬戸 美 紀	講義	2	2	30205
B-3-a-06-2-2	子ども家庭支援論	後期	子専2	伊 藤 利 恵	講義	2	2	30206
B-3-a-07-2-1	社会的養護 I	後期	子専1	大瀬戸 美 紀	講義	1	2	30207
B-3-a-08-2-2	保育者論	後期	子専2	三 浦 主 博	講義	2	2	30208
B-3-a-09-2-2	教育・保育制度論	後期	子専2	久保田 朋 実	講義	2	1	30209
B-3-b-01-2-1	発達心理学	後期	子専1	米 川 純 子	講義	1	2	30210
B-3-b-02-2-2	子ども理解の理論と方法	前期	子専2	米 川 純 子	演習	2	1	30211
B-3-b-03-2-2	教育心理学	後期	子専2	植 松 公 威	講義	2	1	30212
B-3-b-04-2-2	子ども家庭支援の心理学	後期	子専2	米 川 純 子	講義	2	2	30213
B-3-b-05-2-2	教育・保育相談	前期	子専2	米 川 純 子	講義	2	2	30214
B-3-b-06-2-1	子どもの保健	前期	子専1	千 葉 明 子	講義	1	2	30215
B-3-b-07-2-2	子どもの食と栄養 I	前期	子専2	渡 辺 勝 枝	演習	2	1	30216
B-3-b-08-2-2	子どもの食と栄養 II	後期	子専2	渡 辺 勝 枝	演習	2	1	30217
B-3-c-01-2-2	教育課程論	前期	子専2	倉 品 有 佳	講義	2	1	30218
B-3-c-02-2-1	保育の計画と評価	後期	子専1	高 橋 恵 美	講義	1	2	30219
B-3-c-03-2-1	保育内容総論	前期	子専1	高 橋 恵 美	演習	1	1	30220
B-3-c-04-2-1	保育内容（健康）	前期	子専1	廣 瀬 団	演習	1	1	30221
B-3-c-05-2-1	保育内容（人間関係）	前期	子専1	伊 藤 利 恵	演習	1	1	30222
B-3-c-06-2-1	保育内容（環境）	後期	子専1	高 橋 恵 美	演習	1	1	30223
B-3-c-07-2-1	保育内容（言葉）	後期	子専1	佐 藤 深 雪	演習	1	1	30224
B-3-c-08-2-1	保育内容（表現 I）	前期	子専1	武 田 早 苗	演習	1	1	30225
B-3-c-09-2-1	保育内容（表現 II）	前期	子専1	田 宮 希 砂	演習	1	1	30226
				高 橋 恵 美				
B-3-c-10-2-2	子どもと健康	後期	子専2	廣 瀬 団	演習	2	1	30227
B-3-c-11-2-2	子どもと人間関係	前期	子専2	伊 藤 利 恵	演習	2	1	30228
B-3-c-12-2-2	子どもと環境	前期	子専2	小森谷 一 朗	演習	2	1	30229
B-3-c-13-2-2	子どもと言葉	前期	子専2	佐 藤 深 雪	演習	2	1	30230
B-3-c-14-2-2	子どもと音楽表現	前期	子専2	大 友 詠 里 子	演習	2	1	30231
B-3-c-15-2-2	子どもと造形表現	後期	子専2	武 田 早 苗	演習	2	1	30232
B-3-c-16-2-1	教育・保育方法論	前期	子専1	高 橋 恵 美	講義	1	2	30233
				松 尾 広				
B-3-c-17-2-2	保育内容の指導法	前期	子専2	高 橋 恵 美	講義	2	1	30234
B-3-c-18-2-2	保育の実技と演習	前期	子専2	高 橋 恵 美	演習	2	1	30235
B-3-c-19-2-1	児童文化	後期	子専1	門 脇 梢	演習	1	1	30236
				高 橋 恵 美				
B-3-c-20-2-1	乳児保育 I	前期	子専1	嶺 岸 祐 子	講義	1	2	30237
B-3-c-21-2-1	乳児保育 II	後期	子専1	嶺 岸 祐 子	演習	1	1	30238
B-3-c-22-2-1	子どもの健康と安全	後期	子専1	新 沼 映 子	演習	1	1	30239
B-3-c-23-2-2	障害児保育	前期	子専2	大瀬戸 美 紀	演習	2	2	30240
B-3-c-24-2-2	特別支援教育	後期	子専2	大瀬戸 美 紀	講義	2	1	30241
B-3-c-25-2-2	社会的養護 II	前期	子専2	伊 藤 利 恵	演習	2	1	30242
B-3-c-26-2-2	子育て支援	後期	子専2	伊 藤 利 恵	演習	2	1	30243
B-3-c-27-2-1	ピアノ I	前期	子専1	大 友 詠 里 子	演習	1	1	30244
				阿 部 玲 子				
				渡 邊 恵				
				渡 辺 祐 子				

2026年度 シラバス科目情報一覧

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
A-3-a-01-1-1	有機化学	前期	食専1	小 川 智 久	講義	1	2	30101
A-3-a-04-2-2	栄養情報処理演習Ⅰ	前期	食専2	池 田 展 敏	演習	2	1	30103
				松 尾 広				
A-3-a-05-2-2	栄養情報処理演習Ⅱ	後期	食専2	池 田 展 敏	演習	2	1	30104
				益 田 裕 司				
A-3-b-01-2-2	社会福祉論	後期	食専2		講義	2	2	30105
A-3-b-02-2-2	公衆衛生学	前期	食専2	栗 山 孝 雄	講義	2	2	30106
A-3-b-03-2-1	健康管理概論	後期	食専1	栗 山 孝 雄	講義	1	2	30107
A-3-c-01-2-1	解剖生理学	後期	食専1	大 崎 雄 介	講義	1	2	30108
A-3-c-02-2-2	運動生理学	後期	食専2	川 俣 幸 一	講義	2	2	30109
A-3-c-03-2-1	生化学	後期	食専1	鈴 木 裕 行	講義	1	2	30110
A-3-c-04-2-2	病理学	後期	食専2		講義	2	2	30111
A-3-d-01-2-1	食品学	前期	食専1	永 沼 孝 子	講義	1	2	30112
A-3-d-02-2-2	食品機能学	後期	食専2	永 沼 孝 子	講義	2	2	30113
A-3-d-03-2-1	食品学実験Ⅰ	前期	食専1	永 沼 孝 子	実験	1	1	30114
A-3-d-04-2-1	食品学実験Ⅱ	後期	食専1	永 沼 孝 子	実験	1	1	30115
A-3-d-05-2-2	食品衛生学	前期	食専2	高 瀬 清 美	講義	2	2	30116
A-3-d-06-2-2	食品衛生学実験Ⅰ	前期	食専2	高 瀬 清 美	実験	2	1	30117
A-3-d-07-2-2	食品衛生学実験Ⅱ	後期	食専2	高 瀬 清 美	実験	2	1	30118
A-3-d-08-2-1	微生物学	前期	食専1	高 瀬 清 美	講義	1	2	30119
A-3-e-01-2-1	栄養学Ⅰ	前期	食専1	永 沼 孝 子	講義	1	2	30120
A-3-e-02-2-1	栄養学Ⅱ	後期	食専1	永 沼 孝 子	講義	1	2	30121
A-3-e-03-2-2	栄養学実験	後期	食専2	永 沼 孝 子	実験	2	1	30122
A-3-e-04-2-1	ライフステージ栄養学	後期	食専1	永 沼 孝 子	講義	1	2	30123
A-3-e-05-2-1	ライフステージ栄養学実習Ⅰ	後期	食専1	阿 部 優 子	実習	1	1	30124
A-3-e-06-2-2	ライフステージ栄養学実習Ⅱ	前期	食専2	益 田 裕 司	実習	2	1	30125
				渡 辺 勝 枝				
				濟 渡 久 美				
				松 田 実 花				
A-3-e-07-2-2	臨床栄養学概論	前期	食専2	木 下 ゆ り	講義	2	2	30126
A-3-e-08-2-2	臨床栄養学各論	後期	食専2	木 下 ゆ り	講義	2	2	30127
A-3-e-09-2-2	臨床栄養学実習	後期	食専2	益 田 裕 司	実習	2	1	30128
A-3-f-01-2-1	栄養指導論Ⅰ	後期	食専1	濟 渡 久 美	講義	1	2	30129
				松 田 実 花				
A-3-f-02-2-2	栄養指導論Ⅱ	後期	食専2	濟 渡 久 美	講義	2	2	30130
				松 田 実 花				
A-3-f-03-2-2	栄養指導論実習	前期	食専2	濟 渡 久 美	実習	2	1	30131
				松 田 実 花				
A-3-f-04-2-2	公衆栄養学	後期	食専2	栗 山 孝 雄	講義	2	2	30132
A-3-g-01-2-1	調理科学論	前期	食専1	宮 地 洋 子	講義	1	2	30133
A-3-g-02-2-1	調理学実習Ⅰ	前期	食専1	宮 地 洋 子	実習	1	1	30134
A-3-g-03-2-1	調理学実習Ⅱ	後期	食専1	宮 地 洋 子	実習	1	1	30135
A-3-g-04-2-2	調理学実習Ⅲ	前期	食専2	宮 地 洋 子	実習	2	1	30136
A-3-g-05-2-1	給食管理学	前期	食専1	益 田 裕 司	講義	1	2	30137
A-3-g-06-2-1	給食管理基礎演習Ⅰ	後期	食専1	益 田 裕 司	演習	1	1	30138
A-3-g-07-2-2	給食管理基礎演習Ⅱ	前期	食専2	益 田 裕 司	演習	2	1	30139
A-3-g-08-2-1	給食管理実習Ⅰ	前期	食専1	益 田 裕 司	実習	1	1	30140
A-3-g-09-2-2	給食管理実習Ⅱ	前期	食専2	益 田 裕 司	実習	2	1	30141
A-3-g-10-2-2	給食管理実習Ⅲ (給食運営に係る校外実習)	前期	食専2	益 田 裕 司	実習	2	1	30142
A-3-g-11-2-1	栄養士基礎演習	後期	食専1	益 田 裕 司	演習	1	1	30143

生活文化学科共通教養科目

生物と生命倫理

(30001)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年・食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

堀 江 佐知子

■ 授業の概要

本講義は、生命の誕生から生物の一種として、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目標とし講義を行う。

生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。本講義では、地球上で生命が受け継がれてきた道筋を知る講義であり、細胞内の分子のようなマイクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで、さまざまな生命現象を学んでいく講義である。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	0.7		0.3			
・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第2回 原始地球の誕生	地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第3回 地球と生命の誕生と進化	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第4回 魚の進化	魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第5回 植物の進化	植物の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第6回 哺乳類の進化	哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第7回 鳥の進化	鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第8回 昆虫の進化	昆虫の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第9回 人類の進化	人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回 ヒトの設計図、遺伝子	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回 心臓・血管	心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回 骨と筋肉	骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回 免疫	免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回 脳と心	脳について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回 講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回 期末試験	期末試験対策を行う。

■ 履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート及び期末試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況（ミニットペーパーへの記入）及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、講義の終了時に受付ける。

環境学

(30002)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 子専2年・食専2年

授業形態 : 講義 学期 : 後期 必・選 : 選択

生活文化学科 共通教養科目

高瀬 清美

■ 授業の概要

人間活動により、気候変動、大気汚染、水質汚濁、海洋汚染等の様々な環境問題が引き起こされている。これらの問題は、私たち一人一人の日常生活や経済活動にも深く根ざしており、その影響は地球規模で広がっている。本講義では、環境問題の現状とその発生原因について学び、それらを評価・改善していくための方策について理解を深めるとともに、持続可能な社会の実現に不可欠な環境学の基礎的素養を身につけ未来の環境課題に対応する力を養う。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
・ 環境保全に関する全般的な知識を習得する。	0.7 0.3
・ 授業で取り上げる様々な環境問題に対して、各自の意見が述べられるようにする。	

■ 授業計画

	自習 (事前・事後学修の内容)
第1回 オリエンテーション 環境学とは？	事前：シラバスをよく読み、授業の内容を把握する。 事後：授業内容の復習をする。
第2回 人類による環境汚染・環境破壊の歴史	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第3回 農薬による環境汚染	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第4回 ネオニコチノイド系農薬について	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第5回 生物多様性とは (生態系サービスと人類の福利)	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第6回 外来生物による生物多様性の損失	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第7回 資源の過剰利用による生物多様性の損失	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第8回 再生可能エネルギーとは (太陽光発電)	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第9回 再生可能エネルギーとは (風力発電など)	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第10回 プラスチックごみによる環境汚染	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第11回 マイクロプラスチックとは	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第12回 水質汚濁	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第13回 地球温暖化と気候変動	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。

第14回 環境保全・修復技術とSDGs 地域の取り組み	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第15回 総括	事前：これまでの授業内容の復習をする。 事後：様々な問題に対して、自分の言葉で意見を述べるができるようにする。
第16回 期末試験	これまでの授業で学んだことを総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

日常生活において、環境問題や保全に係わる情報に注意、関心を向けるよう心掛けてください。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点・受講態度（授業に対する積極性、発言、質問）：40%、ミニットペーパー、レポート課題：50%、期末試験：10%として評価します。
- ・ミニットペーパー、レポート課題については授業中にフィードバックを行います。

■ 教科書

- ・特になし
- ・講義内で資料を配布します。

■ 参考書

授業時間内に適宜紹介します。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

消費生活と経済

(30003)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 子専2年・食専2年

授業形態 : 講義 学期 : 後期 必・選 : 選択

生活文化学科 共通教養科目

舩谷 謙 二

■ 授業の概要

われわれが享受している豊かな消費生活は「大量生産・大量販売・大量消費システム」による高度経済成長から、今日の「経済活動のグローバル化」に至る経済成長によってもたらされた。しかし、その過程では消費生活を脅かす欠陥商品・不当表示・契約トラブルなど多様な問題もあった。

この授業では、われわれの消費生活を背後で支える経済のメカニズムや、その発展の歩みを概観するとともに、さまざまな「消費者問題」の発生と対処について教授する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

- ・ 経済活動の基礎的メカニズムが理解できる。
- ・ 消費生活が経済社会の発展と共に変容してきたことが理解できる。
- ・ 消費者問題の内容と対処法が理解できる。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥
0.75 0.25

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	オリエンテーション：授業の進め方、授業概要の確認など	シラバスを精読して授業に臨む。
第2回	経済発展と消費生活の変容 (1970年代まで)	レポートを作成して次回提出する。
第3回	経済発展と消費生活の変容 (1980年代から)	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第4回	消費生活のメカニズム：需要と供給の世界 (最適消費の理論)	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第5回	消費生活のメカニズム：需要と供給の世界 (雇用と物価)	レポートを作成して次回提出する。
第6回	理念としての消費者と現実の消費者 (消費者主権)	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第7回	消費者問題の概要 (1) 消費者保護基本法の基本視角	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第8回	消費者問題の概要 (2) PL法から消費者基本法へ	レポートを作成して次回提出する。
第9回	クレジット社会の消費者問題	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第10回	情報化社会の諸消費者問題	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第11回	高齢社会の消費者問題	レポートを作成して次回提出する。
第12回	企業・消費者・行政	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第13回	消費者保護から自立支援へ	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第14回	消費者政策と消費者教育	レポートを作成して次回提出する。
第15回	補足と授業のまとめ	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第16回	期末試験 (レポート課題)	

■ 履修上の注意

テレビや新聞で日々の経済の動きや消費者問題の動向について継続的にチェックしておくこと。

※初回授業には必ず出席すること。

■ 成績評価方法・基準

授業内で提出するミニットペーパー (75%)・期末試験 (25%) で評価する。なお、ミニットペーパーについては次回授業でフィードバックする。

■ 教科書

プリントを配布する。

■ 参考書

授業中に適宜指示する。

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は初回授業で確認) に受付ける。

社会学

(30004)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年・食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

庄 司 一 平

■ 授業の概要

各回1つのテーマについて、根本から考えなおす社会学入門。社会と個人の関係に関する知識社会学の考え方を参考にしつつ、各トピックについて概説する。時代の変化という縦軸と、社会の多様性という横軸とを組み合わせながら、近現代におけるさまざまな社会現象の歴史的因果関係と構造的特性を考える。基礎知識の習得だけでなく、〈社会学的なものの方見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけを行うことを目的とする。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 社会に関する幅広い教養を身につける	0.4	0.2		0.2		0.2
・ 社会学的なものの方見方をふまえた思考力・判断力を身につける						
・ 社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける						

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 インTRODクション	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 「社会」という言葉～起源と類型～
第2回 「自己と他者」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 アイデンティティと社会化、役割理論、ゲーム理論
第3回 「家族」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 ヒトとサル、結婚と性、日本のイエ制度
第4回 「共同体」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 社会集団の類型、生活空間と境界・異界
第5回 「国家」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 イデオロギーと教育、ナショナリズム
第6回 「ことば」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 記号と象徴、コミュニケーション、聖典
第7回 「あそび」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 遊びの概念、まじめ／ふまじめ、退屈と充実
第8回 「あたりまえ」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 常識の生成、制度・規範・統制・階層
第9回 「思い込み」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 知識と信念、呪術・科学・宗教
第10回 「連帯」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 ネットワーク、人間関係資本、団結と対立
第11回 「仕事」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 合理性、資本主義、交換、勤勉
第12回 「善悪」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 宗教倫理と世俗倫理、道徳と社会
第13回 「正義」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出

第14回 「不安」の社会学	人権の思想、自由・平等・政治的公正 事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 恐怖と不安、不安の構造、不安への対処
第15回 まとめ	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 全体の振り返り
第16回 期末試験	レポート

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー） [50%]、②期末レポート [50%] により総合的に評価する。授業中に適宜振り返りを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

①ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1、200円＋税。

②ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成—知識社会学論考』新曜社、2、900円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

日本国憲法

(30005)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年・食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修 幼免（必）

生活文化学科 共通教養科目

横 田 尚 昌

■ 授業の概要

憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールと基本的人権を定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利及び義務（基本的人権）について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。	1					
・憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。						
・憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）	近代立憲主義の基本原理が日本国憲法のなかでどのように生きているのかを確認する。
第2回 天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）
第3回 選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）	選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
第4回 国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）	国家とは、「国権の最高機関」とであると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
第5回 内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）	政府の形態のいくつかの種類があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
第6回 裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
第7回 地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
第8回 人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のあり方を理解する。
第9回 人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する
第10回 幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。
第11回 内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由など

	的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。)	の精神的自由権の内容について把握する
第12回	表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。)	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
第13回	経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。)	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
第14回	生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。)	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかように保障されているのか、またその限界について把握する。
第15回	参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。)	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。

■ 履修上の注意

身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。5回を超えて欠席（6回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。

なお、法令検索は、e-GOV（イーガブ）

<https://laws.e-gov.go.jp>

をお勧めします。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（平常点は、授業時間中の勉学姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60%（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートの総評についてはGoogleクラスルームにてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（授業前にGoogleクラスルーム上で資料を配布し、それに沿って講義する。)

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

必修

オフィスアワーに代えて、Googleクラスルーム上で質問メッセージをお送りくだされば、これに対して随時ご返答いたします。

文化史

(30006)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年・食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

庄 司 一 平

■ 授業の概要

わたしたちの時間は、普段の暮らしという日常と、まつりやイベントという非日常から成り立っている。非日常的な行事や儀礼の多くは、年齢の節目（おとな／子ども）や季節の切り替わり（春／夏／秋／冬）をつくりだし、人生と暮らしにメリハリを与える「人生儀礼」や「年中行事」である。この講義では、過去と現在における口頭伝承・民間習俗を手がかりに、さまざまな行事や儀礼の様式およびその歴史的・文化的背景、日本社会における生き方・暮らし方をめぐる諸問題について考える。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本の民俗文化に関する幅広い教養を身につける	0.5	0.15		0.1	0.15	0.1
・日本の人生儀礼・年中行事とその文化的背景について、意欲的に調べ説明することができる						
・日本社会における生き方・暮らし方について、主体的に考え議論することができる						

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 インTRODクシヨン	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 人生の時間と儀礼、生活の時間と行事
第2回 年齢と人生の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 年齢という制度・規範、年祝いと厄年
第3回 誕生の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 名づけ、初宮詣、初誕生
第4回 こどもと若者の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 七五三、成年式、通過儀礼と「一人前」
第5回 おとなの民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 縁結び、結婚と出産、家事と育児
第6回 老いの民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 老いと文化、終末期への備え、ポックリ願望
第7回 病の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 あいまいな「病気」と「健康」、病気なおし
第8回 医の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 医療化、代替医療、生命倫理、QOL
第9回 ケアの民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 キュアとケア、緩和ケア、心のケア
第10回 死の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 さまざまな死、死の受容、看取り
第11回 死後の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 「あの世」の比較文化
第12回 暦と行事の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 さまざまな暦法と祝日、日の吉凶

第13回 まつりの民俗文化（1）～春・夏～	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 正月、初午、夏まつり
第14回 まつりの民俗文化（2）～秋・冬～	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 七夕・お盆、年越し
第15回 まとめ	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 全体の振り返り
第16回 期末試験	レポート

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー）[50%]、②期末レポート[50%]により総合的に評価する。授業中に適宜、振り返りを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）『暮らしの中の民俗学』1～3（吉川弘文館、2003年）、各2,600円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

心理学

(30007)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 子専1年・食専1年

授業形態 : 講義 学期 : 前期 必・選 : 選択

生活文化学科 共通教養科目

植 松 公 威

■ 授業の概要

心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究のプロセス、とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について、実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として、行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析などを取り上げ、それぞれの理論を説明する。また、記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 1. 条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。	1					
・ 2 行動主義心理学, 社会的学習理論, 精神分析の各理論の人物名とキーワードを理解する。						
・ 3 記憶のメカニズムについて感覚的記憶, 短期記憶, 長期記憶の関係を理解し, 説明できるようになる。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス (教授内容と教育目標) - 見る、聞くとはどういうことか -	あらかじめシラバスを熟読すること。
第2回 条件操作的な実験の重要性について - 「利口な馬ハンス」の話など -	資料を熟読し、要点をまとめること。
第3回 心理学の目標と研究のプロセス	資料やノートを復習し、要点をまとめること。
第4回 説得における「一面 (片面) 提示」と「二面 (両面) 提示」の効果	実験の結果を理解し、考察ついてまとめること。
第5回 心理学を勉強すれば人の心がわかるようになるか	文献を読み、このテーマについて考え、自分の意見をまとめること。
第6回 現代の心理学の背景① 行動主義心理学 (ワトソンの理論)	レスポナント条件づけについて調べること。
第7回 現代の心理学の背景② 行動主義心理学 (スキナーの理論)	オペラント条件づけについて調べること。
第8回 現代の心理学の背景③ 社会的学習理論 (バンデュラの理論)	「観察学習」について調べること。
第9回 現代の心理学の背景④ 精神分析 (フロイトの理論)	無意識や抑圧について調べること。
第10回 精神分析学における自我防衛のメカニズム	資料を熟読し、専門用語を理解すること。
第11回 自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説	資料を熟読し、練習問題に取り組むこと。
第12回 まとめの確認課題	あらかじめ復習して課題に臨むこと。
第13回 記憶の実験 - 系列位置曲線と系列位置効果 -	実験結果の考察を考え、レポートすること。
第14回 記憶のしくみ - 感覚的記憶・短期記憶・長期記憶 -	ノートを見直し、専門用語を理解すること。
第15回 エビングハウスの忘却曲線について	資料とノートを見直し、感想をまとめること。
第16回 期末試験	期末試験対策の学習をすること。

■ 履修上の注意

毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20%、期末試験80%。

レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。

各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う予定である。

授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前に資料 (プリント) を配布する。

■ 参考書

授業の中で適宜、紹介する。

■ 備考

質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

レクリエーション論

(30008)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年・食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

廣 瀬 団

■ 授業の概要

レクリエーション活動の実施を通じた、子どもから高齢者までライフステージに応じた心の元気づくりは、個人の健康のみならず、地域のきずなづくりにも役に立つことである。このようなレクリエーションの主旨や、身体能力・ハンディキャップに合わせたレクリエーション支援目的を理解することとともにレクリエーション事業の企画・実施に必要な知識と実施方法、とくに集団づくりの方法や信頼関係を深めるコミュニケーションのとり方を学習する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・レクリエーションの意義や価値観を日常生活へ取り入れることの重要性を具体的に理解する。	0.3	0.3				0.4
・レクリエーション活動が心身に及ぼす効果や役割について理解し、その重要性について理解する。						
・他者の意見や価値観の多様性を認め、自らの考えを表現できる。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション レクリエーションの目的や理由およびレクリエーション・インストラクターの役割とは	本講義の内容・枠組み等を理解する
第2回 楽しさと心の健康作りの理論① レクリエーションの楽しさを感じる心の仕組み	事前にレクリエーションとは何か考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第3回 楽しさと心の健康作りの理論② 子どもや高齢者を支援する地域ネットワークとレクリエーション	事前に地域のきずなについて考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第4回 レクリエーション支援理論① レクリエーション支援における、信頼関係とは	事前に信頼関係およびコミュニケーションについて考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第5回 レクリエーション支援理論② レクリエーション活動を通じた良好な集団作りとコミュニケーション	事前に、集団でのコミュニケーションについて考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第6回 レクリエーション支援理論③ 自主的・主体的にレクリエーション活動を楽しむ力、やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み	事前に自分のやる気について考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第7回 レクリエーション支援のプログラム① リスクマネジメントの方法と配慮	事前にリスクマネジメントについて考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第8回 レクリエーション支援のプログラム② レクリエーションプログラムの立案	事前にプログラムについて考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第9回 レクリエーション支援のプログラム③ レクリエーションプログラムの立案	事前に前回の授業を振り返り、整理してまとめておく
第10回 レクリエーションの必要性 レクリエーション活動の必要性の確認	事前に自分が関わる集団について調べること。授業後、授業内容を整理しておく
第11回 身近な素材を使った製作とあそび①	事前に製作に使える身近な素材について調べること。授業後、授業内容を整理しておく
第12回 身近な素材を使った製作とあそび②	事前に前回の授業を振り返り、整理してまとめておく
第13回 季節行事でのクラフト製作とあそび	事前に季節行事について調べること。授業後、授業内容を整理しておく
第14回 特別な素材を使った製作とレクリエーション①	事前に製作の活動について振り返り、授業後、授業内容を整理しておく
第15回 特別な素材を使った製作とレクリエーション② 授業のまとめ	事前に前回の授業を振り返り、整理してまとめておく
第16回 定期試験（レポート）	事前に15回の授業を振り返っておくこと

■ 履修上の注意

アクティブ・ラーニング（リアクションペーパー/グループワーク/発表など）による授業展開も行います。積極的な参加・傾聴・受容

・共感・非審判的態度でのぞんでください。快適な学習環境を維持するよう受講生同士でマナーを遵守してください。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（リアクションペーパー／グループワーク／発表など）：60% 提出物（レポート／製作した作品）：40%

■ 教科書

「楽しさをとおした心の元気づくり」第7版 公益財団法人日本レクリエーション協会 2024.

■ 参考書

■ 備考

質問等は授業終了時、もしくはオフィスアワーで受け付けます。受講者の理解度により、授業内容の進行に変更があります。

健康スポーツ I

(30009)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科: 子専1年・食専1年

授業形態: 演習 学期: 前期 必・選: 選択 幼免(必)・保育(必)

生活文化学科 共通教養科目

廣 瀬 団

■ 授業の概要

自分自身の身体を認知することを柱に、個人および社会生活に対する健康・運動・安全の知識を深め、運動の合理的な実践方法や健康維持増進のための能力や資質を高めることで、自分自身の健康管理のみならず社会人として、協力・支援ができる力を育むことを目的とする。具体的には、自分自身の身体を知り、他者の身体を知った上で各スポーツ、レクリエーション活動を対象者に合わせたルールにするなど、人があってスポーツ及びレクリエーション活動があるということを実践を通して学ぶ。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・積極的にスポーツ、レクリエーション活動を行うための、基礎技能とコミュニケーション技能を獲得する。	0.5			0.1	0.1	0.3
・運動に親しむための積極的な態度を示すことができる。						
・運動やスポーツ、レクリエーション活動の場面において他者と協調・協同することができる。						

■ 授業計画

	自習 (事前・事後学修の内容)
第1回 オリエンテーション レクリエーション支援の目的と方法	本授業の内容および枠組み等を理解する
第2回 レクリエーション支援の方法① ホスピタリティ・トレーニングを用いた運動	事前にホスピタリティについて考えること。 授業後、授業内容を整理しておく
第3回 カウンセリング・マインドの方法と実践 カウンセリング・マインドを用いた運動	事前にカウンセリング・マインドについて調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第4回 レクリエーション支援の方法① コミュニケーションゲーム集団がまとまる仕組みを活かすプログラム	事前に集団でのレクリエーション活動について調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第5回 レクリエーション支援の方法② 良好な集団作りの方法 (アイスブレイキングモデル)	事前にアイスブレイキングについて調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第6回 レクリエーション支援の方法③ アイスブレイキングの効果を高める支援技術	前回の授業を振り返りをしていくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第7回 ハードル設定の方法と実践 成功体験を楽しむハードル設定	事前にハードル設定について調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第8回 レクリエーション支援の方法⑤ 自主的、主体的に楽しむ力を育てる活動の展開方法 (CSSプロセス)	事前にCSSプロセスについて調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第9回 レクリエーション支援の方法⑥ 自主的、主体的に楽しむ力を育てる活動の展開方法 (コミュニケーションワーク)	事前にコミュニケーションワークについて調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第10回 バスケットボール (基本技術の理解と実践)	事前にバスケットボールについて調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第11回 バスケットボール (戦術の理解と実践)	前回の振り返りを行い、ゲームにおける戦術を考えておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第12回 ドッジボール (特性および基本技術の理解と実践)	事前に様々なドッジボールについて調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第13回 ソフトバレーボール (基本技術の理解と実践)	事前にソフトバレーボールについて調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第14回 スポーツ大会の創作と準備	事前に集団での競技種目について調べておくこと

第15回 スポーツ大会の運営

。
授業後、授業内容を整理しておく
前回の授業で創作した内容を整理しておくこと。
授業後、授業内容を整理しておく

第16回 定期試験（提出物による）

■ 履修上の注意

1. スポーツウェア等運動しやすい服装、室内用シューズ（スポーツ用）を着用してください。
 2. 髪が肩に届く場合は束ね、アクセサリ類はすべて外しておくこと。
 3. 水分補給用の水分を必ず用意してください。（ペットボトル・水筒などしっかり蓋ができる容器）
 4. 筆記用具を必ず持参してください。授業毎に振り返りを行います。
- ※運動が困難な場合、申し出てください、見学してレポートを提出するなどの対応をすることがあります。

■ 成績評価方法・基準

練習、ゲームでの積極性、建設的な発想をもとにした意見・発言などを評価します。授業参加での積極性や貢献度：60点。
事前・事後学習としての提出物やアクションペーパー：40点、提出物は、評価終了後にフィードバックします。

■ 教科書

「楽しさをとおした心の元気づくり」第7版 公益財団法人日本レクリエーション協会 2024.

■ 参考書

■ 備考

質問等は授業終了時、もしくはオフィスアワーで受け付けます。受講者の理解度により、授業内容の進行に変更があります。
。

健康スポーツⅡ

(30010)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科 : 子専2年・食専2年

授業形態 : 演習 学期 : 前期 必・選 : 選択 幼免 (必) ・保育 (必)

生活文化学科 共通教養科目

廣 瀬 団

■ 授業の概要

健康スポーツⅠの実技をふまえ将来に役立てられる運動の技術を日常生活に取り入れ、生涯を健康に過ごすことができる知恵と能力を身につけ、実践できるよう具体的な方法、例えば運動できる環境、運動を継続するための工夫を学ぶ。それらのために自身の健康や身体そのものに興味を持ち、運動の楽しさを体感し、自分自身で運動能力を向上させることができる思考を身につけ、今後の体力の維持・向上に役立てていけるような運動実践を体験的に学習してもらいます。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・自身の体力を維持できる実践力を身につけることができる。	0.5			0.1	0.1	0.3
・スポーツ、レクリエーション活動の楽しさを理解し、日常生活で実践することができる。						
・スポーツ、レクリエーション活動の重要性を理解し、日常生活で実践することができる。						

■ 授業計画

授業計画	自習 (事前・事後学修の内容)
第1回 オリエンテーション 授業内容 授業の概要や目的、授業の進行に係る説明	本授業の内容および枠組み等を理解する
第2回 集団での運動とゲーム1	事前に集団レクリエーションについてどのようなものがあるか調べておくこと。また授業後、授業内容を整理しておく
第3回 集団での運動とゲーム2	前回の授業を振り返り、整理しておくこと
第4回 集団での運動とゲーム3	前回の授業を振り返り、整理しておくこと
第5回 子どもとレクリエーション	事前に子どものレクリエーションにはどのようなものがあるか調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第6回 高齢者とレクリエーション	事前に高齢者のレクリエーションにはどのようなものがあるか調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第7回 音楽に合わせた身体活動	事前に音楽を用いた身体活動にはどのようなものがあるか調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第8回 リズム運動とレクリエーション	事前にリズムを使ったあそびについて調べておくこと。 授業後、授業内容を整理しておく
第9回 ニュースポーツの実践1 チャレンジザゲーム (特性および基本技術の理解と実践)	事前にチャレンジ・ザ・ゲームについて調べておくこと。授業後、授業内容を整理しておく
第10回 ニュースポーツの実践2 ミニテニス (特性および基本技術の理解と実践)	事前にミニテニスについて調べること。 授業後、授業内容を整理しておく
第11回 ニュースポーツの実践3 インディアカ (特性および基本技術の理解と実践)	事前にインディアカについて調べること。 授業後、授業内容を整理しておく
第12回 ニュースポーツの実践4 タスポニー (特性および基本技術の理解と実践)	事前にタスポニーについて調べること。 授業後、授業内容を整理しておく
第13回 ニュースポーツの実践5 ポートボール (特性および基本技術の理解と実践)	事前にポートボールについて調べること。 授業後、授業内容を整理しておく
第14回 ニュースポーツの実践6 キックベースボール (特性および基本技術の理解と実践)	事前にポートボールについて調べること。 授業後、授業内容を整理しておく
第15回 ニュースポーツの実践7 ドッチビー (特性および基本技術の理解と実践)	事前にドッチビーについて調べること。 授業後、授業内容を整理しておく
第16回 定期試験 (レポート)	

■ 履修上の注意

1. スポーツウエア等運動しやすい服装、室内用シューズ (スポーツ用) を着用してください。

2. 髪が肩に届く場合は束ね、アクセサリ類はすべて外しておくこと。
 3. 水分補給用の水分を必ず用意してください。（ペットボトル・水筒などしっかり蓋ができる容器）
 4. 筆記用具を必ず持参してください。授業毎に振り返りを行います。
- ※運動が困難な場合、申し出てください、見学してレポートを提出するなどの対応をすることがあります。

■ 成績評価方法・基準

練習、ゲームでの積極性、建設的な発想をもとにした意見・発言などを評価します。授業参加での積極性や貢献度：60点。
事前・事後学習としての提出物やリアクションペーパー:40点、提出物は、評価終了後にフィードバックします。

■ 教科書

「楽しさをおとした心の元気づくり」第7版 公益財団法人日本レクリエーション協会 2024

■ 参考書

■ 備考

質問等は授業終了時、もしくはオフィスアワーで受け付けます。受講者の理解度により、授業内容の進行に変更があります

。

日本語基礎

(30011)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

佐藤 恵美

■ 授業の概要

高校教員として教科の国語を指導してきた経験から、高等学校までに身に付けてきた日本語の能力を復習しながらも、社会に出た後も必要となる日本語の運用方法を幅広く講義する。その中で、知識を得るだけではなく誤りやすい表現にも注意しながら、体験を通して知識を発展させる。得た知識はアウトプットさせながら、伝えるためにどうすべきかを学生自身が考え、楽しみながら、そして他者と交流しながらスキルを身に付け、文章を書く上でも、簡潔且つ効果的で正しい表現を身に付ける。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本語の特徴を理解し実際に正しく運用するためのスキルを身に付ける。	0.7	0.3				
・社会人としての幅広い教養と役立つ知識を学び身に付ける。						
・自己の考えを構築し分かりやすく表現できる能力を身に付ける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 講義内容の説明 表現練習1「非言語と言語のコミュニケーションを知ろう」 日本語の知識確認テスト①	リアクションペーパーの記入。 言葉を使用しないコミュニケーションの難しさを感じ振り返りを行う。
第2回 表現練習2「人に伝える楽しさ・難しさを知ろう」 日本語の文法確認テスト②	リアクションペーパー記入 5～6人でコミュニケーションゲームを行い振り返りをする。
第3回 表現練習3「歌詞から見る日本語」 日本語の文法 文の単位と品詞 文の構造と助詞	歌詞を品詞分解したり、言葉の意味を感じ取るワークシートに取り組む。
第4回 日本語の語彙 同音・同訓・類義語・対義語について 確認テスト③	謎かけ問題や言語変換シートを作成し、自身の語彙力をチェックする。
第5回 表現練習4「発声の仕組みを体験しよう」 日本語の発音 発声の仕組み・母音と子音の仕組み	実際に音（声）を出して感じ方の違いに触れる。 ワークシートに記入。
第6回 敬語の概説と演習	敬語についての基礎知識を確認する。
第7回 方言と共通語・標準語	歴史と関連付けて学習する。 方言の魅力を調べワークシートに記入する。
第8回 あいまいな文章表現や文の乱れをなくす	良文と悪文の違いを把握する。 リアクションペーパーに記入する。
第9回 表現の工夫 比喩表現・接続語句と指示語	文章を見て修正を行い、正しい表記に直す。
第10回 文章構成の基礎① 事実と意見の違い(200字作文)	ある事例を提示し、意見文を書く。 意見文をグループで回し読みし、意見文添削シートに記入する。
第11回 文章校正の基礎② 映像から必要な情報を読み取る①	添削について事前に調べ学習をする。 グループ発表後にワークシートにて振り返りを行う。
第12回 文章校正の基礎③ 映像から必要な情報を読み取る②	グループ発表後にワークシートにて振り返りを行う。
第13回 実力確認テスト	総復習確認テストとなるため、事前に配布プリントの予習をする。
第14回 思考と言語化	思考と言語の繋がりについて他者との意見交換後に振り返りシート記入、調べ学習を行う。
第15回 生きる言葉を考える	世の中に溢れている言葉を取り上げて学びを深めるワークシートを記入する。
第16回 期末レポート	提出後に模範解答をもとにフィードバックする。

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシートは整理して保管すること。

ノートやメモを積極的に取り、復習や定期試験に役立てること。

積極的にグループワーク等に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（40%）、課題やレポート（30%）、リアクションペーパー（30%）を目安として総合的に判断する。
レポート提出後模範解答を配布し、フィードバックを行う。

■ 教科書

講義内でワークシート（プリント）を配布。

■ 参考書

なし。

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。質問や相談等は講義前や終了後、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

日本語基礎

(30012)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

佐藤 恵美

■ 授業の概要

高校教員として教科の国語を指導してきた経験から、高等学校までに身に付けてきた日本語の能力を復習しながらも、社会に出た後も必要となる日本語の運用方法を幅広く講義する。その中で、知識を得るだけではなく誤りやすい表現にも注意しながら、体験を通して知識を発展させる。得た知識はアウトプットさせながら、伝えるためにどうすべきかを学生自身が考え、楽しみながら、そして他者と交流しながらスキルを身に付け、文章を書く上でも、簡潔且つ効果的で正しい表現を身に付ける。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本語の特徴を理解し実際に正しく運用するためのスキルを身に付ける。	0.7	0.3				
・社会人としての幅広い教養と役立つ知識を学び身に付ける。						
・自己の考えを構築し分かりやすく表現できる能力を身に付ける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 講義内容の説明 表現練習1「非言語と言語のコミュニケーションを知ろう」 日本語の知識確認テスト①	リアクションペーパーの記入。 言葉を使用しないコミュニケーションの難しさを感じ振り返りを行う。
第2回 表現練習2「人に伝える楽しさ・難しさを知ろう」 日本語の文法確認テスト②	リアクションペーパー記入 5～6人でコミュニケーションゲームを行い振り返りをする。
第3回 表現練習3「歌詞から見る日本語」 日本語の文法 文の単位と品詞 文の構造と助詞	歌詞を品詞分解したり、言葉の意味を感じ取るワークシートに取り組む。
第4回 日本語の語彙 同音・同訓・類義語・対義語について 確認テスト③	謎かけ問題や言語変換シートを作成し、自身の語彙力をチェックする。
第5回 表現練習4「発声の仕組みを体験しよう」 日本語の発音 発声の仕組み・母音と子音の仕組み	実際に音（声）を出して感じ方の違いに触れる。ワークシートに記入。
第6回 敬語の概説と演習	敬語についての基礎知識を確認する。
第7回 方言と共通語・標準語	歴史と関連付けて学習する。 方言の魅力を調べワークシートに記入する。
第8回 あいまいな文章表現や文の乱れをなくす	良文と悪文の違いを把握する。 リアクションペーパーに記入する。
第9回 表現の工夫 比喩表現・接続語句と指示語	文章を見て修正を行い、正しい表記に直す。
第10回 文章構成の基礎① 事実と意見の違い(200字作文)	ある事例を提示し、意見文を書く。 意見文をグループで回し読みし、意見文添削シートに記入する。 添削について事前に調べ学習をする。
第11回 文章校正の基礎② 映像から必要な情報を読み取る①	グループ発表後にワークシートにて振り返りを行う。
第12回 文章校正の基礎③ 映像から必要な情報を読み取る②	グループ発表後にワークシートにて振り返りを行う。
第13回 実力確認テスト	総復習確認テストとなるため、事前に配布プリントの予習をする。
第14回 思考と言語化	思考と言語の繋がりについて他者との意見交換後に振り返りシート記入、調べ学習を行う。
第15回 生きる言葉を考える	世の中に溢れている言葉を取り上げて学びを深めるワークシートを記入する。
第16回 期末レポート	提出後に模範解答をもとにフィードバックする。

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシートは整理して保管すること。

ノートやメモを積極的に取り、復習や定期試験に役立てること。

積極的にグループワーク等に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（40%）、課題やレポート（30%）、リアクションペーパー（30%）を目安として総合的に判断する。
レポート提出後模範解答を配布し、フィードバックを行う。

■ 教科書

講義内でワークシート（プリント）を配布。

■ 参考書

なし。

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。質問や相談等は講義前や終了後、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

国語表現法

(30013)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

佐藤 恵美

■ 授業の概要

人にどう伝えたら言いたいことが伝わるのか。言葉を使いこなす力、正確に伝える力以外にも、表現とは多くある。高校教員として指導してきた国語の表現力を基礎として、自分自身の特性や特徴を知りながら、伸ばす部分と改善する部分を見つめスキルアップしていく。実社会を生きる上で必要とされる知識や表現力については、他者との交流を通じて他者からの視点で意見交換をしながら表現力を高める。文章を書く上では、論理的且つ簡潔な文章を書くために必要なスキルを身に付けるために、小論文や意見文を書くことでスキルアップしていく。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての幅広い教養と役立つ知識を学び身に付ける。 ・自己の意見を言語化し、簡潔で分かりやすい文章を作成することができる。 	0.7 0.3

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス 講義内容の説明 表現練習①「言葉を通して人と関わろう。」	表現とは何かを考え、ワークシートに記入する。
第2回 自分を表現する① 自分の過去を振り返る 自分史作成	家族や友人から過去の自分についてインタビューをしてくる。 自分史作成シートに記入する。
第3回 自分を表現する② 自分の取り扱い説明書・200字自己紹介文作成	前時の課題を復習する。
第4回 身近なものを表現する 200字紹介文作成	原稿を仕上げる。 紹介文をグループになって発表し合い振り返りシートを完成させる。
第5回 実用的な手紙の書き方 実用的な敬語表現	様々な種類の手紙を書き、完成させる。 敬語表記のワークシートを配布し、調べ学習を行う。
第6回 短い文で端的に表現する力 ～短歌甲子園～	ワークシートを仕上げる。
第7回 グループディスカッションについて ねらい・形式・準備・意見のまとめ方	グループでの自己紹介文を作成する。
第8回 グループディスカッション実践①個人 ～社長になるならどう考えるか～	ワークシートを仕上げる。 グループになって発表した後、ワークシートを記入する。
第9回 グループディスカッション実践②グループ討論	グループになって発表原稿を完成させる。
第10回 グループディスカッション実践③発表	ワークシートに記入する。
第11回 意見の伝え方「プレゼンテーションの方法」 計画書作成①	抽象的なテーマから具体的なテーマに絞って調べ学習をする。
第12回 計画書作成② グループ分け	計画書・原稿作成・提出。 プレゼンテーション資料の作成。
第13回 プレゼンテーション実践①グループ発表	グループでの発表後にワークシートの記入をする。
第14回 プレゼンテーション実践②全体発表	他者の発表から得たことをワークシートにまとめる。
第15回 プレゼンテーション実践③全体発表 表現とは何か	他者の発表から得たことをワークシートにまとめる。 表現と国語表現についてのワークシートを記入する。
第16回 期末テスト（レポート）	今まで学習したことについてまとめ、振り返りを行う。 提出後、模範解答を基にフィードバックをする。

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシートは整理して保管すること。
グループワークに積極的に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

期末レポート(50%)、ワークシートなどの課題(30%)グループディスカッションでの様子やプレゼンテーションでの発表(20%)を目安として総合的に判断する。
期末レポート提出後模範解答を配布してフィードバックを行う。

■ 教科書

講義内でワークシート(プリント)を配布する。

■ 参考書

なし。

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。
質問や相談等は講義前や終了後、あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。

国語表現法

(30014)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 子専1年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

生活文化学科 共通教養科目

佐藤 恵美

■ 授業の概要

人にどう伝えたら言いたいことが伝わるのか。言葉を使いこなす力、正確に伝える力以外にも、表現とは多くある。高校教員として指導してきた国語の表現力を基礎として、自分自身の特性や特徴を知りながら、伸ばす部分と改善する部分を見つめスキルアップしていく。実社会を生きる上で必要とされる知識や表現力については、他者との交流を通じて他者からの視点で意見交換をしながら表現力を高める。文章を書く上では、論理的且つ簡潔な文章を書くために必要なスキルを身に付けるために、小論文や意見文を書くことでスキルアップしていく。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・実社会に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。	0.7	0.3				
・社会人としての幅広い教養と役立つ知識を学び身に付ける。						
・自己の意見を言語化し、簡潔で分かりやすい文章を作成することができる。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	ガイダンス 講義内容の説明 表現練習①「言葉を通して人と関わろう。」	表現とは何かを考え、ワークシートに記入する。
第2回	自分を表現する① 自分の過去を振り返る 自分史作成	家族や友人から過去の自分についてインタビューをしてくる。 自分史を基に、自分の取り扱い説明書・200字自己紹介文作成をする。
第3回	自分を表現する② 自分の取り扱い説明書・200字自己紹介文 発表 自身の表現の特徴を知る。	前時の課題をグループになって発表した後、振り返りシートを作成する。
第4回	身近なものを表現する 200字紹介文作成	原稿を仕上げ、発表した後にワークシートを完成させる。
第5回	短い文で端的に表現する力 ～短歌甲子園～	ワークシートを仕上げる。
第6回	連絡帳の書き方 敬語表現	グループになって事例に対する自身の解答を発表しあい、ワークシートを仕上げる。
第7回	グループディスカッションについて ねらい・形式・準備・意見のまとめ方 グループディスカッション実践① ～自由討論型～	発表原稿をグループで完成させる。
第8回	グループディスカッション実践①発表	ワークシートに記入する。
第9回	グループディスカッション実践② ～事例討論型～	発表原稿をグループで完成させる。
第10回	グループディスカッション実践③発表	ワークシートに記入する。
第11回	意見の伝え方「プレゼンテーションの方法」 計画書作成①	抽象的なテーマから具体的なテーマに絞って調べ学習をする。
第12回	計画書作成② グループ分け	計画書・原稿作成・提出。 プレゼンテーション資料の作成。
第13回	プレゼンテーション実践①グループ発表	グループでの発表後にワークシートの記入をする。
第14回	プレゼンテーション実践②全体発表	他者の発表から得たことをワークシートにまとめる。
第15回	プレゼンテーション実践③全体発表 表現とは何か	他者の発表から得たことをワークシートにまとめる。 表現と国語表現についてのワークシートを記入する。
第16回	期末テスト (レポート)	今まで学習したことについてまとめ、振り返りを行う。

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシートは整理して保管すること。
グループワークに積極的に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

期末レポート (50%)、ワークシートなどの課題 (30%) グループディスカッションでの様子やプレゼンテーションでの発表 (20%) を目安として総合的に判断する。
期末レポート提出後模範解答を配布してフィードバックを行う。

■ 教科書

講義内でワークシート (プリント) を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。
質問や相談等は講義前や終了後、あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付ける。

英語 I

(30015)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

ブシャー シルベ

■ 授業の概要

栄養に関する英語を扱ったテキストを用い、様々な場面での会話を追いながら、栄養士の勤務先などで必要とされる英語表現を学びます。本文読解、音読、リスニング、会話を通じて、ペアワークでのコミュニケーションを重視し、基礎的な英語の技能と食に関する知識・語彙力を養います。教科書に沿って進めながら、基本的な文法事項を解説し、英語の読解力を向上させます。また、食に関する多様な話題への関心・好奇心を高めるとともに、自分の意見を英語で表現し、議論できる力を身につけます。さらに、日常練習の一環として、言語学習アプリを活用したアクティブラーニングを取り入れます。英語 I ではChapter 1～Chapter 7の内容を扱います。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食分野に関する英語表現を身につける。	0.7	0.1	0.2			
・社会人としての知識と教養を身につける。						
・ペアワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行うことができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第2回 英語復習	高校英語の基礎の復習
第3回 Chapter 1 電話対応の表現 Chapter 4 聞き取れないとき、ゆっくり話してほしいときの表現	Chapter 1 & 4の予習
第4回 Chapter 1 & 4のクイズ	クイズに向けてChapter 1・4の復習
第5回 Chapter 2 emailでの表現	Chapter 2の予習
第6回 Chapter 2のクイズ	クイズに向けてChapter 2の復習
第7回 Chapter 3 あいさつ・自己紹介	Chapter 3の予習
第8回 Chapter 3のクイズ	クイズに向けてChapter 3の復習
第9回 Chapter 5 食事内容の聞き取りをする際の表現	Chapter 5の予習
第10回 Chapter 5のクイズ	クイズに向けてChapter 5の復習
第11回 Chapter 6 数や量の表現	Chapter 6の予習
第12回 Chapter 6のクイズ	クイズに向けてChapter 6の復習
第13回 Chapter 7 時間の表現	Chapter 7の予習
第14回 Chapter 7のクイズ	クイズに向けてChapter 7の復習
第15回 復習テスト：Chapter 1～Chapter 7まとめ	テストに向けてChapter 1～Chapter 7の復習
第16回 成績の確認・フィードバック・アンケート	学期について反省、感想などの準備

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点60%（授業への参加状況および毎時のクイズ、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）

復習テスト40%（クイズおよびテストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書

[はじめてとりくむ臨床栄養英会話] [和田安代著] [医学薬出版株式会社] [2, 530円（税込）]

■ 参考書

なし

■ 備考

Duolingo、Google Classroomなどのアプリを使用する。質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

英語 I

(30016)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 共通教養科目

ブシャー シルベ

■ 授業の概要

保育に関する英語を扱ったテキストを用い、園生活の様々な場面が描かれたストーリーを通じて、保育現場で必要とされる英語表現を学びます。保育園の一日の流れや季節ごとの行事について解説し、視聴覚教材を活用して理解を深めます。本文読解、音読、リスニング、会話を通じて、英語で園行事を説明する方法や園児・保護者への対応力を養うと同時に、日常生活で役立つ基礎的な英語力を向上させます。また、日常練習の一環として言語学習アプリを活用し、アクティブラーニングを取り入れます。英語 I では第1章から第6章の内容を取り上げます。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育分野に関する英語表現を身につける。	0.7	0.1	0.2			
・身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取って話すことができる。						
・ペアーワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行うことができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第2回 英語復習	高校英語の基礎の復習
第3回 Unit 1 First Step to Childcare English	Unit 1の予習
第4回 Unit 1のクイズ	クイズに向けてUnit 1の復習
第5回 Unit 2 Welcome to Minato Nursery School	Unit 2の予習
第6回 Unit 2のクイズ	クイズに向けてUnit 2の復習
第7回 Unit 3 Time and Numbers	Unit 3の予習
第8回 Unit 3のクイズ	クイズに向けてUnit 3の復習
第9回 Unit 4 Directions	Unit 4の予習
第10回 Unit 4のクイズ	クイズに向けてUnit 4の復習
第11回 Unit 5 Davy meets his classmate Takashi	Unit 5の予習
第12回 Unit 5のクイズ	クイズに向けてUnit 5の復習
第13回 Unit 6 Dropping Davy off and picking him up	Unit 6の予習
第14回 Unit 6のクイズ	クイズに向けてUnit 6の復習
第15回 復習テスト：Unit 1～Unit 6まとめ	テストに向けてUnit 1-6の復習
第16回 成績の確認・フィードバック・アンケート	学期について反省、感想などの準備

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点60%（授業への参加状況および毎時のクイズ、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）
復習テスト40%（クイズおよび復習テストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書

〔保育の英会話〕 〔赤松直子・久富陽子〕 〔萌文書林〕 [2, 100円]

■ 参考書

なし

■ 備考

Duolingo、Google Classroomなどのアプリを使用する。質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

英語Ⅱ

(30017)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

ブシャー シルベ

■ 授業の概要

栄養に関する英語を扱ったテキストを用い、様々な場面を描いた会話を通じて、栄養士の勤務先などで必要とされる英語表現を学びます。本文読解、音読、リスニング、会話を通じて、ペアワークでコミュニケーションを行うための基礎的な英語力と食に関する知識や語彙力を養います。教科書に沿って進め、基本的な文法事項を解説しながら英語の読解力を高めます。また、食に関する様々な話題への関心や好奇心を育てると同時に、自分の意見を英語で表現し、議論できる力を身につけます。さらに、日常練習の一環として、言語学習アプリを活用したアクティブラーニングを取り入れます。英語ⅡではChapter 8～Chapter 14を扱います。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・食分野に関する英語表現を身につける。	0.7	0.1	0.2			
・社会人としての知識と教養を身につける。						
・ペアワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行うことができる。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第2回 英語Ⅰの復習・テスト	英語Ⅰの復習テストの復習・再実施
第3回 Chapter 8 摂取できない食品について聞く表現 Chapter 14 運動	Chapter 8 & 14の予習
第4回 Chapter 8 & 14のクイズ	クイズに向けてChapter 8・14の復習
第5回 Chapter 9 アドバイスをする際の表現	Chapter 9の予習
第6回 Chapter 9のクイズ	クイズに向けてChapter 9の復習
第7回 Chapter 10 栄養素・サプリメントの表現	Chapter 10の予習
第8回 Chapter 10のクイズ	クイズに向けてChapter 10の復習
第9回 Chapter 11 料理の作り方に関する表現	Chapter 11の予習
第10回 Chapter 11のクイズ	クイズに向けてChapter 11の復習
第11回 Chapter 12 食品の分類に関する表現	Chapter 12の予習
第12回 Chapter 12のクイズ	クイズに向けてChapter 12の復習
第13回 Chapter 13 サービングの表現	Chapter 13の予習
第14回 Chapter 13のクイズ	クイズに向けてChapter 13の復習
第15回 復習テスト：Unit 8～Unit 14まとめ	テストに向けてChapter 8～Chapter 14の復習
第16回 成績の確認・フィードバック・アンケート	学期について反省、感想などの準備

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。 ※ ≪ 履修資格 ≫ 「英語Ⅰ」の単位を取得していること。

■ 成績評価方法・基準

平常点60%（授業への参加状況および毎時のクイズ、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）

復習テスト40%（クイズおよび復習テストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書

[はじめてとりくむ臨床栄養英会話] [和田安代著] [医学薬出版株式会社] [2, 530円（税込）]

■ 参考書

なし

■ 備考

Duolingo、Google Classroomなどのアプリを使用する。質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

英語Ⅱ

(30018)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 共通教養科目

ブシャー シルベ

■ 授業の概要

保育に関する英語を扱ったテキストを用い、園生活の様々な場面を描いたストーリーを通じて、保育現場で必要とされる英語表現を学びます。保育園の一日の流れや季節ごとの行事について解説し、視聴覚教材を活用して理解を深めます。本文読解、音読、リスニング、会話を通じて、英語で園行事を説明する方法や園児・保護者への対応力を養うと同時に、日常生活で役立つ基礎的な英語力を向上させます。また、日常練習の一環として、言語学習アプリを活用したアクティブラーニングを取り入れます。英語Ⅰでは第7章から第12章を取り上げます。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育分野に関する英語表現を身につける。	0.7	0.1	0.2			
・身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取って話すことができる。						
・ペーパーワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行うことができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第2回 英語Ⅰの復習・テスト	英語Ⅰの復習テストの復習・再実施
第3回 Unit 7 Jobs at nursery school	Unit 7の予習
第4回 Unit 7のクイズ	クイズに向けてUnit 7の復習
第5回 Unit 8 Lunch Time	Unit 8の予習
第6回 Unit 8のクイズ	クイズに向けてUnit 8の復習
第7回 Unit 9 Toilet Dialogue	Unit 9の予習
第8回 Unit 9のクイズ	クイズに向けてUnit 9の復習
第9回 Unit 10 Fighting	Unit 10の予習
第10回 Unit 10のクイズ	クイズに向けてUnit 10の復習
第11回 Unit 11 Injuries and Illnesses	Unit 11の予習
第12回 Unit 11のクイズ	クイズに向けてUnit 11の復習
第13回 Unit 12 Telephone Calls	Unit 12の予習
第14回 Unit 12のクイズ	クイズに向けてUnit 12の復習
第15回 復習テスト：Unit 7～Unit 12まとめ	復習テストに向けてUnit 7～Unit 12の復習
第16回 成績の確認・フィードバック・アンケート	学期について反省、感想などの準備

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。※《履修資格》「英語Ⅰ」の単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

平常点60%（授業への参加状況および毎時のクイズ、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）
復習テスト40%（クイズおよび復習テストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書

〔保育の英会話〕〔赤松直子・久富陽子〕〔萌文書林〕〔2, 100円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

Duolingo、Google Classroomなどのアプリを使用する。質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

情報処理 I

(30019)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 30)

対象学科 : 子専1年・食専1年

授業形態 : 演習 学期 : 前期 必・選 : 選択 幼免 (必)

生活文化学科 共通教養科目

松 尾 広

■ 授業の概要

Word、Excel、PowerPointの操作を中心として、データの集計・加工、グラフ作成、画像の操作とレイアウト、インターネットでの情報収集を行い、それらを組み合わせてレポートなどの体裁の整った文書の作成、栄養指導の媒体や教材の作成、プレゼンテーションができるように、基本的な利用法を中心に解説する。ビジネス文書やプレゼンテーションの体裁を整えるのに必要な操作方法が身につくように、例題と練習問題で反復して練習を行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・一般的なビジネス文書の作成ができるようになる。	0.9					0.1
・データの集計・加工とグラフ作成ができるようになる。						
・プレゼンテーションのためのシンプルなスライドを作成できるようになる。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス	前期の学習内容を確認する。
第2回 Google Workspaceの使い方 (1)	Gmail、Classroomの基本的な使い方を理解する。
第3回 Google Workspaceの使い方 (2)	ドライブの基本的な使い方とWindowsとの違いを理解する。
第4回 Wordによる文書作成 (インデント・タブ・行ぞろえ)	ビジネス文書の様式を理解する。
第5回 Wordによる文書作成 (練習問題)	操作の流れを確認し、反復する。
第6回 Wordによる文書作成 (表)	表の操作について理解する。
第7回 Wordによる文書作成 (表、練習問題)	操作の流れを確認し、反復する。
第8回 Wordによる文書作成 (図)	図の挿入、編集方法について理解する。
第9回 Wordによる文書作成 (図、練習問題)	操作の流れを確認し、反復する。
第10回 Excelによる表計算 (計算式・関数)	計算式の表現方法を理解する。
第11回 Excelによる表計算 (計算式・関数)	操作の流れを確認し、反復する。
第12回 Excelによる表計算 (関数、練習問題)	関数の利用方法を理解する。
第13回 Excelによる表計算 (グラフ、練習問題)	グラフの特徴と作図方法を理解する。
第14回 PowerPointによるプレゼンテーション作成 (基本操作)	操作の流れを確認し、反復する。
第15回 PowerPointによるプレゼンテーション作成 (レイアウト)	操作の流れを確認し、反復する。
第16回 演習内容のまとめ、期末試験 (Word、Excel)	前期の学習内容を振り返る。

■ 履修上の注意

つまづいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。

テキスト以外の説明用資料はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準

受講態度 (毎回の授業で提出するファイル等で評価) 40%、試験60%

提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書

〔実践ドリルで学ぶOffice活用術〕〔noa出版編〕〔noa出版〕〔1, 324円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) に受け付けます。

情報処理Ⅱ

(30020)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋30）

対象学科：子専1年・食専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 共通教養科目

松 尾 広

■ 授業の概要

情報処理Ⅰに引き続き、Word、Excel、PowerPointの操作と応用について解説する。アプリケーション間の連携、特にWordとExcelの連携について、いくつかのコピーアンドペーストの方法の違いと特徴を示し、文書作成時に適切な方法を選択できるように練習を行う。さらにExcelをデータベースとして利用する方法、Wordと連携する差し込み印刷の練習を行う。また、PowerPointではプレゼンテーションを効果的に行うための準備作業について解説する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・ Word、Excel、PowerPointなどを適切に組み合わせて体裁が整った文書 ・ プレゼンテーションを作成できる。	0.9					0.1

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス	後期の学習内容について確認する。
第2回 Excelによる表計算（データベース）	データベースの構成方法を理解する。
第3回 Excelによる表計算（データベース練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第4回 Excelによる表計算（ピボットテーブル）	ピボットテーブルの操作を理解する。
第5回 Excelによる表計算（ピボットテーブル練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第6回 WordとExcelの連携（コピーアンドペーストの応用）	操作の流れを確認し、反復する。
第7回 WordとExcelの連携（差し込み印刷）	差し込み印刷の仕組みを理解する。
第8回 レポートの作成法（Word）	スタイル、文献リスト、図表番号・相互参照、ヘッダー・フッターの利用方法を理解する。
第9回 レポートの作成法（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第10回 PowerPointによるプレゼンテーション作成（応用）	操作の流れを確認し、反復する。
第11回 PowerPointによるプレゼンテーション作成（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第12回 PowerPointによるプレゼンテーション	操作の流れを確認し、反復する。
第13回 まとめの課題（Word）	Wordについての学習内容を振り返る。
第14回 まとめの課題（Excel）	Excelについての学習内容を振り返る。
第15回 まとめの課題（PowerPoint）	PowerPointについての学習内容を振り返る。
第16回 期末試験	授業で扱った情報処理に関する知識・理解について試験を行う。

■ 履修上の注意

つまづいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。

テキスト以外の説明用資料はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、まとめの課題＋試験60%

提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書

（情報処理Ⅰの教科書と同じ）

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

スタディスキルズ

(30021)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 共通教養科目

益田 裕司 食物栄養学専攻教員全員

■ 授業の概要

高校生活から短大生活へのスムーズな移行を促す「初年次教育」が主な内容である。例えば、「学内生活に関する事項（学内ルールや目標設定）」「本学の歴史」「施設活用」「ノートのとり方やレポートの出し方など学習方法」について授業を行う。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講する上で必要な基礎学力向上を目指すほか、実習に対する態度やお礼状の書き方など、専門科目を学ぶ上での常識も学んでいく。また、短大の学修と将来を関係づけ、学習意欲の向上を目指す。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・本学の歴史を理解する。	0.9					0.1
・学内における生活上の常識や学内施設使用の仕方を理解する。						
・常識的な主要5科目の基礎学力を身につける。						
・一般的な学習方法（ノート等）や学科・専攻の学習目的を理解する。						
・研究倫理とは何か理解し、実践できるようになる。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンスおよび短大生活上の注意点・プレースメントテスト（1年担任、学科長）	配布プリントの復習
第2回 学習目標の設定（学習ポートフォリオの記入）（1年生担任、学習支援委員）	配布プリントの復習。学修ポートフォリオの記入の完了
第3回 短大における学修について（学長による講話）	配布プリントの復習
第4回 学習方法に関するアドバイス（基本的な学習方法と態度、ノート、レポート、PC等）（松尾、他）	配布プリントの復習
第5回 学生相談に関する情報・メンタルヘルスについて（永沼、学生相談所）	配布プリントの復習。感想の提出
第6回 泉警察署による講話 SNS使用上の注意	配布プリントの復習。感想の提出
第7回 図書館の利用の仕方（特に検索の方法について）（図書館司書、1年生担任、他） ※「7, 8」は並行して行う。	配布プリントの復習。図書館の利用方法を確認し、積極的に活用する。宿題の提出
第8回 本学の歴史を知る（資料室・顕彰館等の見学）（松尾、永沼、益田、青柳） ※「7, 8」は並行して行う。	配布プリントの復習。学園の歴史について感想等の記入提出
第9回 研究倫理に関する学習（松尾）	配布プリントの復習
第10回 データとAIを活用する上で知っておくべきこと（個人情報保護、データ倫理、AI社会原則、AIサービスの責任、情報セキュリティ）（松尾）	配布プリントの復習
第11回 e-learningの復習（1年生担任、学習支援委員）	e-learningの復習
第12回 e-learningのドリル課題など（1年生担任、学習支援委員）	e-learningの復習
第13回 13. コンセプトマップの活用その1。自己紹介マップを作ってみる。および学修ポートフォリオ中間レビュー（松尾、1年生担任）	配布プリントの復習
第14回 14. コンセプトマップの活用その2 学習への活用（松尾）	配布プリントの復習
第15回 15. お礼状・手紙・服装・みだしなみに関する説明（益田、他）短大生活と就職活動、各種アンケート（1年生担任、他）	配布プリントの復習
第16回 期末試験（提出課題による）	配布プリントの復習

■ 履修上の注意

配られた資料はファイルに閉じて整理すること。入学前e-learningを使用することがあるのでログイン方法等は忘れないこと。提出物は期限通り提出すること。

■ 成績評価方法・基準

提出物の提出状況とその内容（100%）。提出物は後日添削して返却する。

■ 教科書

毎回資料を配布する。

■ 参考書

e-learningの教材

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいは担当者のオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

スタディスキルズ

(30022)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 共通教養科目

武田 早苗 子ども生活専攻教員

■ 授業の概要

高校生活から短大生活へのスムーズな移行を促す「初年次教育」が主な内容である。例えば、「学内生活に関する事項（学内ルールや目標設定）」「本学の歴史」「施設活用」「ノートのとり方やレポートの出し方など学習方法」について授業を行う。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講する上で必要な基礎学力向上を目指し、各コースごとに短大の学修と将来を関係づけ、学習意欲の向上を目指す。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> 学内生活のルールや学内施設使用の仕方を理解する。 各科目の理解に不可欠な基礎学力を身に付ける。 学科・専攻の学習目的や学習方法を理解する。 本学の歴史を知り、建学の精神について理解する。 研究倫理について学び、実践できるようになる。 生活上の基本的マナーを身に付け、将来につなげる。 	0.4			0.4		0.2

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス及び短大生活上の注意点・プレイズメントテスト【武田・松尾】	配付プリントの復習
第2回 学修目標の設定（学修ポートフォリオの記入）【武田・松尾】	配付プリントの復習、学修ポートフォリオの記入の完成と提出
第3回 短大における学修について（学長講話）【学長・武田】	配付プリントの復習
第4回 学習方法に関するアドバイス（基本的な学習方法と態度、ノート、レポート、PC等）【武田・松尾】	配付プリントの復習
第5回 学生相談に関する情報・メンタルヘルスについて【永沼・学生相談室職員・武田】	配付プリントの復習、感想の提出
第6回 泉警察署による講話（SNS使用上の注意）【武田・泉警察署職員】	配付プリントの復習、感想の提出
第7回 図書館の利用の仕方（検索の方法等）【武田・村上図書館職員】 ※「7, 8」は並行して行う。	配付プリントの復習、図書館の利用方法を確認し積極的に活用する。
第8回 本学の歴史を知る（資料室・顕彰館の見学）【松尾、永沼】 ※「7, 8」は並行して行う。	配付プリントの復習、学園の歴史についての感想の提出
第9回 研究倫理についての理解と実践（武田・松尾）	配付プリントの復習
第10回 データとAIを活用する上で知っておくべきこと（個人情報保護、データ倫理、AI社会原則、AIサービスの責任、情報セキュリティ）【武田・松尾】	配付プリントの復習
第11回 e-learningの復習【武田・松尾】	e-learningの復習
第12回 e-learningのドリル課題【武田・松尾】	e-learningの復習
第13回 学修ポートフォリオ中間評価の記入、マナーについて（言葉遣い、身だしなみ）【武田・廣瀬】	配付プリントの復習
第14回 マナーについての調べ学習と発表【武田・廣瀬】	配付プリントの復習、マナーの実践
第15回 手紙の書き方について・まとめと後期の課題【武田・佐藤（恵）】	配付プリントの復習、夏休み課題の取り組み
第16回 期末試験（提出課題による）	前期の学修を振り返り、授業内容をまとめる。

■ 履修上の注意

配布物はファイルに綴じて整理する。入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。
提出物は、期限通り提出する。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（授業への積極的参加）（50%）、提出課題の提出状況・内容（50%）。
提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

事前に必要なプリントを配布する。

■ 参考書

授業内で指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付ける。
都合により、授業計画の順番を変更することがある。

キャリアアップセミナー

(30023)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

益田 裕司 食物栄養学専攻教員全員

■ 授業の概要

社会人基礎力の基本となる「一歩踏み出す（行動する）力」「チームワーク」「考える力」を身につけるための手法について学ぶ授業を行う。考える力的手段としては「コンセプトマップ」「ピラミッドストラクチャ」「クリティカルシンキング」を、チームワークや行動する力としては「ブレインストーミング」「プレゼンの準備と練習」「電話対応演習（ロールプレイ）」などの演習を行う。就職活動で必要となる自己分析や履歴書の作成なども行う。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・コミュニケーション能力を身につけること。	0.1					0.9
・チームで問題解決をするための能力を修得する。						
・論理的思考や一歩を踏み出す力を身につける。						
・就職活動をスムーズにスタートできるため準備を完了する。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 1. ガイダンス（社会人基礎力とは何か）と学修ポートフォリオ記入（益田 松尾 1年生担任）	配布プリントの復習。学修ポートフォリオの記入の完了
第2回 2. 栄養士実力認定試験についての説明（永沼）	問題の復習
第3回 3. 言葉の使い方と電話対応の基本（松尾）	配布プリントの復習。自己評価表の提出
第4回 4. 電話対応の練習（実践的な例）（益田）	配布プリントの復習。自己評価表の提出
第5回 5. 説明と質問の発想方法 5W1Hの活用法とピラミッドストラクチャ、クリティカルシンキング（松尾）	配布プリントの復習。構想用紙の提出
第6回 6. 履歴書の添え状等の書き方（益田）	履歴書雛型、添え状、封筒の提出
第7回 7. エントリーシートの書き方 自己PR 就職活動書類について（益田 松尾）	自己PRの構想用紙の提出
第8回 8. ブレインストーミング① 「ブレインストーミングとKJ法の実践」（松尾 専攻教員）	配布プリントの復習。感想提出
第9回 9. ブレインストーミング② 発表準備と学修ポートフォリオ記入（専攻教員）	配布プリントの復習。感想提出
第10回 10. ブレインストーミング③ ポスター作製（専攻教員）	配布プリントの復習。発表準備
第11回 11. プレゼンテーション演習 グループの発表（益田 専攻教員）	プレゼンテーションの感想提出
第12回 12. 社会人としてのマナーアップ① コミュニケーションスキル（外部講師）	配布プリントの復習。感想提出
第13回 13. 社会人としてのマナーアップ② 言語・非言語コミュニケーション（外部講師）	配布プリントの復習。感想提出
第14回 14. ビジネスマナー（email等、PC利用時のルール）（松尾）	配布プリントの復習。感想提出
第15回 15. 就職活動に関するアドバイスと授業のまとめ（学生課職員 益田 松尾）	配布プリントの復習。感想提出
第16回 期末試験（提出課題による）	配布プリントの復習

■ 履修上の注意

配られた資料はファイルに閉じて整理すること。提出物は期限通り提出すること。

■ 成績評価方法・基準

提出物の提出状況とその内容およびブレインストーミングへの参加（80%）。小テスト（20%）。提出物は後日添削して返却する。

■ 教科書

毎回資料を配布する。

■ 参考書

ビジネスマナー教本（配布予定）

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいは担当者のオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

キャリアアップセミナー

(30024)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

武田 早苗 子ども生活専攻教員全員

■ 授業の概要

社会人基礎力の基本となる「一歩踏み出す（行動する）力」「チームワーク」「考える力」を身につけるための手法について学ぶ授業を行う。各コースごとに学外実習や就職活動等に必要なスキル（基本的なマナー、文章作成、一般教養など）について他の授業と連携しながら学習する。また、卒業後の社会生活におけるキャリアについて話し合いや発表等を通して考え、具体的なイメージをもてるようにしていく。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・学生・社会人としてのマナーや一般教養を身に付ける。	0.4					
・2年次の実習や就職後に必要となる知識や技能を学ぶ。				0.2		
・就職活動について知識を獲得し、卒業後のキャリア形成について考えられる。						0.4

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ・オリエンテーション、自己実現に向けた取組について【武田】	配付資料の復習
第2回 ・社会人としての喜びと責任について【武田】	配付資料の復習
第3回 ・協働性・同僚性について【武田】	配付資料の復習
第4回 ・学修ポートフォリオの記入 ・「働く」ということと目指す自分像	ポートフォリオの記入と提出、配付資料の復習
第5回 ・社会生活の基本的マナー① (礼儀、挨拶、来客等への接し方 等)【武田】	配付資料の復習、日々の実践
第6回 ・社会生活の基本的マナー② (電話のかけ方と応対、メールの送信 等)【武田】	配付資料の復習、日々の実践
第7回 ・社会生活の基本的マナー③ (実習先・就職先での立ち振る舞い、言葉遣い 等)【武田】	配付資料の復習
第8回 ・日常生活の基本的マナー② (食事と配膳 等)【武田】	配付資料の復習
第9回 ・日常生活の基本的マナー② (掃除の仕方 等)【武田】	配付資料の復習、履歴書の完成と提出
第10回 ・実習生調書の書き方①(説明と記入)【武田・大瀬戸】	配付資料の復習、実習生調書の提出
第11回 ・実習生調書の書き方②(訂正と清書・提出) ・就職活動の進め方①【武田・大瀬戸】	配付資料の復習、実習生調書の完成と提出
第12回 ・就職活動の進め方② (履歴書・添え状の書き方と面接練習) 【武田、大瀬戸、佐藤(恵)】	配付資料の復習、自己PRの練習
第13回 ・就職活動の進め方③ (履歴書記入・面接練習)【武田、大瀬戸、佐藤(恵)】	配付資料の復習
第14回 ・就職活動の進め方④ (履歴書記入・面接練習)【武田、大瀬戸、佐藤(恵)】	配付資料の復習
第15回 ・就職活動時の装いと振る舞い【武田・他】	まとめ、感想の提出
第16回 期末試験(提出課題による)	授業内容をまとめる

■ 履修上の注意

配布物はファイルに綴じて整理する。入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。
提出物は、期限通り提出する。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（授業への積極的参加）（50%）、提出課題の提出状況・内容（50%）。
提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

事前に必要なプリントを配布する。

■ 参考書

授業内で指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付ける。
都合により、授業計画の順番を変更することがある。

キャリアサポートセミナー I

(30025)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科: 食専1年

授業形態: 演習 学期: 後期 必・選: 選択

生活文化学科 共通教養科目

就職支援センター

■ 授業の概要

就職活動の早期化やインターンシップの定義変更等、採用市場や社会経済情勢が大きく変化している。この絶えず変化する就職活動を取り巻く環境に対応できるよう授業の展開を図る。従来の自己分析や企業研究の手法、エントリーシートの書き方、SPI等に関する知識やその対応スキルの修得に加え、最新の就職活動に関する情報提供や指導により納得のいく進路選択ができるよう支援する。講師陣には各テーマに沿った就職支援に係る専門家に登壇頂き、履修する学生が各授業の内容について理解が深まるようにする。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・就職活動に関する最新の知識を修得し、幅広い視野で自らの進路を選択 ・決定する力を身に付ける ・業界・企業を比較研究する知識とスキルを身に付ける ・就職試験を突破する力を身に付ける	0.4					0.6

■ 授業計画

	自習 (事前・事後学修の内容)
第1回 授業ガイダンス/ 就職ガイダンス	事前に目指す方向性を考えておくこと。その上で就職活動の流れを確認し、これからやるべき事の理解を深めること。
第2回 キャリア支援サイトガイダンス/ 秋冬インターンシップ対策セミナー	情報収集の方法について理解し、就職活動へ活かすこと。秋冬インターンシップ参加に向けて何が必要なかを今一度整理し、準備を進めること。
第3回 業界・企業研究基礎セミナー	興味のある業界と企業について調べておくこと。更に知識を広げ、自分に合った企業の見つけ方を理解すること。
第4回 企業比較研究セミナー	様々な企業の比較と自己分析も同時にできる研究方法を理解し、今後の活動へ活かすこと。
第5回 エントリーシート対策セミナー①	自己分析の内容から、伝えたいことを事前にまとめておくこと。エントリーシートの目的や重要性を学び、作成に活かすこと。
第6回 エントリーシート対策セミナー②	エントリーシート作成のコツやポイントを理解し、就職活動本番に向けて準備を進めること。
第7回 SPI対策セミナー	新卒採用で実施されることが多いSPIについて理解し、選考に向けて計画的に準備すること。
第8回 就活は第一印象で決まるビジネスマナーセミナー	就職活動や社会に必要なビジネスマナーの基本を学び、今後に活かすこと。
第9回 面接試験対策セミナー①	面接の目的や相手に分かり易く伝えるコツ・ポイントを学び、実践に繋げること。
第10回 面接試験対策セミナー②	学んだ内容を修得し、就職活動本番にむけて面接準備を進めること。
第11回 採用担当者の本音を知るパネルディスカッションセミナー	採用側の視点や選考のポイント、求める人材像を理解した上で自分自身が何を伝えるかについて考えること。
第12回 講師と内定学生による就活相談セミナー	内定済の先輩学生から進路選択に関する経験談を聞き、今後の就職活動に活かすこと。
第13回 就活生のための労働法セミナー	就職活動～就職後に係る労働法について学び、労働者を保護する法制度についての知見を高めること。
第14回 就活準備振り返りセミナー	就職活動の流れを再確認し、その計画や必要な準備を振り返ること。計画に沿って活動を開始・継続すること。
第15回 就活生応援セミナー	社会人から働くことの意義について学び、自身の考えをまとめること。その内容を就職活動へ繋げ

■ 履修上の注意

- ・インターンシップが就職活動のスタートであることを理解する。
- ・エントリーシートの内容が選考の結果に大きな影響を与えることを理解する。
- ・ミニットペーパーを活用して、文章力向上に努める。
- ・良好な授業環境の実現のため、全員指定された座席に着席する。
- ・課外のセミナーにも積極的に参加し、実力向上に努める。
- ・学んだ内容を繰り返し復習し、修得したことを就職活動に活かす。

■ 成績評価方法・基準

- 提出課題のエントリーシートに対する取り組み姿勢（40%）
- ミニットペーパーによる授業の理解度（40%）
- 疑問や不安を積極的に解消し、真剣な姿勢で受講しているか（20%）

■ 教科書

授業毎に資料を配布する。

■ 参考書

- 〔業界地図〕〔東洋経済新報社〕〔1980円〕
- 〔会社四季報〕〔東洋経済新報社〕〔2900円〕
- 〔就職四季報総合版〕〔東洋経済新報社〕〔2310円〕
- 〔就職四季報女子活躍版〕〔東洋経済新報社〕〔2310円〕
- 〔キャリアをつくる独学力〕〔高橋俊介〕〔東洋経済新報社〕〔1870円〕

■ 備考

オフィスアワー

原則として、平日9：00～17：00の間。

キャリアサポートセミナーⅡ

(30026)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

就職支援センター

■ 授業の概要

就職活動で一人ひとりが抱える課題を解決する糸口を掴むことが出来る授業展開に努め、各自が希望する進路選択が実現できるよう指導していく。授業後に提出するミニットペーパーを用い、就職活動に関する課題や不安、悩み等の聞き取りを行う。そして、その内容をもとに一人ひとりの課題解決や有益な情報収集ができる授業展開を図り、納得のいく進路選択が実現できるよう指導並びに支援を行っていく。講師陣には各テーマに沿った就職支援に係る専門家に登壇頂き、履修する学生が各授業の内容について理解が深まるようにする。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・就職活動における目標や課題を整理し、自身に必要な情報・行動・考え方を理解する	0.2		0.2		0.2	0.4
・自分に合う企業を見つけるために情報収集を怠らないこと						
・内定を得るために必要な知識とスキルを身に付ける						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 就職活動復習セミナー ～就職活動の振り返りと活動の見直し～	就職活動の流れをもう一度振り返り、自身の目標や計画等を改めて確認すること。
第2回 自己分析セミナー ～自己分析と企業の選択～	自己分析を改めて行い、自分に合う業種や企業について具体的に把握すること。
第3回 採用担当者の本音を知るセミナー ～採用側の視点や選考のポイント～	採用側の視点や選考のポイントを知り、求める人材像を理解した上で、自分が身に付けなければならない資質について考えること。
第4回 社会人コミュニケーションセミナー① ～自分の「らしさ、良さ、特性」の言語化と仕事理解～	自己分析を踏まえ、相手に伝えたい自分の「らしさ、良さ、特性」を仕事理解と併せて言語化に向けて整理すること。
第5回 社会人コミュニケーションセミナー② ～「らしさ」の言語化と社会人コミュニケーションポイント～	「らしさ」の言語化に絞って、社会人としてのコミュニケーション力との関りから、自分自身の「らしさ」の言語化をさらに深めること。
第6回 社会人コミュニケーションセミナー③ ～社名を伏せた社会人交流会 その1～	社会人としてのコミュニケーション力向上のため、実際に社会人とのコミュニケーションを実践すること。
第7回 社会人コミュニケーションセミナー④ ～社会人コミュニケーションの振り返りと自己PR作成～	社会人コミュニケーションセミナー①～③を振り返りながら、自分の「らしさ、良さ、特性」の言語化を踏まえ自己PRを作成すること。
第8回 エントリーシート作成・面接対策セミナー① ～エントリーシート作成のポイントと自己PR・ガクチカ作成ワーク～	エントリーシート作成に向けて、そのポイントを確認するとともに自己PRに向けた自身の「ガクチカ」について探ること。
第9回 エントリーシート作成・面接対策セミナー② ～自己PR・ガクチカ作成ワークと面接ポイント～	自己PR並びに自身の「ガクチカ」について理解を深めるとともに、就活における面接での具体的な対応ポイントについて確認すること。
第10回 エントリーシート作成・面接対策セミナー③ ～自己PR・ガクチカ作成ワーク・面接練習～	自己PR並びに自身の「ガクチカ」を踏まえ、実際の場面を想定した面接への対応について実践的に学ぶこと。
第11回 ビジネスマナーセミナー ～就職活動や社会で必要なビジネスマナー～	就職活動や社会で必要なビジネスマナーについて復習し、しっかりと身に付けること。
第12回 就職活動振り返りセミナー ～現在の進捗状況を確認し、今やるべきことを理解する～	現在の課題や不安を整理し、その改題解決に向けて必要な行動や考え方を整理し、自分が置かれている現状を理解すること。
第13回 社会人コミュニケーションセミナー⑤ ～社名を伏せた社会人交流会 その2～	社会人としてのさらなるコミュニケーション力向上のため、実際の社会人との交流をつうじて具体的なコミュニケーションの在り方を考えること。
第14回 社会人コミュニケーションセミナー⑥	社会人としてのコミュニケーションについて前時

～社会人コミュニケーションの振り返り～

を振り返りながら、エントリーシート作成や面接に活かすこと。

第15回 これまでの振り返りと今後について
～エントリーシート作成と面接練習～

全体を振り返り、各自がエントリーシートを作成するとともに具体的な面接への対応について確認すること。

■ 履修上の注意

学んだことを実際の就職活動に活かし、自ら選択した進路の実現に向かって努力すること。

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパーによる授業の理解度（50%）

積極的・真剣な態度で受講しているか（50%）

■ 教科書

授業毎に資料を配布する。

■ 参考書

〔業界地図〕〔東洋経済新報社〕〔1980円〕

〔会社四季報〕〔東洋経済新報社〕〔2900円〕

〔就職四季報総合版〕〔東洋経済新報社〕〔2310円〕

〔就職四季報女子活躍版〕〔東洋経済新報社〕〔2310円〕

〔キャリアをつくる独学力〕〔高橋俊介〕〔東洋経済新報社〕〔1870円〕

■ 備考

オフィスアワー

原則として、平日9時～17時までの間。

生活文化学科基幹科目

生活文化概論

(30091)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年・食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 基幹科目

■ 授業の概要

衣食住を中心とした生活と文化との関わりとその全体像である生活文化への理解を深める試みとして、生活主体とそれを取り巻く生活事象について説明しながら、地域性や時代背景による生活文化の多様性—思想や思考、技術等について紹介する。私たちにとって「生活文化とは何か」について、食との関わりに着目し、主体的に考えて想像できるよう解説する。この講義は「概論」であり、のちの「生活文化各論」にて生活文化をより深く理解するための枠組みとしての概説を行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・生活文化の概念や考え方を身につける。	0.4	0.6				
・生活文化の諸相を把握する知識を身につける。						
・生活文化の向上のために自分たちが果たすべき役割について考えられる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：授業の説明、アンケート	資料をよく読み、この授業で取り組む学習内容や評価方法について復習する。
第2回 生活文化とは	資料をよく読み、生活文化とは何かについて内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 生活文化の関連領域（家政学や生活学との関わり）	資料をよく読み、生活文化と家政学や生活学との関連について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 生活と文化（福祉、健康、安全、幸福など）	資料をよく読み、生活と様々な文化の関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 生活史（江戸時代の生活、生活と職業）	資料をよく読み、江戸時代の生活史について内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 生活史（明治、大正時代の生活）	資料をよく読み、明治・大正時代の生活史について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 生活史（昭和から現在までの生活）	資料をよく読み、昭和以降の生活史について内容をまとめておく（次回小テスト）。
第8回 生活文化とジェンダー、家族、小テスト	資料をよく読み、これまで授業で学んだ内容や用語等について復習し、小テストに備える。
第9回 生活文化と保育、子育て	資料をよく読み、生活文化としての保育について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 生活文化と食生活、歴史について	資料をよく読み、生活文化としての食生活や食の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 生活文化と衣、ファッション	資料をよく読み、衣生活について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 生活文化と住環境	資料をよく読み、住環境について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 生活文化と芸術	資料をよく読み、芸術との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 生活文化と情報	資料をよく読み、生活文化と情報との関わり、これまでについて内容をまとめておく（次回確認・試験）。
第15回 まとめ①期末試験	資料をよく読み、生活文化と情報との関わり、これまで授業で学んだ内容や用語等について復習し、期末試験に備える（次回試験）。
第16回 まとめ②解説、生活文化の今後、授業評価アンケート	資料をよく読み、生活文化の課題や今後について内容をまとめておく。

■ 履修上の注意

- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 期末試験（60％）、平常点（40％）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
- ・ ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・ 期末試験については解答例をまとめたレジユメを配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

- ・ 資料を準備するので事前に配布する。

■ 参考書

〔生活文化論〕〔佐々木啓、他編著〕〔朝倉書店〕〔3024円〕

■ 備考

- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付ける。

生活文化各論

(30092)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年・食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 基幹科目

武田 早苗 生活文化学科教員全員

■ 授業の概要

生活文化学科では、食や保育の分野は人々の生活文化の要素であり、その専門知識を活かすには生活文化を広く理解することが必要であると考えている。前期の生活文化概論では、歴史的な過程で、生活・文化が、伝統的な家政学からさまざまな分野に発展し広がっている様子が解説された。本講義では、短期大学に所属する教員の専門分野や教育分野という視点から、多岐にわたる生活文化を考察する。テーマごとに、生活文化と自分との関わりについて自ら考え、作文を提出する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・生活文化を広い視点からとらえるための知識を身につける。	0.4	0.5				0.1
・多様な生活文化の知識を自分たちの生活に関係づけて考えることができるようになる。						
・生活文化の向上のために、将来果たすべき役割について、自ら考えることができるようになる。						
・データ・AIが活用されることで、社会（新しいビジネス・サービスの展開）および私たちの生活が大きく変化していることを理解する。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス【武田】 授業の位置づけ、授業の進め方、テーマ案内	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第2回 研究倫理と生活文化【武田・伊藤】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第3回 AIの技術とその利活用と生活【武田・松尾】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第4回 生活文化と社会福祉【武田・大瀬戸】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第5回 栄養補給ルートとQOLの関係【武田・益田】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第6回 データサイエンスによる生活と文化の変化【武田・松尾】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第7回 生活に役立つ心理学【武田・米川】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第8回 食べ物の情報と本当の食の安全【武田・永沼】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第9回 障害を持つことと生活文化【武田・大瀬戸】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第10回 海の恵みと生活文化【武田・高瀬】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第11回 生活と子どもの文化【武田・高橋】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第12回 武道の精神【武田・佐藤（恵）】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート

第13回 子どもの生活と遊び【武田・他】	・ミニットペーパーにまとめ、提出する。 配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート ・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第14回 生活の中の造形【武田】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート ・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第15回 振り返りの授業【武田・学科長】	配布プリントの復習。 授業を通して理解したことや感想などをレポート ・ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第16回 期末試験（ファイル提出、レポート提出による）	学修のまとめ、レポートの提出

■ 履修上の注意

原則、生活文化概論を履修しておくこと。配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。講義の順番や内容は変更されることがある。

■ 成績評価方法・基準

各回のレポート・ミニットペーパーの内容（90%）とファイル提出（10%）。レポート・ミニットペーパーは添削して返却する。

■ 教科書

毎回資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

子ども生活専攻専攻科目

保育原理

(30201)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

伊藤 利恵

■ 授業の概要

本科目は、保育士養成課程の必修科目「保育の本質・目的に関する科目」として位置づけられている。保育の意義及び目的、保育に関する法令（児童福祉法、学校教育法、認定こども園法等）及び制度（保育所、幼稚園、認定こども園、子ども・子育て支援新制度等）、保育所保育指針における保育の基本（保育の目標、内容、環境、方法、計画と評価等）について概説する。また、諸外国と日本を比較しながら、保育の思想と歴史の変遷、保育の現状と課題について概説し、話し合いや発表等を通して理解を深め考えていく。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 保育の意義及び目的について理解する。		0.1	0.5		0.3	0.1
・ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。						
・ 保育の思想と歴史の変遷について理解する。						
・ 保育の現状と課題について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	（事前）シラバスを通読し、今後の学習内容を見通す。 （事後）授業資料の整理と確認。
第2回 保育の意義及び目的 保育の理念と概念	（事前）辞書で「保育」を調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第3回 保育における子ども理解 発達	（事前）辞書で「発達」を調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第4回 保育の歴史と思想① 近代～戦前	（事前）戦前までの保育の歴史を調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第5回 保育の歴史と思想② 戦後～現代	（事前）戦後～現在までの保育の歴史を調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第6回 保育の内容・保育の方法 保育の果たす役割とは何か	（事前）保育所・幼稚園の経験を振り返る。 （事後）授業資料の整理と確認。
第7回 保育の計画	（事前）保育の計画について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第8回 保育に関する法令及び制度① 幼稚園とは	（事前）幼稚園の制度について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第9回 保育に関する法令及び制度② 保育所とは	（事前）保育所の制度について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第10回 保育に関する法令及び制度③ 認定こども園とは	（事前）認定こども園の制度について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第11回 子育て支援の役割と保育の専門性	（事前）子育て支援について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第12回 諸外国における保育の現状	（事前）諸外国の保育について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第13回 日本における保育の現状と課題① 子どもの貧困	（事前）子どもの貧困について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第14回 日本における保育の現状と課題② 保育者の処遇	（事前）保育者の処遇について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第15回 まとめ	（事前）学んだことを振り返り、総まとめをする。 （事後）授業資料の整理と確認。
第16回 期末試験	（事前）期末試験に向けて、講義内容の振り返りをする。 （事後）期末試験結果の確認と復習をする。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出等）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況：受講態度（積極的参加）・提出課題等（40%）、期末試験（60%）により総合的に評価します。

※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。

提出課題等については、随時フィードバックします。

期末試験については、後日フィードバックします。

■ 教科書

〔哲学的な考えをいかす 新・保育原理〕〔伊藤潔志編〕〔教育情報出版〕〔2, 300円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省編〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

その他必要に応じて適宜紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

教育原理

(30202)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 子専1年

授業形態 : 講義 学期 : 後期 必・選 : 必修 幼免 (必) ・保育 (必)

生活文化学科 子ども生活専攻科目

倉品有佳

■ 授業の概要

教育の理念、本質を考究するため、代表的な理論や原理的な課題を学習するとともに、たがいの考えを照らし合わせながら、教育概念を検討する。また、日本と諸外国における教育の歴史、思想について探究するため、学校、子どもとその家族、教師、という各種のトピックを設けて、それぞれをめぐる制度や観念の変遷、現代的諸問題をとりあげ、検討する。ペアやグループでのワーク、レポート発表などを通じて、受講状況をつど確かめていく。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を深め、それらを説明することができる。	0.2		0.5		0.2	0.1
・教育の歴史の変遷や現代社会における教育課題を理解し、それらについて自らの考えを持つことができる。						
・日本と諸外国の教育思想について理解し、それらをもとに自らの教育に対する考えを批判的に検討することができる。						

■ 授業計画

	自習 (事前・事後学修の内容)
第1回 教育をどのようにとらえるか	講義をもとにして、提示された課題に取り組む (参考書第1・2章)
第2回 誰のための義務教育?	講義をもとにして、提示された課題に取り組む (参考書第3章)
第3回 知を愛すること—西洋教育思想1 古代	講義をもとにして、提示された課題に取り組む (参考書第4章)
第4回 子どもの誕生—西洋教育思想2 近代	講義をもとにして、提示された課題に取り組む (参考書第6章)
第5回 新教育の登場—西洋教育思想3 20世紀	講義をもとにして、提示された課題に取り組む (参考書第7章)
第6回 教育の実践—西洋における教育実践を例に	講義をもとにして、提示された課題に取り組む (参考書第12章)
第7回 中間まとめ	第1回から第6回までの講義の内容を復習する
第8回 近代学校の誕生と展開—学校の歴史1	講義をもとにして、提示された課題に取り組む (参考書第8章)
第9回 日本における学校の誕生と展開—学校の歴史2	講義をもとにして、提示された課題に取り組む (参考書第10章)
第10回 戦後日本の社会と学校—学校の歴史3	講義をもとにして、提示された課題に取り組む (参考書第11章)
第11回 近代と科学技術—現代教育の課題1	講義をもとにして、提示された課題に取り組む (参考書第15章)
第12回 知をめぐる問題—現代教育の課題2	講義をもとにして、提示された課題に取り組む
第13回 生まれてくることについて—現代教育の課題3	講義をもとにして、提示された課題に取り組む
第14回 教育の意味を考える—演習	これまでの講義を振り返り、グループワークを活用しながら教育の意味について考える
第15回 期末まとめ・試験	第1回から第14回までの講義の内容を復習する

■ 履修上の注意

毎回の課題提出と1回の受験が必須です

連絡や課題提出のためにGoogleクラスルームを使用します

■ 成績評価方法・基準

講義内課題への取り組み40%、試験60%

取り組みは知識、思考・表現、主体性・協働性の程度に応じて評価する

■ 教科書

特に指定しない

■ 参考書

[アクティベート教育学01][教育原理][木村元・汐見稔幸編、2020][ミネルヴァ書房][2200円]

その他、講義の各回にて適宜参考書等を紹介する

状況に応じてJM00C(Japan Massive Open Online Courses) <https://www.jmooc.jp/>等を活用する

■ 備考

必修

質問等は講義前後やGoogle Classroomで受け付けます

必要に応じてPCを持参すること

子ども家庭福祉論

(30203)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

子ども家庭福祉の大きな目的の一つは、すべての子どもに適切な家庭環境（安全で安心して成長できる場）を保障することである。そのためには、子どもやその家族に関わる保育者や他の専門職が連携し、協働していくことが重要だとされている。本授業では、保育者として保育現場で子ども家庭福祉に関わっていくにあたって必要な基礎知識・技術を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子ども家庭福祉の現状や保育者の役割について理解している		0.2	0.5		0.3	
・子ども家庭福祉の基礎的な知識及び技術を理解している						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第2回 子どもと家庭を取り巻く現状	現在の社会問題について調べておく
第3回 子どもの権利	「児童の権利に関する条約」を調べておく
第4回 日本における子ども家庭福祉の歴史	テキストを読んで、予習復習をすること
第5回 アメリカにおける子ども家庭福祉の歴史	テキストを読んで、予習復習をすること
第6回 子ども家庭福祉の法体系	「児童福祉法」について調べておく
第7回 子ども家庭福祉の制度	テキストを読んで、予習復習をすること
第8回 子ども家庭福祉の行政	テキストを読んで、予習復習をすること
第9回 子ども家庭福祉の実施機関と施設	児童福祉施設について調べておく
第10回 子育て支援サービスと保育サービス	少子化対策について予習復習をすること
第11回 母子保健サービス	母子健康手帳について調べておく
第12回 子ども虐待とDV（ドメスティック・バイオレンス）	子ども虐待の分類について調べておく
第13回 ひとり親家庭への福祉	テキストを読んで、予習復習をすること
第14回 障がいのある子どもの福祉	テキストを読んで、予習復習をすること
第15回 子ども家庭福祉の専門職と連携	保育士の仕事について確認してみる
第16回 期末テスト（レポート）	今まで学習したことについて、自分でまとめて振り返り、課題を発見する

■ 履修上の注意

子ども家庭福祉に関連のあるデータや事例などを事前に調べた上で授業に臨んでもらいたい。

■ 成績評価方法・基準

平常点（50％）、期末試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。期末試験（レポート）は添削して返却する。

■ 教科書

〔保育と子ども家庭福祉〕〔櫻井奈津子 編〕〔みらい〕〔2640円〕

■ 参考書

授業の中で適宜紹介する

■ 備考

必修

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける

社会福祉論

(30204)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

社会福祉論は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。社会福祉は、憲法第25条の生存権規定を基盤として、その理念を具体化するべく、体系が築かれている。そして、現在に至っても多くの社会福祉問題を解決を目指して、社会福祉体系は変化を続けている。そこで、変化を続ける社会福祉の歴史的展開や基本的理念・原理について概観する。その中で、最近の社会福祉の動向を知り、保育士に期待される役割について考え、自らの「専門性」についての自負や役割意識を培うことができるようにする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・①社会福祉に関する基礎的知識を身に付けることができる	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
・②社会資源を活用して子どもを守るための具体的な手法を身に付けることができる						
・③保育士に期待される社会的役割を考え、自主的に援助ができるようになる						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第2回 社会福祉の理念	社会福祉の理念について目を通し、分からなかったところを把握する
第3回 人権とは何か	人権について復習し、分からなかったところを把握する
第4回 社会福祉の史的展開	福祉の歴史について目を通し、社会福祉の方向性について把握する。
第5回 欧米における社会福祉の成り立ち	欧米の福祉制度の成り立ちについて目を通し、福祉の成り立ちについて把握する
第6回 社会福祉の制度体系	学習内容にあらかじめ目を通し、分からなかったところを把握する
第7回 社会福祉関係各法（1） - 「児童福祉法」を中心として -	「児童福祉法」に目を通してくる
第8回 社会福祉関係各法（2） - 「社会福祉法」を中心として -	「社会福祉法」に目を通してくる
第9回 社会福祉の制度体系の中の保育の位置づけ	保育が福祉制度の中でどのような役割をになっているか目を通し、分からなかったところを把握する
第10回 子ども家庭福祉の法体系の基盤	子ども家庭福祉について、事前に調べてくる。
第11回 子ども家庭福祉の制度・行政・機関	児童相談所について、事前に調べてくる。
第12回 社会福祉における保育士の役割について	自分の保育観について、考えてみる
第13回 社会福祉制度と福祉サービス供給システムの多元化	事前にテキストに目を通してくる。
第14回 社会福祉制度の現状と課題	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第15回 まとめ	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める
第16回 期末試験（レポートによる）	今まで学習したことについて、自分でまとめて振り返り、期末試験（レポート）を通して、課題を発見する。

■ 履修上の注意

社会福祉は、「生活」に密着した学問分野なので、日頃から自分の身の回りで起きている出来事などについて興味・関心を持ち、新聞等を読んで知識を深めることが望ましい

■ 成績評価方法・基準

平常点（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な

授業への参加態度を高く評価する。また、期末試験（レポート）については模範解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。

■ 教科書

〔生活事例から見る社会福祉〕〔吉田眞理 著〕〔青踏者〕〔1900円〕

■ 参考書

授業の中で指示する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

地域福祉論

(30205)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

地域福祉論は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。子育て支援においては、地域で子育てを支える社会づくりが重要であるという認識が広まりつつある。ここでは、子どもが健やかに育つための環境整備に関する施策や地域的な取り組みの現状と課題について概観する。その上で、コミュニティワークの基礎を理解できるようにする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・地域福祉の理念について理解している	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1
・地域福祉の基礎的な知識及び技術を理解している						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る。
第2回 地域福祉の理念	テキストに目を通して、分からないところを把握する。
第3回 地域福祉展開の原則とサービス提供原理	テキストに目を通して、分からないところを把握する。
第4回 地域福祉実践の現状	社会福祉協議会について調べてくる
第5回 生活を支える諸サービスと福祉環境整備	テキストに目を通して、分からないところを把握する。
第6回 地域における子育て相談について	少子化問題について調べてくる
第7回 地域における子育て支援とニーズのキャッチ	テキストに目を通して、分からないところを把握する。
第8回 ソーシャルサポートネットワークについて	テキストに目を通して、分からないところを把握する。
第9回 地域福祉におけるボランティアの重要性	地域で活動しているボランティアサークルの活動について調べてくる
第10回 コミュニティソーシャルワークと保育士の仕事	保育士の仕事について調べてくる
第11回 地域福祉の主体形成の方法論	テキストに目を通して、分からないところを把握する。
第12回 地域における福祉教育と子育て支援	福祉教育について調べてくる
第13回 地域におけるNPOの取り組み：事例「地域から始まる子育て支援」	テキストの事例に目を通してくる。
第14回 NPO活動の現状と課題	NPOについて自分で調べてくる。
第15回 まとめ	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める。
第16回 期末テスト（レポート課題）	今まで学習したことについて、自分でまとめて振り返り、期末試験（レポート）を通して、課題を発見する。

■ 履修上の注意

身近な地域の活動について、地域のボランティア活動に参加するなどして体験的に調べてみるとよい。

■ 成績評価方法・基準

平常点（50％）、試験（50％）で総合的に評価する。特に平常点については、授業中に発表するなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。

■ 教科書

適宜資料を配布する

■ 参考書

授業の中で適宜紹介する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

子ども家庭支援論

(30206)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

伊藤 利恵

■ 授業の概要

本授業では、保育士の役割の1つである子どもの保護者に対する保育に関する指導を中心として講義をする。保育に関する指導について「保育所保育指針」では「全ての子どもの健やかな育ちを実現することができるよう、（中略）子どもの育ちを家庭と連携して支援していくとともに、保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する」と示されている。そこで、本授業では地域社会の変化や家庭生活における人間関係について、まず十分に理解させてから保護者支援の在り方について説明していく。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・地域社会の変化と家庭における子育ての変化について理解する。	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1
・保育にかかわった時に保護者の相談に十分応じられる知識・技術の基礎を身に付ける。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 家族・家庭と子育て①家族・家庭の定義と現状	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第2回 家族・家庭と子育て②子育て家庭を取り巻く現状	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第3回 子ども家庭支援とは何か	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第4回 子ども家庭支援の目的と機能	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第5回 保育所・保育士に求められる支援の基本姿勢	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第6回 子育て支援を支える施策・社会資源	事前：自分の住む地域の社会資源を調べてくる 教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第7回 子ども家庭支援の基本としての相談支援①相談支援の効用	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第8回 子ども家庭支援の基本としての相談支援②相談支援の基本姿勢	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第9回 保育士がよき相談支援者となるために	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第10回 保育所による家庭支援の実際	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第11回 地域の子育て家庭への支援	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第12回 地域の子育て家庭への支援の実際	事前：教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第13回 特別な配慮を要する家庭への支援の実際①児童虐待	事前：児童虐待について調べてくる

	教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第14回 特別な配慮を要する家庭への支援の実際②障害児のいる家庭	事前：「障害」について調べてくる 教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第15回 まとめ	事前：今まで渡したプリントに目を通してくる 教科書に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第16回 期末試験	教科書や今まで渡したプリントに目を通してくる

■ 履修上の注意

話し合いやロールプレイを行っていくので、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。

■ 成績評価方法・基準

授業態度（積極的な発言等30%）、レポート（20%）、試験（50%）で評価をする。振り返りシートなどは採点して返却し、学生にフィードバックする。

■ 教科書

〔保育士をめざす人の子ども家庭支援〕〔白幡久美子編集〕〔みらい〕〔2, 310円〕

■ 参考書

適宜、指示する

■ 備考

質問は、授業終了後とオフィスアワーに受け付ける。
授業計画の順番は入れ替わる場合がある。

社会的養護 I

(30207)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 子専1年

授業形態 : 講義 学期 : 後期 必・選 : 選択 保育 (必)

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

社会的養護 I は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。近年、社会的養護を必要とする子どもたちの保育の場として、施設養護のほかに「地域における子育て」が見直され始めている。そこでまず、子どもの養護や「幸せ」を考える視点が史的展開の中でどのように変化してきているかを説明する。その上で、子どもの養護に関わる法制や機関などの社会資源を知る。なお、事例を多く用いて、社会的養護の現状がイメージしやすいように工夫し、ケースワークなども取り入れて実践的な基礎的事項について理解させる。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・社会的養護に関する基礎的な知識を身に付けることができる。	0.1	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1
・社会的養護に必要な社会資源について理解することができる。						
・社会的養護における具体的な援助等の方法を知ることができる。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第2回 児童養護の意味	児童養護について予習し、分からなかったところを把握する
第3回 児童養護が目指すもの	前回の学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第4回 保育士が児童養護を学ぶ視点	自分の保育観について、改めて考えてみる
第5回 児童養護の史的展開	事前にテキストに目を通してくる
第6回 社会的養護の最近の動向	社会的養護の史的展開について概観してくる。
第7回 児童養護の基本的な考え方	事前にテキストに目を通し、児童養護について自分の考えをまとめてくる
第8回 児童養護の種類と内容 (1) : 乳児院	乳児院についてあらかじめ調べ、分からなかったところを把握する
第9回 児童養護の種類と内容 (2) : 母子生活支援施設	母子生活支援施設についてあらかじめ調べ、分からなかったところを把握する
第10回 児童養護の種類と内容 (3) : 児童養護施設	児童養護施設についてあらかじめ調べ、分からなかったところを把握する
第11回 児童養護の種類と内容 (4) : 障害児入所施設	障害児入所施設についてあらかじめ調べ、分からなかったところを把握する
第12回 児童養護の種類と内容 (5) : 児童自立支援施設	児童自立支援施設についてあらかじめ調べ、分からなかったところを把握する
第13回 家庭的養護の種類と内容	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第14回 施設養護における保育士の援助・支援の在り方について	社会的養護にとって、保育士はどのような役割を果たすべきなのか考えてくる。
第15回 まとめ	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める
第16回 期末試験 (レポートによる)	今まで学習したことについて、自分でまとめて振り返り、期末試験を通して、課題を発見する。

■ 履修上の注意

身近にある児童福祉施設でボランティア活動などをして、実践的に学ぶことが望ましい

■ 成績評価方法・基準

平常点 (50%)、期末試験 (50%) で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、期末試験 (レポートによる) については模範解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。

■ 教科書

教科書〔保育と社会的養護Ⅰ 第2版〕〔大竹智・山田利子編〕〔みらい〕〔2300円〕

■ 参考書

授業の中で指示する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

保育者論

(30208)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

三浦主博

■ 授業の概要

幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目：教職の意義及び教員の役割・職務内容）及び保育士養成課程（保育の本質・目的に関する科目）の必修科目である。教職・保育職の意義、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職・保育職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職・保育職の在り方を理解する。そのために、保育職の選択、保育者の役割、制度、専門性、協働などについて概説する。また、保育者としてのキャリア形成について考えるためにグループワーク等を行う。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> ・教職（幼稚園教諭）及び保育士の社会的意義や制度的な位置づけを理解する。 ・保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の専門性や役割、資質能力を理解する。 ・保育者の職務内容について理解する。 ・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 ・保育現場の内外での連携・協働について理解する。 		0.25	0.5		0.25	

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション	シラバスを通読し今後の学習内容を見通す。 配布資料や課題を確認し、本時の課題を提出期限までに提出する。
第2回 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）になる私 プレ保育者アイデンティティ	配布資料に基づき「プレ保育者アイデンティティ」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第3回 保育者の役割・資質能力と責務・倫理	配布資料に基づき「保育者の役割・資質能力と責務・倫理」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第4回 保育者の制度的位置づけ 資格・要件・職務内容（服務・身分保障等）	配布資料に基づき「保育者の制度的位置づけ」「資格・要件・職務内容（服務・身分保障等）」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第5回 幼稚園教育要領にみる幼稚園教諭の役割	配布資料に基づき「幼稚園教育要領にみる幼稚園教諭の役割」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第6回 保育所保育指針にみる保育者の専門性と資質	配布資料に基づき「保育所保育指針にみる保育者の専門性と資質」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第7回 幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる保育教諭の役割	配布資料に基づき「幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる保育教諭の役割」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第8回 子ども理解・保育の計画・実践・省察	配布資料に基づき「子ども理解・保育の計画・実践・省察」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第9回 保育者の協働①：保護者支援	配布資料に基づき「保護者支援」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第10回 保育者の協働②：幼・保・認定こども園と小学校の接続	配布資料に基づき「幼・保・認定こども園と小学校の接続」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第11回 保育者の協働③：専門職・機関及び地域社会との連携	配布資料に基づき「専門職・機関及び地域社会との連携」の事前・事後学習を行い、授業後の課題

第12回 保育者としての成長と研修（法定研修・自己啓発）	をし、提出期限までに提出する。 配布資料に基づき「保育者としての成長と研修（法定研修・自己啓発）」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第13回 保育者の専門職的成長①：生涯発達とキャリア形成	配布資料に基づき「生涯発達とキャリア形成」の事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第14回 保育者の専門職的成長②：自分たちが目指す保育者像	配布資料に基づき「自分たちが目指す保育者像」についての事前・事後学習を行い、授業後の課題をし、提出期限までに提出する。
第15回 学修のまとめ（期末レポート課題の提示）	これまでの課題を振り返り、事後のまとめをする。期末レポート課題のテーマについて、15回分の授業内容を踏まえ熟考し提出する。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出等）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況：受講態度（積極的参加）・課題提出等（30%）、提出課題（30%）、期末レポート課題（40%）により総合的に評価します。

※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。

提出課題等については、随時フィードバックします。

期末レポート課題については、後日フィードバックします。

■ 教科書

教科書は使用しません。毎回の授業で適宜、授業資料を配布します。

■ 参考書

〔幼稚園教育要領〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時（非常勤講師のため）に受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

教育・保育制度論

(30209)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

久保田 朋 実

■ 授業の概要

日本の教育および保育の制度を法律、理念、歴史、体系などの視点から解説し、その現状と課題を明らかにする。そのうえで、日本の教育・保育を取り巻く社会的状況や、最新の政策動向を講義する。学生同士の話し合いや発表の時間を設けながら考察する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

- ・教育・保育に関する制度の基礎知識を習得する。 0.14 0.14 0.3 0.14 0.14 0.14
- ・社会と教育・保育の関連を理解し、日本と諸外国の政策動向を理解する。
- ・園の安全を守るために必要な具体的な取り組みを理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業内容と進め方、評価方法について説明	
第2回	保育制度と法 グループワーク	教科書第2章を読む。
第3回	保育所制度の原理と組織 グループワーク	教科書第3章を読む。
第4回	幼稚園制度の原理と組織 グループワーク	教科書第4章を読む。
第5回	認定子ども園制度の原理と組織 グループワーク	教科書第5章を読む。
第6回	保育所・幼稚園等保育施設と小学校の連携・接続の原理と実践 グループワーク	教科書第6章を読む。
第7回	保育制度・経営論としての保育ソーシャルワーク グループワーク	教科書第7章を読む。
第8回	現代保育・幼児教育政策の動向と課題 グループワーク	教科書第8章を読む。
第9回	まとめ	

■ 履修上の注意

- ・初回のオリエンテーションに必ず出席してください。
- ・毎回の授業で、必ずパソコンを持参してください。

■ 成績評価方法・基準

受講態度50%（授業への参加状況：発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ等）、授業内課題への取り組み50%で評価します。

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜、紹介します。

■ 備考

欠席連絡等、何かあればメールにてお知らせください。

質問等は、授業終了後のみ受け付けます。

発達心理学

(30210)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子

■ 授業の概要

子ども家庭福祉はすべての子どもが安心して、安全な環境の下で成長していけるように様々な仕組みを整える子ども家庭福祉施策を学ぶ内容となっている為、保育士資格取得の必須科目となっている。地方自治体での実務を活かし、具体的な事例をあげながら、必要となる法律や身近な支援サービスについてグループ・ワークなどを行い学びを深めていく。

さらに、子ども家庭福祉の重要課題でもある「虐待」や「貧困」などについて要保護児童対策地域協議会での経験を基に、現代社会に求められる子ども家庭福祉の在り方や今後の課題について講義する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。		0.2	0.8			
・子どもの人権擁護について理解する。						
・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。						
・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。						
・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション（子ども家庭福祉とは）	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回 現代社会と子ども家庭福祉	子ども家庭福祉を学ぶ意義について考える。
第3回 子ども家庭福祉の概念と理念	子どもの最善の利益について理解する。
第4回 子どもの人権・権利条約と人権擁護	親の所有物・従属物としての子どもをめぐる現状や事件について調べる。
第5回 子ども家庭福祉の制度①（法体系：児童福祉法など）	自治体の機能や役割について調べる。
第6回 子ども家庭福祉の制度②（児童福祉施設：乳児院など）	12種類の児童福祉施設について理解する。
第7回 母子保健と子どもの健全育成	妊婦検診について調べる。
第8回 障害のある子どもへの支援	障害児入所・通所施設の違いについて調べる。
第9回 子ども虐待・DVとその防止	児童虐待に関する事件を調べる。
第10回 社会的養護	4種類の里親区分について調べる。
第11回 少年非行等への対応	非行少年3種の区分について調べる。
第12回 ひとり親家庭への支援	ひとり親家庭の支援サービスについて調べる。
第13回 貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への支援	子ども子育て新制度について理解する。
第14回 子ども家庭福祉の動向①（少子化問題・子ども子育て新制度）	少子化問題について考える。 期末試験に向けた模擬課題を提出。
第15回 子ども家庭福祉の動向②（児童虐待・不登校など）	不登校に関する資料を収集する。 期末試験に向けた模擬課題の内容を理解する。
第16回 期末試験	試験解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック内容を確認し、復習する。

■ 履修上の注意

授業への取り組みでは、課題提出の期限は厳守します。受講態度では、授業への参加状況（発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ等）を重視します。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（発言、質問、グループワークでの取り組み、事前課題など）（60%）、期末試験（筆記試験）（40%）により総合評価します。課題については、授業中にフィードバックします。提出されたレポートについては、後日添削して返却します。試験については、模擬課題の際に具体的に振り返りながら解説することでフィードバックします。

■ 教科書

【図解で学ぶ保育】【直島正樹・河野清志 編著】【萌文書林】【2, 100円】

■ 参考書

適宜、授業中に参考書の紹介と関係資料配布を行います。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子ども理解の理論と方法

(30211)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子

■ 授業の概要

幼稚園教諭養成課程及び保育士養成課程の必修科目である。乳幼児期の著しい発達について学び、その発達の原動力となる子どもと子どもを取り巻く環境との相互作用について理解を深める。そのために必要な観察法についても学び、一人一人の子どもの発達に応じた支援の方法について、さらに、発達の遅れや偏りなどの問題への対処法や、保護者との連携・子育て支援の方法についても学ぶ。また子どもの発達と保育の理解を深めるために、「保育所実習」と関連させて、グループ討議や発表も行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子どもの心身発達と保育実践について理解を深める。		0.2	0.4	0.2	0.2	
・生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程を理解する。						
・保育における発達援助について学ぶ。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：子ども理解の意義（三浦・米川）	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回 乳幼児期の発達①（認知、人間関係、情動）（三浦・米川）	教科書1～2章を読み、予習・復習をする。
第3回 乳幼児期の発達②（言葉とコミュニケーション、遊びの発達と仲間関係）（三浦・米川）	教科書1～2章を読み、予習・復習をする。
第4回 保育者の援助と役割（三浦・米川）	教科書3章1～7を読み、予習・復習をする。
第5回 子どもの発達障害、気になる癖（三浦・米川）	教科書4章1～6を読み、予習・復習をする。
第6回 保育に生かす観察法・発達の診断と発達検査（三浦・米川）	教科書3章8～10を読み、予習・復習をする。
第7回 保護者理解と家庭との連携（三浦・米川）	教科書4章7～11、5章を読み、予習・復習をする。
第8回 まとめと期末試験（三浦・米川）	これまでの復習をして試験に臨む。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。

積極的にグループワーク等に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況（ミニット・ペーパーの内容、課題等）（40%）、及び期末試験（60%）により総合的に評価します。

期末試験・提出課題等については、授業中及び機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書

〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2, 200円〕

（1年次「発達心理学」で使用した教科書です。）

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕（2018年）／〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕（2018年）／〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚生省〕〔フレーベル館〕（2018年）

■ 備考

質問等については、授業終了時、またはオフィスアワーに受け付けます。

教育心理学

(30212)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

植松公威

■ 授業の概要

人間は独力で何かが可能になるためには、その前に他者からの援助によって共同の中で可能になっている必要があり、発達には他者からの援助によって促進されることについて解説する。主にヴィゴツキーの理論について学べるように指導する。また、学習には大きく分けて有意味学習と機械的暗記学習があり、有意味学習の効果について理解できるように事例を交えて講義する。授業では砂漠の位置や動物の食性についての事例を取り上げて、有意味学習の効果について学べるようにするとともに、機械的暗記学習の学習観を批判できるように指導する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・①教育には社会的活動として「発達の最近接領域」を開き、子どもの発達を促す働きがあることを学ぶ。		0.2	0.4	0.2	0.2	
・②学習の転移と記憶を高めるためにはルールと事例をどのように学ぶのがよいかを理解する。						
・③有意味学習を実際に体験し、機械的暗記学習の学習観・知識観を批判できるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス（授業内容と教育目標）	あらかじめシラバスを熟読すること。
第2回 ルール（法則）学習の長所について	「ルール学習」とは何か調べること。
第3回 ルール学習に関する授業記録—小学3年「金属ならば電気を通す」の授業—を学ぶ	子どもたちがどのようにルール（法則）と事例を学んでいるかを考えること。
第4回 応用と記憶を高めるための教授方法	検証法、帰納法、演繹法の違いについて理解すること。
第5回 有意味学習とは—世界のどこに砂漠はあるか—	有意味学習を実際に体験し、その感想をレポートすること。
第6回 誤った学習観について	学習とはどのような特徴をもっているかを考えること。
第7回 ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」について	発達と教育の関係について問題意識を高め、考えを深めること。
第8回 発達の事例	自らの過去の経験を振り返り、レポートすること。

■ 履修上の注意

毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題（20%）、ミニットペーパーなどによる理解状況（80%）。レポート課題やミニットペーパーについてはフィードバックを行う。

■ 教科書

授業の前にプリントを配布する。

■ 参考書

授業の中で適宜、紹介する。

■ 備考

質問等についてはミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

子ども家庭支援の心理学

(30213)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子

■ 授業の概要

子ども家庭支援の心理学では、発達心理学及び臨床心理学の知見を踏まえて、生涯発達の観点から乳幼児期だけにとどまらず、生涯の発達課題を学ぶ。さらに、乳幼児期から高齢期に至るまでの心身の発達と、それを支える家庭、児童福祉施設等、地域や社会という環境の在り方について学ぶ。

また、保育・要保護対応などの実務経験を基に、保育現場での実体験などの講話を多く取り入れる。具体的な事例をあげ、グループ・ワークを行い、子どもと家庭を包括的に捉える視点の習得を図れるようにする。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達課題について理解する。 家族・家庭の意義や機能を理解する。 発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 子どもの精神保健とその課題について理解する。 		0.2	0.6		0.2	

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション（子ども家庭支援の心理学とは）	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回 乳児期の発達とその特徴	愛着形成について深く理解する。
第3回 幼児期の発達とその特徴	ピアジェの発達理論について理解する。
第4回 学童期の発達とその特徴	小1プロブレム・中1ギャップについて考える。
第5回 思春期から青年期の発達の特徴	エリクソンの発達課題について理解する。
第6回 成人期から高齢期の発達の特徴	サクセスフル・エイジングについて考える。
第7回 家族システムと家族発達	生態学的システム理論について理解する。
第8回 親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達	虐待の世代連鎖について考える。
第9回 子育て環境の社会状況の変化	ワーク・ライフ・バランスについて考える。
第10回 多様な子育て家庭への支援	ワンオペ育児が与える影響について理解する。
第11回 特別な配慮を必要とする家庭への支援	外国籍の子どもの事例検討。
第12回 子どもを取り巻く生活環境と心身の健康	レジリエンスについて深く理解する。
第13回 子どもの心と健康	まばたきが多い子の事例検討。
第14回 障害のある子どもの理解と対応	発達障害を抱える子どもの事例検討。期末試験に向けた模擬課題を提出。
第15回 災害と子ども	自分にかけてあげたい言葉ミニレポート。期末試験に向けた模擬課題の内容を理解する。
第16回 期末試験	試験解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック内容を確認し、復習する。

■ 履修上の注意

授業での取り組みでは、課題提出の期限は厳守します。受講態度では、授業への参加状況（発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ等）を重視します。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（グループワークでの積極的参加、発言、質問など）（40%）、期末試験（筆記試験）（60%）により総合評価します。課題については、授業中にフィードバックします。提出されたレポートについては、後日添削して返却します。試験については、模擬課題の際に具体的に振り返りながら解説することでフィードバックします。

■ 教科書

適宜、授業前に関係資料を配布します。

■ 参考書

適宜、授業中に参考書の紹介を行います。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

教育・保育相談

(30214)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子

■ 授業の概要

現代では、子どもや保護者・地域などからの相談に応じることができる資質が求められている。保護者からの相談、子どもの問いかけ、保護者同士の相談に対応できる教育・保育相談の基本的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けることができるようにする。

保育園・放課後児童クラブ・要保護児童・子育て支援等、行政での実務経験を基に、具体的な事例を通してグループ・ワークやロールプレイを多く取り入れ、実際の相談業務について理解できるように配慮する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 保育現場（幼稚園等）における教育・保育相談の意義と理論を理解する。	0.4			0.2	0.2	0.2
・ 教育・保育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。						
・ 教育・保育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。						
・ 教育・保育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回 教育・保育相談に関わる心理学の理論と方法	相談業務の基礎となる質問力について学ぶ。
第3回 保護者との関係づくり	連絡帳を使用し、保護者に伝える方法を学ぶ。
第4回 保護者支援の背景にある要因	ジェノグラムを用いた相談記録方法を理解する。
第5回 いまの保育が求められる背景	多様化している保護者と子育て環境について理解する。
第6回 保育の環境構成を生かした支援	保育環境を活用した保護者への伝え方を考える。
第7回 地域の資源の活用と関係諸機関との連携	母子保健や子育て支援センターなど関係機関との連携について事例を通して学ぶ。
第8回 地域子育て支援における保育相談支援	子育てひろばにおける保護者の相談支援について学ぶ。
第9回 養育力向上を目指した支援	事例についてアセスメントする作業を行う。
第10回 保育者同士の関係を改善するための支援	子どものけがをめぐる保護者同士のトラブル解決に向けて事例検討を行う。
第11回 苦情対応から始まる支援	保護者からの苦情に対する対応について学ぶ。
第12回 障がいのある子どもをもつ保護者への支援	合理的配慮を意識した支援方法について学ぶ。
第13回 要保護児童の家庭に対する支援	要保護児童を発見した場合の事例検討を行う。
第14回 乳児院・母子生活支援施設等における支援	身近な自治体の社会資源を調べる。 期末試験に向けた模擬課題を提出。
第15回 家族や家庭への効果的な関りやサポート	家族レジリエンスについて学ぶ。 期末試験に向けた模擬課題の内容を理解する。
第16回 期末試験	試験解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック内容を確認し、復習する。

■ 履修上の注意

授業の取り組みでは、課題提出の期限は厳守します。受講態度では、授業への参加状況（発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ、ロールプレイでの積極的参加等）を重視します。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（発言、質問、グループワーク、ロールプレイでの積極的参加など）（40%）、期末試験（筆記試験）（60%）により総合評価します。課題については、授業中にフィードバックします。提出されたレポートについては、後日添削して返却します。試験については、模擬課題の際に具体的に振り返りながら解説することでフィードバックします。

■ 教科書

授業前に適宜、資料を配布します。

■ 参考書

適宜、授業中に紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子どもの保健

(30215)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

千葉明子

■ 授業の概要

「子どもの保健」では子どもの身体発育や生理機能の特性・発達，健康状態とその把握，疾病とその予防・対応など 保育における保健的対応に必要な 基礎的事項を解説する。

大人のミニチュアではない様々な可能性を持つ子ども，身体的・精神的に未熟な存在 一人ひとりを把握しつつ同時に集団全体とどうかかわればよいか 総合的な理解ができるよう説明する。小児科医としての日々の診療のなかで感じた実践活動に必要な十分な知識を身につけられるようお伝えする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子どもの心身の健康と保健の意義を理解する	0.1		0.5	0.1	0.1	0.2
・子どもの身体的発育・発達と保健について理解する						
・心身の健康状態と把握方法， 疾病と予防， 保護者・関連機関を含む適切な対応について理解する						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	子どもの保健（総論，理想の保育者）	各自の理想とする保育者像を考える
第2回	子どもの心身の健康と保健の意義（健康の概念，母子保健 など）	教科書（p2-15）を熟読，予習・復習を欠かささない
第3回	〃（虐待，養護と教育 など）	（p16-29）〃
第4回	身体の発育と保健	（p30-47）〃
第5回	運動機能の発達と保健，生理機能の発達と保健（自律神経，体温）	（p48-61）〃
第6回	生理機能の発達と保健（循環，消化，睡眠 など）	（p62-73）〃
第7回	〃（感覚器官，免疫），精神機能の発達と保健（心，言葉，社会性の発達）	（p74-87）〃
第8回	精神機能の発達（情緒など），心身の健康状態（観察ポイント など）	（p88-99）〃
第9回	心身の健康状態とその把握（心身症，乳幼児健診 など）	（p100-113）〃
第10回	子どもの疾病の予防及び適切な対応（感染症，呼吸器・消化器疾患）	（p114-127）〃
第11回	〃（循環器・泌尿，生殖器・中枢神経系疾患）	（p128-139）〃
第12回	〃（内分泌，代謝・血液，腫瘍・アレルギー疾患）	（p140-151）〃
第13回	〃（アレルギー・整形外科・その他の疾患）	（p148-159）〃
第14回	〃（マウスクリーニング，予防接種，支援 など）	（p160-171）〃
第15回	保育者の健康，まとめ	
第16回	期末試験（持ち込み不可）	今までの学習内容を振り返り，理解を深めておく。

■ 履修上の注意

体調管理に留意し講義に出席，やむを得ない場合早期に欠課届を提出すること。受講態度重視します。

■ 成績評価方法・基準

平常点 60％ 平常点は教科書の音読など授業への参加，小テストの成績等で総合的に判断します。

学期末試験 40％

■ 教科書

〔やわらかアカデミズム〈わかる〉シリーズ 新版 よくわかる子どもの保健〕〔ミネルヴァ書房〕〔¥2,200＋税〕

■ 参考書

使用しない（授業でプリントを配布）

■ 備考

小テストは採点し翌週返却，解答は当日配布するプリントに記載，誤答が多かった問題は解説する。
必要な知識の定着に向け繰り返し学習すること。質問等は 授業終了時 オフィスアワーで受け付ける。

子どもの食と栄養Ⅰ

(30216)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

渡辺勝枝

■ 授業の概要

・乳幼児期の食は、発育・発達の著しい時期であり、健康な身体や豊かな人間性を育むうえでも大きな役割がある。生涯におけ

る食生活の基礎作りとしても望ましい食習慣・生活習慣を身に付ける必要がある。このことを踏まえ、子どもの健全な育ちを

促すための働きかけとして、発育・発達に必要な栄養や食生活に関する基礎的な知識を身に付け、保育士としての専門性を活

かせるように授業をすすめていく。

・子どもを取り巻く食環境の変化（保護者も含めて）について、保育所の管理栄養士としてこれまで見てきた気になる事例につ

いて触れ、それぞれの考えなど意見交換できる場を設けていく。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子どもの食と栄養の特性について理解できる	0.3		0.5		0.2	
・子どもの発育・発達に応じた食生活について説明できる						
・食べる機能にあわせた離乳食の進め方について理解できる						
・乳幼児に適した食事の提供ができる						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション 子どもの健康と食生活の意義	事前：教科書P2～7 子どもの健康と食について調べる。 事後：学んだ要点をまとめる。
第2回 栄養に関する基本的知識 ・栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能	事前：教科書P8～20 栄養素の働きについて調べる。 事後：学んだ要点をまとめる。
第3回 栄養に関する基本的知識 ・食事摂取基準と献立作成	事前：教科書P20～32 日本人の食事摂取基準について調べる。 事後：学んだ要点をまとめ、食生活指針を参考に自分の食生活を振り返る。
第4回 調理実習 ・主食・主菜・副菜・汁物	事前：衛生面も含めて調理の基本を確認する。 事後：調理した感想をまとめる。
第5回 子どもの発育・発達と食生活 ・乳汁期・離乳期の食生活と栄養	事前：教科書P38～62 離乳食の特性を調べる。 事後：学んだ要点をまとめる。
第6回 子どもの発育・発達と食生活 ・食べる機能にあわせた離乳食の進め方	事前：教科書P63～72 離乳食の進め方について調べる。 事後：学んだ要点をまとめる。
第7回 調理実習 ・調乳 ・離乳食（初期・中期・後期）	事前：離乳食を作る時の配慮点を確認する。 事後：調理した感想をまとめる。
第8回 子どもの発育・発達と食生活 ・幼児期の食生活と栄養	事前：教科書P73～84 幼児食の特性を調べる。 事後：学んだ要点をまとめる。
第9回 調理実習 ・幼児食（幼児のお弁当）	事前：幼児食を作る時の配慮点を確認する。 事後：調理した感想をまとめる。
第10回 子どもの発育・発達と食生活 ・学童期から成人期の食生活と栄養	事前：教科書P84～99 学童期・成人期の食事の特性を調べる。 事後：学んだ要点をまとめる。
第11回 期末試験（レポート作成）	前期学んだ復習をする。

■ 履修上の注意

教科書に沿ってすすめていく。

必要に応じて、資料、データを配布する。

■ 成績評価方法・基準

期末試験50%、課題・ミニットペーパー40%、授業の取り組み状況（提出状況、予習・復習の状況など）10%をもとに、総合的に判断する。

課題・レポートはあらかじめ採点基準を示し、テストは授業中に解説をする。

ルーブリックを配布するので、学習目標として参照としてください。

■ 教科書

〔発育期の子どもの食生活と栄養 第4版 2刷 2023/2/1発行〕〔菅原園 他（著）〕〔学建書院〕〔1980円〕

■ 参考書

〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1100円〕

■ 備考

欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。

質問については授業後か、授業中に受け付ける。

子どもの食と栄養Ⅱ

(30217)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

渡辺勝枝

■ 授業の概要

子どもの食と栄養Ⅰで学んだ知識を基に、食育計画の作成・実践、家庭や児童福祉施設における食の役割、緊急時・災害時の備えについて理解し対応できるよう、講義と実践による授業を行う。調理実習では、クッキング保育の進め方、保育所給食、食物アレルギー対応食、郷土料理などの行事食を取り入れる。教員の管理栄養士としての実務経験を活かして、実践例を紹介しながら授業を進める。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・食育の意義・目的を理解し、計画・実践・評価・反省できる。	0.3		0.5		0.2	
・家庭、保育所、児童福祉施設の食事と栄養を理解できる。						
・特別な配慮を要する子どもの食事と栄養を理解できる。						
・緊急時・災害時の対応についてシミュレーションできる。						
・幼児期の行事食献立を作ることができる。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 食育の基本と内容 ・食育の意義・目的 ・食育の返上と課題 ・食育計画の作成の仕方	事前：教科書P100～111 食育の意義について調べ る。 事後：食育計画を作成する。
第2回 食育の実践 ・発表	事前：食育実践準備 事後：食育の評価反省をする。
第3回 調理実習 ・クッキング保育（ロールプレイング）	事前：クッキング保育の配慮点を確認する。 事後：食育の評価反省をする。
第4回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ・家庭の食事 ・保育所の食事 ・その他の児童福祉施設の食事	事前：教科書P112～132 家庭と児童福祉施設の食 の役割について調べる。 事後：学んだ要点をまとめる。
第5回 特別な配慮を要する ・疾病および体調不良の子どもへの対応 ・食物アレルギーのある子どもへの対応 ・障害のある子どもへの対応	事前：教科書P134～145 事後：学んだ要点をまとめる。
第6回 調理実習 ・保育所給食	事前：大量調理の配慮点を考える。 事後：調理の感想をまとめる。
第7回 調理実習 ・食物アレルギー対応食	事前：食物アレルギー対応食の注意点を考える。 事後：調理の感想をまとめる。
第8回 調理実習 ・学生考案メニュー（行事食）	事前：調理工程などの作業確認をする。 事後：実習の評価反省をする。
第9回 調理実習 ・学生考案メニュー（行事食）	事前：調理工程などの作業確認をする。 事後：調理の感想をまとめる。
第10回 緊急時・災害時への対応	事前：教科書P146～150 事後：学んだ要点をまとめる。
第11回 期末試験（レポート作成）	授業で学んだことをまとめる。

■ 履修上の注意

教科書に沿って進めていく。

必要に応じて資料、データを配布する。

■ 成績評価方法・基準

期末試験50%、食育発表20%、献立作成および調理20%、授業の取り組み状況（提出状況、予習・復習の状況など）10%をもとに、総合的に判断する。

課題・レポートはあらかじめ採点基準を示し、テストは授業中に解説する。

ルーブリックを配布するので、学習目標として参照してください。

■ 教科書

〔発育期の子どもの食生活と栄養 第4版 2刷 2023/2/1発行〕〔菅原園 他（著）〕〔学建書院〕〔1980円〕

■ 参考書

〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1100円〕

■ 備考

欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。

質問については授業後か授業中に受け付ける。

教育課程論

(30218)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 幼児（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

倉品有佳

■ 授業の概要

この授業では、保育における教育課程（カリキュラム）の基礎的な知識（幼稚園教育要領の内容を含む）と、指導計画のあり方について実践的に学びます。講義だけではなく、グループワークや発表等の時間を取り入れ、受講生どうしで学び合うなかで、より良い教育課程のあり方について考えます。また、教育課程をめぐる現代的な課題を取り上げ、その解決方法についても考えるための知識や態度を養います。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・教育課程（カリキュラム）に関する基礎的な知識を理解する。	0.15	0.15	0.5		0.2	
・指導計画の作成方法を理解し、実際に作成できるようになる。						
・教育課程をめぐる現代的な課題を自分事として考えられるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 保育における教育課程の意義	教科書第1章をよく読む。
第2回 教育課程・全体的な計画の編成	教科書第2章をよく読む。
第3回 幼稚園・保育所における指導計画の実際	教科書第3章・第4章をよく読む。
第4回 指導計画の作成方法	教科書第5章をよく読む。
第5回 部分指導計画の作成	教科書第6章第7章などを参考にしながら、幼稚園や保育所における指導計画を作成する。
第6回 部分指導計画の発表	部分指導計画の発表の準備をする。
第7回 保育の評価とカリキュラム・マネジメント	教科書第8章をよく読む。
第8回 保育の教育課程の課題を考える。	事前に配布された課題をよく読み、それに対する自分の考えを持つ。
第9回 期末試験（レポートを含む）	授業の内容を復習する。

■ 履修上の注意

- ・授業の連絡等のためにGoogleクラスルームを使用します。
- ・授業時の小課題は、課題を課した授業の終了時でのみ受領します。そのため休まず出席するように努めてください。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業内の課題や発表（60%）、期末試験（40%）で成績評価をします。

■ 教科書

〔教育課程・保育の計画と評価―書いて学べる指導計画―〕〔岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正〕〔萌文書林〕〔2, 090円〕

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説 平成30年3月〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕
 〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔385円〕
 〔保育所保育指針解説 平成30年3月〕〔厚生労働省〕〔352円〕
 〔「10の姿」をこえる保育実践のために〕〔井上寿美・佐藤哲也・堀正嗣 編〕〔解放出版社〕〔1, 760円〕

■ 備考

- ・質問等については、授業終了時あるいは、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育の計画と評価

(30219)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 子専1年

授業形態 : 講義 学期 : 後期 必・選 : 選択 保育 (必)

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高橋 恵美

■ 授業の概要

子ども理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉えると共に、長期及び短期の指導計画を作成する意義を理解することができるよう概説する。また、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして、子どもの姿、年齢ごとのねらいと内容の書き方を説明し、様々な場面(登園、好きな遊び、給食、排泄等)に応じた保育者の援助・配慮の書き方を学べるようにする。さらに、実際に指導計画(部分案、日案)を作成し、実践的な視点から保育計画の理解を深めることができるようにする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 保育の計画及び評価について理解する。			0.4	0.2	0.2	0.2
・ 指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。						
・ 子ども理解に基づく保育の過程について、その全体構造を捉え、理解する。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	オリエンテーション・保育用語の小テスト	保育用語を習得する(表記の理解)
第2回	指導計画(教育課程・全体的な計画)の理解	保育用語を習得する(内容の理解)
第3回	長期・短期の指導計画の実際とその意義	長期・短期の指導計画について習得する
第4回	デイリープログラムについて	デイリープログラムを書き写す(課題)
第5回	指導計画の実際①:子どもの姿・ねらい・内容の書き方	指導案ワークシート①を見直し、書き方を理解する
第6回	指導計画の実際②:環境の構成の書き方(グループワーク)	指導案ワークシート②を見直し、書き方を理解する
第7回	指導計画の実際③:予想される子どもの姿を考える(グループワーク)	指導案ワークシート③を見直し、書き方を理解する
第8回	指導計画の実際④:保育者の援助・配慮について	指導案ワークシート④を見直し、書き方を理解する
第9回	指導計画の実際⑤:幼児(3・4・5歳児)の姿(登園・遊び)	指導案ワークシート⑤を見直し、書き方を理解する
第10回	指導計画の実際⑥:幼児(3・4・5歳児)の姿(集まり・給食)	指導案ワークシート⑥を見直し、書き方を理解する
第11回	指導計画の実際⑦:乳児(0・1・2歳児)の姿(登園・遊び)	指導案(部分)を作成する(課題)
第12回	指導計画の実際⑧:乳児(0・1・2歳児)の姿(授乳・食事)	指導案ワークシート⑧を見直し、書き方を理解する
第13回	指導計画の実際⑨:指導案(課題)の解説 幼児(3・4・5歳児)の姿の振り返り	指導案についての解説を基に正しい書き方を復習する
第14回	指導計画の実際⑩:乳児(0・1・2歳児)の姿(排泄・睡眠)	指導案(部分)を作成する(課題)
第15回	指導計画の実際⑪:降園 / 保育の実践と評価・ICTを活用した指導計画の実際	指導案(全日)を作成する(課題)

■ 履修上の注意

保育士資格取得の必修科目。自分で指導計画を立案できる力が身に付くことを目指すため、授業内容の理解度及び提出課題を重視する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点50% (レポート、小テスト、参加態度、グループワークでのリーダーシップ等)、 期末試験50% により総合的に評価する。
- ・ ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
- ・ 提出課題については、後日添削する。返却時にポイントの解説をする。

■ 教科書

[教育・保育課程・保育の計画と評価] [岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正] [萌文書林] [1, 900円]

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容総論

(30220)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高橋 恵美

■ 授業の概要

保育の全体構造と保育内容（5領域）について理解すると共に、子どもの主体性を尊重する保育、環境を通して行う保育、生活や遊びによる総合的な保育等、保育の基本を踏まえた保育内容の展開の仕方について、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして概説する。また、発達過程における子どもの姿や特徴（運動、知覚・認知、対人関係・言語、生活習慣等）をまとめ、それぞれの実態に即した具体的な保育の展開について、実際の遊びを通して理解を深められるようにしていく。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育（幼稚園・保育所・認定こども園）の全体的な構造を理解する。		0.1	0.4	0.2	0.2	0.1
・保育内容の基本的な考え方（5領域）について理解する。						
・子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開について理解する。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション・幼稚園教育要領と保育所保育指針及び保育内容の歴史の変遷	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の解説書にあらかじめ、目を通しておく。
第2回 各領域のねらい内容及び指導上の留意点と評価	各領域のねらい・内容を復習する
第3回 環境を通して行うことを基本とした幼児教育	環境を通して行う教育の理解を深める
第4回 遊びを通しての総合的な指導の意義と保育者の役割	教科書の該当頁を予習・復習する
第5回 「幼児期に育みたい資質・能力」についての考え方	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の解説書にあらかじめ、目を通しておく。
第6回 現代社会における保育の課題（少子化、子育て支援）	教科書の該当頁を予習・復習する
第7回 ICTを活用した保育の実践事例	配布資料①を読み復習する
第8回 0・1・2歳児の生活と保育内容	配布資料②を読み復習する
第9回 3歳児の生活と保育内容	配布資料③を読み復習する
第10回 4歳児の生活と保育内容	配布資料④を読み復習する
第11回 5歳児の生活と保育内容	配布資料⑤を読み復習する
第12回 「幼児期のおわりまでに育てほしい姿」についての考え方 スタートアップカリキュラムの理解・事例検討	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の解説書にあらかじめ、目を通しておく。 配布資料⑥を読み復習する
第13回 遊びを通して5領域を考える①：指導計画・ICTを活用した教材準備	模擬保育の準備を行う
第14回 遊びを通して5領域を考える②：実践（グループワーク・模擬保育）	グループワークの学びをまとめる
第15回 授業のまとめ	振り返りシートに模擬保育の学びをまとめる
第16回 期末試験・レポート	

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点60%（レポート、小テスト、グループワークの参加態度・リーダーシップ等）、期末試験40%により総合的に評価する。
- ・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
- ・提出課題は添削し、後日返却する。期末試験は、ポイント解説を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔ICT×保育を考える 保育内容総論〕〔島田由紀子・駒久美子・香曾我部琢〕〔建帛社〕〔2,090円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容（健康）

(30221)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

廣 瀬 団

■ 授業の概要

保育内容・領域「健康」のねらい・内容について、グループワークなどで考察することで理解を深めてもらい、保育内容・領域「健康」の視点を開くこと、また、ICTを活用した保育の映像などを用いてグループワーク（対話）を通して、保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて何を感じ、どうしようと考えているのかなどの体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育者が留意、配慮すべき事項を考察し理解することを目指す。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域「健康」のねらい及び内容を理解する。		0.1	0.4	0.2	0.2	0.1
・保育所保育指針に示された保育所の役割、3つの視点、領域「健康」のねらい及びを理解する。						
・保育内容・領域「健康」を視点にして、指導計画（案）の作成方法の概略を理解し、教材への理解を深める。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション、授業の枠組みの理解	本講義の内容・枠組み等を理解する。
第2回 保育における領域「健康」の概要	保育所保育指針等で領域「健康」が書かれている箇所を確認しておく、授業後整理しておく
第3回 子どもの健康づくりと生活リズム	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておく、授業後整理しておく
第4回 幼児期の健康に関する問題	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておく、授業後整理しておく
第5回 幼児期における適切なメディアとの関わり方	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておく、授業後整理しておく
第6回 子どもの発育・発達と生理的機能の発達	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておく、授業後整理しておく
第7回 体力・運動能力の獲得	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておく、授業後整理しておく
第8回 安全の指導（ハザードリスクについてICTを活用して視覚的に安全指導を考える）	事前に安全管理（リスクとハザード）について考え、授業後整理しておく
第9回 0～2歳児の身辺自立と生活習慣の形成とあそび（ICTを活用した具体例を示す資料や視覚教材などを使用し0～2歳児について知る）	事前に0～2歳児の基本的な生活習慣について考え、授業後整理しておく
第10回 3～5歳児の身辺自立と生活習慣の獲得とあそび（ICTを活用した具体例を示す資料や視覚教材などを使用し3～5歳児について知る）	事前に3～5歳児の基本的な生活習慣について考え、授業後整理しておく
第11回 運動あそびへの意欲づくりと保育者の役割	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておく、授業後整理しておく
第12回 食育	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておく、授業後整理しておく
第13回 模擬保育①（計画および指導案の作成）	各年齢の発育発達過程の特徴を整理しておく。どのような遊びがあるのか調べておく。
第14回 模擬保育②（実践）	事前に準備、打合せ、実践しておく。
第15回 模擬保育③（振り返り）	実践を振り返り、今後の課題を見つける。
第16回 期末試験	今までの授業内容を復習して試験に臨む

■ 履修上の注意

アクティブ・ラーニング（リアクションペーパー／グループワーク／模擬実践など）による授業展開を行います。積極的な参加・傾聴・受容・共感・非審判的態度でのぞんでください。・快適な学習環境を維持するよう受講生同士でマナーを遵守してください

。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（リアクションペーパー／グループワーク／模擬実践など）：40％ 期末試験：60％ 期末試験は終了後にフィードバックします。

■ 教科書

〔幼児と健康〕〔前橋明他〕〔大学教育出版〕〔2420円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

■ 備考

必修質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付けます。受講者の理解度により、授業内容の進行に変更があります。

保育内容（人間関係）

（ 30222 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

伊藤 利恵

■ 授業の概要

領域「人間関係」のねらいと内容について、乳幼児期の発達段階の特性を踏まえ、周囲の人たちへの関わり方から、子ども同士の集団の発達や仲間関係、それに伴う規範意識の発達などを学び、保育者の関わり方について概説していく。さらに、領域「人間関係」について異年齢の交流について捉えながら、小学校へ繋がる保育を考えていく。保育教材は、発達段階をとらえた活用方法を学び、情報機器の活用を考慮した指導法考え、指導計画を作成する。作成した指導計画に基づき模擬保育を実施し評価方法の実際を学ぶ。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 1) 領域「人間関係」のねらいと内容を理解した保育方法を理解する。	0.2	0.1	0.2	0.5		
・ 2) 乳幼児期の発達段階を踏まえた人との関わり方を理解する。						
・ 3) 乳幼児期の発達段階に即した保育方法を理解し、指導案を作成することができる。						
・ 4) ねらいや内容を理解し、情報機器や教材を活用した指導案を作成することができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 領域「人間関係」について、「人間関係」のねらいと内容を確認する	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第2回 社会的背景や現代の子どもをめぐる課題から「人間関係」をとらえる	事前：教科書の第1章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第3回 乳幼児期の発達段階と「人間関係」	事前：乳幼児の発達段階について確認。 教科書の第5章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第4回 乳幼児期の発達と「人間関係」：家庭生活における家族との関わり	事前：乳幼児の発達段階について確認。 教科書の第4章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第5回 乳幼児期の発達と「人間関係」：子どもと保育者との関係	事前：乳幼児の発達段階について確認。 教科書の第5章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第6回 1歳以上3歳未満児の保育における「人間関係」（年齢に応じた教材の活用法を学ぶ）	事前：教科書の第6章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第7回 3歳以上児の保育における「人間関係」（年齢に応じた教材の活用法を学ぶ）	事前：教科書の第7章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第8回 個と集団の発達：仲間との関係形成	事前：集団形成について確認。 教科書の第8章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第9回 乳幼児期の規範意識の発達	事前：規範意識の発達について確認。 教科書の第8章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第10回 子ども同士の葛藤と保育者の支援	事前：教科書の第11章に目を通してくる。

	事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第11回 異年齢の交流と「人間関係」	事前：教科書の第9章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第12回 領域「人間関係」を小学校の学びにつなげる	事前：教科書の第10章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第13回 特別な配慮を必要とする子どもへの支援と「人間関係」	事前：教科書の第14章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第14回 領域「人間関係」の指導計画を考える（情報機器を活用した指導計画作成を学ぶ）	事前：指導計画の作成について確認。 教科書の第12章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第15回 領域「人間関係」を模擬保育の実践とその評価方法を学び理解する（情報機器を活用した評価方法を学ぶ）	事前：模擬保育の準備 評価方法について確認。 教科書の第15章に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第16回 期末試験	

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。保育方法について具体的に学ぶため、事前学習をしっかりと行ったうえで授業に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み（70%）：各授業での取り組み（発言、聴く、協働）・振り返りシートの提出（30%）
指導計画の作成・提出（20%）
模擬授業の取り組み（20%）

期末試験（30%）

■ 教科書

〔資質・能力を育む 保育内容 領域 人間関係—こどもにとっての人間関係とは—〕〔齊藤崇編 著〕〔教育情報出版〕
〔2, 200円(税抜き)〕

■ 参考書

「幼稚園教育要領解説」〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

「保育所保育指針解説」〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

授業計画の順番は入れ替わる場合がある。

保育内容（環境）

(30223)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修 幼児（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高橋 恵美

■ 授業の概要

領域「環境」について、乳幼児の環境とのかかわりの実際について概説し、保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育者の援助の在り方について概説する。また、五感を使って体感することを重視し、秋の自然物を使って製作したり、バッタやコオロギ等の虫を捕まえて観察したりする経験から保育者に必要な感性を磨く機会を設ける。さらに、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして、具体的な環境構成の仕方を画像等で示すと共に、指導計画における環境構成の書き方や保育実践の展開の仕方について概説する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・領域「環境」のねらいと内容を理解する。		0.1	0.4	0.2	0.2	0.1
・乳幼児の環境とのかかわりと保育者の援助の在り方について理解する。						
・環境構成や保育実践の展開の仕方を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：保育内容「環境」とは	指針、要領解説書の領域「環境」の頁を読み予習をする
第2回 保育の基本と保育内容「環境」	指針、要領解説書の領域「環境」の頁を読み復習し理解を深める
第3回 領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(1) (秋の虫飼育・観察①) フィールドワーク・グループワーク	秋の虫について調べたことをまとめる
第4回 領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(2) (秋の虫飼育・観察②) ICTを活用した資料作成	情報機器を活用し、レポートを作成する
第5回 領域「環境」の内容を体感する：身近な物とのかかわり（お散歩 バッグ製作）	配布資料①を読み予習・復習をする
第6回 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(1)（ 散歩）フィールドワーク・グループワーク	配布資料②を読み予習・復習をする
第7回 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(2) ICT を活用した資料作成	配布資料③を読み予習・復習をする 情報機器を活用し、レポートを作成する
第8回 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(3)（ 自然物を使った製作・ディスカッション）	自然物を使った作品を準備する
第9回 環境構成について：魅力的な環境構成とは プレゼンテーション：テーマを決め調べたことを発表する	プレゼンテーションの準備をする
第10回 小学校との円滑な接続を考える	小学校科目との関連を整理する
第11回 指導計画の立案：予想される保育の展開	指導計画に予想される保育の展開を記入し、提出する。
第12回 指導計画の立案：環境構成の書き方	指導計画に環境構成を記入し、提出する
第13回 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(4)（ クリスマス製作）	スノードームを各自仕上げる
第14回 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(5)（ 伝統的な遊び）	冬の遊びについて調べたことをまとめる
第15回 領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(6) 模 擬保育（保育とSDGs）	環境構成のポイントを整理する
第16回 期末試験・レポート	

■ 履修上の注意

教職に関する専門教科の一つであり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点60%（レポート、リアクションペーパー、フィールドワークの参加態度、グループワークでのリーダーシップ等）、期末試験40% により総合的に評価する。
- ・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。

・提出課題・期末試験（レポート）は添削し、後日返却する。

■ 教科書

プリントを授業前に配布する。

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

天候等により、授業計画の順番を変更することがあります。

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容（言葉）

（ 30224 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修 幼児（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

佐藤 深雪

■ 授業の概要

幼稚園教諭養成課程及び、保育士養成課程の必修科目である。幼稚園・保育所・認定こども園での保育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。また、担当者の小学校教諭の経験を活かして、グループワークや発表を通して授業を行っていく。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。			0.2	0.4	0.2	0.2
・保育内容「言葉」の領域に関する理論（言葉の意義、発達など）を理解する。						
・領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法（絵本、紙芝居などの保育教材の扱い方）を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション 「授業の内容と進め方」「評価方法と試験」について説明する。 「言葉の意義」について理解する。 (担当 佐藤深雪)	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回 幼稚園教育要領・こども園教育保育教育要領の領域「言葉」における「ねらい」と「内容」について理解する。	教育要領を読み、授業内容の予習復習を行う。
第3回 保育所保育指針・こども園教育保育教育要領の領域「言葉」における「ねらい」と「内容」について理解する。 (担当 佐藤深雪)	保育指針を読み、授業内容の予習復習を行う。
第4回 乳幼児の言葉の発達について理解する①（3歳未満児） (担当 佐藤深雪)	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第5回 乳幼児の言葉の発達について理解する②（3歳以上児） (担当 佐藤深雪)	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第6回 乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助の在り方について考察する。グループディスカッションによるまとめ (担当 佐藤深雪)	グループディスカッションに向けて、授業で理解したことを事前にまとめておく。ディスカッション後の感想をまとめる。
第7回 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校との接続について理解する。 (担当 佐藤深雪)	要領・指針を読み、授業内容の予習復習を行う。
第8回 言葉に関する遊びや児童文化財と指導計画 言葉遊びを取り入れた保育計画の作成 (担当 佐藤深雪)	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。 言葉遊びを取り入れた保育計画を作成する。
第9回 言葉に関する遊びを取り入れた模擬保育と情報機器の活用 児童文化財を使ったグループワーク (担当 佐藤深雪)	模擬保育の準備をし、振り返りを行う。
第10回 児童文化財に関する教材研究と模擬保育①（紙芝居①） 紙芝居の成り立ちと扱い方 (担当 佐藤深雪)	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第11回 児童文化財に関する教材研究と模擬保育②（紙芝居②） 模擬保育「紙芝居」 (担当 佐藤深雪)	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第12回 児童文化財に関する教材研究と模擬保育③（絵本①） 絵本読み聞かせの方法と活動案の作成 (担当 佐藤深雪)	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。

第13回	児童文化財に関する教材研究と模擬保育④（絵本②） 絵本読み聞かせの模擬授業 （担当 佐藤深雪）	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第14回	保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮 （言葉の障がいや異文化理解） （担当 佐藤深雪）	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第15回	まとめと振り返り 泉図書館子ども図書室と連携し児童文化財の扱い方について学ぶ グループワーク （担当 佐藤深雪）	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。 授業感想を書く。
第16回	期末試験	これまでの配布プリントを読み、試験に向けての復習を行う。

■ 履修上の注意

授業の内容は、シラバスの授業計画と前後することがあります。

演習科目のため、実践的な活動（グループワークやディスカッション）に積極的に取り組むこと。

泉図書館子ども図書室主査による出前講座を連携授業として実施します。

復習・予習等に泉図書館子ども図書室の利用を推奨しています。各自で仙台市図書館の貸し出し利用カードを作成しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

模擬授業等への取り組みの状況（20%）、期末試験（50%）、及び提出課題（活動案・絵本リスト・授業レポート等）（30%）により総合的に評価します。提出課題等については授業中に、期末試験の結果は、後日紙面でフィードバックします。

■ 教科書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文科省〕〔フレーベル館〕〔286円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚労省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

授業前にプリント配布

■ 参考書

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

保育内容（表現Ⅰ）

(30225)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼児（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

武田 早苗

■ 授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携認定こども園教育・保育要領」に示された「感性と表現に関する領域『表現』」のねらい及び内容を理解するとともに、子どもの発達の過程における表現の特徴と理論を解説する。領域「表現（造形）」に関わる具体的な場面を想定し、保育者としての実践力を身に付けられるように指導する。この授業においては、小学校教諭並びに実務家教員としての経験を活かし、幼児教育・保育と小学校教育との接続をより密接なものにするためのアプローチについても指導していく。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> 各要領・指針に示された幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域「表現（造形表現）」に関わるねらい及び内容を理解する。 領域「表現（造形表現）」に関する理論を理解する。 領域「表現（造形表現）」に関わる教育・保育を具体的に構想する力を身に付ける。 領域「表現（造形表現）」に関わる具体的な指導方法を理解し、教育・保育を実践する力を身に付ける。 			0.4	0.2	0.2	0.2

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	・オリエンテーション(シラバスに基づく授業の概要と留意点) ・子どもの表現を支える基本的な知識・技能① (「遊び」から生まれる造形表現)	造形活動を通して得た気づきや理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第2回	・子どもの表現を支える基本的な知識・技能② (用具の特性を生かした造形表現)	造形活動を通して得た気づきや理解したことを、ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第3回	・子どもの表現を支える基本的な知識・技能③ (用具の特性を生かした造形表現)	造形活動を実践する上で大切にしたいことについて理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第4回	・領域「表現(造形)」のねらいと内容① (子どもの発達と造形表現/3歳未満児の表現のプロセスと特徴)	子どもの発達と造形表現の特徴及び領域「表現(造形)」について理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第5回	・領域「表現(造形)」のねらいと内容② (子どもの発達と造形表現/3歳以上児の表現のプロセスと特徴)	子どもの発達と造形表現の特徴及び領域「表現(造形)」について理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第6回	・造形活動の計画と実践(教材研究)	調べる、試作するなどの教材研究を通して得た気づきや理解したことをレポートにまとめ、提出する。
第7回	・造形活動の計画と実践(情報機器を活用した指導案作成)	調べる、試作するなどの教材研究を通して得た気づきや理解したことをレポートにまとめ、提出する。
第8回	・造形活動の計画と実践(発表とグループディスカッション)	作成した指導案について発表し合う活動を通して得た気づきや理解したことをレポートにまとめ、提出する。
第9回	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に示された「豊かな感性と表現」と小学校教育とのつながり	幼児教育・保育と小学校教育との接続の重要性について理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第10回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育① (実演から学ぶパネルシアターの魅力/製作計画作成)	実演から感じ取ったパネルシアターの魅力や製作過程などの計画を製作カードに記入し、提出する。
第11回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育② (パネルシアター製作)	活動を振り返り、製作カードに感じたことや改善点、次時の予定などについて記入し、提出する。
第12回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育③ (パネルシアター製作)	活動を振り返り、製作カードに感じたことや改善点、次時の予定などについて記入し、提出する。
第13回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育④	活動を振り返り、製作カードに感じたことや改善

	(パネルシアター製作)	点、次時の予定などについて記入し、提出する。
第14回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育⑤ (パネルシアター実践練習)	パネルシアターの演じ方について気付きや改善点などを製作カードに記入し、提出する。
第15回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育⑥ (パネルシアター実践練習)	パネルシアターの演じ方について気付きや改善点などを製作カードに記入し、提出する。
第16回	・期末試験：パネルシアター発表と鑑賞	発表後の気付きや感想、また学修全体を振り返って今後の実践に活かしたいことなどをレポートにまとめ、提出する。

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭二種免許取得のための必修科目です。授業の取り組みを重視します。準備物については、その都度連絡します。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度（取り組みの意欲，ミニットペーパー，製作カード等の記述内容等）60%，模擬保育の実践や製作物，レポート及び期末試験（パネルシアター実践発表）40%を総合的に判断し評価します。ルーブリック評価については1回目の授業で説明します。提出課題については授業期間中に，期末試験については終了後にフィードバックします。

■ 教科書

授業時に必要なプリントを配付します。

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

都合により授業計画を変更する場合があります。質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付けます。

保育内容（表現Ⅱ）

(30226)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼児（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

田宮 希砂 高橋 恵美

■ 授業の概要

領域「表現」のねらい及び内容について概説し、子どもにとって表現とは個性の発露、個性の活動といえるものであるという視点から、領域「表現」の捉え方を確認する。子どもの表現を育むため保育者としての感性を豊かにしながら、専門的な知識・技術を身につけることをめざす。さらに、実務家教員である担当者が幼稚園教諭としての経験を生かして、具体的な乳幼児の表現活動について事例を用いて説明し、指導計画における「ねらい」の立て方や保育実践の展開の仕方について概説する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・領域「表現」のねらいと内容を理解する。						
・乳幼児の表現活動と保育者の援助の在り方について理解する。						
・保育表現技術の習得をとおして、自身の感性を高める			0.4	0.2	0.2	0.2

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：領域「表現」について（田宮・高橋）	指針、要領解説書の領域「表現」の頁に目を通しておく
第2回 領域「表現」と各領域の関連について（田宮）	指針、要領解説書の領域「表現」の頁及び他領域頁を読み復習する
第3回 子どもの表現と保育者の役割（田宮）	配布資料①を読み予習・復習をする
第4回 手遊びの・子どもの歌の歴史の変遷と意義（田宮）	配布資料②を読み予習・復習をする
第5回 手遊び・伝承遊びの実践①（0・1・2歳児）（田宮）	乳児が楽しめる伝承遊びを考える 手遊びを覚える
第6回 手遊び・伝承遊びの実践②（3・4・5歳児）（田宮）	幼児が楽しめる伝承遊びを考える 手遊びを覚え、発表に向けて準備をする
第7回 情報機器を活用した表現遊び（田宮）	授業内容を総復習し理解を深める
第8回 身近な素材で奏でる表現遊び（田宮）	音が出る身近な素材を考え、準備物を用意する配布資料を読み予習・復習をする
第9回 リトミック・身体を用いた音楽表現（田宮）	授業内容を復習し「乳幼児における表現」の理解を深める
第10回 劇活動：グループワーク①絵本の場面・登場人物を想像する（田宮）	劇発表にむけて準備をする ノートを見直し、復習する
第11回 劇活動：グループワーク②台本を作成し、役割を分担する（田宮）	お話を理解し、台本の作成など、劇発表に向けて準備をする
第12回 劇活動：グループワーク③必要な小道具や楽器等を準備する（田宮）	劇発表に向けてに必要な小道具や楽器等を準備し練習する
第13回 劇活動：発表（田宮・高橋）	実践したことから、領域「表現」の理解を深める
第14回 指導計画の立案①：表現活動の「ねらい」「内容」を立案する（田宮）	指導計画立案について、ポイントを整理し、「ねらい」「内容」について復習する
第15回 指導計画の立案①：表現活動における保育者の援助・配慮を考える（田宮）	指導計画立案について、ポイントを整理し、「援助・配慮」について復習する
第16回 期末試験（レポート）	授業内容を総復習し理解を深める

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点60%（レポート、小テスト、グループワークの参加態度・リーダーシップ等）、期末試験（レポート）40%により総合的に評価する。
- ・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
- ・提出課題・期末試験（レポート）は添削し、後日返却する。

■ 教科書

適宜プリントを授業前に配布する。

■ 参考書

〔保育所保育指針解〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

子どもと健康

(30227)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修 幼児（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

廣 瀬 団

■ 授業の概要

幼稚園教育要領に示された保育内容・領域「健康」、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された3つの視点及び保育内容・領域「健康」の「ねらい」及び「内容」について、領域に関する専門的事項に関する知識を背景にしながら、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学び（遊び）が実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法をグループワークや模擬保育を通して身に付けることを目指します。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域「健康」のねらい及び内容を理解する。		0.1	0.1	0.2	0.4	0.2
・乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。						
・乳幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション、授業の枠組みの理解	本講義の内容・枠組み等を理解する。
第2回 領域「健康」のめざすもの	保育内容（健康）の授業内容を予習復習しておく。
第3回 近年の子どもの異変とその対策	事前に子どもの異変について考えておく。
第4回 幼児期の睡眠、食事、運動	子どもの生活リズムの現状と問題点について調べておくこと。
第5回 基本的な生活習慣の確立	幼児期の基本的な生活とは何か調べておくこと
第6回 子どもの心と身体機能の発達	事前に子どもと大人の身体の違いについて調べておくこと。
第7回 子どもの生活とあそび	事前に子どものあそびについて調べておくこと。
第8回 園生活におけるあそびと安全管理	事前に園で起きうる怪我や事故について調べておくこと。
第9回 小学校の教科等とのつながり（「幼児の終わりまでに育って欲しい姿」「教科：体育（運動遊び、レクリエーション）」	事前に小学校が入学前に求めていることは何か調べておくこと
第10回 子どものあそび環境と指導計画（指導案の作成）	子どもが遊ぶ環境について考えておくこと
第11回 期末試験（レポート試験）	今までの授業内容を復習して試験に臨む

■ 履修上の注意

アクティブ・ラーニング（リアクションペーパー／グループワーク／模擬実践など）による授業展開を行います。積極的な参加・傾聴・受容・共感・非審判的態度でのぞんでください。・快適な学習環境を維持するよう受講生同士でマナーを遵守してください。

■ 成績評価方法・基準

指導案の提出：25%、レポートの提出 25%、期末試験：50% 期末試験は終了後にフィードバックします。

■ 教科書

〔幼児体育－理論と実践－第6版〕〔日本幼児体育学会編〕〔大学教育出版〕〔2750円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付けます。受講者の理解度により、授業内容の進行に変更があります。

子どもと人間関係

(30228)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

伊 藤 利 恵

■ 授業の概要

子どもを取り巻く社会的状況が子どもの人間関係にも影響を与えていることを理解したうえで、人とのかかわりの課題について概説する。人とのかかわりの多様性を考慮した保育場面を想定し、保育者としての関わりや支援の在り方を学ぶ。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 1) 子どもを取り巻く社会的背景が人間関係に与える影響を理解する。	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2
・ 2) 現代の子どもをめぐる課題から「人間関係」を考える。						
・ 3) 仲間意識や異年齢交流から他者との関り方を理解する。						
・ 4) 特別な配慮が必要な子どもへの働きかけについて理解する。						
・ 5) 多文化保育から「人間関係」を考える。						
・ 6) 保護者への働きかけについて考える。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 社会的背景や現代の子どもをめぐる課題から「人間関係」を考える	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第2回 発達段階に応じた人間関係：子どもと養育者とのかかわり	事前：乳幼児の発達段階について確認。 教科書の該当頁に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第3回 発達段階に応じた人間関係：子どもと保育者との関り	事前：乳幼児の発達段階について確認。 教科書の該当頁に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第4回 異年齢との交流と他者理解	事前：乳幼児の発達段階について確認。 教科書の該当頁に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第5回 個と集団の発達：仲間との関係形成	事前：集団形成について確認。 教科書の該当頁に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第6回 規範意識の発達と仲間との葛藤	事前：規範意識の発達について確認。 教科書の該当頁に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第7回 保護者への働きかけ：保護者と保育者の関係	事前：教科書の該当頁に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第8回 多文化保育と人間関係	事前：多文化保育について確認。 教科書の該当頁に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第9回 多文化保育と保護者への働きかけ	事前：教科書の該当頁に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第10回 特別な配慮が必要な子どもの理解と保育場面における人間関係	事前：教科書の該当頁に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入。 授業内容の復習。
第11回 領域「人間関係」についてグループディスカッション、まとめ	事前：教科書とノートに目を通してくる。

事後：振り返りシートの記入。
授業内容の復習。

第12回 期末試験

■ 履修上の注意

演習授業であるため、グループディスカッション等アクティブラーニングによる授業形態である。
そのため、基礎知識をもって授業に参加する必要があることから、事前学習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

学生に対する評価

授業への取り組み（70%）：各授業での取り組み（グループディスカッション等アクティブラーニング）（50%）
振り返りシートの提出（20%）

期末試験（30%）

■ 教科書

〔資質・能力を育む 保育内容 領域 人間関係—こどもにとっての人間関係とは—〕〔齊藤崇編 著〕〔教育情報出版〕
〔2, 200円(税抜き)〕

■ 参考書

〔幼稚園教育要領開設〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

授業計画の順番は入れ替わる場合がある。

子どもと環境

(30229)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼児（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

小森谷 一 朗

■ 授業の概要

関係法令等に基づいて、子どもを取り巻く環境や現代的課題、幼児期の認知的発達について学ぶ。また、実際の保育映像、写真、ドキュメンテーション等などを活用し、子どもにとって身近な環境と関わりを通じた発達について学ぶとともに、子どもの遊びを体験することで学びを深める。最後にこれまでの学びと小学校教育とのつながりについて考える。担当教員は、公立小学校で16年、国立幼稚園で6年教諭として業務に従事した実務経験をもつ。教諭としての実務経験を生かして、保育方法の学習について具体的な事例を挙げながら授業を行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子どもを取り巻く環境と、子どもの発達についての意義を理解する。			0.2	0.2	0.2	0.4
・子どもの身近な数量・図形、生物・自然との関わりを通じた子どもの発達について理解する。						
・子どもの身近な標識・文字等、情報・施設との関わりを通じた子どもの発達について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 幼児教育の基本と領域「環境」	事前：シラバスを熟読する。 事後：幼児教育の基本と領域「環境」についての内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第2回 子どもにとっての環境と現代的課題	事前：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 事後：子どもにとっての環境やSDG's等の内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第3回 幼児期の認知的発達	事前：事前に指示した内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 事後：幼児期の認知的発達についての内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第4回 領域「環境」の内容 身近な自然との関わり①	事前：三要領・指針の領域「環境」自然に関わる内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 事後：子どもにとっての身近な自然との関わりについて振り返り、要点や疑問点をまとめる。
第5回 領域「環境」の内容 身近な自然との関わり②	事前：三要領・指針の領域「環境」自然に関わる内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 事後：今後の栽培計画について見直し、要点や疑問点をまとめる。
第6回 領域「環境」の内容 身近な素材との関わり①	事前：三要領・指針の領域「環境」身近な素材に関わる内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 事後：今後の制作計画について見直し、要点や疑問点をまとめる。
第7回 領域「環境」の内容 身近な素材との関わり②	事前：三要領・指針の領域「環境」身近な素材に関わる内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 事後：子どもの身近な素材との関わりについて振り返り、要点や疑問点をまとめる。
第8回 領域「環境」の内容 標識・文字等との関わり	事前：事前：三要領・指針の領域「環境」標識・文字等に関わる内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。 事後：子どもの標識・文字等との関わりについて振り返り、要点や疑問点をまとめる。

第9回 領域「環境」の内容 情報や施設との関わり

事前：事前：三要領・指針の領域「環境」情報や施設に関わる内容や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。

事後：子どもの情報や施設との関わりについて振り返り、要点や疑問点をまとめる。

第10回 領域「環境」と小学校教育とのつながり

事前：事前：三要領・指針の総則や講義資料の一部を熟読し、課題意識をもつ。

事後：小学校教育とのつながりについての内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。

第11回 期末試験（レポート）

事前：これまでの学修内容を見直す。

事後：返却されたレポートを見直す。

■ 履修上の注意

授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。グループワークの取組が多くなるため、学生の主体的な取組に期待する。

【事前学習（予習）】

事前に指示した内容、事前配布資料などを読み、分からない言葉は調べておくこと。また、指導計画に関連する内容については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。

【事後学習（復習）】

毎回の学習内容を振り返りを行い、要点や疑問点、課題などについてまとめておくこと。

レポートやワーク等のフィードバックについては確認・評価後に返却し、必要に応じて授業の中で解答・解説する。

提出物は期限厳守とする。

■ 成績評価方法・基準

授業への取組の状況：RP（リアクションペーパー）（40%）、課題（30%）、期末試験（レポート）（30%）、授業参加度（10%）で総合的に評価する。

■ 教科書

〔幼稚園教育要領〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕

〔保育所保育指針〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔フレーベル館〕

〔根付く・伸びる・発展するこどもの遊び〕〔飯島典子・佐藤哲也編〕〔建帛社〕

また、授業の中で適宜資料を配付する。

■ 参考書

■ 備考

学生の理解度によってシラバスを一部、変更する可能性がある。

子どもと言葉

(30230)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

佐藤 深雪

■ 授業の概要

幼稚園教諭養成課程（領域及び保育内容の指導法に関する科目）及び保育士養成課程（「保育の内容・方法に関する科目」）の必修科目である。「保育内容（言葉）」で学習した内容をもとに、教育・保育実習と関連させながら、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かして、絵本や紙芝居などの教材研究を中心にグループワークや発表を通して授業を行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・教育要領・保育指針等に示された保育の基本を踏まえ、領域「言葉」に関する保育教材の扱い方などを理解する。			0.2	0.4	0.2	0.2
・保育内容「言葉」の領域に関する具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。						
・領域「言葉」に関して子供が経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション・領域「言葉」の確認 当該科目の授業内容・計画・評価の方法について説明 (担当 佐藤深雪)	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回 言葉の指導と教材研究：「春の課題」発表 (担当 佐藤深雪)	「春の課題」を作成する。
第3回 言葉の指導と教材研究：事例に学ぶ養育者の関わりと言葉 「素話」について調べ、発表の準備をする (担当 佐藤深雪)	事前配布プリントを読み、下調べ準備をする。
第4回 「素話」の発表を行う 言葉の指導と教材研究：「課題絵本」の読み聞かせ活動案の作成 (担当 佐藤深雪)	読み聞かせ部分実習活動案を作成する。
第5回 言葉の指導と教材研究：「課題絵本」の読み聞かせ模擬保育を行う (担当 佐藤深雪)	模擬保育の振り返りを行う。
第6回 子どもを取り巻く環境と言葉（保育所実習Ⅰ振り返り） グループディスカッション (担当 佐藤深雪)	グループディスカッションを振り返り感想をまとめる。
第7回 言葉の指導と教材研究：「絵本読み聞かせの記録」を作成 (担当 佐藤深雪)	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第8回 言葉の指導と教材研究：「創作素話」の準備・作成 (担当 佐藤深雪)	創作素話を考え作成する。発表の練習をする
第9回 言葉の指導と教材研究：「創作素話」の模擬授業を行う (担当 佐藤深雪)	模擬授業の振り返りを行う
第10回 期末試験（レポート）	期末試験の評価をもとに振り返りを行う。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。

演習科目のため、実践的な活動（模擬保育・スピーチ・グループワークやディスカッション）に対して積極的に取り組むこと。

授業計画は前後することがあります。

■ 成績評価方法・基準

提出課題等については、授業の中でフィードバックします。試験（20点）実技及び活動案等の提出課題（80点）

■ 教科書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文科省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚労省〕／授業前にプリント配布

■ 参考書

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕

〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2, 200円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子どもと音楽表現

(30231)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼児（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大友 詠里子

■ 授業の概要

領域「表現」のねらいと内容について理解を深め、子どもの音楽表現活動について実践を通して具体的に学ぶことを目的とし、授業を進める。音楽活動の指導計画を立て、展開する方法や、子どもの年齢や発達に適した活動、教材選び等について解説する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子どもの発達と音楽表現の特徴を理解する。			0.4	0.2	0.2	0.2
・子どもの音楽表現を支援する方法を理解する。						
・様々な音楽表現活動の指導法を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス・音楽活動と領域「表現」・音楽理論の復習①	領域「表現」のねらいと内容を復習する。 乳幼児の音楽的発達について復習する。
第2回 歌う活動①歌唱指導法	歌唱指導法を復習し、ピアノ伴奏と共に実践する。
第3回 歌う活動②歌唱指導における導入	歌唱活動の導入について考え、模擬保育の準備を行う。
第4回 歌う活動③指導案の作成・模擬保育の実践	歌唱活動の指導案を作成し、活動のねらい・環境構成・保育者の配慮等について考える。
第5回 歌う活動④模擬保育の実践	模擬保育を振り返り、問題点を明らかにする。指導案を推敲する。
第6回 歌う活動⑤選曲	子どもの発達と様々な曲の特徴について復習する。
第7回 歌う活動⑥選曲（グループワークの振り返り）	グループワークを振り返り、選曲について復習する。
第8回 弾く活動①リズム楽器	リズム楽器の特徴・使用法・活動への取り入れ方を復習する。
第9回 弾く活動②有音程楽器	有音程楽器の特徴・使用法・活動への取り入れ方を復習する。
第10回 聴く活動	音を「聴く」ことの大切さや子どもの発達への影響について考える。
第11回 動く活動①様々な音楽教育（オルフ、ダルクローズ）	様々な子どもの音楽活動について復習する。
第12回 動く活動②リトミックの実践	「動く活動」と子どもの発達について考える。
第13回 動く活動③リトミックの伴奏	様々な「音」、「リズム」について考える。伴奏を復習する。
第14回 音楽理論の復習②記譜	楽譜を書く。
第15回 まとめ	本授業を振り返り、内容を整理する。
第16回 期末試験	授業全体を復習し、子どもの音楽表現について理解を深める。

■ 履修上の注意

常に保育現場や子どもたちと行う活動をイメージし、積極的に授業へ取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準

期末試験40% 受講態度60%

（授業への積極性・表現活動の実践や課題への取り組み方を重視する。課題は添削して後日返却する。）

■ 教科書

〔保育者養成のための音楽表現〕〔八木正一〕〔大学図書出版〕〔2, 200円〕

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1, 980円〕

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔〔内閣府・文科省・厚労省〕〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問は授業内・授業終了後に受け付ける。

子どもと造形表現

(30232)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科: 子専2年

授業形態: 演習 学期: 後期 必・選: 必修 幼児(必)・保育(必)

生活文化学科 子ども生活専攻科目

武 田 早 苗

■ 授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携認定子ども園教育・保育要領」に示された「感性と表現に関する領域『表現』」について、講義と造形活動を通して実践的に解説する。遊びから様々な表現につながっていく幼児の表現の特徴について理解し、実践的なグループワークや模擬保育などを行い、造形活動体験を増やすとともに、活動の振り返りを重視し、子どもの造形表現に対する理解を深め、保育者としての実践力を高める。この授業においては、小学校教諭並びに実務家教員の経験を活かして幅広い視点から子どもの造形表現について指導していく。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・領域「表現(造形)」のねらい・内容を把握し、子どもの表現の特徴について理解を深める。			0.4	0.2	0.2	0.2
・教育・保育現場において必要とされる確かな知識・技能を身に付けるとともに、子どもの感性や創造力を豊かに育むための造形活動の展開について理解する。						
・子どもの表現意欲を引き出す環境構成の在り方や、安全・安心して活動するための配慮などについて実践を通して理解する。						
・子どもの表現を豊かにする適切な指導・支援・援助について、実践の省察と改善を行い、保育者としての資質と実践力の向上を目指す。						

■ 授業計画

自習(事前・事後学修の内容)

第1回	・オリエンテーション(シラバスに基づく授業の概要と留意点) ・未分化な幼児の表現の特徴と造形活動の展開	幼児の表現の特徴及び造形活動の展開について授業を通して理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第2回	・制作活動の実際(実習前指導案検討)	実践事例から造形表現の可能性について探り、ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第3回	・遊びから広がる造形表現の理解と実践①	遊びから広がる造形表現の可能性について探り、ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第4回	・遊びから広がる造形表現の理解と実践②(グループワーク)	遊びから広がる造形表現の可能性についてグループで発表し、そこから得た知見や感想をミニットペーパーにまとめ、提出する。
第5回	・感覚遊びを取り入れた粘土工作	小麦粉粘土をつくる過程で得た感覚的な面白さや、作品作りの楽しさなどをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第6回	・描画・版画による造形表現の理解と実践	描画・版画による造形表現の良さや楽しさ、活動を展開する上での留意点など、授業を通して理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第7回	・立体による造形表現の理解と実践①	立体による造形表現の良さや楽しさ、活動を展開する上での留意点など、授業を通して理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第8回	・立体による造形表現の理解と実践②(鑑賞活動と振り返り)	立体による造形表現の良さや楽しさ、活動を展開する上での留意点など、授業を通して理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第9回	・身近な素材による造形表現の理解と実践①	身近にある素材の特徴を活かして表現する楽しさや、活動を展開する上での留意点など、授業を通して理解したことを、ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第10回	・身近な素材による造形表現の理解と実践②	身近にある素材の特徴を活かして表現する楽しさや、活動を展開する上での留意点など、授業を通して理解したことを、ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第11回	・身近な素材による造形表現の理解と実践③	身近にある素材の特徴を活かして表現する楽しさ

第12回 ・身近な素材による造形表現の理解と実践④

(鑑賞活動と振り返り)

や、活動を展開する上での留意点など、授業を通して理解したことを、ミニットペーパーにまとめ、提出する。

身近にある素材の特徴を活かして表現する楽しさや、活動を展開する上での留意点など、互いの作品や演出を鑑賞して理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭二種免許取得のための必修科目です。授業の取り組み状況を重視します。保育現場での実践をイメージして主体的に取り組むこと。準備物については、その都度連絡します。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度（取り組みに対する意欲、ミニットペーパー、制作カード等の記述内容等）60%、製作物やレポート及び期末試験（模擬保育の実践）40%を総合的に判断し評価します。ルーブリック評価については1回目の授業で説明します。提出課題などについては添削後授業期間中に、期末試験については終了後にフィードバックします。

■ 教科書

授業前に必要なプリントを配付します。

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

都合により授業計画を変更する場合があります。質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付けます。

教育・保育方法論

(30233)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高橋 恵美 松尾 広

■ 授業の概要

前半は幼児教育・保育の方法に関する基礎的な理論や概念、視点を確認し、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質能力を育成するために必要な教育の方法を幼稚園教諭・保育士の経験を活かして具体的事例から解説する。また、授業課題やグループディスカッション・発表を通して、教育・保育方法に対して知見を広げられるようにする。後半は教育をコミュニケーションによる学習活動としてとらえ、視聴覚的なコミュニケーションの意義、視聴覚教材・機器の特徴について解説し、視聴覚教材の制作を通して理解を深めるようにする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・教育・保育方法の基礎的な理論と実践を理解する。	0.1		0.5	0.2		0.2
・教育・保育方法のための指導技術を理解し、身に付ける。						
・視聴覚的なコミュニケーションの意義と視聴覚機器の特徴を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 教育・保育方法とは何か [高橋]	シラバスから授業の概要を確認する
第2回 保育・教育の基本と保育方法：環境を通して行う教育 [高橋]	保育・教育の基本をプリントで復習する
第3回 現代的課題から教育の方法を考える [高橋]	保育の現代的課題を調べる
第4回 教育方法の基礎①：一人一人に応じた指導 [高橋]	配布資料を読み復習する
第5回 教育方法の基礎②：幼児の主体性 [高橋]	レポート課題を提出する
第6回 保育実践に求められる保育技術①児童文化財 [高橋]	児童文化財について調べる
第7回 保育実践に求められる保育技術②話法 [高橋]	言葉かけを復習する
第8回 保育実践に求められる保育技術③表現方法 [高橋]	表現方法を復習する
第9回 保育実践に求められる保育技術④保育環境の構成 [高橋]	レポート課題を提出する
第10回 保育指導案の作成①ねらい・内容 [高橋]	指導案の準備：ねらい・内容を考える
第11回 保育指導案の作成②子どもの姿を予想した保育展開 [高橋]	指導案の準備：子ども姿を予想する
第12回 模擬保育 [高橋]	プレゼンテーションの準備
第13回 子ども理解と保育の評価 [高橋]	模擬保育の振り返りをまとめる
第14回 ICT機器の活用 [松尾]	事例に触れ、資料を読んで確認する
第15回 視聴覚教材の制作 [松尾]	課題を制作し、提出する
第16回 期末試験（レポートによる）	期末試験（レポート課題）のテーマについて、15回分の授業内容を踏まえ熟考し提出する

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出等）を重視します。

グループワークなどによる他の受講者との協働作業では、協力的・協調的態도를重視します。

■ 成績評価方法・基準

・平常点60%（レポート、グループワークの参加態度・リーダーシップ等）、期末試験40% により総合的に評価する。

・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。

提出課題等については、随時フィードバックします。

期末試験（レポート課題）については、後日フィードバックします。

■ 教科書

教科書は使用しません。各授業で適宜、授業資料・課題を配布します。

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚生省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

保育内容の指導法

(30234)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 幼児（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高橋 恵美

■ 授業の概要

幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。幼稚園教育要領に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」等の方法的特質と、5領域のねらい及び内容の関連について実践的に学び、指導計画を作成する力を身につけられるようにする。また、幼稚園教諭、保育士としての経験に基づいた様々な生活や遊びの場面（エピソード）から、可能な保育方法をグループで話し合い、共有することで、保育を展開していくための知識と技術の引き出しを増やせるようにしていく。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 幼児期の発達を踏まえ、幼稚園教育の方法的特質を理解する。		0.1	0.4	0.2	0.2	0.2
・ 様々な保育場面（エピソード）から、保育方法を考え、理解する。						
・ 幼稚園教育の指導計画の作成の仕方を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 幼稚園教育の基本・保育内容の指導法について	幼稚園教育要領の内容を復習しておく
第2回 エピソード①：園庭で見つけたダンゴムシ	エピソード①の保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する
第3回 エピソード②：トラブルの場面（ロールプレイ）	エピソード②の保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する
第4回 エピソード③：片付け エピソード④：給食	エピソード③の保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する
第5回 環境を通して行う教育・ICTを活用した保育内容の構想	既習の授業内容（保育内容等）を確認する
第6回 遊びを通しての指導 指導計画の立案	既習の授業内容（保育内容等）を確認する 指導計画立案について、ポイントを整理し、復習する ノートを見直し、復習する
第7回 家庭・地域・小学校との連携のあり方	配布資料を読み復習する
第8回 保育内容5領域に関する総合的な保育活動（グループワーク）	ノートを見直し復習する
第9回 期末試験	

■ 履修上の注意

幼稚園教諭免許取得のための必修科目であるため、積極的に授業に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点60%（レポート、リアクションペーパー、参加態度・グループワークでのリーダーシップ等）、期末試験40% により総合的に評価する。
- ・ 提出課題は添削し、後日返却する。
- ・ 期末試験は、試験終了後に解説をする。

■ 教科書

授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育の実技と演習

(30235)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高橋 恵美

■ 授業の概要

授業の概要

①保育実習や保育実践に備えるために、テーマに沿って作成した指導計画をもとに模擬保育(手あそびを含め、エプロンシアター等の手作り教材を用いた保育実践)を行い、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして具体的な実践方法を伝える。②牛乳パックや新聞紙等、身近な素材を使って、実習で活用できる教材の製作方法を学び、実践する機会を設ける。③仲間との協力を学ぶために「ペープサート」を取り入れ、互いに協力しながら「題材選び、台本作り、製作、練習、実演(発表)」の一連の活動を経験できるようにする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・指導計画の作成について具体的に理解する。			0.2	0.4	0.2	0.2
・指導計画に沿った模擬保育やグループ活動により、保育者として必要な知識、技能を習得する。保育実践力を身につける。						
・既習の教科の内容やその関連を踏まえ、総合的な保育実践力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション・集団あそび	ジャンケンを用いたゲームを考える 手遊びを一人2つ考える
第2回 手遊びの実践・集団遊びの実践 ：情報機器の活用（手遊び集作成）	エプロンシアター実演の準備をする
第3回 児童文化財(エプロンシアター)を用いての実演①	エプロンシアター実演を振り返り課題を明確にする
第4回 児童文化財(エプロンシアター)を用いての実演② 模擬保育に向けて保育指導計画(部分案)の作成・検討	模擬保育のための保育内容を構想する
第5回 模擬保育①/指導計画のポイント	模擬保育のための指導案を作成する
第6回 模擬保育②/模擬保育（応答的な保育の実践）	模擬授業の評価をする
第7回 スケッチブックシアター作成・実演	作成した教材を活用できるようにする
第8回 予想される子どもの姿を考える・ディスカッション	予想される子どもの姿を各自まとめる
第9回 ペープサートを用いての実演・グループワーク①	ペープサート実演の準備をする
第10回 ペープサートを用いての実演・グループワーク②	学習内容をまとめる
第11回 期末試験	授業内容を総復習し実技の向上に努める

■ 履修上の注意

保育の技術や実践力を身につけるために積極的に授業に臨むこと。

書籍、インターネット等を利用して絶えず教材研究を重ねること。

■ 成績評価方法・基準

・平常点70%（授業への積極的参加・グループワークでのリーダーシップ等、レポートや製作物）、期末試験30% により総合的に評価する。

・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。

・指導案等の提出課題は添削して返却する。

■ 教科書

〔遊びが広がる 保育内容のアイデア〕〔西海聡子〕〔萌文書林〕〔1, 800円〕

〔新版遊びの指導〕〔幼少年教育研究所〕〔同文書院〕〔3, 200円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

児童文化

(30236)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科 : 子専1年

授業形態 : 演習 学期 : 後期 必・選 : 選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

門 脇 梢 高 橋 恵 美

■ 授業の概要

児童文化の世界を体感しながら実践的に学びを深める。柔らかな素材を使った児童文化財の魅力を知り、自ら作成してできるよう裁縫と手芸の技術を学ぶ。幼児の発達を踏まえ、各自が題材を選定、幼児の興味を引き出す仕掛けを取り入れた「エプロンシアター」を製作する。また、自分で作った作品を使い発表することで、2年生での実践に備える。担当者は保育士・幼稚園教諭の経験を生かし、題材選定や仕掛け、楽曲の取り入れ方、発表の方法について個別に相談に応じる等きめ細やかな授業を行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> 様々な児童文化財に触れ、魅力を知り、それぞれの文化財の効果的な表現方法を学ぶ。 布地を用いた制作過程を体験し、素材や用途に適した手法を理解する。(個人で難しい作業の際、学生同士でアイデアを出し合ったり、協力しあえるようにする。) 幼児の発達過程や興味関心に考慮した製作、及び発表をする。(学生同士、発表に向けた練習を見せ合うことでより良い発表の方法に気づく場とする。また、友達の発表を見ることで自分の発表を振り返る機会とする。) 					0.5	0.3 0.2

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	オリエンテーション 児童文化、児童文化財とは (門脇・高橋)	配布資料を読み授業の概要・評価基準を理解する。 児童文化について調べる。
第2回	児童文化としての表現材料について (門脇・高橋)	児童文化財を活用した表現遊びを考える。
第3回	わらべうた・ふれあい遊び (門脇)	わらべうたを復習する。
第4回	人形劇①：人形、ぬいぐるみを使って遊ぶ (門脇)	授業で使う人形を準備する。台本製作。
第5回	人形遊び②：オリジナル人形劇 グループワーク (門脇)	台本を事前に読み予習する。劇の改善点を考える。
第6回	指人形：担当者作成の題材の提示、選定。 基礎縫い①：型紙、フェルト裁断、刺繍 (プランケットステッチ、巻きかがりステッチ、ランニングステッチ等) (門脇)	基礎縫いを考え、指人形を仕上げる。 エプロンシアターの材料を準備する。
第7回	エプロンシアター①：フェルトや布地に型を写す、裁断、顔の表情や模様等、刺繍、マジックテープなどを縫い付ける (門脇)	・マスコット製作 (1/5仕上げ)
第8回	エプロンシアター②：フェルトや布地を裁断、顔の表情や模様等を刺繍する (門脇)	・マスコット製作 (2/5仕上げ)
第9回	エプロンシアター③：模様等を刺繍、縫い合わせる (門脇)	・マスコット製作 (3/5仕上げ)
第10回	エプロンシアター④：綿を入れて縫い合わせる (門脇)	・マスコット製作 (4/5仕上げ)
第11回	エプロンシアター⑤：綿を入れて縫い合わせる、マジックテープを縫い付ける (ミシンも可) (門脇)	・マスコット完成
第12回	エプロンシアター⑥：背景の型を布地やトイクロスに写し裁断、エプロンに縫い付ける (ミシンも可) (門脇)	・背景製作 (5/5仕上げ)
第13回	エプロンシアター⑦：背景等の仕上げ、台本を覚えて動かし方を練習する (門脇)	・エプロンシアター完成、発表に備えて台本暗記、動かし方の練習 (発表ポイント：対象者は幼児)
第14回	エプロンシアター⑧：前半組：保育を想定したエプロンシアターの実演(評価基準を確認の上、実技を行う) (門脇)	エプロンシアターの修正を行う。作品カードを提出する。
第15回	エプロンシアター⑨：後半組：保育を想定したエプロンシアターの実演(評価基準を確認の上、実技を行う) 授業のまとめ (門脇)	エプロンシアターの作成、授業時間内で終わらない作業は自習し完成させる。
第16回	期末試験 (レポート提出)	これまでの学修をレポートにまとめる。

■ 履修上の注意

第6回目以降は裁縫道具を持参。製作物と進度は個々に異なるので自ら質問し、製作過程を積極的に確認しながら丁寧に取

り組むこと。

材料費（エプロン代含む）2, 500円。

■ 成績評価方法・基準

平常点 50%（授業への積極的参加・グループワークでのリーダーシップ等・制作物）、課題作品・提出物 40%、期末試験 10%

発表・課題作品について、授業の中でフィードバックし個人にコメントを付ける。

授業態度、授業中にできなかった作業の自習、完成作品を使った発表の仕方を期末試験の代替とし評価する。

■ 教科書

授業前にプリントを配布

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後に受付ける。

乳児保育 I

(30237)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

嶺 岸 祐 子

■ 授業の概要

乳児保育の意義や理念、乳児保育の社会的な役割、保育施設の社会的位置など元保育士として現場視点から講義する。また3歳未満児の発達をとらえる視点、保育者の関わる姿勢、具体的な援助や支援の仕方、環境の工夫の仕方など保育の基本を解説する。

乳児保育が、子どもの『生きる力の基礎づくり』に繋がること、人を育てることの意義・保育の理念・目的から保育の実践に結びつけて、学生自身が考える時間を設け、学びを深められるように講義する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・乳児保育の現状と課題を踏まえ、乳児保育の目的と役割について理解する。	0.15	0.15	0.25	0.15	0.15	0.15
・0・1・2歳児の発達を踏まえた、基本的な知識と保育内容について理解する。						
・養護と教育について学び、保育の中での一体性や連続性を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション：乳児保育とは何か	シラバスから、授業内容の概要を理解する
第2回	乳児保育の目的と役割	P10 保育指針における乳児保育の目的を調べる
第3回	養護と教育の一体性について	P14 養護と教育について調べる
第4回	0, 1, 2歳児の発達（乳児の発達で重要なポイント）	P28 乳児保育で重要な愛着関係について調べる
第5回	乳児（0歳児）の保育内容について（0歳児の発達について）	P36 0歳児の発達の特徴を調べる
第6回	乳児（0歳児）の保育内容について（3つの視点について）	P40 0歳児の保育内容の3つの視点について調べる
第7回	1歳以上3歳未満児の保育内容（1歳・2歳児の発達について）	P52 1歳以上3歳未満児の5領域を調べる
第8回	1歳以上3歳未満児の保育内容（3つの視点から5領域とのつながり）	P62 図表5-1を読み5領域のねらいと内容の予習
第9回	乳児の生活と遊びの基本的事項（デーリープログラム）	P64 乳児保育における保育者の1日の仕事を調べる
第10回	乳児期の健康で安全な生活環境について	P76 健康・安全に必要な視点を調べる
第11回	乳児の生活の基本（食事・睡眠）	P83 離乳食について調べる
第12回	乳児の生活の基本（排泄・着脱・清潔）	P90 排泄の発達について調べる
第13回	乳児の遊び（身体的発達と遊びの発達）	P102 0・1・2歳児のあそびの発達を調べる
第14回	乳児保育における保育計画の必要性について	P124 乳児保育における計画の種類を調べる
第15回	前期のまとめ	前期の講義内容で大事なポイントを確認する
第16回	期末試験	今までの学習内容を振り返り、理解を深める

■ 履修上の注意

* 保育士資格及び幼稚園教諭免許取得の必修科目です。保育士の資質として授業への取り組む姿勢を重視します。

* 授業への取り組み（授業態度：私語を慎む・積極的な質問・発言・レポート等課題提出）などルールを守ってください。

* 配布資料は、ファイルに綴じる。教科書は事前に読んで予習しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

◎講義の受講態度とレポートの提出で 20%（授業中に積極的に発言・発表するなどの参加態度）

◎期末試験 80%で総合的に評価します。

レポート・期末試験の結果は、後日フィードバックします。

■ 教科書

〔講義で学ぶ 乳児保育〕〔小山 朝子編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 参考書

〔演習で学ぶ 乳児保育〕〔善本 眞弓編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 備考

*授業内容については、都合により授業計画の内容や順番等を変更する場合があります。

*質問等は、毎授業終了後、またはレポートでも受け付けます。

乳児保育Ⅱ

(30238)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

嶺 岸 祐 子

■ 授業の概要

3歳未満児の発育・発達における特徴と、保育士の援助や関わり方の基本的な考え方や援助の方法を、個人差や発達の連続性の重要性をふまえ演習を通して講義する。

グループワークを通して、保育者の関わり方や援助について話し合い、考えを共有できるようにする。また子どもが主体的に遊ぶことが子どもの発達する力を伸ばし、その為にどのような環境が必要か演習を通して、学びを深める。

保育の計画を実際に作成し、具体的な遊びや保育環境を考えるなど、保育で活用する手遊びや絵本など取り入れ、実践に結びつくように授業を進める。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・3歳未満児の発達の特徴を理解し、子どもに寄り添った保育者の援助や関わり方を学ぶ。	0.15	0.15	0.25	0.15	0.15	0.15
・3歳未満児の具体的な保育の方法や支援の仕方について演習を通して理解する。						
・職員の連携及び保護者や関係機関との連携について学ぶ						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 乳児保育の意義（産休・育休取得についてグループ演習）	演P14～主体性を保障する保育とは何か調べる
第2回 0歳児の発育・発達の特徴（絵本を読む演習）	演P20 乳児が楽しめる絵本について調べ、読む練習をする
第3回 1歳児の発育・発達の特徴（手遊びの演習）	演P26 乳児が楽しめる手遊びを調べ練習する
第4回 2歳児の発育・発達の特徴（2歳児向けの集団遊びの演習）	演P28 2歳児向けの集団遊びを考える
第5回 3歳児の発育・発達の特徴（ごっこ遊びの演習）	演P31 乳児が楽しめるごっこ遊びを考える
第6回 食事の援助と環境（離乳食の食べさせ方の演習・だっこの仕方の演習）	演P36 食事の援助で大切な事を予習する
第7回 排泄の援助と環境（おむつ交換の演習）	演P50 排泄の援助で大切な事を予習する
第8回 睡眠・休息の援助と環境（おんぶの仕方の演習）	演P60 睡眠の援助で大切な事を予習する
第9回 着脱・清潔に関する援助と環境（着脱の演習）	演P68 着脱。清潔の援助で大切な事を予習する
第10回 保育実技の演習の振り返りと実技テスト（おむつ交換・絵本の読み聞かせ等）	今まで行ってきた実技演習を予習し、読み聞かせの絵本を準備する
第11回 乳児保育における健康と安全	演P90 読んで予習する
第12回 乳児保育を支える連携（子育て支援を含む）	演P130 連携とは何か、誰とどんな連携が必要か考える
第13回 乳児保育における指導計画の重要性と作成の仕方	講P124 演P120 を読んで予習
第14回 乳児保育における指導計画の作成（0歳児の月案を立ててみる）	講P134 講P124 演P120を読んで実際に指導計画案を立ててみる
第15回 後期のまとめ	後期の講義内容で大事なポイントを確認する
第16回 期末試験	今までの学習内容を振り返り、理解を深める

■ 履修上の注意

*グループワークや演習が中心になってくるので、活発な意見交換ができるように積極的な態度で授業に臨んでください。

*講義や演習を通して授業を振り返り、自分で調べるなど学びを整理し、自分のものにできるようにしてください。

■ 成績評価方法・基準

◎授業や演習時の取り組みの状況（演習態度と演習テスト、講義に関する意欲積極性など）20% レポート等の課題提出20%

◎期末試験60%により、総合的に評価します。課題、期末試験の結果については、後日フィードバックします。

■ 教科書

〔演習で学ぶ 乳児保育〕〔善本 眞弓編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 参考書

〔講義で学ぶ 乳児保育〕〔小山 朝子編著〕〔わかば社〕〔1600+税〕

■ 備考

*授業内容については、都合により授業内容の順番等を変更する場合があります。

*質問等は、毎授業終了後、またはレポートでも受け付けます。

子どもの健康と安全

(30239)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

新 沼 映 子

■ 授業の概要

助産師・看護師として誕生の現場や乳児健診・産後ケア事業・子育て支援センター業務等において乳幼児と保護者に関わってきました。核家族化が進み、女性の就労も増えた現代において、保育施設での生活は子どもたちに大きな影響を与えると考えます。子どもの健康な育ちを支えるうえで望ましい環境（物的・人的）を理解し、必要な援助ができる技術や応用力を学び、実践できるようにします。また、多様性があることを念頭におき、職員間での連携、家庭・自治体・専門機関などとの地域における連携とその在り方を学びます。「子どもの保健」での学びを生かし、想像力をもって演習ができるようにします。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子どもの健康に関する観察力・判断力を学ぶことができる。		0.2	0.2		0.6	
・日常の養護の具体的な方法について学ぶことができ、計画や実施ができる。						
・事故やケガの予防を学び日常起こりうる症状やケガに対する手当を身に着けることができる。						
・保健活動における職員間の連携・協働、関係機関との連携を学ぶことができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	子どもの健康と安全「授業の進め方」と「評価方法と試験」の説明 子どもの健康と保育環境 授業内容を保育活動にどう生かすかをグループディスカッションする	教科書を読みこの授業で取り組む内容について知る。教科書p.1～6のポイントを理解する。子どもの観察のポイントをまとめて提出の準備をする。
第2回	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全管理 身長、体重、頭囲などを計測し、成長曲線にプロット。 評価まで行う。評価にあたり、気を付けるべきポイントを話し合う。	教科書p.7～22をよく読み、体温、脈拍、呼吸数を測定してみる。測定値をプロットし、評価できるように準備。
第3回	衛生管理 手洗い・吐物処理シュミレーション実習 保育所環境が子どもの発達へどんな影響を与えるかを知り、適切な対応ができる力を身に着ける	教科書p.25～29。厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」をよく読みポイントをおさえる。吐物処理のシュミレーションができるように。
第4回	事故防止および安全対策 事故の特徴・発達段階別のけがや事故の種類をしり、グループワークを通して対策を考える	教科書p.30～50をよく読み理解しておく。参考書2〔東京都福祉保健局〕で事前学習（反転学習）。P.31～33の例を参考にグループワークできるように準備しておく。
第5回	体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置 学んだ対応方法を実践するために必要な工夫をグループで話し合う	教科書p.53～62をよく読み、体調不良時に手当ができるようにする。
第6回	救急処置および心肺蘇生法の実践 ケーススタディを通して、起こりやすい場面とその対応・予防について考える	教科書p.63～74をよく読み、緊急時に自分が何をすべきかを考えることができるようにする。
第7回	感染症の集団発生の予防 感染症発症時と罹患後の対応 乳幼児の生理的特徴を踏まえつつ、集団での健康を保つための工夫を考える	教科書p.77～89をよく読み、子どもがよくかかる感染症の症状とその対応を知り、予防方法がわかるようにする。
第8回	保育活動における保健的対応（睡眠・食事・調乳・離乳食） 発育・発達の土台作り SIDSの予防 母乳育児 ミルクについて 離乳食について学ぶ 調乳実習	教科書p.93～111の該当する部分をよく読みポイントを理解しておく。子どもの発育・発達を考える際に大切にしたい土台づくり。睡眠・栄養・排泄について知り、哺乳から離乳食に至る過程を学習できるように準備する。
第9回	保育活動における保健的対応（抱っこ・おんぶ・寝かせ方、ベビーカー、自動車、自転車の乗せ方） 抱っこ実習	教科書p.93～111の該当する部分をよく読みポイントを理解しておく。赤ちゃんの発達段階に合わせた抱っこ。安心・安全な抱っこのポイントを学ぶ。

		ベビーカーや自動車・自転車を使用する際の注意点を学んでおく。
第10回	保育活動における保健的対応（保清、沐浴・入浴、排泄のさせ方） 沐浴実習	教科書p. 93～111の該当する部分をよく読みポイントを理解しておく。保清の方法について知る。沐浴実習できるように、事前学習しておく。
第11回	個別的な配慮を要する子どもへの対応 合理的配慮 慢性疾患時 ・障害児の保育における保健的対応 グループワーク	教科書p. 112～122の該当する部分をよく読み対応ができるようにする。子どもたちが疾患が理解できる工夫を考える。
第12回	個別的な配慮を要する子どもへの対応 慢性疾患についてのプレゼンテーション アレルギー疾患を持つ子どもへの対応	教科書p. 123～126の該当する部分をよく読み対応ができるようにする。
第13回	個別的な配慮を要する子どもへの対応 発達障害をもつ児への対応 保育における保健活動の計画および評価 グループワークで保健活動計画をたてる	教科書p. 127～143の該当する部分をよく読み対応ができるようにする。保健指導計画を実際に立ててみる準備をする
第14回	保健活動計画プレゼンテーション	保健活動計画を発表するための準備をする
第15回	保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携	教科書p. 144～149をよく読み理解する。
第16回	期末試験（筆記試験）	子どもの健康と安全からまんべんなく出題

■ 履修上の注意

授業に積極的に臨むこと、授業中の配布プリントをまとめ振りかえること。

■ 成績評価方法・基準

●期末試験 50% ●課題（レポート）提出15%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。課題については授業中にフィードバックします）●実技試験 20%（欠席した場合はレポート提出。ルーブリック評価については第1回目の授業で説明）●授業態度 15%（授業への参加状況〔発言・質問・グループワークでのリーダーシップ等〕）で評価します。

■ 教科書

〔子どもの健康と安全演習ノート 改訂第3版〕〔小林美由紀〕〔診断と治療社〕〔2400円＋税〕

■ 参考書

1. こども家庭庁 保育所における感染症対策ガイドライン [https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/d557529d/20230401_policies_hoiku_15.pdf]
2. 東京都福祉保健局 乳幼児の事故防止学習ソフト [https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/shussan/nyuyoji/jikoboushi]
3. こども家庭庁 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン [https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/978a376c/20231016_policies_hoiku_46.pdf]
4. 子どもの健康と安全 改定第2版 大西文子著 中山書店
5. 子どもの健康と安全 中根淳子著 ななみ書房

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付けます。

障害児保育

(30240)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

障害児保育は、保育の内容・方法の理解のための科目である。近年、国民のすべてが障害の有無によって分け隔てられることなく、人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現することの重要性が広く認識されている。それは、保育現場においても同様で、障害の有無に関わらず、すべての子どもが健やかに発達していくことが求められている。そのため、保育者には、障害を持つ子どもの保育について必要な基礎的な知識・技術が必要とされる。そこで、障害児保育の実践における基礎的な知識・技術を学ぶとともに、障害を持つ子どもに対する基本的な配慮事項についても理解できるようにする。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・障害児保育に関する基礎的な知識・技術を身に付けることができる	0.5	0.1		0.1	0.1	0.2
・障害児保育の実践に関する基礎的な知識・技術を身に付けることができる						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 オリエンテーション：「障害」について考えてみよう	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第2回 障害児保育の基本	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第3回 発達と障害	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第4回 障害児保育のあゆみ	障害児教育・保育の歴史について目を通して知る
第5回 肢体不自由の理解と援助	肢体不自由について自分で調べる
第6回 視覚障害の理解と援助	視覚障害について自分で調べる
第7回 聴覚障害の理解と援助	聴覚障害について自分で調べる
第8回 知的障害の理解と援助	知的障害について自分で調べる
第9回 発達障害の理解と援助（1）：自閉スペクトラム症	自閉スペクトラム症について自分で調べる
第10回 発達障害の理解と援助（2）：ADHD/LD	ADHD/LDについて自分で調べる
第11回 配慮を必要とする子どもの理解と援助	障害を持つ子どもの心理について自分で調べる
第12回 基本的生活習慣獲得の援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第13回 集団生活と遊びの援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第14回 保護者や家族への支援	子育て支援との関係について自分で調べる
第15回 まとめ	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める
第16回 期末試験（レポート）	今まで学習したことについて、自分でまとめて振り返り、期末試験（レポート）を作成することを通して、課題を発見する。

■ 履修上の注意

グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。

■ 成績評価方法・基準

平常点（50％）、期末試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。期末試験（レポート）は添削して返却する。

■ 教科書

〔演習・保育と障害のある子ども〕〔野田敦史・林恵 編〕〔みらい〕〔2, 300円〕

■ 参考書

授業の中で指示する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

特別支援教育

(30241)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の抑制及び心身の発達を理解する。		0.25	0.5	0.25		
・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。						
・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み	当該科目の授業内容や計画について理解する。
第2回 特別支援学校の教育	テキストを読み、予習・復習をする。
第3回 介護等体験の実際	テキストを読み、予習・復習をする。
第4回 障害のある児童生徒との関わり方①（視覚障害、聴覚障害）	テキストを読み、予習・復習をする。
第5回 障害のある児童及び生徒との関わり方②（肢体不自由、病弱）	テキストを読み、予習・復習をする。
第6回 障害のある児童及び生徒との関わり方③（知的障害、発達障害）	テキストを読み、予習・復習をする。
第7回 障害のある子供の保護者に声当事者の声	テキストを読み、予習・復習をする。
第8回 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	テキストを読み、予習・復習をする。
第9回 期末試験（レポート課題など）	

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度や発言など）を高く評価します。また、グループワークの際に積極的に話し合いに加わるなどの態度についても評価の一助にします。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（20％）、グループワークへの参加態度（20％）、期末試験（60％）で総合的に評価します。

■ 教科書

〔特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フィリア〕

〔全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟 編著〕〔ジアース教育社〕〔1400円〕

■ 参考書

〔演習・保育と障害のある子ども〕〔野田敦史・林恵 編〕〔みらい〕〔2300円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時やオフィスアワーに受け付けます。

社会的養護Ⅱ

(30242)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（20＋10）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

伊藤 利恵

■ 授業の概要

社会的養護は、子どもの権利擁護を基本とし、子どもの安全・安心な生活を守ることや心的ケアあるいは自立支援を目標において展開されている。この中で保育者に期待される社会的役割や必要とされる基礎的知識を理解する。

また、施設養護や家庭養護の具体的な内容や実践について学ぶことにより、施設保育士の職務内容が多岐にわたることを理解する。要保護児童対策地域協議会での実務経験を活かし、児童虐待の現状を伝え、施設実習における具体的な基礎的専門知識・技術の習得を目指す。さらに、事例検討などを通し、対人援助について学びを深める

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。			0.5	0.3	0.2	
・ 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。						
・ 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。						
・ 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。						
・ 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. 社会的養護の内容 (1) 社会的養護における子どもの理解	事前：教科書Chapter1～2に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第2回	1. 社会的養護の内容 (2) 日常生活支援	事前：教科書Chapter3～4に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第3回	1. 社会的養護の内容 (3) 治療的支援	事前：教科書Chapter5に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第4回	1. 社会的養護の内容 (4) 自立支援 事例検討	事前：教科書Chapter9に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第5回	2. 社会的養護の実際 (1) 施設養護の生活特性及び実際	事前：教科書Chapter7に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第6回	2. 社会的養護の実際 (2) 家庭養護の生活特性及び実際	事前：教科書Chapter6に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第7回	3. 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価 (1) アセスメントと個別支援計画の作成 (2) 記録及び自己評価	事前：教科書Chapter11に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第8回	4. 社会的養護に関わる専門的技術 (1) 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	事前：教科書Chapter8、13に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第9回	4. 社会的養護に関わる専門的技術 (2) 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	事前：教科書Chapter10、12に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第10回	5. 今後の課題と展望 (1) 社会的養護における家庭支援 (2) 社会的養護の課題と展望	事前：教科書Chapter14に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第11回	期末試験	教科書や授業内容の確認をしてくる。

■ 履修上の注意

授業への取り組みでは、課題提出の期限は厳守します。受講態度では、授業への参加状況（発言、質問、グループ・ワークでの積極的な参加等）を重視する。

■ 成績評価方法・基準

グループワークへの積極的な取り組みや、授業内で出される課題への取り組み状況などの授業への取り組み態度（50%）、期末試験（筆記試験）（50%）で総合的に評価する。課題や試験の結果は機会を設けてフィードバックする。

■ 教科書

「よりそい支える 社会的養護Ⅱ（第2班）」〔監修：中山正雄、編著：浦田雅夫〕〔教育情報出版〕

■ 参考書

授業の中で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

授業計画の順番は入れ替わる場合がある。

子育て支援

(30243)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

伊藤 利 恵

■ 授業の概要

近年、日本の子育ての環境は、児童虐待や子育て不安、子どもの貧困などの問題が顕在化し、子育てがしやすい社会ではないことが広く認識されつつある。このような社会状況での子育ては、親にとって大変難しいものとなっており、親だけでなく、社会全体で子育てを支えることが必要であるとされている。それに伴い、保育者にも子育て支援の中核的な役割を担うことが期待されている。そこで、本授業では、保育者として保育現場で子育て支援を行う基礎的な知識・技術を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。	0.1	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1
・ 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 1. 保育士の行う子育て支援の特性 (1) 子どもの保育とともに行う保護者の支援 (2) 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	事前：教科書Chapter1～3に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第2回 1. 保育士の行う子育て支援の特性 (3) 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 (4) 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	事前：教科書Chapter4～5に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第3回 2. 保育士の行う子育て支援の展開 (1) 子ども及び保護者の状況・状態の把握 (2) 支援の計画と環境の構成	事前：教科書Chapter6～7に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第4回 2. 保育士の行う子育て支援の展開 (3) 支援の実践・記録・評価・カンファレンス (4) 職員間の連携・協働	事前：教科書Chapter7～8に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第5回 2. 保育士の行う子育て支援の展開 (4) 職員間の連携・協働 (5) 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	事前：教科書Chapter7～8に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第6回 3. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術） (1) 保育所等における支援 (2) 地域の子育て家庭に対する支援	事前：教科書Chapter9に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第7回 3. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術） (3) 障害のある子ども及びその家庭に対する支援	事前：教科書Chapter10に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第8回 3. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術） (4) 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	事前：教科書Chapter11～12に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第9回 3. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術） (5) 子ども虐待の予防と対応 (6) 要保護児童等の家庭に対する支援	事前：教科書Chapter13～14に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
第10回 3. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術） (7) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解	事前：教科書Chapter15に目を通してくる。 事後：振り返りシートの記入・提出。 授業内容の復習。
まとめ	
第11回 期末試験	教科書や授業内容の確認をしてくる。

■ 履修上の注意

授業への取り組みでは、課題提出の期限は厳守します。受講態度では、授業への参加状況（発言、質問、グループ・ワークでの積極的な参加等）を重視する。

■ 成績評価方法・基準

グループワークへの積極的な取り組みや、授業内で出される課題への取り組み状況などの授業への取り組み態度（50%）、期末試験（筆記試験）（50%）で総合的に評価する。課題や試験の結果は機会を設けてフィードバックする。

■ 教科書

「演習 子育て支援—実践から深める支援のまなざしと専門性」〔編著：隣谷正範〕〔教育情報出版〕

■ 参考書

授業の中で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

授業計画の順番は入れ替わる場合がある。

ピアノ I

(30244)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科 : 子専1年

授業形態 : 演習 学期 : 前期 必・選 : 選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大友 詠里子 阿部 玲子 渡邊 恵 渡辺 祐子

■ 授業の概要

保育者に必要なピアノの基礎演奏技術を習得できるよう実技指導を行う。ピアノ教本を使用し、音楽理論、読譜、運指等を理解できるようにし、演奏に繋げる。また、子どもの歌の教材を使用し、歌唱法、弾き歌いについても指導する。特に、子どもの歌に多いハ長調、ト長調、ヘ長調、ニ長調のスリーコード(カデンツ)を身につけ、子どもの歌に簡易伴奏を付けて弾き歌いできるようにする。子どもや保育者を目指す学生に長くピアノ指導をしてきた教員が個別に指導し、一人一人の技術や進度に合わせて授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・ピアノ演奏の基礎的な技術を身に付ける。(「ピアノテキスト」45ページまで)			0.5	0.25		0.25
・初歩的な弾き歌いができるようになる。						
・音楽の基礎知識をもとに簡易伴奏法を身につける。						

■ 授業計画

	自習(事前・事後学修の内容)
第1回 ガイダンス/ピアノ曲を弾く	到達目標、進度目標を確認する。 ピアノ曲を練習する。
第2回 ピアノ曲を弾く・簡易伴奏法	ピアノ曲を練習する。 簡易伴奏法について復習する。
第3回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い(ハ長調・ト長調のカデンツ)	ピアノ曲を練習する。 ハ長調・ト長調のカデンツを練習する。
第4回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い(ヘ長調・ニ長調のカデンツ)	ピアノ曲を練習する。 ヘ長調・ニ長調のカデンツを練習する。
第5回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い(4つの調のカデンツの復習)	ピアノ曲を練習する。 簡易伴奏試験を想定し、4つの調のカデンツを練習する。
第6回 簡易伴奏試験	試験の内容を踏まえ復習する。
第7回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い(簡易伴奏の復習と実践)	ピアノ曲を練習する。 簡易伴奏を用いて弾き歌い曲を練習する。
第8回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い(簡易伴奏の復習と実践)	ピアノ曲を練習する。 簡易伴奏を用いて弾き歌い曲を練習する。
第9回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い・期末試験課題提示	ピアノ曲を練習する。 試験課題を確認し、歌唱できるようにする。
第10回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い・試験課題の選曲	ピアノ曲を練習する。 試験課題を練習する。
第11回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い「おべんとう」	ピアノ曲を練習する。 「おべんとう」を弾き歌いできるように練習する。
第12回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い「おはようのうた」	ピアノ曲を練習する。 「おはようのうた」を弾き歌いできるように練習する。
第13回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い(試験課題曲)	ピアノ曲を練習する。 試験課題曲を歌唱できるようにする。
第14回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い(試験課題曲)	ピアノ曲を練習する。 試験課題曲を弾き歌いできるように練習する。
第15回 ピアノ曲を弾く・弾き歌い(試験課題曲)	ピアノ曲を練習する。 試験を想定し課題曲を練習する。
第16回 期末試験(弾き歌い発表試験) ピアノII課題提示	期末試験の内容を踏まえ復習する。 ピアノIIの課題を確認し、練習する。

■ 履修上の注意

第1回の授業には教科書2冊、スクラップブック、筆記用具、のりを持参すること。
毎回提示する課題を毎日練習した上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

簡易伴奏試験・期末試験の内容40%と平常点・受講態度60%（授業の中で提示した課題への取り組み方，進度状況等で総合的に判断する。）

期末試験の内容については試験後フィードバックする。

■ 教科書

〔ピアノ・テキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2, 420円〕

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1, 980円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問は授業内、または授業終了後に受け付ける。

ピアノⅡ

(30245)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大友 詠里子 阿部 玲子 渡邊 恵 渡辺 祐子

■ 授業の概要

ピアノⅠで習得した基礎技術をもとに、より表現豊かな演奏に必要な技術・奏法を中心に実技指導を行う。また、保育現場で歌われる子どもの歌について理解を深め、弾き歌いの技術の向上を目指す。その際、ピアノⅠで既習したハ長調、ト長調、ヘ長調、ニ長調のスリーコード(カデンツ)の活用法やルート伴奏による簡易伴奏法についても解説し、多くの曲を弾くことができるよう指導する。子どもや保育者を目指す学生に長くピアノ指導をしてきた教員が個別に指導し、一人一人の技術や進度に合わせて授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・ピアノ演奏の技術を身につけ、表現豊かに演奏できる。(「ピアノテキスト」70ページまで)			0.5	0.25		0.25
・弾き歌いの技術を身につけ、多くの曲を演奏できる。						
・簡易伴奏法の技術を深める。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス／ピアノ曲を弾く、弾き歌い(生活の歌)	到達目標・進度目標を確認する。 生活の歌を歌唱できるようにする。
第2回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い「朝の歌」	ピアノ曲を練習する。 「朝の歌」を弾き歌いできるように練習する。
第3回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い「おかえりのうた」	ピアノ曲を練習する。 「おかえりのうた」を弾き歌いできるように練習する。
第4回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い「さよならのうた」	ピアノ曲を練習する。 「さよならのうた」を弾き歌いできるように練習する。
第5回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い(生活の歌の復習)	ピアノ曲を練習する。 生活の歌の試験を想定した練習をする。
第6回 生活の歌試験、期末試験課題提示	試験の内容を踏まえて復習する。 期末試験課題を確認する。
第7回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い(冬の歌)	ピアノ曲を練習する。 「ゆき」を歌唱できるようにする。
第8回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い(冬の歌)	ピアノ曲を練習する。 「ゆき」を弾き歌いできるようにする。
第9回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い(クリスマスの歌)	ピアノ曲を練習する。 「ジングルベル」を歌唱できるようにする。
第10回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い(クリスマスの歌)	ピアノ曲を練習する。 「ジングルベル」を弾き歌いできるようにする。
第11回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い(節分の歌)	ピアノ曲を練習する。 「まめまき」を歌唱できるようにする。
第12回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い(節分の歌)	ピアノ曲を練習する。 「まめまき」を弾き歌いできるようにする。
第13回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い(春の歌)	ピアノ曲を練習する。 「うれしいひなまつり」を歌唱できるようにする。
第14回 ピアノ曲を弾く、弾き歌い(春の歌)	ピアノ曲を練習する。 「うれしいひなまつり」を弾き歌いできるようにする。
第15回 期末試験課題曲を弾く	期末試験を想定した練習をする。
第16回 期末試験（ピアノ曲、弾き歌い発表試験） ピアノⅢ課題提示	期末試験の内容を踏まえて復習する。 ピアノⅢの課題を確認する。

■ 履修上の注意

毎回提示する課題を毎日練習した上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

生活の歌試験・期末試験の内容40%、平常点・受講態度60%（授業の中で提示した課題への取り組み方、進捗状況等で総合的に判断する。）

期末試験の内容については試験後フィードバックする。

■ 教科書

〔ピアノ・テキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2, 420円〕

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1, 980円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問は授業内・または授業終了後に受け付ける。

ピアノⅢ

(30246)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大友 詠里子 阿部 玲子 渡邊 恵

■ 授業の概要

ピアノⅠ、ピアノⅡで習得した技術をもとに、保育現場での音楽活動、特に歌唱場面を想定した弾き歌いができるように指導する。その歌唱場面で必要となる伴奏法や歌唱指導法を身につけ、実践できるようにする。また、ピアノⅠで既習したハ長調・ト長調・ヘ長調・ニ長調のスリーコード(カデンツ)、ピアノⅡで既習したルート伴奏法を活用してさらに多くの子どもの歌を弾き歌いできるように授業を進めていく。子どもや保育者を指す学生に長くピアノを指導してきた教員が個別に指導し、一人一人の技術や進度に合わせて授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育現場での音楽活動を想定した弾き歌いができる。			0.5	0.25		0.25
・伴奏法や歌唱指導法についての知識と技能を身につける。						
・多くの子どもの歌を演奏することができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス／弾き歌い(試験課題の提示)	到達目標・進度目標を確認する。 試験課題を歌唱できるようにする。
第2回 歌唱指導法、弾き歌い(春の歌)	歌唱指導法を復習する。 「さんぼ」を弾き歌いできるようにする。
第3回 歌唱指導における伴奏法、弾き歌い(春の歌)	歌唱指導における伴奏法を復習する。 「バスごっこ」を弾き歌いできるようにする。
第4回 歌唱指導における伴奏法、弾き歌い(梅雨の歌)	歌唱指導における伴奏法を練習する。 「にじ」を弾き歌いできるようにする。
第5回 弾き歌い(梅雨の歌・試験課題曲)	「だから雨ふり」を弾き歌いできるようにする。 弾き歌い試験を想定した練習をする。
第6回 弾き歌い試験、期末試験課題の提示	試験の内容を踏まえ復習する。 期末試験課題を確認する。
第7回 弾き歌い(夏の歌)	「おぼけなんてないさ」を歌唱できるようにする。
第8回 弾き歌い(夏の歌)	「おぼけなんてないさ」を弾き歌いできるようにする。
第9回 弾き歌い(保育所実習Ⅰを想定した歌)	実習を想定し、「生活の歌」を復習する。
第10回 弾き歌い(保育所実習Ⅰ・Ⅱを想定した歌)	実習を想定し、弾き歌い曲を選曲・練習する。
第11回 弾き歌い(秋の歌)	「きのこ」を歌唱できるようにする。
第12回 弾き歌い(秋の歌)	「きのこ」を弾き歌いできるようにする。
第13回 弾き歌い(保育所実習Ⅱを想定した歌)	実習を想定し、弾き歌い曲を練習する。 実習を想定し、歌唱指導法を復習する。
第14回 弾き歌い(秋の歌)	「もみじ」を弾き歌いできるようにする。
第15回 期末試験課題曲	期末試験を想定した練習をする。
第16回 期末試験（弾き歌い発表試験）	期末試験の内容を踏まえ復習する。

■ 履修上の注意

毎回提示する課題を毎日練習した上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

発表試験・期末試験の内容40％と平常点・受講態度60％（授業の中で提示した課題への取り組み方、進捗状況等で総合的に判断する。）

期末試験の内容については試験後フィードバックする。

■ 教科書

〔ピアノ・テキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2, 420円〕

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1, 980円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問は授業内・または授業終了後に受け付ける。

ピアノⅣ

(30247)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大友 詠里子 阿部 玲子 渡邊 恵

■ 授業の概要

ピアノⅢまでに習得した技術をもとに、保育現場で柔軟に音楽活動を展開できるように指導する。子どもの歌のレパートリーをさらに増やすことを目標とし、保育現場での音楽活動に即時に対応できるようにする。そのため、既に習得したカデンツ、ルート伴奏による簡易伴奏法の復習に加え、コード奏の実践を通して、各自が伴奏付けや伴奏のアレンジができるように指導する。全員での演習と個別指導を併用し、一人一人の技術や進度に合わせて授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・多くの子どもの歌を弾き歌いすることができる。			0.5	0.25		0.25
・簡易伴奏法の技術を深め、実践することができる。						
・子どもの歌に独自の伴奏を作り、弾き歌いすることができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス／弾き歌い(幼稚園実習を想定した歌)	到達目標・進度目標を確認する。 実習を想定し、弾き歌い曲を選曲する。
第2回 弾き歌い、歌唱指導法の復習(幼稚園実習を想定した歌)	実習を想定し、歌唱指導の練習をする。
第3回 弾き歌い、簡易伴奏法の復習	簡易伴奏法を復習する。
第4回 弾き歌い、簡易伴奏法(ルート伴奏)	ルート伴奏を復習する。
第5回 弾き歌い、簡易伴奏法(ルート伴奏の実践)	ルート伴奏課題に取り組む。
第6回 弾き歌い、簡易伴奏法(基本形のコード)	基本形のコードを復習する。
第7回 弾き歌い、簡易伴奏法(基本形コードの実践)	基本形コード課題に取り組む。
第8回 弾き歌い、簡易伴奏法(ルート伴奏と基本形のコードの混合伴奏)	ルート伴奏と基本形のコードの混合伴奏を復習する。
第9回 弾き歌い、簡易伴奏法(ルート伴奏と基本形のコードの混合伴奏の実践)	ルート伴奏と基本形のコードの混合伴奏課題に取り組む。
第10回 弾き歌い、簡易伴奏法(様々なコード)	様々なコードを復習する。
第11回 弾き歌い、期末試験課題提示	期末試験課題を確認し、歌唱できるようにする。
第12回 弾き歌い(卒園の歌)	「ドキドキドン1年生」を弾き歌いできるようにする。
第13回 弾き歌い(卒園の歌)	「ありがとうこころをこめて」を弾き歌いできるようにする。
第14回 弾き歌い(卒園の歌)	「ありがとうの花」を弾き歌いできるようにする。
第15回 期末試験課題曲	期末試験を想定した練習をする。
第16回 期末試験(弾き歌い発表試験)	期末試験の内容を踏まえ復習する。

■ 履修上の注意

毎回の課題を毎日練習した上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

期末試験の内容40％と平常点・受講態度60％（授業の中で提示した課題への取り組み方、進度状況等で総合的に判断する。）

授業内で提示した課題・期末試験の内容については試験後フィードバックする。

■ 教科書

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1, 980円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問は授業内、または授業終了後に受け付ける。

保育実習 I

(30248)

単位（総授業時間数）：4（180）

対象学科：子専2年

授業形態：実習 学期：通年 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

廣 瀬 団 子ども生活専攻教員

■ 授業の概要

保育実習 I は、「保育所（園）及び認定こども園（0～2歳児）における実習」（10日間）と「児童福祉施設などにおける実習」（10日間）があり、保育士資格取得のための必修科目である。「保育実習 I（保育所）」では、既習した保育理論や保育方法等の原理原則を、保育現場において観察、参加、保育等によって実証的、実践的に研究し、将来実践の場で柔軟に対応できる保育実践力の基礎を学ぶ。養護系施設及び障害系施設等における「保育実習 I（施設）」では、これまで学んできた知識や技術を基に、施設の機能や役割等を理解する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 保育所実習では、保育所等の役割や機能を具体的に理解する。また観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。					0.25	0.25
・ 保育所実習では、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。また、保育士等の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。						0.5
・ 施設実習では、実習施設の概要と機能及び役割を、体験を通して理解する。また、多様で広範な職員の職務内容や役割、職業倫理を理解し、施設で働く上でチームアプローチが基本であり、職員間の協力と連携が不可欠であることも理解する。						
・ 施設実習では、子ども・利用者とその支援（養護）について理解する。また子ども・利用者の特性（性格、障害の内容と程度、人間関係等）を理解し、一人ひとりに応じた支援（養護）の大切さを学ぶ。また施設における計画や記録、評価の方法を学び、自らの実習についての記録に基づく振り返りや自己評価の必要性について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 実習園との打ち合わせ 実習に向けての注意事項、評価方法	配属の実習園について調べておくこと
第2回 保育実習前の準備と留意点 保育実習に向けて、具体的な準備物、注意事項の確認 [子ども生活専攻巡回担当教員全員]	授業内容の復習
第3回 保育実習①② 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第4回 保育実習③④ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第5回 保育実習⑤⑥ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第6回 保育実習⑦⑧ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第7回 保育実習⑨⑩ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第8回 実習施設との打ち合わせ 施設実習に向けての注意事項、実習前提出物の確認	配属先の施設について調べておくこと
第9回 施設実習前の準備と留意点 施設実習に向けての、具体的な準備物、注意事項などの確認 [子ども生活専攻巡回担当教員全員]	実習日誌の記録、準備
第10回 施設実習①② 実習施設において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第11回 施設実習③④ 実習施設において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第12回 施設実習⑤⑥ 実習施設において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備

第13回	施設実習⑦⑧ 実習施設において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第14回	施設実習⑨⑩ 実習施設において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第15回	実習総括と評価および実習報告 保育所実習、施設実習を通して学んだこと、配慮点、課題等について振り返りを行い、報告書の作成を行う [子ども生活専攻巡回担当教員全員]	実習を振り返り自己の課題について考えておくこと

■ 履修上の注意

実習中に生じた疑問や質問については、現場の職員や担当教員などに相談しながら子どもと関わること。
実習中にトラブルなどが起きた場合は、実習先と学校に連絡・相談・報告をすること。

■ 成績評価方法・基準

実習園、実習施設からの評価と、実習関連提出書類（レポート、課題発表等）、各巡回指導担当教員との実習振り返りの面談結果を総合して、評価する。

■ 教科書

「保育所保育指針解説」厚生労働省、フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館

■ 参考書

「保育実習の手引き」宮城県保育士養成校連絡協議会

その他、配布資料等

■ 備考

質問等は各巡回担当教員が設定した時間もしくはオフィスアワーで受け付けます。

保育実習指導Ⅰ

(30249)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高橋 恵美 子ども生活専攻教員

■ 授業の概要

保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習Ⅰ」の事前・事後指導に関する科目である。2年次に予定されている「保育実習Ⅰ（保育所・施設実習）」及び「保育実習Ⅱ（保育所実習）」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。科目担当者の幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして具体的な実践方法を伝える。また実際に保育所（短大附属ますみ保育園）の見学及び観察・参加実習、児童福祉施設の見学を行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育実習の意義・目的を理解する					0.5	
・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする					0.25	
・実習施設における子供の人權と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する					0.25	
・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 2年間の予定 実習先希望調査についての説明 【高橋 大瀬戸】	2年間の学習の見通しを立てる。実習先を調べ調査票を提出する。『保育実習の手引き』P2～8を読み内容をまとめる。
第2回	実習の意義・目的的理解 保育実習の目的と履修方法を理解する。 【高橋】	実習指導の予定を確認する。『保育実習の手引き』P9～20を読み内容をまとめる。
第3回	保育所実習についての理解 [保育所実習の一日]について理解する 【高橋】	教科書を読み「保育所実習の一日」について知る。
第4回	実習生としての心構え 子どもの人權と最善の利益の考慮 保育所基礎実習Ⅰ 保育所基礎実習Ⅰの準備・ガイダンス① 【高橋】	教科書第2章を読み実習前の準備を行う。
第5回	保育所基礎実習Ⅰ 保育所基礎実習Ⅰの準備・ガイダンス② 実習当日の流れの確認 オリエンテーション 【高橋】	概要プリントを読み見学実習の準備をする。
第6回	保育所基礎実習Ⅰ 保育所見学実習 【高橋】	実習の記録をまとめる。
第7回	保育所基礎実習Ⅰ 保育所見学実習、事後指導 グループワーク・実習日誌提出 【高橋】	実習の記録をまとめる。
第8回	施設見学実習Ⅰ 準備・ガイダンス 保育士の専門性と職業倫理 [施設実習の一日]について理解する 実習日誌の書き方 【大瀬戸】	教科書P28～を読み内容をまとめる。
第9回	施設見学実習Ⅰ 見学 【大瀬戸】	実習の記録をまとめる。 説明プリントを読み概要をまとめる。
第10回	施設見学実習Ⅰ 事後指導 実習の総括と自己評価 【大瀬戸】	教科書P80～を読み内容をまとめる。
第11回	実習記録（実習日誌）の書き方 保育所記録の書き方① 保育所の概要 【高橋】	教科書P88～を読み内容をまとめる。
第12回	実習記録（実習日誌）の書き方 保育所記録の書き方② デイリープログラム 【高橋】	実習日誌のデイリープログラムを清書する。
第13回	実習記録（実習日誌）の書き方 保育所記録の書き方③ 目標と課題 【高橋】	実習日誌の目標と課題を清書する。
第14回	実習記録（実習日誌）の書き方 保育所記録の書き方④ 活動の記録 【高橋】	実習日誌の実習先の概要を清書する。
第15回	子どもの観察とその記録による理解 グループワーク 発達過程・適切な援助や関わりについて 【高橋】	教科書P34～を読み内容をまとめる。
第16回	実習記録（実習日誌）の書き方 施設実習記録の書き方①	教科書第3章を読み内容をまとめる

子どもの最善の利益を考慮した保育の理解

【大瀬戸】

第17回	実習記録（実習日誌）の書き方 施設実習記録の書き方② 心身の状態に応じた生活と対応 【大瀬戸】	『保育実習の手引き』P21～23を読み内容をまとめる。
第18回	施設見学実習Ⅱ 準備・ガイダンス 施設の役割と機能について理解する 【大瀬戸】	『保育実習の手引き』P30～31を読み内容をまとめる。教科書P68～を読み内容をまとめる。
第19回	施設見学実習Ⅱ 見学実習 【大瀬戸 高橋】	目標と課題を清書する「実習の手引き」P29～を読み内容をまとめる。
第20回	施設見学実習Ⅱ 事後指導 グループワーク 施設における生活と環境 【大瀬戸】	実習の記録をまとめる。
第21回	支援計画の理解と活用 【廣瀬】	実習の記録をまとめる。
第22回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園）準備・ガイダンス 実習日誌の下書き デイリープログラム【高橋】	『保育実習の手引き』P32～33を読み内容をまとめる。
第23回	保育所等の役割や機能の理解、保育士等の業務内容や職業倫理について学ぶ 附属ますみ保育園主任保育士講話【高橋】	実習日誌のデイリープログラムを清書する。
第24回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園） 実習日誌の下書き 概要、目標と課題【高橋】	講話から学んだことをまとめる。 実習日誌の実習園概要を清書する。
第25回	先輩に聞く 保育実習について、先輩の話聞き理解を深める 【高橋 大瀬戸】	実習日誌の目標と課題を清書する。
第26回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園） 実習日誌の下書き 記録の書き方①【高橋】	先輩の話から学んだことをまとめる。
第27回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園） 模擬授業・グループワーク【高橋】	模擬授業の準備をする。 自己紹介の練習をする。
第28回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園）オリエンテーション【高橋】	説明プリントを読み実習の準備をする。
第29回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園） 観察・参加実習【高橋】	実習日誌に記録する。
第30回	保育・教育実習報告会・実践報告会（2年生）への参加と1年間のまとめ【子ども生活専攻教員 全員】	2年生の「保育・教育実習報告会」に参加して学んだことをまとめて提出する。
第31回	期末レポート	

■ 履修上の注意

欠席・遅刻は厳に慎むこと。本授業への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては、基礎実習・2年次の実習ができないことがある。

■ 成績評価方法・基準

基礎実習や模擬保育への取り組み状況や、グループワークでの参加状況（50%）学習課題や実習日誌等の提出状況（40%）期末レポート（10%）により総合的に評価する。提出物は、期限内に必ず提出すること。提出課題等については、添削後、授業の中でフィードバックする。

■ 教科書

〔これからの時代の保育者養成・実習ガイド〕〔大豆生田啓友ほか〕〔中央法規〕〔1800円〕
〔保育実習の手引き〕〔宮城県保育士養成校連絡協議会〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付けます。

保育実習Ⅱ

(30250)

単位（総授業時間数）：2（90）

対象学科：子専2年

授業形態：実習 学期：通年 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

廣 瀬 団

■ 授業の概要

保育実習Ⅱは、「保育所（園）及び認定こども園（0～2歳児）における実習」（10日間）があり、保育士資格取得のための必修科目である。保育実習Ⅱでは、保育実習Ⅰ（保育所）の反省と評価を振り返り、実習現場の役割や機能、子どもへの理解、保育及び保護者への支援、保育の具体的な計画・観察・記録及び自己評価等について、より具体的に理解する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> 保育所等の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。また、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深め、各保育所等の方針や目標に基づき、1日の指導計画を立案し、実践する。 保育士等の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。また、保育士等として自己の課題を明確化する。 子どもの個人差、特に発達の違いやさまざまな生活環境にある子どもの個別のニーズを理解し、その対応について学ぶ。 子どもの最善の利益への配慮とは何かを具体的に学ぶ。 					0.25	0.25 0.5

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	保育実習前の準備と留意点① 保育実習に向けて、具体的な準備物、注意事項の確認 [子ども生活専攻巡回担当教員全員]	保育実習Ⅰでの課題を振り返り整理しておくこと
第2回	保育実習前の準備と留意点② 保育実習に向けて、指導案及び教材の準備① [子ども生活専攻巡回担当教員全員]	授業内容の復習
第3回	保育実習前の準備と留意点③ 保育実習に向けて、指導案及び教材の準備② [子ども生活専攻巡回担当教員全員]	授業内容の復習
第4回	保育実習① 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第5回	保育実習② 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第6回	保育実習③ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第7回	保育実習④ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第8回	保育実習⑤ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第9回	保育実習⑥ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第10回	保育実習⑦ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第11回	保育実習⑧ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第12回	保育実習⑨ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第13回	保育実習⑩ 実習園において観察実習、参加実習、行事への参加を行う	実習日誌の記録、準備
第14回	実習総括と評価 実習園からの評価及び日誌、指導案を基に、振り返りを行う	実習を振り返り自己の課題について考えておくこと
第15回	実習報告	

保育実習Ⅱを通して学んだこと、配慮点、課題等について報告書の作成をする
[子ども生活専攻巡回担当教員全員]

■ 履修上の注意

実習中に生じた疑問や質問については、現場の職員や担当教員などに相談しながら子どもと関わること。実習中にトラブルなどが起きた場合は、実習先と学校に連絡・相談・報告をすること。

■ 成績評価方法・基準

実習園からの評価と、実習関連提出書類（レポート、課題発表等）、各巡回指導担当教員との実習振返りの面談結果を総合して、評価する。

■ 教科書

「保育所保育指針解説」厚生労働省、フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館

■ 参考書

「保育実習の手引き」宮城県保育士養成校連絡協議会

その他、配布資料等

■ 備考

質問等は各巡回担当教員が設定した時間もしくはオフィスアワーで受け付けます。

保育実習指導Ⅱ

(30251)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（44＋8）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

廣瀬 団 子ども生活専攻教員

■ 授業の概要

保育士養成課程における必修科目であり保育実習に係る事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。「保育士」資格取得のために必修である3回の実習（保育所実習Ⅰ及び保育所実習Ⅱ、施設実習：各10日間）に向けて、実習の意義目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等実習の準備を行う。また、模擬保育を通して、実践の場に臨むスキルと心がまえを養う。実習終了後は、実習報告会等を通して実習の振り返りを行い課題を明確にする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・ 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				0.5	0.25	0.25

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 実習の意義・目的の明確化 保育所の社会的役割と責任【廣瀬・他教員】	「実習の手引き」P10～P14 保育所の役割や機能について学びを深める。
第2回	実習オリエンテーション 養護と教育が一体となって行われる保育【廣瀬・他教員】	「実習の手引き」P7～P8, P34～37 保育実習の経過について知る。
第3回	保育所保育士による講義 保育士等の援助や関りについて【廣瀬・他教員】	保育士に求められる子どもの観察や関りの視点を明確にする。
第4回	保育所実習Ⅰの準備・実習日誌の記入 子どもの心身の状態や活動の観察【廣瀬・他教員】	「実習の手引き」P29～P33 実際に実習日誌に必要な事項を記入し、保育士の業務内容を理解する。
第5回	保育所実習Ⅰ直前ガイダンス 保育所の生活の流れや展開の把握【廣瀬・他教員】	「実習の手引き」P13～P14 観察や子どもとの関りを通して子どもへの理解を深める。
第6回	保育所実習Ⅰ振り返り 観察に基づく保育の理解 (グループディスカッション、プレゼンテーション) 【廣瀬・他教員】	観察実習を通して、子どもの心身の状態や発達段階の違いについて具体的に理解する。
第7回	保育所実習Ⅱ直前ガイダンス 指導計画の作成・実践・保育の過程の理解 【廣瀬・他教員】	「実習の手引き」P20 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
第8回	保育所実習Ⅱ振り返り 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 (グループディスカッション、プレゼンテーション) 【廣瀬・他教員】	保育所実習における自己の課題を明確化する。
第9回	子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 【廣瀬・他教員】	子ども・利用者の特性を理解し、養護の大切さを学ぶ。
第10回	施設実習の準備・実習日誌の記入 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 【廣瀬・大瀬戸・他教員】	「実習の手引き」P21～P23 施設における支援の実際について理解する。
第11回	施設実習直前ガイダンス 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 【廣瀬・大瀬戸・他教員】	「実習の手引き」P24～P28 多様で広範な施設職員の職務内容や役割・職業倫理を理解する。
第12回	施設実習振り返り 施設における支援の実際（グループディスカッション、プレゼンテ	施設実習における自己の課題を理解する。

ーション)

【廣瀬・大瀬戸・他教員】

第13回	全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解【廣瀬・他教員】	保育実習での学びを保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について理解を深める。
第14回	実習実践報告会準備① 保育実習の総括と自己評価 【廣瀬・他教員】	保育実習の担当教員より個別事後指導を受け、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。
第15回	実習実践報告会準備② 自己評価に基づく保育の改善 【廣瀬・他教員】	自己評価などを踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
第16回	実習実践報告会準備③ 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 【廣瀬・他教員】	保育実習の事後指導を通して、保育に対する課題や認識を明確にする。
第17回	実習実践報告会準備④ 保育の知識・技術を生かした保育実践 (グループワーク) 【廣瀬・他教員】	保育実習で実践した内容を資料にまとめる。
第18回	実習実践報告会準備⑤ 保育の知識・技術を生かした保育実践 (グループワーク) 【廣瀬・他教員】	保育実習で実践した内容をまとめた資料を基に練習する。
第19回	実習実践報告会グループリハーサル 保育の知識・技術を生かした保育実践 (グループワーク、プレゼンテーション) 【廣瀬・他教員】	保育実習で実践した内容をステージで練習する。
第20回	実習実践報告会全体リハーサル 保育の知識・技術を生かした保育実践 (グループワーク、プレゼンテーション) 【廣瀬・他教員】	保育実習で実践した内容をステージで練習する。
第21回	実習実践報告会 保育の知識・技術を生かした保育実践 (プレゼンテーション) 【廣瀬・他教員】	保育実習で実践した内容を発表する。
第22回	まとめと振り返り (期末試験：レポートによる) 【廣瀬・他教員】	実習実践報告会で発表した内容を自己評価し、今後の課題や目標を明確にする。

■ 履修上の注意

保育士資格取得にかかわる実習指導です。欠席・遅刻は厳に慎むようにしてください。

本授業への取り組み状況 (出席や各種課題の提出、他科目の成績等) によっては実習の延期または中止をする場合があります。

グループワークなどによる他の受講者との協働作業では、協力的・協調的態度を重視します。

■ 成績評価方法・基準

実習に向けての準備状況や積極的な受講態度などの授業への取り組み状況 (80%)、提出課題状況 (20%) により総合的に評価します。提出物は期日を守り提出してください。

学外実習未実施者への単位認定はしません。

■ 教科書

〔保育実習の手引き〕〔宮城県保育士養成校連絡協議会〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時間は掲示で確認) にて受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

また、実習実践報告会に向けての準備・進行具合によっては回数を変更する場合があります。

教育実習（事前事後指導を含む。）

(30252)

単位：5

対象学科：子専1年・子専2年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高橋 恵美 武田 早苗 子ども生活専攻教員

■ 授業の概要

「幼稚園教諭二種免許状」取得のための必修科目であり、教育実習の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。保育現場での勤務経験のある実務家教員により、2年次後期の「幼稚園実習」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画作成等の学習を行う。また、実際に幼稚園で約4週間の学外実習（見学・観察・参加・部分・指導実習等）を行う。実習終了後は、「保育・教職実践演習」の授業と連携して、グループワークや発表等を通して実習の振り返りを行い、課題を明確にする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・実習の意義、目的を明確にし、実習内容（実習の計画、観察、記録、評価の方法等）について理解を深める。					0.25	0.25
・実習生として遵守すべき義務等を理解し、教育活動に参画する意識を高める。						0.5
・実習で得た知識と経験を振り返り、さらに習得すべき知識や技能等を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション（2年間の予定）【高橋】	2年間の学修の見通しを立てる。
第2回 実習先の説明・希望調査【高橋】	実習の希望先を調べ、調査票を提出する。
第3回 基礎実習Ⅰ準備・ガイダンス【高橋】	説明プリントをよく読み、見学の準備をする。
第4回 基礎実習Ⅰガイダンス（附属ますみ幼稚園主任）【高橋】	説明プリントをよく読み、ますみ幼稚園での基礎実習に向けて準備をする。
第5回 基礎実習Ⅰ（ますみ幼稚園・観察実習）【高橋】	観察実習の内容を記録し提出する。
第6回 基礎実習Ⅰ事後指導（グループディスカッション）【高橋】	実習記録を基に基礎実習の振り返りをする。
第7回 オリエンテーション（1年間の予定） 実習及び実習指導の予定・概略【武田】	2年次後期の実習に向けた準備の見通しを立てる。 実習・実習指導の予定を確認する。
第8回 実習の意義・目的の明確化 実習の心構えについての確認【武田】	実習の手引きを熟読し、実習の準備を進める。
第9回 幼稚園についての確認 幼稚園教諭の仕事についての確認【武田】	視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。
第10回 実習関係書類の準備【武田】	実習関係書類の記入等の準備をする。
第11回 実習日誌（実習記録等）の書き方【武田】	授業の内容を基に記録の書き方を確認する。
第12回 指導計画案の作成【武田】	授業の内容を基に指導計画を作成する。
第13回 実習先幼稚園との打ち合わせ 実習直前ガイダンス 【子ども生活専攻教員全員】	ガイダンスの内容を確認し、訪問と実習直前の準備をする。
第14回 教育実習（20日間）実習園の指導の下、子どもの観察および対応、教材研究等に取り組む。その他、教員による講義の受講、個別指導、観察・参加実習、責任実習等を行う。	実習に必要な準備をする。 一日の実習を評価し、課題の明確化と翌日の目標設定を行う。
第15回 実習の振り返りと疑問の解消 （グループディスカッション、プレゼンテーション） 【武田】	実習を振り返り、今後の課題を明確にする。
第16回 実習評価等の個別事後指導 【子ども生活専攻教員全員】	実習評価を基に、各自の課題を明確にする。
第17回 実習・実践報告会準備（グループワーク） 【子ども生活専攻教員全員】	報告会資料の作成、発表の準備等をする。
第18回 実習・実践報告会での発表（プレゼンテーション） （期末試験） 【子ども生活専攻教員全員】	報告会に向けての準備と練習をする。 報告会を振り返る。 卒業及び就業開始までの課題を考える。

■ 履修上の注意

幼稚園教諭（二種）免許状取得にかかわる実習指導です。欠席・遅刻は厳に慎むようにしてください。

本科目の取り組み状況（出席・各種提出物の提出、他科目の成績等）によっては実習ができないことがあります。

学外実習（4単位）と事前事後指導（1単位）にて認定されますので、学外実習及び事前事後指導のいずれかでの認定はありません。

教員免許取得に向けてより高い志と一層の努力を求めます。

授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。

グループワークなどによる他の受講者との協働作業では、協力的・協調的態도를重視します。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況：受講態度（積極的参加）・課題提出状況等（70%）、提出課題（20%）、実習・実践発表会：期末試験（10%）により総合的に評価します。

提出物は提出期限内に必ず提出してください。

実習に係るすべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。

提出課題等については、添削後、フィードバックします。

期末試験（発表）でのフィードバックは、後日行います。

学外実習未実施者への単位認定は致しません。

■ 教科書

〔教育実習の手引き〕〔宮城県幼稚園教育実習連絡協議会〕

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

また、実習実践報告会に向けての準備・進行具合によっては回数を変更する場合があります。

保育・教職実践演習（幼稚園）

(30253)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高橋 恵美 武田 早苗 廣瀬 団

■ 授業の概要

短大における2年間の学びの総まとめとして、教職課程（幼稚園教諭）および保育士養成課程における学修（授業、教育実習、保育実習等）の振り返りを行い、卒業後に保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）として働くために必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認して、自己の課題を明確にする。その上で、保育者として必要な資質能力や技能を身につけていくため、保育現場での勤務経験のある実務家教員による事例研究やグループディスカッション、ロールプレイ、フィールドワーク、プレゼンテーション（模擬保育）等を行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> ・学内での学修および教育・保育実習を通しての学び等を振り返り、自己の課題を明確にする。 ・保育実践に必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認する。 ・保育者としての倫理観と規範意識を持ち、適切に行動できるようになる。 ・子どもの発達や心身の状況に応じて、適切な指導を行うことができるようになる。 ・子どもの状況等に応じて、指導計画や保育環境等を工夫できるようになる。 					0.5	0.25 0.25

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	これまでの学修の振り返り（履修カルテの記入）【高橋】 保育・教育実習での学びの振り返り 保育の場における教育実践力	履修カルテや保育・教育実習での学びを基に、これまでの学修の振り返りをする。
第2回	子ども理解について①：現役保育者との意見交換・指導計画の理解【高橋】	指導計画の理解を深め模擬保育の構想をする
第3回	子ども理解について②：事例検討（グループディスカッション）【廣瀬】	既習の授業内容（子どもの発達等）を確認する。
第4回	子ども理解とクラス運営・ICTの活用【高橋】	ICTの活用方法を検討する
第5回	子育て支援の理解①：保育施設見学（フィールドワーク）【高橋】	保育施設見学の準備をする。
第6回	子育て支援の理解①：事例検討（ロールプレイング）【武田】	既習の授業内容（子育て支援等）を確認する。
第7回	循環的なPDCAによる保育の質の向上を考える【武田】	模擬保育のための計画と準備をする。 実践する内容についての練習をする。
第8回	指導計画に基づく模擬保育：保育の構想と指導計画立案【高橋 武田】	模擬保育（製作他）のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返りをし、個人の課題を明確にする。
第9回	指導計画に基づく模擬保育：製作遊び他【武田】	模擬保育（製作他）のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返りをし、個人の課題を明確にする。
第10回	指導計画に基づく模擬保育：運動遊び他【廣瀬】	模擬保育（運動遊び他）のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返りをし、個人の課題を明確にする。
第11回	指導計画に基づく模擬保育：リズム遊び他【高橋】	模擬保育（リズム遊び他）のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返りをし、個人の課題を明確にする。
第12回	模擬保育のリフレクション：観察と評価及び改善【高橋】	全体の振り返りをし、全体から見えてくる課題を個人に置き換えて、今後の個人の保育への見通しを立てる。
第13回	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任【武田】	保育の現状と保育者の役割を理解し、まとめる。

第14回	危機管理・保育のトラブル対応	【武田】	授業で実践した内容を復習する。
第15回	保育者としての資質能力の確認とまとめ	【高橋】	保育者として必要な資質・能力について再確認する。
第16回	期末試験・レポート		

■ 履修上の注意

保育者になるための総まとめの授業です。積極的に授業に取り組むようにしてください。

模擬保育ではこれまでの実習（全日・部分指導等）の成果を発揮し、模範的な模擬保育を行えるよう努力してください。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況（積極的参加）（40%）、模擬保育（30%）、期末試験：レポート課題（30%）により総合的に評価します。

提出課題・期末試験については、添削後フィードバックします。

■ 教科書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 参考書

必要に応じて適宜紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

ピアヘルパー演習

(30254)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科 : 子専1年

授業形態 : 演習 学期 : 通年 必・選 : 選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子 植 松 公 威

■ 授業の概要

本科目は、ピアヘルパー認定資格に対応する科目となっている。カウンセリングや関連する心理学の理論や方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人と関わるために必要な基本的なコミュニケーションスキルを構成的グループエンカウンターなどの実践を通し深めていく。また、ピアサポートの「相手も自分も尊重し支え合う」理念を基に、身近な人との交流が対人関係問題の発生を予防する意味があることを理解する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・カウンセリングの基本的な理論・技法について理解する。			0.2	0.4	0.2	0.2
・カウンセリングを学ぶことにより、自己理解・他者理解を深め、自己を成長させることができることを知る。						
・人との関りが重要である職業に必要な実践力を身につける。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 オリエンテーション【米川】	ピアカウンセリングエクササイズ SGE①自己紹介・他己紹介
第2回 構成的グループエンカウンターとは【米川】	教科書P10～21 SGE②ふれあい体験・自己理解
第3回 カウンセリングの種類と関係領域【植松】	教科書P22～39 ピアヘルピングのプロセスについて理解する。
第4回 カウンセリングの動向【植松】	教科書P40～50 折衷主義やコーヒークップ方式について学ぶ。
第5回 小テスト① (第1章 導入)【米川】	教科書P10～50までの内容に沿って、小テストを行う。テスト解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック内容を確認し、復習する。
第6回 ピアヘルピングの言語的技法【米川】	教科書P52～64 ロールプレイを通して言語的技法について理解する。
第7回 ピアヘルピングの非言語的技法【米川】	教科書P65～77 ロールプレイを通して非言語的技法について理解する。
第8回 問題への対処法【米川】	教科書P78～84 SGE③シェアリング
第9回 ピアヘルパーの心構え【米川】	教科書P85～95 SGE④将来の願望
第10回 小テスト② (第2章 カウンセリングスキル)【米川】	教科書P52～95までの内容に沿って、小テストを行う。テスト解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック内容を確認し、復習する。
第11回 ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点【米川】	教科書P98～103 SGE⑤自己開示
第12回 青年期の課題① (学業・進路領域)【植松】	教科書P104～115 ロールプレイを通して身近なピアサポート体験を通して理解を深める。
第13回 青年期の課題② (友人・グループ領域)【植松】	教科書P117～128 ロールプレイを通して身近なピアサポート体験を通して理解を深める。
第14回 青年期の課題③ (関係修復・心理領域)【植松】	教科書P129～141 ロールプレイを通して身近なピアサポート体験を通して理解を深める。
第15回 ピアヘルパーの心意気【米川】	SGE⑥魔法の言葉かけ 期末試験に向けた模擬課題の内容を理解する。
第16回 期末試験【米川】	試験解答の正誤を確認し、誤りやフィールドワー

■ 履修上の注意

授業の取り組みでは、受講態度（発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ、ロールプレイや構成的グループエンカウターの積極的な参加など）を重視します。また、構成的グループエンカウターの一環として、学内行事などのピア活動も行います。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（発言、質問、構成的グループエンカウターやロールプレイの積極的な参加など）（50%）、小テスト（20%）、期末試験（30%）により総合評価します。課題や小テスト、期末試験については授業中に正誤を確認し、具体的に解説をしフィールドワークします。

■ 教科書

[ピアヘルパハンドブック][日本教育カウンセラー協会 編][図書文化][1, 500円]

■ 参考書

適宜、授業中に紹介します。

ピアヘルパー認定資格取得に向けて、NPO日本教育カウンセラー協会の研修動画で自習してください。<https://www.jeca.gr.jp/movie/>

■ 備考

ピアヘルパー認定資格を任意で受験する場合、心理学、子どもの保健、発達心理学、障害児保育、教育・保育相談、教育心理学、子ども家庭支援論のうち、2科目4単位以上を取得見込みであることが条件となる。また、ピアヘルパー認定資格を受験する者は、本科目を受講すること。

食物栄養学専攻専攻科目

有機化学

(30101)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 食専1年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

小川 智久

■ 授業の概要

身の回りの物質の中でも、衣食住のあらゆる場面に存在する有機化合物について、分子レベルで理解するため、物質の分子構造およびその構造を組み立てている結合の特徴、性質を理解することに重点をおく。

有機化学の基礎、特に有機化合物の反応性と化学結合、官能基の性質、立体化学を中心に講義し、生体成分や食品、医薬など

身の回りの物質 (有機化合物) の特性を理解する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・有機化合物を分子式、構造式として理解できるようになる。	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
・生体成分や食品などの有機化合物の構造から、その特性を理解できるようになる。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 序論1 身の回りの物質 有機と無機 元素周期表 食物栄養学における有機化学	教科書12ページ
第2回 原子構造、電子配置と軌道、共有結合、電気陰性度	教科書指定ページの熟読 (教科書第1部はじめに12-16ページ)
第3回 アルカン: 燃料や動植物に由来する成分を構成する天然資源	教科書指定ページの熟読 (教科書第1章 17-31ページ)
第4回 アルケン: 人体にとって必須の脂肪酸の炭素鎖はアルケン!	教科書指定ページの熟読 (教科書第2章 32-42ページ)
第5回 シクロアルカン・シクロアルケン	教科書指定ページの熟読 (教科書第3章 43-48ページ)
第6回 官能基: 有機化合物の性質は官能基の働きによってきまる	教科書指定ページの熟読 (教科書第II部はじめに50-51ページ)
第7回 アルコールとエーテル	教科書指定ページの熟読 (教科書第4章 52-62ページ)
第8回 第1回-7回の講義の復習・中間試験	第1回-7回の講義の復習
第9回 アルデヒドとケトン	教科書指定ページの熟読 (教科書第5章 63-70ページ、第6章 71-78ページ)
第10回 カルボン酸とエステル	教科書指定ページの熟読 (教科書第7章 79-88ページ、教科書8章 97-104ページ)
第11回 アミンとアミド	教科書指定ページの熟読 (教科書第9章 105-122ページ)
第12回 芳香族化合物	教科書指定ページの熟読 (教科書第10章 125-163ページ)
第13回 有機化合物の立体化学と求核反応	教科書指定ページの熟読 (教科書7章 89-93、第5章 66ページ発展)
第14回 生体分子の有機化学1 糖類の化学	教科書指定ページの熟読 (教科書11章 168-181ページ)
第15回 生体分子の有機化学2 アミノ酸の化学	教科書指定ページの熟読 (教科書13章 198-217ページ)
第16回 期末試験	第1回-15回の講義の復習

■ 履修上の注意

教科書の指定ページを熟読し、予習、復習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

出席・受講態度 (発言・質問) 40%、試験 (小テスト含む) 60%を基準として総合的に評価する。

希望する学生がいたら、本人の採点済試験答案を開示する。試験に対するフィードバックとして、全体的に理解が不十分な項目については、Googleクラスルームを介して、補足説明をおこなう。

■ 教科書

栄養科学イラストレイテッド 有機化学 山田恭正編 羊土社 ISBN 978-4-7581-1357-1

■ 参考書

必要に応じて講義中に示す。

■ 備考

質問に関してはオフィスアワーのほか、授業終了後に申し出てもらいあらかじめ時間を調整して受け付ける。またメールやクラスルームを介しての質問も受け付ける。

栄養情報処理演習Ⅰ

(30103)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

池田 展敏 松尾 広

■ 授業の概要

本演習では、最初に食の分野で業務上必要となる各種文書（食品表示、チケット、商品シール、レシピ表、メニュー表など）の作成・印刷を行う。この際、「画像の活用」に注目して授業を行う。次に、食生活に関する調査を題材にして、アンケート用紙の作成と集計作業の演習を行う。この際、エクセルの各種関数を活用し、度数の集計などの単純集計から、散布図やクロス表集計を使った解析まで、データ処理の演習を行っていく。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・「word」の表の挿入を活用し、画像やレシピ表のレイアウトができる。	0.3		0.6			0.1
・専用ソフトを使い、チケットやシールなどの印刷ができるようになる。						
・アンケート調査の一連の流れ（調査計画、調査用紙作成、結果集計、表 ・グラフの活用、統計処理）を理解する。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 授業の内容、進め方、クラスルームの準備、データのやりとりなどの確認（松尾）	配布資料の復習。
第2回 表と画像を活用したレシピ表の作成1（松尾）	配布資料の復習。課題提出。
第3回 表と画像を活用したレシピ表の作成2（レイアウトのコピーなど既存データの活用）（松尾）	配布資料の復習。課題提出。
第4回 シール・チケット作成ソフトの使い方と注意点（松尾）	配布資料の復習。課題提出。
第5回 シールの作成と印刷（松尾）	配布資料の復習。課題提出。
第6回 チケットの作成と印刷（松尾）	配布資料の復習。課題提出。
第7回 食品表示とメニュー表作成および注意点・印刷（松尾）	配布資料の復習。課題提出。
第8回 統計調査の目的と方法。アンケート用紙の作成（池田）	配布資料の復習。課題提出。
第9回 アンケート結果の集計（池田）	配布資料の復習。課題提出。
第10回 統計調査のデータ解析（度数分布）（池田）	配布資料の復習。
第11回 統計調査のデータ解析（散布図）（池田）	配布資料の復習。
第12回 統計調査のデータ解析（クロス表集計）（池田）	配布資料の復習。
第13回 統計調査のデータ解析（検定）（池田）	配布資料の復習。レポート作成に取り組む。
第14回 データ解析の考察とまとめ（池田）	配布資料の復習。レポート作成に取り組む。
第15回 提出物の総チェック（池田）	配布資料の復習。
第16回 期末試験（追加の提出課題による）	配布資料の復習。

■ 履修上の注意

配られた資料などは全て整理して持参すること。クラスルームも活用するので、参照して復習に役立てること。

■ 成績評価方法・基準

各回の学習内容に関する提出物（90%）。期末試験に代わる追加課題提出（10%）。提出物についてはコメントし返却する。

■ 教科書

毎回、パワーポイント等の資料を印刷、または、クラスルームを通じて配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

栄養情報処理演習Ⅱ

(30104)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

池田展敏 益田裕司

■ 授業の概要

前期の栄養情報処理演習Ⅰにつづき、PCを使った演習を行う。エクセルの演習では、ドロップダウンやvlookup関数の活用例（メニューのレパートリー忘備録、年齢・性別・活動レベルに合わせた摂取基準表示）について演習を行う。次に、給食便りを想定したコンテンツとウェブページ作成の演習を行う。業務上役に立つであろう「ピボットテーブル」や「差し込み印刷」の演習も行う。さらに栄養価計算ソフトの使い方について学習・演習し、栄養価成績表の見方を学習する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・ドロップダウンやvlookup関数の意味を理解し、エクセルで活用できる。	0.3		0.6			0.1
・給食だよりのコンテンツ案を考えることができ、ウェブページに応用できる。						
・栄養価計算の情報処理ができるようになる。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンスと授業準備。エクセルを使った栄養価計算（単純版）（池田）	配布資料の復習。演習課題の提出。
第2回 エクセル（ドロップダウン）の演習（池田）	配布資料の復習。演習課題の提出。
第3回 エクセル（vlookup）の演習（池田）	配布資料の復習。演習課題の提出。
第4回 レーダーチャートの基本（池田）	配布資料の復習。演習課題の提出。
第5回 ドロップダウン、vlookup、レーダーチャートを利用した応用課題（池田）	配布資料の復習。演習課題の提出。
第6回 給食便り風のコンテンツを考える。（池田）	配布資料の復習。コンテンツ内容について各自考えておく。
第7回 給食便り風のコンテンツ作成（池田）	配布資料の復習。
第8回 AIを利用したウェブコンテンツ作成（池田）	配布資料の復習。演習課題の提出。
第9回 ピボットテーブルおよび差し込み印刷の演習（池田）	配布資料の復習。演習課題の提出。
第10回 復習および提出物の総チェック（池田）	配布資料の復習。演習課題の提出。
第11回 献立作成と栄養計算アプリの利用について（益田）	配布資料の復習。
第12回 演習用献立の入力と確認（益田）	配布資料の復習。演習課題の提出
第13回 エクセルからパワーポイントへの利用（益田）	配布資料の復習。
第14回 パワーポイントによるプレゼンテーションの表現方法（益田）	配布資料の復習。
第15回 作成したプレゼンテーションの確認（益田）	配布資料の復習。演習課題の提出。
第16回 期末試験（追加提出課題による）	配布資料の復習。

■ 履修上の注意

配られた資料などは全て整理して持参すること。クラスルームも活用するので、参照して復習に役立てること。

■ 成績評価方法・基準

各回の学習内容に関する提出物（90%）。期末試験に代わる追加課題提出（10%）。提出物についてはコメントし返却する。

■ 教科書

毎回、パワーポイント等の資料を印刷、または、クラスルームを通じて配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

社会福祉論

(30105)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

■ 授業の概要

国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）や現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

0.4 0.6

- ・社会福祉の理念や概念に関する知識を身につける。
- ・社会福祉に関連する法・制度に関する知識を身につける。
- ・社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは	配布プリントをよく読み、この授業で学習内容をまとめておく（次回確認）。
第2回 日本における社会福祉の歴史と発展	配布プリントをよく読み、日本の社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 諸外国における社会福祉の歴史と主な制度	配布プリントをよく読み、諸外国における社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 諸外国における社会福祉の現状と課題	配布プリントをよく読み、諸外国における社会福祉の現状と課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 社会福祉のニーズとは	配布プリントをよく読み、ニーズについて内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 社会福祉に携わる専門職	配布プリントをよく読み、専門職について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 ボランティア	配布プリントをよく読み、ボランティアの概念や歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第8回 社会福祉援助技術	配布プリントをよく読み、援助技術の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第9回 障害者福祉①概念とその歴史	配布プリントをよく読み、障害者福祉の概念と歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 障害者福祉②身体障害者補助犬法	配布プリントをよく読み、身体障害者補助犬法の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 高齢者福祉	配布プリントをよく読み、介護を含む高齢者福祉の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 児童福祉	配布プリントをよく読み、児童福祉の歴史と枠組について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 子どもの権利条約	配布プリントをよく読み、子どもの権利条約について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 貧困問題と社会福祉	配布プリントをよく読み、貧困とその課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート	配布プリントをよく読み、社会福祉の展望及びこれまでの講義内容の振り返りを行う。
第16回 試験	筆記試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。

- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末試験（60％）、平常点（40％）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
- ・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔新 社会福祉とは何か〕〔大久保秀子著〕〔中央法規〕〔1650円〕

■ 参考書

- ・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付ける。

公衆衛生学

(30106)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学では、主に公衆衛生の概念や歴史といった概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について概説する。また、医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生との関係、そして各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状等も合わせて説明する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

- ・公衆衛生の概念や歴史に関する知識を身につける。
- ・ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動に関する知識を身につける。
- ・公衆衛生の状況や課題を把握する力を身につける。

0.4 0.6

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、公衆衛生概要：健康の概念	教科書をよく読み、この授業で扱う内容についてまとめておく（次回確認）。
第2回 公衆衛生概要：公衆衛生の概念と歴史	教科書をよく読み、公衆衛生の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 主要疾患の疫学と予防対策：生活習慣病の概念	教科書をよく読み、生活習慣病の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 主要疾患の疫学と予防対策：主要部位のがん、その他	教科書をよく読み、悪性腫瘍や循環器系疾患等の現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 公衆衛生に関する統計資料：保健統計	教科書をよく読み、保健統計の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 公衆衛生に関する統計資料：人口動態統計、その他	教科書をよく読み、人口動態統計等について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 健康・疾病の測定と評価：疫学の概念	教科書をよく読み、疫学の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第8回 健康・疾病の測定と評価：疫学の応用	教科書をよく読み、疫学の応用について内容をまとめておく（次回確認）。
第9回 環境と健康：生態系と人間生活	教科書をよく読み、人間の生活と生態系との関係について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 環境と健康：環境汚染と健康	教科書をよく読み、環境汚染や公害について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 国民健康づくり対策	教科書をよく読み、健康づくり運動について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 学校保健、母子保健	教科書をよく読み、学校保健・母子保健行政の概要等について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 産業保健	教科書をよく読み、産業保健行政の概要等について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 高齢者保健	教科書をよく読み、教科書をよく読み、高齢者保健及びこれまでに授業で取り上げた内容について振り返りを行う（次回試験）。
第15回 期末試験、授業評価アンケート	教科書をよく読み、期末試験に向けた復習を行う。
第16回 まとめ	試験の解答・解説を踏まえ、公衆衛生活動や法令等で理解していない内容を復習する。

■ 履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。
- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 期末試験（60％）、平常点（40％）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
- ・ ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・ 期末試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔衛生・公衆衛生学 2024年版〕〔熊谷優子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3000円:税別〕

■ 参考書

- ・ 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考

- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付ける。

健康管理概論

(30107)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

日本は世界でも有数の長寿国となっているが、これまでに我が国の疾病構造は感染症から生活習慣病、そして老人性の退行疾患と大きく変化・推移してきた。この講義では、単に長寿ではなく、元気に長生きするためにはどのような健康管理が必要であるのか、現在と将来の健康維持に向けた健康管理のあり方とその重要性について解説する。特に健康づくりの柱とされている運動・栄養・休養を中心に心身の健康保持・増進に加え、社会的な健康も合わせて取り上げて説明する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・健康管理の目的や概念に関する知識を身につける。	0.3		0.7			
・健康の保持・増進のための方法に関する知識を身につける。						
・健康状態を把握する力を身につける。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス	資料をよく読み、この授業の学習内容についてまとめておく（次回確認）。
第2回 健康とは（定義・歴史）	資料をよく読み、健康とは何かについて内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 日本の人口構造と平均寿命の変遷	資料をよく読み、人口構造と平均寿命の変遷について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 高齢化と少子化社会と健康	資料をよく読み、少子高齢化について内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 現代の健康状態と疾病	資料をよく読み、健康のレベルと疾患との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 ライフスタイル、生活習慣の現状と課題	資料をよく読み、ライフスタイル等について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 体脂肪、BMI、基礎代謝と健康	資料をよく読み、BMIや基礎代謝の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第8回 メタボリックシンドロームと予防、小テスト（前半分）	資料をよく読み、メタボリックシンドロームについて内容をまとめておく（次回小テスト）。
第9回 健康を支えるからだの仕組み	資料をよく読み、身体の構造について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 栄養と健康	資料をよく読み、栄養と健康との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 運動・体力と健康	資料をよく読み、運動の概念と健康との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 ストレス・休養と健康	資料をよく読み、ストレスの概念と心の健康について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 加齢・老化と健康	資料をよく読み、加齢の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 社会関係資本と健康	資料をよく読み、ソーシャルキャピタルの概念等について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 まとめ、授業評価アンケート	資料をよく読み、これまでの授業で学んだ内容から健康管理の重要性について内容をまとめておく（次回試験）。
第16回 期末試験	期末試験に向けて復習を行う。

■ 履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。
- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末試験（70%）、平常点（30%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。

- ・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・期末試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔社会・環境と健康 健康管理概論 第4版〕〔東あかね他編〕〔講談社〕〔2800円:税別〕

■ 参考書

〔衛生・公衆衛生学 2024年版〕〔熊谷優子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3000円:税別〕

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付ける。

解剖生理学

(30108)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

大崎雄介

■ 授業の概要

栄養学の理解には各臓器の機能の理解が必須であり、人体の構造と機能に関する知識を基にした栄養指導や栄養教育ができる栄養士となるために、基本的な知識を習得することが目標である。解剖学は人体の各臓器・組織の構造を、生理学は人体の各臓器・組織の機能を学ぶ学問体系である。臓器・組織の構造は、その機能と密接に関連していることから、本講義では解剖学と生理学の両方の理解を深めるために、構造と機能を関連づけながら解説していく。（授業担当者は胃腸症状改善作用を有する機能水製造装置の企業にて、機能水の新たな機能を解明する研究の職務経験がある。）

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・人体の基本構造について理解する。	0.2					
・人体の臓器・組織の機能を構造と関連付けて理解する。			0.4	0.2		
・栄養素の働きを、解剖生理学的観点から説明できる能力を身につける。						0.2

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション、細胞の構造と機能	第1章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第2回 組織の構造と機能・皮膚の構造と機能・体温調節	第14章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第3回 血液系・免疫系	第3章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第4回 呼吸器系	第5章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第5回 循環器系	第4章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第6回 腎臓・泌尿器系	第6章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第7回 生殖器系	第7章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第8回 内分泌系	第10章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第9回 神経系	第11章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第10回 感覚器系	第12章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第11回 骨格系	第8章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第12回 筋系	第9章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第13回 消化器系1（上部消化管）	第2章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第14回 消化器系2（下部消化管）	第2章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第15回 レポート	講義全体の内容を復習するためのレポート課題を課す。
第16回 全体のまとめと復習	講義全体を復習する。

■ 履修上の注意

解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要であるので、事前に生物学の復習を行っていることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

毎回の授業で課す小テストの結果を含む受講態度(60%)、期末試験（レポートによる）の評価(40%)で評価する。

■ 教科書

〔栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能〕〔志村二三夫 他 編〕〔羊土社〕〔3, 190円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。

運動生理学

(30109)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

本授業では、運動に伴う生理的な諸現象について学習すると共に、現代人の多くが罹患する可能性がある各種生活習慣病の予防及び要介護予防等に必要運動処方を作成するための基礎的知識について教授する。そして、対象者（運動実施者）の身体的特性等に応じた適切な運動処方を作成できるまでの能力を身につけさせる。加えて受講者個人に対しても、自分に合った運動やスポーツを積極的・継続的に実践していく人材に成長していけるよう指導する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・「運動生理学」についての基礎的知識を理解する			0.6	0.3		0.1
・今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 概論／暑熱環境①（気温）	教科書やネットから気温について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。ループリックを配付する。
第2回 暑熱環境②（汗）	教科書やネットから汗について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第3回 暑熱環境②（水分補給）	教科書やネットから水分補給について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第4回 運動とエネルギー代謝①（エネルギーとは）	教科書やネットからエネルギーについて自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第5回 運動とエネルギー代謝②（エネルギー出納）	教科書やネットからエネルギー出納について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第6回 筋力について	教科書やネットから筋力について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第7回 持久力について	教科書やネットから持久力について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第8回 中間のまとめ（ミニテスト）	ノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと
第9回 健康づくりのための身体活動基準	教科書やネットから身体活動基準について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第10回 スポーツ栄養学①（三大栄養素）	教科書やネットから三大栄養素について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第11回 スポーツ栄養学②（ビタミン・ミネラル）	教科書やネットからビタミン・ミネラルについて自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第12回 スポーツ栄養学③（増量・減量）	教科書やネットから増量・減量について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第13回 スポーツ栄養学④（企業との実例等）	教科書やネットから栄養サポートやCSRについて自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第14回 ライフステージ別の運動①（幼児期～成人期）	教科書やネットから発達について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第15回 ライフステージ別の運動②（高齢期）	教科書やネットから老化について自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第16回 後半のまとめ（ミニテスト）	ノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行うこと

■ 履修上の注意

ライフステージ栄養学、生化学、解剖生理学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道德行為が判明した学生は注意・報告を行う。

■ 成績評価方法・基準

ミニテストやレポート等・・・70%

ルーブリック・・・30%（積極的な受講態度など。何もなければ六割を原点とした加点法とします）

成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書

無し

■ 参考書

〔スポーツ栄養学〕〔岩田純編著〕〔アイ・ケイ コーポレーション〕〔2530円〕

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとしてミニテスト等は採点をして返却・解説する。

生化学

(30110)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

生化学とは生命現象をタンパク質・脂質・核酸などといった生体物質の性質・機能の観点から解析する学問で、栄養学を学ぶ上での基礎として人体の仕組みについて構造や機能を生化学的に理解することは必須である。この授業ではタンパク質・糖質・脂質の構造・化学的性質および生体での代謝をそれぞれの栄養素の代謝の関連をふまえて解説する。遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能、体内の調節機能と恒常性の維持についても述べる。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・生体を構成する各成分の種類と構造および化学的性質が説明できる			0.8			0.2
・生体を構成する各成分の代謝および機能が説明できる						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 生化学とは、細胞の構造、生体構成成分	教科書の「序」「1章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第2回 アミノ酸とは、アミノ酸の種類	教科書の「2章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第3回 アミノ酸の性質、タンパク質とは	教科書の「2章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第4回 糖質とは、糖質の分類、単糖・オリゴ糖の種類と性質	教科書の「4-1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第5回 多糖類の種類と性質、脂質とは、脂質の分類	教科書「4-1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第6回 脂肪酸の特徴と種類、複合脂質の種類と性質	教科書「4-2」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第7回 誘導脂質酵素の種類と性質、酵素とは・酵素の分類・性質	教科書「4-2」および「3章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第8回 [中間試験]、糖質の代謝：解糖系	教科書「6章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第9回 試験の解説、クエン酸回路	教科書「6章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回 電子伝達系とエネルギー	教科書「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回 トリアシルグルセロールの代謝、脂肪酸のβ-酸化	教科書「7章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回 リン脂質・コレステロールの代謝	教科書「7章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第13回 体内でのアミノ酸の利用、尿素回路	教科書「8章」の該当箇所を事前に読み、授業後

	にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回 核酸の種類・構造と機能	教科書「9章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回 [期末試験]、タンパク質の生合成	教科書「9章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回 試験の解説、個体の調節機能と恒常性	教科書「10章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

内容の理解できないところがあれば放置せず、質問したり自分で調べたりして、疑問点の解消に努めること。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書

わかりやすい生化学、林 寛 他、三共出版、2, 400円＋税

■ 参考書

無し

■ 備考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

病理学

(30111)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

■ 授業の概要

病理学は医学を正しく理解するために、基本となる重要な学問である。栄養系の現場では大局的に疾病の全体像を把握する事が求められる。主に病理学の総論としての病因、細胞の異常、嚥下障害、循環障害、代謝異常、感染症、免疫、炎症、腫瘍について、ヒトの病気の成り立ちに興味を持ちながら、体系立てて理解できることを目指す。栄養士が必ず遭遇する嚥下障害についての基礎知識とともに、臨床医師の経験から実際の臨床現場での事例も交え、幅広く学習し、健康と栄養に関連する専門的な基礎知識を修得できるように講義を行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・病理学の基本的知識を学び身につける。			0.8			0.2
・ヒトの病気の成り立ちを体系的に理解できるようになる。						
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション、病気と病理学（内因、外因）	教科書第1章を読み、不明点は質問
第2回 嚥下障害について	参考書第1章第3章を読んで、不明点は質問
第3回 細胞の異常（細胞構造と細胞傷害、新陳代謝）	教科書第2章ABを読み、不明点は質問
第4回 細胞の異常（正常細胞の新陳代謝、再生・修復など）	教科書第2章CDを読み、不明点は質問
第5回 老化	教科書第6章を読み、不明点は質問
第6回 循環器系の働き	教科書第4章Aを読み、不明点は質問
第7回 循環障害と主な疾患	教科書第4章BCを読み、不明点は質問
第8回 代謝異常（総論、糖尿病）	教科書第5章A～Cを読み、不明点は質問
第9回 代謝異常（脂質・核酸・蛋白など）	教科書第5章D～Hを読み、不明点は質問
第10回 感染	教科書第7章A～Dを読み、不明点は質問
第11回 免疫（免疫機構、免疫監視機構、免疫のしくみと働き）	教科書第8章Aを読み、不明点は質問
第12回 免疫異常（アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全など）エビペンの模型を用いた実習	教科書第8章B～Fを読み、不明点は質問
第13回 炎症（炎症の正体、原因、基本病変、分類など）	教科書第9章A～Dを読み、不明点は質問
第14回 腫瘍（癌の正体、分類、癌の特性）	教科書第10章A～Cを読み、不明点は質問
第15回 腫瘍（癌の診断、治療）	教科書第10章DEを読み不明点は質問
第16回 期末試験（レポート）	

■ 履修上の注意

以前に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習しておくことが望ましい。

授業は教科書に沿って講義を進める。小テストや課題にgoogle classroom を利用する。PCもしくはスマートフォンに接続できる環境を準備しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

授業中に行う授業内容理解度確認のための小テスト（80％程度）とレポート提出等の受講状況（20％程度）で評価する。試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

〔なるほどなっとく！病理学 改訂2版〕〔小林正伸 著〕〔南山堂〕〔2, 200円＋税〕

■ 参考書

〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて 改訂第2版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3, 960円〕

オープンな教育リソース：

嚥下スクリーニングテスト 東北大学病院嚥下治療センター 一般病棟用 <https://www.youtube.com/watch?v=Eyd8MJqRPbw>

■ 備考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。

質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け付ける。
本科目では、学修内容に合わせ、エビペンの模型を用いた実習を行う(active learning)。

食品学

(30112)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

栄養士としての実践に役立つ基礎を習得させることを目的として、本授業では、私たちの体を構成している様々な食品に含まれる栄養素の種類と組成について説明する。また食品を構成する各成分の化学的特性と相互作用、食品における役割についても解説する。併せて、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのかも解説し、食品学の分野が栄養学・調理学の分野とも関わっていることを理解できるように指導する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・食品を構成する栄養素の化学的性質を理解する。			0.6		0.1	0.3
・食品成分の栄養特性と物理特性について基礎的な知識を習得する。						
・おいしく栄養バランスのとれた食事内容を科学的に組み立てる力を身につける。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス、食品の定義、食品と環境、食品の分類	事前に教科書の第1章を読む。事後に教科書と資料をもとにしてノートを整理する。
第2回 食品の3つの機能、物質を構成する要素（原子と分子の基礎理解）	事前に教科書の第5章(5.1)を読む。教科書のほか、原子・分子・物質の化学的性質について復習しておく。事後にノート整理。
第3回 食品と水分	事前に教科書の第2章(2.1)を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題(水分に関する箇所)を解く。
第4回 炭水化物 I：定義と分類、単糖の構造と性質、化学的性質	事前に教科書の第2章(2.3)を読む。事後にノート整理。
第5回 炭水化物 II：多糖類の性質、糖の反応性と炭水化物としての糖	事前に教科書の第2章(2.3)を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題(炭水化物に関する箇所)を解く。
第6回 脂質 I：定義と分類、脂肪酸の構造、油脂の物理化学的性質	事前に教科書の第2章(2.4)を読む。事後にノート整理。小テストの準備。
第7回 脂質 II：複合脂質、油脂の酸化、脂質の栄養、脂質の酸化 小テスト(1)	事前に教科書の第2章(2.4)を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。教科書章末の練習問題(脂質に関する箇所)を解く。
第8回 小テストの解説 たんぱく質 I：たんぱく質の構造、アミノ酸の構造と性質	事前に教科書の第2章(2.2)を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第9回 たんぱく質 II：たんぱく質の性質、高次構造、タンパク質の栄養価、変性、酵素	事前に教科書の第2章(2.2)を読む。事後にノート整理。
第10回 脂溶性ビタミン：ビタミンA, D, E, Kの構造と生理機能	事前に教科書の第2章(2.2, 2.6)を読む。高校化学の教科書で酵素について復習しておく。事後にノート整理。教科書章末の練習問題(たんぱく質に関する箇所)を解く。
第11回 水溶性ビタミン：ビタミンB群とビタミンCの構造と生理機能	事前に教科書の第2章(2.6)を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題(ビタミンに関する箇所)を解く。小テストの準備。
第12回 ミネラルI：ミネラルの分類、多量ミネラルの生理機能 小テスト(2)	事前に教科書の第2章(2.5)を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。
第13回 小テスト(2)の解説 ミネラルII：微量ミネラルの生理機能、有害ミネラル	事前に教科書の第2章(2.5)を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。教科書章末の練習問題(ミネラルに関する箇所)を解く。

第14回	食品の呈味成分、 香気成分、 食品の変化（油脂の酸化、 褐変、 でんぷんの老化）	事前に教科書の第3章(3.1)および第6章（6.1, 6.6）を読む。 事後にノート整理。
第15回	食品の物性 これまでのまとめ	事前に教科書の第7章(7.1, 7.2, 7.3)を読む。 事後にノート整理。 試験に備えて教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、 解決しておく。
第16回	期末試験	終了後に解答の正誤の確認。 誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、 欠席は厳禁。 講義に集中し、 内容をしっかり記録する。 講義には積極的に参加し、 予習で生じた疑問点について解決できるように努める。 授業で理解できなかったこと、 生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、 メモやノートは取っているか、 質問に積極的に答えようとしているか） 20%、 小テストの成績10%、 学期末の試験70%の割合で評価する。 期末試験の問題については、 試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

[新 食品・栄養科学シリーズ 食品学総論] [森田潤司 編] [化学同人] [2, 800+税 円]

■ 参考書

特になし

毎回、 授業開始時に資料を配布する。

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。 オフィスアワーの曜日・時間については、 別途掲示する。

食品機能学

(30113)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

食品には、一次機能（栄養機能）、二次機能（感覚応答機能・嗜好性成分）の他に三次機能（生体調節機能）をも併せ持つものがある。三次機能を持つ食品成分は機能性成分と呼ばれ、非栄養素とされるものも多い。本授業では、各種食品が持つ三次機能について、その成分・構造・体内での吸収や働きについて解説する。また、現代の生活習慣に深く関わる成分について、その活性の発現機構についても解説する。さらに、食品機能に関する表示制度についても言及する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・食品に含まれる種々の成分と生体内での生理機能を理解する。			0.7			0.3
・食品の機能性成分が生体の働き（消化器系や免疫系など）におよぼす機能を理解する。						
・食品の機能性成分を上手に利用して健康増進に寄与できる力を身につける。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 食品の機能とは何か。（概要説明）	配布資料(1)の復習とまとめ。
第2回 現代における食生活と疾病・栄養特別用途食品の解説	配布資料(2)の復習とノートの整理。
第3回 保健機能食品の解説	食品機能の表示制度についてノートに整理。
第4回 トクホに関する記事を読んで小論文を作成 系統別生理機能と推定作用機序 I 消化器系に機能する成分	配布資料(4)の復習とノートの整理。
第5回 第4回授業で提出された小論文の返却と解説 系統別生理機能と推定作用機序 II 循環器系に機能する成分	配布資料(5)の復習とノートの整理。
第6回 系統別生理機能と推定作用機序 III 内分泌系・神経系に機能する成分 食資源に関する記事を読んで小論文作成	配布資料(6)の復習とノートの整理。
第7回 第6回授業で提出された小論文の返却と解説 系統別生理機能と推定作用機序 IV(1) 免疫系の生理機能	配布資料(7)の復習とノートの整理。免疫系の作用機序についての関係図作成。
第8回 系統別生理機能と推定作用機序 IV(2) 腸管免疫、アレルギー、免疫系に機能する食品成分	配布資料(8)の復習とノートの整理。
第9回 系統別生理機能と推定作用機序 V がんと食品機能	配布資料(9)の復習とノートの整理。 プレゼンテーションの資料作成と発表の準備
第10回 アクティブラーニング:各自が興味を持った機能性表示食品の紹介と作用機序の解説I（映像を使ったプレゼンテーション） 小テスト	プレゼンテーションの資料作成と発表の準備 各自のプレゼンテーションについて要点を記録・評価する。要提出。小テストの自己採点
第11回 アクティブラーニング:各自が興味を持った機能性表示食品の紹介と作用機序の解説II（映像を使ったプレゼンテーション） 小テストの解説	各自のプレゼンテーションについて要点を記録・評価する。要提出。小テストの解答確認
第12回 食品に含まれる機能性成分I 農産物	配布資料(12)の復習とノートの整理。
第13回 食品に含まれる機能性成分II 水産・畜産食品	配布資料(13)の復習とノートの整理。
第14回 アクティブラーニング:機能性成分を含む食品を利用した健康の維持・増進に寄与する食事例 I（映像を使ったプレゼンテーション） 14, 15回に分けて全員発表。	プレゼンテーションの資料作成と発表の準備 発表後、アドバイスの基づき改善点の確認。
第15回 アクティブラーニング:機能性成分を含む食品を利用した健康の維持・増進に寄与する食事例 II（プレゼンテーション） これまでの授業のまとめ	プレゼンテーションの資料作成と発表の準備 発表後、アドバイスの基づき改善点の確認。
第16回 期末試験（小論文提出を持って試験に代える）	事後、小論文の文章構成、内容の妥当性等について 確認・推敲。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。随時課題を出題するので、よく調べてレポートを作成し、締め切りに遅延のないように提出すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点(聴講する姿勢、ディスカッションにおける積極性、授業内容の記録)20%、課題・小テストの内容20%、プレゼンテーションの発表内容40%、試験(小論文)20%の割合で評価する。課題についてはその都度評価し、授業中に解説する。

■ 教科書

授業の開始時に独自作成の資料を配布する。

■ 参考書

特になし

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。質問については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。

食品学実験 I

(30114)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (45 + 30)

対象学科 : 食専1年

授業形態 : 実験 学期 : 前期 必・選 : 必修 栄 (必)

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

私たちの体は私たちが食べたものから成り立っている。その観点から、様々な食品に含まれる栄養成分の構成を知ることには非常に重要である。本授業では、食品に含まれる栄養素、特に三大栄養素である糖質、脂質、たんぱく質について「定性実験」を行い、その特性を解説する。終盤では滴定実験を通して物質の定量の概念についても解説する。これらを通して化学実験全般における基本手技、器具の扱い方、測定機器の使用法、データのまとめ方、レポートの書き方を指導し、今後の実験に関する学習の基礎構築を目指す。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> 化学実験の基礎的理論と基礎技術を習得する。 実験を通して食物の構造や化学的特性について理解する。 「食品」を分子レベルで把握する思考力、食品および食生活に関して科学的視点から思考する力を身につける。 			0.5	0.3		0.2

■ 授業計画

	自習 (事前・事後学修の内容)
第1回 実験の基礎ガイダンス(講義) (実験の心得、安全対策、実験ノートのとり方、数値の扱い方)	授業後に教科書第1章およびテキスト3頁から6頁を読む。実験に臨む準備を整える。
第2回 実験器具の扱い方・pHメーターの使い方(演習)、濃度計算問題	事前に教科書第2章とテキスト6頁から11頁を読む。事後に復習およびノート整理。
第3回 天秤の使い方(演習)、ジャガイモからデンプンの抽出(アクティブラーニング/グループワーク)	事前に教科書第4章の3-6)とテキストI-1を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第4回 ジャガイモから抽出したデンプンのヨウ素反応、その他の各食品のデンプンの検出(アクティブラーニング/グループワーク) レポート(1)出題	事前に教科書第4章の3-5)とテキストI-3を読みか返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。レポート(1)作成。
第5回 糖の定性反応(呈色反応、還元反応)(アクティブラーニング/グループワーク) レポート(2)出題	レポート(1)提出。事前に教科書第4章の3-5)とテキストIIを読み返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。レポート(2)作成。
第6回 レポート(1)の返却と解説 タンパク質の定性反応 I (ビウレット反応、ニンヒドリン反応、アダムキーウィッツ反応、坂口反応)(アクティブラーニング/グループワーク)	レポート(2)提出。事前に教科書第4章の1-1), 2)とテキストIII-1, 2を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第7回 レポート(2)の返却と解説 タンパク質の定性反応 II (薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の同定)、ノートチェック(アクティブラーニング/グループワーク)	事前に教科書第4章の1-4)とテキストIVを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第8回 タンパク質の定性反応 III(薄層クロマトグラフィー発色と同定) 脂質の定性反応(エステル検出、不飽和脂肪酸検出、鮮度判定)(アクティブラーニング/グループワーク) レポート(3)出題	事前に教科書第4章の2-4)とテキストVを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。レポート(3)作成
第9回 油脂の物理的変化(乳化反応、相転移) レポート(4)出題	レポート(3)提出。事前に教科書第4章の2-5)とテキストVIを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。レポート(4)作成。
第10回 レポート(3)の返却と解説 食品の色に関する実験 I (酵素的褐変、ポリフェノール類の色の変化)(アクティブラーニング/グループワーク)	レポート(4)提出。事前に教科書第9章の1-1), 2)とテキストVIIを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第11回 レポート(4)の返却と解説 食品の色に関する実験 II (非酵素的褐変)(アクティブラーニング/グループワーク)	事前に教科書第9章の1-3)とテキストVIIを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。レポート(5)作成。

	レポート(5)出題	
第12回	容量分析 I 中和滴定 (1) 中和滴定の原理解説、ビュレットの使い方実習。(アクティブラーニング/グループワーク) ノートチェック	レポート(5)提出。 事前に教科書第3章の1, 2-1)とテキスト VIII-1を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第13回	レポート(5)の返却と解説 容量分析 II 中和滴定 (2) 食酢中の酢酸の定量(実験講義、試料溶液の調整と評定)(アクティブラーニング/グループワーク)	事前に教科書第3章の2-1)とテキスト VIII-2を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第14回	容量分析III 中和滴定 (3) 食酢中の酢酸の定量(試料の滴定と濃度計算)(アクティブラーニング/グループワーク) レポート(6)出題	事前に教科書第3章の2-1)とテキスト VIII-2を読み返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(6)作成。
第15回	これまでの実験のまとめと濃度計算の演習	レポート(6)提出。 実験の総括と演習問題の復習。 ノート整理。
第16回	レポート(6)の返却と解説 期末試験	計測機器の使い方実技試験。 筆記試験。

■ 履修上の注意

- ・正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。
- ・常時保護メガネを携帯する。不要なものは実験室に持ち込まない。
- ・実験では危険を伴うことがあるので、事故のないように事前にテキストを読んで予習しておく。
- ・実験中の反応についての観察や、生じた疑問はノートに詳細に記録し、文献を調べる。
- ・実験は3人から4人を1班とするグループワークとなるので、全員が実験操作にかかわるように計画を立て、実験結果については毎回グループ内でディスカッションを行い、考察する。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点(授業に臨む姿勢、実験に対する自主性・積極性)30%、レポート・ノートの内容の成績60%、実技、筆記試験の成績10%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するループブックに記載。
- ・未提出のレポートがある場合は、評価の対象外とする。
- ・レポートは提出の度に採点し、原則として提出翌週の授業で返却・解説を行う。
- ・期末試験(筆記試験)については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

- ・[新版 食品学実験 -実験で学ぶ食品学-] [江角彰彦著] [同文書院] [2, 500円+税]
- ・授業内容に即した独自作成テキスト(冊子体)

■ 参考書

必要に応じて資料を配布する。(実験時配布)

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番を変更することがある。
- ・質問については、実験中随時、またはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。
- ・なお、「授業計画の内容」中、自習の項目における「教科書」は上記の出版物、「テキスト」は独自作成テキストを示す。

食品学実験Ⅱ

(30115)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋30）

対象学科：食専1年

授業形態：実験 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

食品学実験Iで習得した化学実験における基本的手技を応用する。本授業では、日本食品成分表に記載されている食品中の栄養素の数値がどのようにして算出されるのかを知る目的で、水分、脂質、たんぱく質、灰分の各成分を食品から抽出して、定量分析を行う。さらに、分光光度計を用いた比色分析実験を行い、容量分析における基本理論を解説する。これらを通じて、食品成分表の数値の意味、食品試料の扱い方、化学実験における実験の原理を理解させるとともに実験器具、測定機器の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方を指導する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> 食品に含まれる成分や栄養素の定量分析実験を通じて、分析化学、特に「定量分析」の基礎理論と基本操作を理解する。 食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。 食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているのか、実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。 			0.5	0.3		0.2

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 基本器具の扱い方復習、濃度計算小テスト、食品中の一般栄養成分分析についての説明	テキスト（試薬の調製、数値の扱い方）を読む。授業後に教科書を読み返す。計算問題の復習。
第2回 濃度計算小テストの解説 食品中の一般成分分析I 水分の定量（常圧乾熱法）(1) 秤量缶の恒量測定、試料の乾燥 (アクティブラーニング/グループワーク)	小テストの解答確認と誤った箇所の復習。 事前に教科書第6章の2とテキスト「実験I-1」を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第3回 食品中の一般成分分析II 水分の定量（常圧乾熱法）(2) 試料乾燥の続きと水分の質量算出(アクティブラーニング/グループワーク) レポート(1)出題	事前に教科書第6章の2とテキスト「実験I-1」を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(1)作成。
第4回 食品中の一般成分分析III 脂質の定量（ソクスレー法）(1) 定量びんの恒量測定、脂質の抽出（アクティブラーニング/グループワーク）	レポート(1)提出。 事前に教科書第6章の4とテキスト「実験I-2」を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第5回 レポート(1)の返却と解説 食品中の一般成分分析IV 脂質の定量（ソクスレー法）(2) 脂質の抽出続き、乾燥、脂質の質量測定(アクティブラーニング/グループワーク) レポート(2)出題	事前に教科書第6章の4とテキスト「実験I-2」を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(2)作成。
第6回 食品中の一般成分分析V 食品中の灰分の定量（直接灰化法）(1) ろつばの恒量測定、試料の予備灰化（アクティブラーニング/グループワーク） ノートチェック	レポート(2)提出。 事前に教科書第6章の6とテキスト「実験I-4」を読み返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第7回 レポート(2)の返却と解説 食品中の一般成分分析VI 食品中の灰分の定量（直接灰化法）(2) 試料の灰化の続きと灰分の質量定量(アクティブラーニング/グループワーク)、タンパク質の定量実験 理論の解説 レポート(3)出題	事前に教科書第6章の6とテキスト「実験I-4」を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(3)作成。
第8回 食品中の一般成分分析VII 食品中のタンパク質の定量（ケルダール法）(1)（アクティブラーニング/グループワーク） ケルダール法の理論解説と実験装置の説明、 タンパク質の酸加水分解	レポート(3)提出。 事前に教科書第6章の3とテキスト「実験I-3」を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 実験装置の使い方確認。
第9回 レポート(3)の返却と解説 食品中の一般成分分析VIII 食品中のタンパク質の定量（ケルダール法）(2) 水蒸留と中和滴定-2（2班1組）	事前に教科書第6章の3とテキスト「実験I-3」を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 実験装置の使い方確認。 事後に実験結果のまとめと理論の復習。ノート整理。2班で実験結果の共有と数値の確認。

第10回	食品中の一般成分分析IV 食品中のタンパク質の定量（ケルダール法）(3) 水蒸留と中和滴定-2（2班1組）前回と作業内容を2班間で入れ替え	事前に教科書第6章の3とテキスト「実験I-3」を読む。事後に実験結果のまとめと理論の復習。ノート整理。2班で実験結果の共有と数値の確認。
第11回	タンパク質定量実験のまとめ、計算問題の解説 レポート(4)出題	実験結果のまとめと理論の復習。2班で実験結果の共有データ確認。ノート整理。 レポート(4)作成
第12回	比色分析の理論、分光光度計の使い方演習、演習(アクティブラーニング/グループワーク)	レポート(4)提出。 事前に教科書第3章の4を読み、比色分析の理論を理解する。分光光度計の使い方確認。 教科書第6章の9-2とテキスト「実験II」を読む。 事後に実験結果のまとめとノート整理。
第13回	レポート(4)の返却と解説 緑茶中のタンニンの定量 I 標準溶液の調製、検量線の意味の解説と作成(アクティブラーニング/グループワーク)	事前に教科書第6章の9-2と「実験II」を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第14回	緑茶中のタンニンの定量 II 飲料中のタンニンの定量（アクティブラーニング/グループワーク） レポート(5)出題	レポート(5)作成 事前にテキスト「実験III」を読む。 事後に実験の結果のまとめとノートの整理。
第15回	食品の鮮度判定（米の鮮度、牛乳の鮮度）(アクティブラーニング/グループワーク) レポート(6)出題	レポート(5)提出 事前にテキスト「実験IV」を読む。 レポート(6)作成 食品学実験II全回の復習とノート整理。
第16回	レポート(6)提出 期末試験（ノートチェック） レポート(5), (6)は採点后、解説をつけて返却する	実験の理論と計算問題に関する筆記試験

■ 履修上の注意

- ・ 正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。
- ・ 白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。
- ・ 常時保護メガネを携帯する。
- ・ 実験では危険を伴うことがあるので、事故のない様に事前にテキストを読んで予習しておく。
- ・ 実験中の反応についての観察や、生じた疑問はノートに詳細に記録し、文献を調べる。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点（授業に臨む姿勢、実験に対する自主性・積極性）30%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて60%、試験の成績10%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するループリックに記載。
- ・ 未提出のレポートがある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の都度採点し、後日返却して授業内で解説を行う。
- ・ 期末試験の問題については、試験後に模範解答と解説を配布する。
- ・ 実験は3人から4人を1班とするグループワークとなるので、全員が実験操作にかかわるように計画を立て、実験結果については毎回グループ内でディスカッションを行い、考察する。

■ 教科書

[新版 食品学実験 -実験で学ぶ食品学-] [江角彰彦著] [同文書院] [2, 500円+税] (食品学実験Iと同じ)
+授業内容に即した独自作成テキスト(冊子体)

■ 参考書

必要に応じて資料を配布する。(実験時配布)

■ 備考

- ・ 都合により授業計画の順番を変更することがある。
- ・ 質問については、実験中随時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。
- ・ なお、「授業計画の内容」中、自習の項目における「教科書」は上記の出版物、「テキスト」は独自作成テキストを示す。

食品衛生学

(30116)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

高瀬 清美

■ 授業の概要

世界保健機関（WHO）により食品衛生は「生育、生産、あるいは製造時から、最終的に人に摂取されるまでの全ての段階において、食品の安全性、健全性（有益性）、健全性（保存性）を確保するために必要なあらゆる手段」として定義されている。食品は、私たちの生命や健康を維持するための栄養源として不可欠であり、同時に高い安全性が求められている。本講義では、食品衛生関連法規をはじめ食中毒の原因や予防、微生物制御、異物混入防止、食品添加物の安全性及び使用基準などの食の安全性の確保と健康被害予防に必要な知識について幅広く解説する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全を脅かす要因についての知識を身につける。 食品による健康被害の要因とその制御法について理解し、実践することができる。 世界と日本における食品による健康被害についての最近の動向を説明することができる。 			0.5		0.3	0.2

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 食品衛生とは 食品衛生の定義と食品衛生法・食品安全基本法について	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第2回 食品衛生管理に関わる組織とその他の法令について	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第3回 微生物の分類、食品と微生物の関わり、微生物の制御	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第4回 食品の変質や酸敗等の定義とその防止方法	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第5回 食中毒の定義と概要、食中毒の発生状況	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第6回 細菌性食中毒（主に感染型）の原因、症状、予防法等	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第7回 細菌性食中毒（主に食品内毒素型）の原因、症状、予防法等	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第8回 ウイルス性食中毒の種類、原因、症状、予防法等	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第9回 寄生虫性食中毒の種類、原因、症状、予防法等	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第10回 自然毒による食中毒の種類、原因、症状、予防法等	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第11回 化学物質による食中毒の種類、原因、症状、予防法等	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第12回 食品添加物の種類や働きについて	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。

第13回 食品添加物に関わる法令および規格基準等	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第14回 食品の安全性に関わるその他の要因（放射性物質、農薬等）	事前：教科書の該当ページをよく読む。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第15回 これまでの授業のまとめ	事前：これまでの授業の内容をしっかりと復習しておく。 事後：講義内容をノート等に整理しておく。 栄養士実力認定試験の過去問を解く。
第16回 期末試験	これまでの授業で学んだことを総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

予習として教科書の該当範囲をしっかりと読み込んで授業に臨んでください。また、日常的に「食の安心・安全」に係わる事案について興味を持ち、情報収集を行うようにしてください。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点（授業への積極的な参加、ミニットペーパーおよび小テストの結果から総合的に判断する）：50%、期末試験：50%として評価します。
- ・提出された課題については、後日、添削して返却します。

■ 教科書

- ・〔図解 食品衛生学 第6版 食べ物と健康, 食の安全性〕〔堀江正一・尾上洋一編〕〔講談社〕(2, 400円+税)
- ・講義内で適宜資料を配布します。

■ 参考書

授業時間内に適宜紹介します。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品衛生学実験 I

(30117)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋30）

対象学科：食専2年

授業形態：実験 学期：前期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

高瀬 清美

■ 授業の概要

近年、私たちの食環境は多様化した反面、生産や流通の複雑化、グローバル化が進み食の安全には様々な問題・課題が生じている。食品は常に安全であることが求められており、特に食品中やその周辺に存在する様々な微生物の性質を正しく理解することは非常に重要である。また、「食」に携わる者は微生物による汚染・感染防止のための専門知識と技術を持つことが不可欠である。本講義では、食品の微生物汚染の指標である、生菌数の測定や大腸菌群の定性試験などの基礎的な微生物学的試験・検査の手法を指導する。なお、本授業は学生の主体的な学びを重視し、実験を通して能動的に知識と技術を身につけるアクティブラーニング型授業として実施する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・食品の安全性を確保する技術について理解する。			0.5	0.3		0.2
・基本的な微生物の取り扱いが確実にできる。						
・実験準備から後片付けまで各自が理解して行えるようにする。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 実験の目的・方法と、全体スケジュールについて説明 レポートの書き方、機器類についての説明 手洗い効果の確認	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第2回 無菌操作の確認と画線培養法の習得	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第3回 前週の結果の確認 混濁法を用いた培養	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第4回 前週の結果の確認 平板塗抹法を用いた培養	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第5回 前週の結果の確認 選択培地を用いた簡易同定	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第6回 前週の結果の確認 コロニーの性状検査とグラム染色	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第7回 前週の結果の確認 軟寒天培地と鏡検による細菌の運動性の確認	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第8回 前週の結果の確認 大腸菌群の推定試験	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第9回 前週の結果の確認 最確数の算出法と大腸菌群の確定試験	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第10回 前週の結果の確認 大腸菌群の完全試験	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第11回 前週の結果の確認 卵白リゾチームの抗菌作用	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第12回 前週の結果の確認 食肉の加熱処理による微生物制御	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第13回 前週の結果の確認 身近な食品等の抗菌作用	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第14回 前週の結果の確認 芽胞形成菌の耐熱性試験	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第15回 前週の結果の確認 食品有用微生物の観察とまとめ	これまでの実験内容および周辺の情報についてもよく整理する。
第16回 期末試験	これまでの実験内容をよく復習して臨むこと。

■ 履修上の注意

- ・白衣を着用すること。
- ・実験機器および薬品の取り扱いには十分に注意すること。
- ・実験後には手洗いを充分に行うこと。

- ・実験結果、注意事項および実験中に気が付いたこと等を詳細に記録すること。
- ・実験前に実験の意義と操作を十分に理解してから実験に臨むこと。
- ・グループワークでの授業となるので、班員同士が協力しながら実験操作を行うこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点・受講態度（授業における積極性、予習・復習の状況、実験ノート内容等から総合的に判断する）：50%、レポート：40%、試験の成績：10%として評価します。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーブリックに記載します。
- ・提出されたレポートについては、後日、添削して返却します。

■ 教科書

- ・〔食品衛生学実験 安全をささえる衛生検査のポイント〕〔杉山 章 他編〕〔株式会社みらい〕(2, 500円+税)
- ・授業開始時にプリントを配布します。

■ 参考書

必要に応じて資料を配布します。

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品衛生学実験Ⅱ

(30118)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋30）

対象学科：食専2年

授業形態：実験 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

高瀬 清美

■ 授業の概要

食生活の多様化と環境の変化を背景に、近年、我が国では「食の安心・安全」に対する社会的関心が高まっている。食品は常に安全であることが求められており、食品を取り扱うためには、その危害要因に対して科学的かつ客観的な知識を身につけることが必須である。本講義では、食品の衛生管理を行う上で重要である食品添加物や油脂性食品の変質判定、鮮度判定、腐敗や変敗の指標物質やアレルゲンの検査・検出法等の化学的分析方法について指導する。なお、本授業は学生の主体的な学びを重視し、実験を通して能動的に知識と技術を身につけるアクティブラーニング型授業として実施する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・食品に関する化学的分析方法の基礎的な技術を習得する。			0.5	0.3		0.2
・食品の安全性確保の重要性を理解する。						
・実験準備から後片付けまで各自が理解して行えるようにする。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 概要説明・諸注意 臭気テスト	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。
第2回 卵の鮮度判定	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第3回 飲料水の水質検査	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第4回 前週の結果の確認 水分活性の測定準備	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第5回 水分活性の測定（グラフ挿入法）	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第6回 着色料の定性試験（準備）	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第7回 着色料の定性試験（ペーパークロマトグラフィーによる分離と色素の推定）	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第8回 酸化防止剤の定性試験	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第9回 魚の鮮度判定と解剖、寄生虫の観察	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第10回 揮発性塩基窒素（準備）	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第11回 揮発性塩基窒素（測定） 食品中のアレルゲン検査	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第12回 ヒスタミン試験	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第13回 発色剤の定量試験（準備）	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第14回 発色剤の定量試験（測定）	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第15回 油脂の酸化測定	授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 結果をまとめレポートを作成する。
第16回 期末試験	これまでの実験内容をよく復習して臨むこと。

■ 履修上の注意

- ・白衣を着用すること。
- ・実験機器、試薬の取り扱いには十分に注意すること。
- ・実験後には手洗いを充分に行うこと。
- ・実験結果、注意事項および実験中に気が付いたこと等を詳細に記録すること。
- ・実験前に実験の意義と操作を十分に理解してから実験に臨むこと。

- ・グループワークでの授業となるので、班員同士が協力しながら実験操作を行うこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点・受講態度（授業における積極性、予習・復習の状況、実験ノート内容等から総合的に判断する）：50%、レポート：40%、試験の成績：10%として評価します。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーブリックに記載します。
- ・提出されたレポートについては、後日、添削して返却します。

■ 教科書

- ・〔食品衛生学実験 安全をささえる衛生検査のポイント〕〔杉山 章 他編〕〔株式会社みらい〕(2, 500円+税)
- ・授業開始時にプリントを配布します。

■ 参考書

必要に応じて資料を配布します。

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

微生物学

(30119)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

高瀬 清美

■ 授業の概要

微生物は生態系において非常に重要な位置を占め、私たちの日常生活や自然環境とも密接な関係にある。これらの微生物は、単に病原体として人の健康を脅かすだけでなく、私たちの健康や生活を支える重要な役割も果たしている。例えば、腸内細菌は消化を助けたり、免疫系を強化したりする働きがある。また、発酵食品の製造に使われる微生物は、私たちの食文化を豊かにしてきた。さらに、環境浄化、農業、医薬品開発など、様々な分野で微生物の能力が活用されており、人類の発展に大きく貢献している。本講義では、微生物に関する基礎的な情報に加え、微生物がもたらすリスクと利益の両面から人と微生物との関わり合いについて幅広く解説する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・微生物の基礎知識を修得・理解し説明できるようにする。			0.5		0.2	0.3
・身の回りの微生物について正しく理解する。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 微生物とは 微生物学の歴史	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第2回 生物の分類、各微生物の構造	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第3回 微生物の制御とは、増殖曲線、制御方法の種類	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第4回 微生物の制御（栄養条件や水分、温度、酸素分圧について）	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第5回 微生物の食品への活用、発酵と腐敗、発酵の種類等	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第6回 様々な発酵食品とその製造過程について	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第7回 細菌性食中毒について、その原因や予防法等	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第8回 その他の細菌による感染症について、その原因や予防法等	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第9回 ウイルスによる感染症について、その原因や予防法等	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第10回 寄生虫による感染症について、その原因や予防法等	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。

	事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第11回 微生物に対する様々な生体防御機構について アレルギー反応について	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第12回 様々な感染症に対する予防接種とワクチンの役割	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第13回 腸内細菌叢とプロバイオティクスについて	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第14回 分解者としての微生物について（バイオレメディエーション等）	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第15回 これまでの授業のまとめ	事前：これまでの授業の内容をよく復習しておく。 事後：講義内容をノート等に整理し、よく復習する。
第16回 期末試験	これまでの授業で学んだことを総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

日頃から、テレビ、インターネット、書籍等から関連した話題を収集するように心がけてください。また、身の回りの「微生物」にも意識的に目を向け、興味を持つようにしてください。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点（授業への積極的な参加、ミニットペーパーおよび小テストの結果から総合的に判断する）：50%、期末試験：50%として評価します。
- ・提出された課題については、後日、添削して返却します。

■ 教科書

- ・特になし
- ・講義内で資料を配布します。

■ 参考書

- ・〔栄養科学イラストレイテッド 微生物学 改訂第2版〕〔大橋典男編〕〔羊土社〕(2, 900円＋税)
- ・その他、授業時間内に適宜紹介します。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

栄養学 I

(30120)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

栄養学は、栄養士として社会で役立つために最も基本となる分野である。それを踏まえ、栄養学Iではヒトにとっての栄養の意義、各栄養素の構造や性質について講義する。また、ヒトが環境に適応するために備わっている生体調節の仕組みや、消化器系の構造と基本的な機能が栄養素とどう関わるかについて解説する。その基本知識に基づいて、三大栄養素（糖質、たんぱく質、脂質）の消化・吸収・代謝のしくみとそれらの生体内での機能について詳しく解説する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ヒトが生きる上での栄養の意義について学ぶ。			0.8			0.2
・食品を構成する栄養素の性質と、生体内での働きについて理解する。						
・健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 栄養の概念（栄養の概念、五大栄養素、歴史、欠乏と過剰）	事前に教科書の第1章(1)を読む。事後に教科書を見直してノートを整理する。教科書章末のチェック問題を解く。
第2回 日本人の食事摂取基準 健康と栄養（食物の役割、病気の予防・治療と栄養）	事前に教科書の第1章(2)を読む。事後にノート整理。
第3回 摂食行動（食欲の調節、食事のタイミング）	事前に教科書の第2章を読む。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。
第4回 消化器の構造と機能	事前に教科書の第3章(1, 2, 3)を読む。事後にノート整理。
第5回 消化・吸収の機構（管腔内消化、膜消化、能動輸送、受動輸送、栄養素の体内動態）	事前に教科書の第3章(4, 5, 7)を読む。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。
第6回 糖質の栄養 I（糖質の消化・吸収）	事前に教科書の第3章(6-B)および第4章(3, 4)を読む。事後にノート整理。
第7回 糖質の栄養 II（血糖値の調節、糖質の代謝経路、細胞内呼吸の役割）	事前に教科書の第4章(5)を読む。細胞内呼吸について高校の教科書などで復習しておく。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。小テストの準備。
第8回 糖質の栄養 III（他の栄養素との関係） 小テスト(1)	事前に教科書の第4章(6)を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。教科書章末のチェック問題を解く。
第9回 小テスト(1)の解説 脂質の栄養 I（脂質の種類と構造、消化と吸収、体内移動）	事前に教科書の第3章(6-C)、第5章(1, 2)を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と誤った箇所の復習。
第10回 脂質の栄養 II（脂質の代謝、他の栄養素との関係）	事前に教科書の第5章(3, 4, 5, 7)を読む。事後にノート整理。
第11回 たんぱく質の栄養 I（たんぱく質の構造、合成、消化・吸収）	事前に教科書の第3章(6-A)、第6章(1, 2)を読む。教科書章末のチェック問題を解く。
第12回 たんぱく質の栄養II（たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、アミノ酸の臓器間輸送）	事前に教科書の第6章(3, 4)を読む。事後にノート整理。
第13回 たんぱく質の栄養 III（たんぱく質の栄養評価、他の栄養素との関係）	事前に教科書の第6章(5, 6)を読む。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。小テスト(2)の準備。
第14回 形質遺伝と栄養の相互作用 小テスト(2)	事前に教科書の第1章(3)を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。
第15回 小テストの解説	小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか）20%、小テストの成績10%、学期末の試験70%の割合で評価する。期末試験の問題については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

[栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学第5版] [田地 陽一 編] [羊土社] [2, 900円+税]

■ 参考書

特になし

必要に応じて資料配布

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。

栄養学Ⅱ

(30121)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

栄養学Iに続いての講義となる。Iで学んだ三大栄養素の消化吸収・代謝に加え、ビタミン、ミネラルの性質と、吸収機構・生理機能について講義する。また、生体における水分の役割、エネルギー代謝、遺伝と栄養、食事摂取基準の意味についても解説し、生体が入り入れた栄養素、非栄養成分が果たす役割とそれらの相互作用について理解させる。最終的には栄養学I, IIで学んだことを通して生体と栄養の関係を理解させ、栄養士として社会に貢献するための基礎力を培うことを目標とする。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> 各栄養素および非栄養素の性質と生体内での働きについて理解する。 健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する エネルギー代謝と栄養の関係を理解する。 生体を形づくる源となる遺伝子からたんぱく質への流れを理解する。 			0.8			0.2

■ 授業計画

回	授業内容	自習（事前・事後学修の内容）
第1回	三大栄養素についての小テスト(1)	事前に、前期で学んだ内容をよく復習しておく。（前期の小テスト、練習問題を再度復習） 小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。
第2回	小テストの解説、ビタミンの栄養 I 脂溶性ビタミンの構造と栄養機能	事前に教科書第7章（1, 2, 3-A）を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第3回	ビタミンの栄養 II 水溶性ビタミン（ビタミンB群）の構造と栄養機能	事前に教科書第7章（3-B, C, D）を読む。事後にノート整理。
第4回	ビタミンの栄養III 水溶性ビタミン（パントテン酸、葉酸、ビオチン、ビタミンC）の構造と栄養機能	事前に教科書第7章（3-B, C, D, 4）を読む。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。
第5回	ミネラルの栄養 I 多量ミネラルの栄養機能	事前に教科書第8章（1, 2, 3）を読む。事後にノート整理。
第6回	ミネラルの栄養 II 微量ミネラルの栄養機能	事前に教科書第8章（4, 5, 6）を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。教科書章末のチェック問題を解く。
第7回	ビタミンとミネラルのまとめ	第1回から第6回までのノートチェック。 小テスト(2)の準備。
第8回	小テスト(2) 水の栄養的意義 I 体内の水分の出納	事前に教科書第9章（1, 2）を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と、理解不足箇所の復習とまとめ。
第9回	小テストの解説 水の栄養的意義 II 浸透圧、脱水	事前に教科書第9章（3）を読む。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第10回	水の栄養的意義 III 浮腫、電解質の役割	事前に教科書第10章（3, 4）を読む。事後にノート整理。
第11回	エネルギー代謝 I エネルギー代謝の概念、食物エネルギー	事前に教科書第10章（3, 4）を読む。事後にノート整理。
第12回	エネルギー代謝 II エネルギー消費量、エネルギー消費量の測定法、呼吸商	事前に配布資料を読む。事後にノート整理。
第13回	エネルギー代謝 III 活動とエネルギー代謝	事前に配布資料を読む。事後にノート整理。 小テストに向けての準備。
第14回	遺伝と栄養（遺伝子と遺伝の仕組み、発現遺伝子と疾病：糖尿病、高血圧）、小テスト(3)	事前に配布資料を読む。事後にノート整理。 小テスト(3)の準備。 小テストの自己採点と理解不足箇所の復習。
第15回	小テスト(3)の解説	小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか）20%、小テストの成績10%、学期末の試験70%の割合で評価する。期末試験の問題については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

栄養学Iと同じ

（〔栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学第4版〕〔田地 陽一 編〕〔羊土社〕〔2, 900円+税〕）

■ 参考書

特になし

必要に応じて資料を配布する。

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。

栄養学実験

(30122)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋30）

対象学科：食専2年

授業形態：実験 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

栄養学の分野においては、食物と生体の相互関係を理解することが重要である。栄養学実験では、栄養素の生体内における役割について解説する。また、消化酵素の働き、栄養状態がヒトの健康に与える影響について理解を深めることを目的として、生体試料の扱い方、栄養素の消化実験、代謝実験、ビタミンの定量等の実験を行い、生体試料の扱い方について理論と実際を理解させる。また、レポートの課題を通してデータのまとめ方、および報告書の書き方について指導する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
<ul style="list-style-type: none"> 生体試料の扱い方と生体成分の定量分析の基礎理論と基本操作を理解し、食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。 食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているか実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。 実験結果のまとめおよび報告書作成を通して文章力を身につける。 			0.7			0.3

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 栄養学実験の概要説明 実験器具の扱い方の復習（演習） 濃度計算練習問題	1年次で受講した食品学実験のテキストを読み直し、化学実験の基本操作について復習しておく。 授業後、計算問題の自己採点。
第2回 濃度計算問題の解説 数値の取り扱い、緩衝液について解説 検量線の理論について解説・演習	事前にテキストのI, II, Vを読む。検量線について復習しておく。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第3回 酵素消化実験I(アミラーゼの活性測定-1) 酵素の基礎知識解説 食品に含まれるアミラーゼによる消化反応と産生糖の定量 (検量線作成) (アクティブラーニング/グループワーク)	事前にテキストのVI(酵素の基礎知識, 酵素実験の実際1-1)を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第4回 酵素消化実験 II (アミラーゼの活性測定-2) 食品に含まれるアミラーゼによる消化反応と産生糖の定量 (試料の測定) (アクティブラーニング/グループワーク) レポート(1)出題	事前にテキストのVI(酵素実験の実際2-1))を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(1)の作成。
第5回 酵素消化実験 III (たんぱく質分解酵素の活性観察-1) 果実に含まれるプロテアーゼによるたんぱく質消化力の観察 (アクティブラーニング/グループワーク)	レポート(1)の提出。 事前にテキストのVI(酵素実験の実際-1-2-1)を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(2)作成。
第6回 レポート(1)の返却と解説。 酵素消化実験 IV (たんぱく質分解酵素の活性観察-2) キノコ類に含まれるプロテアーゼによるたんぱく質消化力観察 (アクティブラーニング/グループワーク) レポート(2)出題	事前にテキストのVI(酵素実験の実際-1-2-2)を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(2)作成
第7回 酵素消化実験 V (脂質分解酵素の活性観察) リパーゼによる油脂の消化力の測定 (アクティブラーニング/グループワーク) レポート(3)出題	レポート(2)提出。 前にテキストのVI(酵素実験の実際-1-3)を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(3)の作成
第8回 レポート(2)の返却と解説。 酵素実験のまとめ タンパク質の栄養価計算 (アミノ酸スコアの計算) 計算値提出 ノートチェック	レポート(3)の提出 事前にテキスト(酵素実験の項目)を読み復習しておく。 ノート整理 計算結果は授業時間内に提出
第9回 レポート(3)の返却と解説。 アミノ酸スコアの計算値解説 食品中のビタミンCの測定 I ビタミンCの構造についての解説、アスコアルビン酸標準液の調	事前に配布物を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。

	製(アクティブラーニング/グループワーク) と検量線の作成	
第10回	食品中のビタミンCの測定II 市販飲料・野菜中のビタミンCの定量(アクティブラーニング/ グループワーク) レポート(4)出題	事前にテキストVIIを読む。事後に実験結果のま とめとノート整理。 レポート(4)作成
第11回	味覚の変調実験(ギムネマ茶による味覚の変調実験)(アクティ ブラーニング/グループワーク) 結果提出	レポート(4)提出 事前にテキストVIIを読む。 事後に実験結果のまとめとノート整理。 実験結果は授業時間内に提出
第12回	レポート(4)の返却と解説。 食品中のリンの定量(市販飲料と加工食品中のリンの定量) 検量線の作成と試料中のリンの定量(アクティブラーニング/ グループワーク) レポート(5)出題。	事前にテキストVIIIを読む。事後に実験結果のま とめとノート整理。 実験結果報告は授業時間内に行い、レポートに代 える。 レポート(5)作成。
第13回	ミネラルの定量(カルシウム)(アクティブラーニング/ グループワーク) レポート(6)出題。	レポート(5)提出。 事前にテキストXを読む。事後に実験結果のま とめとノート整理。 レポート(6)作成。
第14回	レポート(5)の返却と解説。 尿中クレアチニンの定量(アクティブラーニング/ グループワーク) レポート(6)出題。	レポート(6)提出。 事前にテキストIXを読む。事後に実験結果のま とめとノート整理。
第15回	レポート(6)の返却と解説。 栄養学実験のまとめ ノートチェック、計算問題の課題解答	実験の総括、ノート整理。計算問題の復習 以前に出題された濃度計算問題を解いておく。
第16回	期末試験(実験レポート提出に代える)	

■ 履修上の注意

- ・ 正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。
- ・ 白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。
- ・ 常時保護メガネを携帯する。不要なものは実験室に持ち込まない。
- ・ 実験では危険な薬品等も扱うので、事故のないように事前にテキストを読んで予習しておく。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点(授業に臨む姿勢、実験に対する自主性・積極性)30%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて70%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するループリックに記載。
- ・ 未提出のレポートがある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を行う。
- ・ 実験は3人から4人を1班とするグループワークとなるので、全員が実験操作にかかわるように計画を立て、実験結果については、毎回グループ内でディスカッションを行い、考察する。

■ 教科書

授業内容に即した独自作成テキスト(冊子体)使用。初回の授業開始時に配布。

■ 参考書

必要に応じて資料を配布する(実験時配布)

■ 備考

- ・ 校外実習などの都合により、授業計画の順番を変更することがある。
- ・ 質問については、実験中随時、またはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。

ライフステージ栄養学

(30123)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

ヒトが生きる上で、一生における各段階（学童期、青年期、成人期などに）に適したライフスタイルがあるのと同様に、栄養面においても配慮が必要である。本授業では、各ライフステージにおける身体的・精神的特徴や、それに応じた栄養ケアについて詳しく解説する。また、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適応した栄養的配慮と食生活の在り方を概説する。講義で得た知識をもとに、栄養士として広い方面の現場に適応して貢献できる力を身につけることを目指す。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 各ライフステージにおける身体的・精神的特徴を理解する。			0.6	0.1		0.3
・ 各ライフステージにおける栄養状態と問題点を把握する。						
・ 運動時、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適した食生活の在り方を把握する。						
・ それぞれのステージに適した栄養摂取法と維持管理の基礎を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ライフステージとは何か。栄養マネジメントの概要。	事前に教科書第1章を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。
第2回	第1回授業の理解度確認テストおよびその解説 日本人の食事摂取基準（策定の基礎理論、活用の基礎理論）	事前に教科書第2章を読む。事後にノート整理。理解度確認テストの内容復習。教科書章末の練習問題を解く。
第3回	第2回授業の理解度確認テストおよびその解説 成長・発達・加齢（概念、成長・発達に伴う身体・精神的変化、加齢）	事前に教科書第3章を読む。事後にノート整理。理解度確認テストの内容復習。教科書章末の練習問題を解く。
第4回	第3回授業の理解度確認テストおよびその解説 妊娠期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態疾患、栄養ケア）	事前に教科書第4章を読む。事後にノート整理。理解度確認テストの内容復習。教科書章末の練習問題を解く。
第5回	第4回授業の理解度確認テストおよびその解説 新生児・授乳期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患）	事前に教科書第5章（新生児・乳児期）を読む。事後にノート整理。理解度確認テストの内容復習。
第6回	第5回授業の理解度確認テストおよびその解説 授乳期・離乳期の栄養 I（生理的特徴、栄養ケア）	事前に教科書第5章（授乳期・離乳期）を読む。事後にノート整理。理解度確認テストの内容復習。教科書章末の練習問題を解く。
第7回	第6回授業の理解度確認テストおよびその解説 授乳期・離乳期の栄養 II（離乳期の栄養、離乳支援）	事前に教科書第5章（授乳期・離乳期）を読む。事後にノート整理。理解度確認テストの内容復習。
第8回	第7回授業の理解度確認テストおよびその解説 幼児期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書第6章（幼児期）を読む。事後にノート整理。
第9回	第8回授業の理解度確認テストおよびその解説 学童期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書第6章（学童期）を読む。事後にノート整理。理解度確認テストの内容復習。中間試験に備えて、これまでの理解度確認テストの復習。
第10回	第9回授業の理解度確認テストおよびその解説 思春期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書第6章（思春期）を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題を解く。
第11回	第10回授業の理解度確認テストおよびその解説 成人期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書第7章（成人期）を読む。事後にノート整理。

第12回	第11回授業の理解度確認テストおよび解説 更年期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、 栄養ケア）	事前に教科書第7章（更年期）を読む。事後にノート整理。 理解度確認テストの内容復習。 教科書章末の練習問題を解く。
第13回	第12回授業の理解度確認テストおよびその解説 高齢期の栄養 I（生理的特徴、栄養アセスメント）	事前に教科書第8章(1)を読む。事後にノート整理。 理解度確認テストの内容復習。
第14回	第13回授業の理解度確認テストおよびその解説 高齢期の栄養II（病態・疾患）	事前に教科書第8章(2)を読む。事後にノート整理 理解度確認テストの内容復習。 教科書章末の練習問題を解く。
第15回	第14回授業の理解度確認テストおよびその解説 高齢期の栄養III（栄養ケア） 前回までのまとめ	教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。 各回の理解度確認テストと中間試験の復習。
第16回	期末試験	解答の正誤の確認。誤った箇所への復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。なお、第2回授業以降、毎回授業の最初に前回の授業内容についての理解度確認テストを行い、解説を行う。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか）20%、理解度確認テストの成績10%、学期末の試験70%の割合で評価する。期末試験の問題については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

[栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学改訂第2班] [栢下淳・上西一弘編] [羊土社] (3,000円+税)

■ 参考書

特になし

毎回、授業開始時に資料を配布する。

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別掲示する。

ライフステージ栄養学実習 I

(30124)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (45 + 15)

対象学科: 食専1年

授業形態: 実習 学期: 後期 必・選: 選択 栄 (必)

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

阿 部 優 子

■ 授業の概要

ライフステージに応じた適切な栄養管理(栄養マネジメント)のあり方について学習する「ライフステージ栄養学」と併行し、本科目では、これらの知識をさらに発展させ、日本人の食事摂取基準について基づいた実習を通して実践的な学びを深める。妊娠・授乳期、乳児期、幼児期、学童期、成人期の各ライフステージ・ライフスタイルに応じた献立について学び、献立作成力と応用帖地技術の習得を目指す。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・各ライフステージに必要な栄養ケア・マネジメントについて習得する。		0.1	0.6	0.2		0.1
・対象者に合った献立を作成し、調理上の留意点を考慮しながら実習することができる。						
・実習後の考察を通して、ライフステージ毎の健康管理のための食事計画術を習得する。						

■ 授業計画

	自習 (事前・事後学修の内容)
第1回 オリエンテーション シラバスを基に、本科目の概要説明、献立作成の基本、栄養管理の意義について理解を深める。	事前: シラバスを確認する 事後: ライフステージ毎の栄養管理について復習する
第2回 食事計画について 栄養計画・目標の設定、食品構成と献立作成における基礎知識について習得する。	事前: 食事計画についてテキストを確認する 事後: 栄養ケアとマネジメントについてテキストを見て復習する
第3回 献立作成、応用調理の実際 モデル献立を基に栄養価計算を行いワークシートを作成する。実習グループを決定する。	事前: 献立作成についてテキストを確認する 事後: 栄養価計算について復習する
第4回 妊婦・授乳期の食事計画・献立作成 ワークシートを用いて、対象者の特性と栄養ケアの課題について確認する。栄養ケア計画に基づいて対象者に適切な栄養を充足する献立作成を行う。各ワークシートを作成し、栄養アセスメント、栄養ケアのあり方を学び、次回の実習に備える。	事前: テキストを読む 事後: ワークシートをまとめる
第5回 【調理実習①】妊婦・授乳期食 妊婦・授乳期食の食事計画に基づいたモデル献立の実習を行い考察する。	事前: 調理実習の手順について確認する 事後: 実習後のワークシートをまとめる
第6回 乳児期の食事計画・献立作成 ワークシートを用いて、対象者の特性と栄養ケアの課題について確認する。栄養ケア計画に基づいて対象者に適切な栄養を充足する献立作成を行う。各ワークシートを作成し、栄養アセスメント、栄養ケアのあり方を学び、次回の実習に備える。	事前: テキストを読む 事後: ワークシートをまとめる
第7回 【調理実習②】乳児期食 (調乳・離乳食) 乳児用調製粉乳の調乳方法を実習する。また、成長・発達段階に応じた離乳食のモデル献立の実習を行い考察する。	事前: 調理実習の手順について確認する 事後: 実習後のワークシートをまとめる
第8回 幼児期の食事計画・献立作成 ワークシートを用いて、対象者の特性と栄養ケアの課題について確認する。栄養ケア計画に基づいて対象者に適切な栄養を充足する献立作成を行う。各ワークシートを作成し、栄養アセスメント、栄養ケアのあり方を学び、次回の実習に備える。	事前: テキストを読む 事後: ワークシートをまとめる
第9回 【調理実習③】幼児期食 食物アレルギーに対応したおやつを想定したモデル献立の実習を行い考察する。	事前: 調理実習の手順について確認する 事後: 実習後のワークシートをまとめる
第10回 学童期の食事計画・献立作成 ワークシートを用いて、対象者の特性と栄養ケアの課題について確認する。栄養ケア計画に基づいて対象者に適切な栄養を充足す	事前: テキストを読む 事後: ワークシートをまとめる

る献立作成を行う。各ワークシートを作成し、栄養アセスメント、栄養ケアのあり方を学び、次回の実習に備える。

第11回	【調理実習④】学童期食 学校給食を想定したモデル献立の実習を行い考察する。	事前：調理実習の手順について確認する 事後：実習後のワークシートをまとめる
第12回	大学生(学生自身)の栄養アセスメント実習 自身の食生活の実態について理解する。24時間思い出し法による食事調査結果をもとに、栄養状態を総合的に評価・判断する。	事前：テキストを読む 事後：ワークシートをまとめる
第13回	成人期の食事計画・献立作成 ワークシートを用いて、対象者の特性と栄養ケアの課題について確認する。栄養ケア計画に基づいて対象者に適切な栄養を充足する献立作成を行う。各ワークシートを作成し、栄養アセスメント、栄養ケアのあり方を学び、次回の実習に備える。	事前：テキストを読む 事後：ワークシートをまとめる
第14回	【調理実習⑤】成人期食 食生活の問題点を考慮したモデル献立について調理し考察する。	事前：調理実習の手順について確認する 事後：実習後のワークシートをまとめる
第15回	グループ毎にステージ別に立案した献立についてパワーポイントによるプレゼンテーションを行い、他班との評価を行う。	事前：ステージ別に立案した献立について、工夫した点などをまとめ、発表に備える 事後：他班との評価についてレポートにまとめる
第16回	期末試験 授業内で提出したレポートによる評価	

■ 履修上の注意

- ・ 献立作成では、栄養計算ソフトや電卓を利用するため、可能であればPCを持参する。
- ・ 毎時、ワークシートやレポートの作成等が予定されているため、期日までに提出する。
- ・ 調理実習時は、身支度を整えて臨み、グループ内での連携を図りながら実習する。

■ 成績評価方法・基準

課題(ワークシート、レポート等)60%、授業への取り組み40%(講義時への取組意欲や姿勢20%、調理実習の取組意欲や姿勢20%)

■ 教科書

「応用栄養学実習ワークブック第4版」北島 幸枝 編, 株式会社みらい, ISBN9784860156398

■ 参考書

「八訂準拠 ビジュアル食品成分表 2023」大修館書店, ISBN9784469270181

「改訂 応用栄養学実習書(第4版)」柳沢幸江・松井幾子編著, 建帛社, ISBN978-4-7679-0769-7

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

ライフステージ栄養学実習Ⅱ

(30125)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益田 裕司 渡辺 勝枝 濟渡 久美 松田 実花

■ 授業の概要

各ライフステージ（乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、妊娠期、高齢期）における対象者の身体・心理・環境などを理解し、より良く生きるための栄養管理について学修する。また、対象者にとって必要な食生活を維持できるよう献立作成を始め、食材の選び方、調理法などへの配慮についても更に理解を深める。授業は教員の管理栄養士としての実務経験（集団給食施設）を生かしてより実践的な視点で実習を進める。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようになる。		0.1		0.2	0.6	0.1
・各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。						

■ 授業計画

授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス（益田）	授業の進め方、目的を理解すること
第2回 子どもの発達と食べる機能（渡辺）	事前：乳幼児期の栄養ケアについて学んだことを確認しておく 事後：食べる機能にあわせた食事のすすめかたについてまとめる
第3回 幼児食と離乳食（調理実習）（渡辺）	事前：幼児食・離乳食の作り方（作業手順含めて）を確認しておく 事後：実習で学んだことをまとめる
第4回 乳幼児期の栄養ケアまとめ（渡辺）	事前：子どもの摂食機能にあわせた食事の進め方についてまとめておく 事後：乳幼児期の栄養ケアについてまとめる
第5回 幼児食と食物アレルギー対応食（調理実習）（渡辺）	事前：食物アレルギーについて学んだことを確認しておく 事後：実習で学んだことをまとめる
第6回 学童期の栄養特徴と食生活（濟渡）	事前：栄養指導論で使用した教科書の学童期の単元をよく読む 事後：学童期の栄養特徴と食生活について学んだことをまとめる
第7回 学校給食（調理実習）（濟渡）	事前：調理実習レシピをよく読み、グループで調理操作について共通理解する 事後：実習で学んだ内容についてレポートを作成する
第8回 思春期、青年期の栄養特徴と食生活（濟渡）	事前：栄養指導論で使用した教科書の思春期・青年期の単元をよく読む 事後：思春期・青年期の栄養特徴と食生活について学んだことをまとめる
第9回 料理選択型栄養・食教育の実際（調理実習）（濟渡）	事前：3・1・2弁当箱法について復習する 事後：実習で学んだ内容についてレポートを作成する
第10回 妊娠期の栄養ケア（松田）	事前：妊娠中に起こりうる栄養リスクを考えておく 事後：栄養リスクと栄養ケアの関係を理解する
第11回 妊娠期の栄養ケア（調理実習）（松田）	事前：対象者に必要な調理上の配慮を考えておく 事後：実習で学んだ内容についてレポートを作成する
第12回 成人期の栄養ケア（益田）	事前：成人期に起こりうる栄養リスクを考えておく 事後：栄養リスクと栄養ケアの関係を理解する

第13回 高齢期の栄養ケア（益田）	事前：高齢期に起こりうる栄養リスクを考えておく 事後：栄養リスクと栄養ケアの関係を理解する
第14回 高齢期の栄養ケア（調理実習）（益田）	事前：対象者に必要な調理上の配慮を考えておく 事後：実習で学んだ内容についてレポートを作成する
第15回 成人期、高齢期まとめ（益田）	事前：ライフステージごとに学んだことを整理しておく 事後：対象者に必要な栄養ケアをまとめる
第16回 期末試験（レポート課題による）	事前：レポート課題の趣旨を理解する 事後：わからなかった点を復習する

■ 履修上の注意

各回、担当教員の指示に従って受講すること。ライフステージ栄養学実習Ⅰで使用した教材を使用することがあるので、指示があった場合は持参すること。授業はグループで作業を進めることがあるため、全員が積極的に行動できるよう協力しながら取り組むこと。課題等、提出物の指示があった場合は期限を守ること。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート60%、授業での取り組み40%（調理実習20%：積極的参加、指示に対する理解度。講義20%：返答、質問など授業への積極的参加）

■ 教科書

各回、教員が資料を用意する。なお、ライフステージ栄養学実習Ⅰ使用した教材を使用することもある。

■ 参考書

[八訂準拠ビジュアル食品成分表] [大修館書店] [1400円+税] ※1年次に購入した食品成分表

■ 備考

質問等については、授業終了時、あるいはオフィスアワーで受け付けます。

臨床栄養学概論

(30126)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

木 下 ゆ り

■ 授業の概要

医療・福祉・介護・地域における臨床栄養の意義と概要、栄養アセスメント、栄養士校外実習前に身に付けておくべき疾患の知識（定義、病因、病態生理、症状等）とその栄養食事療法の基礎知識について講義する。栄養士実力認定試験のレベルの知識修得を目指す。患者の体験談、多職種連携の事例などを紹介しながら、患者のQOL向上を目指した栄養管理のあり方を学修する。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO）を活かし、授業を進める。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 栄養管理の一連の流れについて理解できる。						
・ 疾患および病態における基本的な栄養食事療法を理解できる。			0.8			0.2
・ 栄養管理法や多職種連携についての知識を修得できる。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 臨床栄養学の意義と目的 医療と臨床栄養	事前：シラバスを読み、わからない用語を調べる。 事後：教科書の要点をノートにまとめる。
第2回 栄養補給法	事前：教科書Part2-10を読み、わからない用語を調べる。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第3回 消化器疾患（食道・胃）と栄養食事療法の基礎	事前：解剖生理学、栄養学Ⅰ・Ⅱで学習した消化器機能について復習しノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第4回 消化器疾患（腸）と栄養食事療法の基礎 クローン病患者体験談	事前：教科書Part1-1を読み、わからない用語を調べる。 事後：様々な栄養剤の種類、販売状況を調べてまとめる。
第5回 糖尿病の基礎 糖尿病患者体験談	事前：解剖生理学、栄養学で学習した消化器機能、糖代謝について復習し、ノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第6回 糖尿病の栄養食事療法	事前：教科書Part1-3を読み、わからない用語を調べる。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第7回 肥満・るいそう・脂質異常症・高尿酸血症と栄養食事療法の基礎	事前：解剖生理学、栄養学で学習した脂質代謝について復習し、ノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第8回 メタボリックシンドローム・動脈硬化症・高血圧症と栄養食事療法の基礎	事前：教科書Part1-4を読み、わからない用語を調べる。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第9回 腎臓疾患	事前：解剖生理学で学習した腎機能について復習し、ノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。小テストの復習をする。
第10回 腎臓疾患と栄養食事療法の基礎	事前：教科書Part1-6を読み、わからない用語を調べる。

		事後：透析療法を行っている医療機関を調べてまとめる。
第11回	透析療法の基礎 透析患者体験談	事前：教科書Part1-6を読み、わからない用語を調べる。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第12回	血液・免疫・アレルギー疾患と栄養食事療法の基礎	事前：解剖生理学で学習した血液・免疫機能について復習しノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第13回	肝・胆・膵臓疾患と栄養食事療法の基礎 食べ物と薬剤の相互作用	事前：解剖生理学、栄養学で学習した肝胆膵機能と代謝について復習し、ノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第14回	課題発表（消化器疾患、糖尿病、脂質異常症）	事前：課題についてプレゼンテーションの準備を行う。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第15回	課題発表（高血圧症、腎疾患、アレルギー疾患）	事前：課題についてプレゼンテーションの準備を行う。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第16回	期末試験（レポート提出による）	事前：レポート試験について準備を行う。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。

■ 履修上の注意

解剖生理学、栄養学の授業の復習をしっかりとしておくこと。

遠隔授業（オンライン、オンデマンド）のため、資料配布、小テスト、課題提出などは、Google classroom を通して行う。

。

前期の「臨床栄養学概論」では基礎を学び、後期の「臨床栄養学各論」では多種多様な疾病と栄養管理について詳しく学ぶ（教科書共通）。

■ 成績評価方法・基準

小テスト40%、レポート試験20%、課題発表20%、授業の取り組み状況（積極的な授業への参加、質疑応答、予習・復習の状況など）20%をもとに、総合的に判断する。小テスト、課題については、授業中に解説する。

■ 教科書

〔エッセンシャル 臨床栄養学 第10版〕〔佐々木雅也・田中雅彰・小松龍史 編〕〔医歯薬出版〕〔4, 180円 税込〕2024年3月

■ 参考書

〔2026年版 栄養士実力認定試験過去問題集〕〔(社)全国栄養士養成施設協会編〕〔建帛社〕〔1, 430円 税込〕2026年2月20日

解剖生理学、栄養学の授業で使用した教科書

■ 備考

欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業後か、授業中またはメールで受け付ける。

臨床栄養学各論

(30127)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

木 下 ゆ り

■ 授業の概要

本科目では、臨床栄養学概論で学修した基礎的な栄養管理の手法に加え、多様な疾患における病態や栄養状態の特性に基づいた栄養食事療法について概説し、治療・予防に役立てるための栄養学的知識を修得することを目的に講義を行う。内容については、各疾患における治療ガイドラインに基づき、病態、症候、治療に対応した食事療法について学修する。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO）を活かし、授業を進める。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・各疾患における、病因・病態の基本的な知識を修得する。			0.5	0.25	0.25	
・各疾患および病態における栄養管理法を理解する。						
・各疾患および病態に対応した、適切な栄養食事療法の選択ができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 栄養ケアマネジメント 評価 栄養指導記録法（SOAP PES報告） 代謝疾患・内分泌系疾患の栄養食事療法	事前：教科書Part1-3 Part2-5・6・7・8を予習する。 事後：授業で学んだ要点を復習しノートにまとめる。症例について調べる。
第2回 症例からみる栄養食事療法・栄養教育①（グループディスカッション）	事前：教科書Part1-3を予習する。 事後：症例について学んだ要点を復習しノートにまとめる。栄養士実力認定試験過去問題を解く。
第3回 消化器疾患の栄養食事療法	事前：教科書Part1-1・2を予習する。 事後：授業で学んだ要点を復習しノートにまとめる。症例について調べる。
第4回 症例からみる栄養食事療法・栄養教育②（グループディスカッション）	事前：教科書Part1-1・2を予習する。 事後：症例について学んだ要点を復習しノートにまとめる。栄養士実力認定試験過去問題を解く。
第5回 循環器疾患・呼吸器疾患の栄養食事療法	事前：教科書Part1-4・5を予習する。 事後：授業で学んだ要点を復習しノートにまとめる。症例について調べる。
第6回 症例からみる栄養食事療法・栄養教育③（グループディスカッション）	事前：教科書Part1-4・5を予習する。 事後：症例について学んだ要点を復習しノートにまとめる。栄養士実力認定試験過去問題を解く。
第7回 腎臓疾患の栄養食事療法	事前：教科書Part1-6を予習する。 事後：授業で学んだ要点を復習しノートにまとめる。症例について調べる。
第8回 症例からみる栄養食事療法・栄養教育④（グループディスカッション）	事前：教科書Part1-6を予習する。 事後：症例について学んだ要点を復習しノートにまとめる。栄養士実力認定試験過去問題を解く。
第9回 骨・関節疾患の栄養食事療法 高齢者疾患の栄養食事療法	事前：教科書Part1-10・17を予習する。 事後：授業で学んだ要点を復習しノートにまとめる。症例について調べる。
第10回 症例からみる栄養食事療法・栄養教育⑤（グループディスカッション）	事前：教科書Part1-10・17を予習する。 事後：症例について学んだ要点を復習しノートにまとめる。栄養士実力認定試験過去問題を解く。
第11回 小児疾患、妊産婦・授乳婦の栄養食事療法	事前：教科書Part15・16を予習する。 事後：授業で学んだ要点を復習しノートにまとめる。症例について調べる。
第12回 症例からみる栄養食事療法・栄養教育⑥（グループディスカッション）	事前：教科書Part1-15・16を予習する。 事後：症例について学んだ要点を復習しノートにまとめる。栄養士実力認定試験過去問題を解く。
第13回 症例検討発表1回目	事前：症例について調べ準備する。 事後：症例発表を通して学んだ要点を復習しノー

第14回 症例検討発表2回目	トにまとめる。 事前：症例について調べ準備する。 事後：症例発表を通して学んだ要点を復習しノートにまとめる。
第15回 症例検討の振り返り・まとめ	事前：症例について振り返り疑問点をまとめておく。 事後：症例発表を通して学んだ要点を復習しノートにまとめる。
第16回 期末試験（レポート提出による）	事前：レポートを作成する。 事後：授業で学んだ内容を復習し、資料をファイルする。

■ 履修上の注意

講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

遠隔授業（オンライン、オンデマンド）のため、配布資料、小テスト、課題提出などは、Google classroom を通して行う。

■ 成績評価方法・基準

小テスト40%、レポート試験30%、授業の取り組み状況（積極的な参加、質疑応用、グループディスカッション、発表の状況など）30%をもとに、総合的に判断する。小テストは授業中に解説をする。

■ 教科書

〔エッセンシャル 臨床栄養学 第10版〕〔佐藤和仁・本間健・小松龍史編〕〔医歯薬出版〕〔4, 180円税込〕

■ 参考書

〔2025年度栄養士実力認定試験過去問題集〕〔(社)全国栄養士養成施設協会編〕〔建帛社〕〔1, 430 円税込〕

■ 備考

欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業後または授業中に受け付ける。

臨床栄養学実習

(30128)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益田裕司

■ 授業の概要

一般食からの献立展開および病態別治療食献立の作成と調理実習をグループ単位で行う。

臨床栄養学概論で学んだ疾病に関して、治療食に必要な栄養基準を満たした献立を作成すると同時に適切な調理法で治療食を提供できる技術を身につける。授業では各治療食について朝食、昼食、夕食の献立の作成を実施し、連続した集団給食における治療食の作成を視野に入れて解説を行う。急性期、慢性期に則した治療食の捉え方と病院における実践的な治療食の作成を教員の実務経験（管理栄養士）を基に授業を行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・疾患とそれに則した治療食の目的が理解できるようになる。					0.4	0.35
・治療食の栄養基準に合った適切な献立作成ができるようになる。					0.25	
・治療食として適切な調理方法を理解し、実施できるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	病院での栄養士の仕事 治療食の特色について	シラバスの内容を理解し今後の実習に備える
第2回	一般治療食 常食献立作成	常食の献立作成
第3回	一般治療食 常食献立提出・実習ミーティング 糖尿病食について	常食献立提出 糖尿病食献立作成
第4回	糖尿病食献立提出 一般治療食 常食 調理実習	糖尿病食献立提出
第5回	脂質異常症食について 糖尿病食実習ミーティング	脂質異常症献立作成
第6回	脂質異常症食献立提出 糖尿病食 調理実習	脂質異常症献立提出
第7回	高血圧症・心臓病食について 脂質異常症食実習ミーティング	高血圧症・心臓病献立作成
第8回	高血圧症・心臓病食献立提出 脂質異常症食 調理実習	高血圧症・心臓病食献立提出
第9回	腎臓病について 高血圧症・心臓病食実習ミーティング	腎臓病食献立作成
第10回	腎臓病食献立提出 高血圧症・心臓病食 調理実習	腎臓病食献立提出
第11回	胃・十二指腸潰瘍食について 腎臓病食実習ミーティング	胃・十二指腸潰瘍食献立作成
第12回	胃・十二指腸潰瘍食献立提出 腎臓病食 調理実習	胃・十二指腸潰瘍食献立提出
第13回	摂食・嚥下障害食について 胃・十二指腸潰瘍食実習ミーティング	摂食・嚥下障害食献立作成
第14回	摂食・嚥下障害食提出・ミーティング 胃・十二指腸潰瘍食 調理実習	摂食・嚥下障害食献立提出
第15回	摂食・嚥下障害食 調理実習	実習のまとめ
第16回	期末試験（提出課題による）	これまでの学習をまとめておくこと

■ 履修上の注意

毎回継続したテーマがあるため欠席のないようにすること。グループ作業となるため各班作業に支障がでないよう献立は期日内に仕上がること。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点50%（平常点は、実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート50%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）

■ 教科書

臨床栄養学概論（前期）で使用したテキストを利用します。
その他、必要な資料は配布します。

■ 参考書

〔食品交換表 第7版〕〔文光堂〕〔900+税〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

栄養指導論 I

(30129)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

済 渡 久 美 松 田 実 花

■ 授業の概要

栄養教育の基礎として、栄養教育の意義および目的に応じた理論と技法について解説する。

具体的には、栄養教育実施のために必要な知識である能力を身につけられるよう、栄養教育の概念をはじめ、近年の食・健康問題について説明し、栄養教育の根拠となる様々な施策や法規について講義する。

なお、この授業は自分の考えを发表或し、ディスカッションを交えたりしながら進める

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・栄養士に求められている専門的な役割を担うために必要な栄養学的基礎知識について理解する。		0.1	0.5	0.2		0.2
・基礎知識を備えた上で、様々な食生活の課題に対し、どのように活用することができるか、具体的な指導対象を想定しながら自ら考えることができる。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 栄養教育・栄養指導の目的と必要性（済渡）	事前：シラバスを読み、わからない言葉を調べる 事後：日本栄養士会のHPで事例を調べる
第2回 食生活を取り巻く環境と栄養教育・栄養指導（済渡）	事前：第1章1、2、3を読み、語句を調べる。 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第3回 栄養士活動の歴史と活動分野（済渡）	事前：第1章4を読み、わからない語句を調べる。 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第4回 栄養教育の関係法規 食育基本法と食育推進基本計画（済渡）	事前：第1章5を読みわからない語句を調べる。 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第5回 栄養教育に必要な情報と教材①日本人の食事摂取基準 食品群（済渡）	事前：食事摂取基準、食品群について調べる。 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第6回 栄養教育に必要な情報と教材②食生活指針と食事バランスガイド 生活習慣病と健康日本21、運動指針等（済渡）	事前：第1章3を読みわからない語句を調べる。 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第7回 栄養教育の方法論① 行動科学理論（済渡）	事前：第2章1、2、4を読み語句を調べる。 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第8回 栄養教育の方法論② 組織づくり・地域づくり・食環境づくりと栄養教育（済渡）	事前：第2章5、6を読み、語句を調べる 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第9回 栄養教育マネジメント① 概要 栄養アセスメントの種類と方法（済渡）	事前：第3章1、2を読み、語句を調べる 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第10回 栄養教育マネジメント② 栄養教育計画の目標設定 立案（済渡）	事前：第3章3、4を読み語句を調べる。 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第11回 栄養教育マネジメント③ 栄養教育プログラムの実施・評価（済渡）	事前：第3章5、6を読み語句を調べる。 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第12回 ライフステージ別の栄養教育の展開（乳幼児期） 保育所・認定こども園・幼稚園における栄養教育の展開（概説） 課題の発見・分析・計画書作成 （松田）	事前：乳幼児期の栄養課題を調べる 事後：計画書を完成させる
第13回 ライフステージ別の栄養教育の展開（乳幼児期） プレゼンテーション①（松田）	事前：各自でリハーサルを行う 事後：評価を参考に報告書を作成する
第14回 ライフステージ別の栄養教育の展開（乳幼児期） プレゼンテーション②（松田）	事前：各自でリハーサルを行う 事後：評価を参考に報告書を作成する 事前：
第15回 栄養教育の方法論③ 栄養カウンセリング（済渡）	事前：第2章3を読み語句を調べる。 事後：授業で実施した確認問題を復習する
第16回 期末試験・解説・まとめ（済渡）	事前：期末試験に向けて復習する 事後：試験解説を復習する

■ 履修上の注意

教科書に沿って進めていく。授業中に配布するプリントは、ファイルに綴じて、毎回授業に持ってくること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験40%、授業内確認問題20%、課題・レポート30%、授業の取り組み状況（提出状況、予習・復習の状況など）10%をもとに総合的に判断する。課題・レポートは予め採点基準を示し、確認問題は授業中に解説をする。

■ 教科書

[イラスト 栄養教育・栄養指導論<第6版>] [城田知子、寺澤洋子、林辰美他著] [東京教学社] [2, 640円（税込）]
]

■ 参考書

栄養士実力認定試験過去問題は教員が提供する。

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

栄養指導論Ⅱ

(30130)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

済 渡 久 美 松 田 実 花

■ 授業の概要

栄養指導論Ⅰで学んだ内容を統合・発展させる授業である。具体的には、保育所、学校、福祉施設、事業所、医療機関、地域において、対象者のニーズ合わせて行う栄養指導の計画・実施・評価の方法について解説する。様々なライフステージ、ライフスタイルの事例について、課題の発見と適切な教育法を実施できるように進める。栄養士実力認定試験の過去問題を活用する。教員の管理栄養士としての実務経験（保育所、学校、高齢者施設）を生かして授業を進める。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・個別・集団の栄養教育の方法を理解する		0.1	0.5	0.2		0.2
・各ライフステージの栄養課題を発見し、適切な指導計画を立てることができる						
・各ライフスタイルの栄養課題を発見し、適切な指導計画を立てることができる						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 行動変容へ導くためのテクニック（済渡） 行動変容とは	事前：シラバスを読み、わからない言葉を調べる 事後：実力認定試験過去問題を解く
第2回 行動変容へ導くためのテクニック（済渡） カウンセリング技法	事前：カウンセリング技法について予習する。 事後：実力認定試験過去問題を解く
第3回 行動変容へ導くためのテクニック（済渡） 日常生活の中での健康行動	事前：実力認定試験過去問題を解く 事後：実力認定試験過去問題を解く
第4回 ライフステージ別の栄養教育（済渡） 学童期	事前：学童期の栄養について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第5回 ライフステージ別の栄養教育（済渡） 思春期	事前：思春期の栄養について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第6回 ライフスタイル別の栄養教育（済渡） スポーツ栄養	事前：スポーツ栄養について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第7回 ライフステージ別の栄養教育（済渡） 成人期：生活習慣病予防	事前：成人期の栄養について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第8回 ライフステージ別の栄養教育（済渡） 妊娠期・授乳期	事前：妊娠期・授乳期の栄養について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第9回 ライフステージ別の栄養教育（松田） 乳児期・離乳期	事前：乳児期・離乳期の栄養について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第10回 ライフステージ別の栄養教育（済渡） 成人期：特定保健指導①	事前：特定保健指導について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第11回 ライフステージ別の栄養教育（済渡） 幼児期 保育所での取り組み	事前：保育所での栄養について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第12回 ライフステージ別の栄養教育（済渡） 成人期：特定保健指導②	事前：特定保健指導について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第13回 ライフステージ別の栄養教育（松田） 幼児期 家庭での取り組み	事前：幼児期の栄養について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第14回 ライフステージ別の栄養教育（松田） 高齢期	事前：高齢期の栄養について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第15回 災害時の健康・栄養問題（済渡）	事前：災害時の栄養について予習する 事後：実力認定試験過去問題を解く
第16回 期末試験・解説・まとめ（済渡）	事前：期末試験に向けて復習する 事後：試験解説を復習する

■ 履修上の注意

教科書に沿って進めていく。授業中に配布するプリントは、ファイルに綴じて、毎回授業に持ってくる。

■ 成績評価方法・基準

期末試験40%、授業内確認問題20%、課題・レポート30%、授業の取り組み状況（提出状況、予習・復習の状況など）10%をもとに総合的に判断する。課題・レポートは予め採点基準を示し、確認問題は授業中に解説をする。

■ 教科書

栄養指導論 I で使用した教科書

■ 参考書

[栄養士実力認定試験過去問題集] [全国栄養士養成施設協会編] [建帛社]

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

栄養指導論実習

(30131)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋45）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

済 渡 久 美 松 田 実 花

■ 授業の概要

栄養指導論 I で学修した知識・理解をもとに、個人および集団を対象とした栄養指導を実践的に学ぶ授業である。個人指導では共感や傾聴などコミュニケーション能力を身につける。集団指導では、課題の発見、計画書・教材作成、発表・評価を行う。

教員の管理栄養士としての実務経験（学校、高齢者施設）を活かして、実践例を紹介しながら授業を進める。アクティブラーニング型式（グループ討議、プレゼンテーション等）で実施する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・栄養指導の知識と技術を活用し、指導計画・実施・評価することができる。		0.1		0.5	0.2	0.2
・個人栄養指導の特徴を理解し知識・技能・態度を実践できる。						
・集団栄養指導の特徴を理解し知識・技能・態度を実践できる。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 栄養教育の基礎①自己開示 課題の発見・分析・ニーズ把握	事前：事前配布資料を読んでわからない言葉について調べる 事後：ワークシートを完成させる
第2回 栄養教育の基礎②自己開示 3分間スピーチ プレゼンテーション・評価	事前：プレゼンテーションの練習をする 事後：評価用紙を完成させる
第3回 集団教育①ライフステージ別の課題・情報収集	事前：教科書の該当箇所をよく読む 事後：対象者の状況・課題について詳しく調べる
第4回 集団教育②栄養教育計画書の作成	事前：対象者に適した栄養教育計画について、教科書の該当箇所をよく読み、検討する 事後：栄養教育計画書を完成させる
第5回 集団教育③指導案の作成	事前：対象者に適した指導案について、教科書の該当箇所をよく読み、検討する 事後：指導案を完成させる
第6回 集団教育④教材（媒体）の作成	事前：教材作成に必要な材料・方法を調べる 事後：教材を完成させる
第7回 集団教育⑤教材（媒体）の練習	事前：教材（媒体）使用して練習する 事後：教材と指導案を修正して練習する
第8回 集団教育⑥プレゼンテーションの基礎	事前：計画書・媒体・指導案を整備する 事後：プレゼンテーションの練習を行う
第9回 集団教育⑦プレゼンテーションの実際	事前：評価基準を確認し準備する 事後：他者のプレゼンテーションを参考に練習を行う
第10回 集団教育⑧プレゼンテーションの評価	事前：他者のプレゼンテーションを参考に練習を行う 事後：評価を参考にプレゼンテーション資料を修正する
第11回 集団指導についてふりかえり・まとめ	事前：集団指導の資料を修正する 事後：レポートを作成する
第12回 個別指導①栄養アセスメント 食事調査・健診データ・問診による把握（グループ討議・作業）	事前：教科書の該当箇所をよく読む 事後：症例についてワークシートを完成させる
第13回 個別指導②栄養カウンセリング 傾聴・受容・共感・質問と要約・指導案の作成（グループ討議・作業）	事前：教科書の該当箇所をよく読む 事後：指導案を完成させる
第14回 個別指導③栄養相談ロールプレイング（グループ討議・作業）	事前：ロールプレイングの練習をする 事後：評価用紙を完成させる
第15回 個別指導のふりかえり・まとめ	事前：個別指導の資料を修正する 事後：レポートを作成する
第16回 期末筆記試験	事前：授業内容を復習する

■ 履修上の注意

グループワークが中心となるので、グループ内の協調性を図ること。実習を計画どおりに行うために、各自が十分に事前準備を行う。

■ 成績評価方法・基準

課題発表50%（自己開示20% 集団指導20% 個別指導10%）、レポート50% をもとに総合的に評価する。課題発表の評価は発表者にフィードバックする。ルーブリック評価については授業で説明する。

■ 教科書

教員が授業中にプリントを配布する
栄養指導論 I で用いた教科書

■ 参考書

■ 備考

質問については授業後、授業中に受け付ける

公衆栄養学

(30132)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

栗山孝雄

■ 授業の概要

公衆栄養学は、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県、国などの住民レベル、学校や職域などの様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握し、問題点の改善、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。その際、食生活や栄養面の観点から検討を行う。本講義では、以上の内容に関する事項として、地域住民や各種集団の健康・栄養に関する現状や問題点、関係する政策、公衆栄養活動の流れ等について解説する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本の食生活や食環境の変化を理解する。		0.3	0.4			
・公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。						0.3
・公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 公衆栄養の概念	予習：教科書 p.2～4を読んでおく。復習：公衆栄養の意義や目的、生態系やコミュニティとの関連について理解する。
第2回 公衆栄養活動	予習：教科書 p.4～13を読んでおく。復習：公衆栄養活動の歴史、ポイントとなる用語について確認し、理解する。
第3回 日本の食事の変化	予習：教科書 p.16～23を読んでおく。復習：日本人の栄養摂取状況の推移と現状を確認する。
第4回 日本の食生活の変化	予習：教科書 p.23～27を読んでおく。復習：ポイントについて、日本人の食行動を交えて理解する。
第5回 日本の食環境の変化	予習：教科書 p.27～32を読んでおく。復習：ポイントについて、日本の経済状況等も交えて確認する。
第6回 日本の栄養政策	予習：教科書 p.40～45を読んでおく。復習：栄養行政、特に保健所や市町村の役割について理解する。
第7回 公衆栄養関連法規	予習：教科書 p.46～54を読んでおく。復習：授業でとりあげる法律について、ポイントとなる点を復習する。
第8回 国民健康・栄養調査	予習：教科書 p.54～58を読んでおく。復習：調査の目的、実施に関する点について、ポイントを理解する。
第9回 ミニテスト 諸外国の健康・栄養問題	第1回～第8回の授業内容の修得状況を点検する。 予習：教科書 p.32～37を読んでおく。復習：諸外国の健康・栄養問題の現状と課題を理解する。
第10回 公衆栄養マネジメント・アセスメント	予習：教科書 p.114～117を読んでおく。復習：公衆栄養活動の進め方について確認する。
第11回 公衆栄養活動における調査方法	予習：教科書 p.119～121を読んでおく。復習：調査方法の特徴を理解する。
第12回 公衆栄養活動における目標設定	予習：教科書 p.121～126を読んでおく。復習：目標設定、優先順位の決め方について確認する。
第13回 公衆栄養活動の評価	予習：教科書 p.126～129を読んでおく。復習：評価の具体例を交え、理解を深める。
第14回 栄養疫学の指標	予習：教科書 p.92～99を読んでおく。公衆衛生学で学習した疫学を復習したうえで、受講する。復習：個人内変動、個人間変動、総エネルギー調整栄養素摂取量について確認する。
第15回 健康・食生活の危機管理と食支援	予習：教科書 p.139～142を読んでおく。復習：

■ 履修上の注意

①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。

②都合により、授業の順序を変更する場合もある。

③本講義と関連する内容の公衆衛生学などの科目を復習しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・ミニテスト（35%）、期末試験（35%）、提出物（20%）、受講態度（10%）で評価を行う。

※受講態度については、①提出課題の提出期限を守らない、②授業中の私語や授業と関係ない行為を行うなど、授業態度に問題のある者は、状況に応じて減点する。

・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2, 600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）で受付ける。

調理科学論

(30133)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

宮 地 洋 子

■ 授業の概要

授業の概要

栄養学の学問領域において調理を科学的にとらえて学修する。すなわち食事計画から、調理操作を経て、食事を提供するまでの一連の調理工程を科学的な裏付けをもとに解説する。植物性食品・動物性食品、調味料等の調理性を学修する。また、食事計画の方法、食べ物のおいしさの要因となる食べ物の味、におい、色、テクスチャーなど、さらにおいしさを主観的・客観的に評価できる官能評価について学修する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・加熱・非加熱の調理操作の特徴、使用機器の発熱原理等を理解できる。		0.25	0.5		0.25	
・食品や調味料の特性と調理による科学的変化及び栄養の変化を理解できる。						
・食事計画の意義、献立作成に必要な知識を理解できる。						
・おいしさの主観的・客観的評価の種類と内容を理解できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. 調理の意義、目的、役割について	調理の意義・目的等を読んでおくこと
第2回	2. 食べ物のおいしさ；におい・味を感じるメカニズム・味の相互作用	食べ物のおいしさを読んでおくこと
第3回	3. おいしさの評価；おいしさの要因、機器測定、官能評価の種類と方法	おいしさの評価を読んでおくこと
第4回	4. 調理操作①非加熱調理操作	非加熱調理操作を読んでおくこと
第5回	5. 調理操作②加熱調理操作	加熱調理操作を読んでおくこと
第6回	6. 調理機器、新しい調理法	調理機器、新しい調理法を読んでおくこと
第7回	7. 食事計画①各国の料理様式の特徴と献立構成	各国の食事構成、供食形式を読んでおくこと
第8回	8. 食事計画②食事計画の意義、献立作成の条件、手順、評価	食事計画について復習プリントに記入すること
第9回	9. 植物性食品の調理科学①米、小麦、いも類、豆類	米、小麦、いも類、豆類を読んでおくこと
第10回	10. 植物性食品の調理科学②野菜、果実、藻類	野菜、果実、藻類を読んでおくこと
第11回	11. 動物性食品の調理科学①食肉、魚介類	食肉、魚介類を読んでおくこと
第12回	12. 動物性食品の調理科学②卵類、牛乳、乳製品	卵類、牛乳、乳製品を読んでおくこと
第13回	13. 油脂類の調理科学 油脂の脂肪酸組成、調理性	油脂の脂肪酸組成、調理性を読んでおくこと
第14回	14. ゲル化剤・とろみ剤の調理科学	ゲル化剤・とろみ剤を読んでおくこと
第15回	15. 調味料・香辛料の調理科学、まとめ	調味料・香辛料を読んでおくこと
第16回	16. 期末試験	

■ 履修上の注意

調理に関する広範な分野を短期間で学修するので、予め教科書を熟読して授業に臨むこと。

パワーポイントの資料を配布しますので、教科書と合わせてよみ学習してください

■ 成績評価方法・基準

小テスト（30%）、期末試験（60%）、平常点（10%）[授業への参加状況・発言、質問]等、小テストは添削後に返却します。試験は問題と解答をまとめたレジュメを配布してフィードバックとします。

■ 教科書

〔はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ？調理学〕〔久木久美子他〕〔化学同人〕〔2, 530円〕

■ 参考書

〔食材図典〕〔小学館〕, 〔NEW調理と理論〕〔山崎清子他〕〔同文書院〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

調理学実習 I

(30134)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (45 + 15)

対象学科: 食専1年

授業形態: 実習 学期: 前期 必・選: 必修 栄 (必)

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

宮 地 洋 子

■ 授業の概要

「調理科学論」の調理理論、その他の授業で学んだことをもとにして、基本的調理を学び、給食管理、ライフステージ栄養管理等に展開できるようにする。日本料理・西洋料理・中国料理の日常食の献立実習を通して、基本的な知識や調理技術、すなわち計量、切り方、だしの取り方、加熱操作、盛り付け、配膳、料理の組み合わせ等を習得する。また、これらの食事様式をふまえた日常食の食事計画を理解し、栄養バランスや嗜好を考慮した献立および調理ができるよう学ぶ。さらに食材や料理の調理による変化を調理科学の視点から考察する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・基礎的技術および通年・春・夏季節の各種食材の適切な扱いができる。			0.25	0.5		0.25
・非加熱及び各加熱法の原理を理解し、食材・料理等にあった適切な調理操作ができる。						
・調味料の調味パーセントを活用して、標準的な調味の説明ができる。						
・日本料理・西洋料理・中国料理の様式をふまえ、日常食の食事計画と調理ができる。						

■ 授業計画

	自習 (事前・事後学修の内容)
第1回 1. 講義: 授業の進め方、実習の基本事項、安全と衛生対策、調味料の塩分・糖分計算、実習ノートの書き方(ルーブリック評価)	教科書253~254pを読んでおくこと。
第2回 2. 調理操作の基礎①計量、切り方、廃棄率、調味料の重量・容量換算など	科書8p、85~92pを読んでおくこと。
第3回 3. 日本料理①: 調理操作 (炊飯の基礎、煮だし汁の取り方、塩分濃度の調整、即席漬け、煎茶の入れ方など)	日本料理①の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。
第4回 4. 西洋料理①: 調理操作 (バターライスの炊き方、牛肉パイヨンの取り方、紅茶の入れ方など)	西洋料理①の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。
第5回 5. 中国料理①: 調理操作 (焼飯の作り方、魚介すり身団子の成形、寒天の溶解・凝固)	中国料理①の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。
第6回 6. 日本料理②: 調理操作 (豚肉の下処理・焼き方、青菜の茹で方・浸し物など)	日本料理②の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。
第7回 7. 西洋料理②: 調理操作 (牛バラ肉の煮込み料理、小麦粉ルーの加熱温度、ゼラチンの溶解・凝固)	西洋料理②の実習プリントを読み、調理操作手順を考慮しておくこと。
第8回 8. 中国料理②: 調理操作 (軟炸の衣と油の温度・鶏肉の下処理、卵の気泡性による蒸し菓子、烏龍茶の入れ方など)	中国料理②の実習プリントを読み、調理操作手順を考慮する。
第9回 9. 講義: 日常食の食事計画; 日常食 (主食・主菜・副菜、栄養バランスが適正) の献立作成 (グループワーク)、実技確認について	教科書245~248pを読み献立作成の準備をしておくこと、実習ノートの提出①
第10回 10. 日本料理③: 調理操作 (炊き込み飯の炊き方、魚の下処理・煮付け、薄くず汁のでんぷん濃度、三杯酢の調製など)	日本料理③の実習プリントを読み、調理操作手順を考慮しておくこと。
第11回 11. 西洋料理③: 調理操作 (魚の下処理、バター焼きの作り方、小麦粉中濃ソースの調製、砂糖の加熱・カラメルソースの調製)	西洋料理③実習プリントを読み、調理操作手順を考慮しておくこと。
第12回 12. 中国料理③: 調理操作 (鶏肉の下処理・鶏湯の取り方、米粉麺の戻し方・炒めものなど)	中国料理③の実習プリントを読み、調理操作手順を考慮しておくこと。
第13回 13. 各班が作成した日常食の献立 (8回目) の実習および評価 (グループワーク)	作成した献立に必要な食材や調味料の購入・実習の準備を各班で行うこと。
第14回 14. 実技確認と評価、使用食材を用いた調理実習	課題について各自が準備しておくこと。
第15回 15. まとめ、調理器具の整理、掃除	実習ノートの提出②
第16回 16. 振りかえり、試験問題の解答	

■ 履修上の注意

計量器と電卓は各自で準備してください。

材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。
実習後は毎回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出して貰います。
実習献立のプリントを配布するので、よく読み調理操作手順を確認して授業に臨んでください。

■ 成績評価方法・基準

試験50%、実習ノート30%（ルーブリック評価）、実技評価20%、受講態度10%等総合的に評価します。実習ノートはルーブリックを配布するので学習目標として参照してください。試験は授業の16回で解答します。

■ 教科書

〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3, 650円〕, 〔調理実習ノートB〕〔基本調理研究会〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔660円〕

■ 参考書

〔栄養士管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1, 650円〕、〔日本食品成分表8訂〕〔医歯薬出版〕、〔調理のためのベーシックデータ第6版〕〔2, 200円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

調理学実習Ⅱ

(30135)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (45 + 15)
 対象学科 : 食専1年
 授業形態 : 実習 学期 : 後期 必・選 : 選択 栄 (必)
 生活文化学科 食物栄養学専攻科目
 宮 地 洋 子

■ 授業の概要

「調理科学論」および「調理学実習Ⅰ」で学んだ知識・技術を基に、日本料理、西洋料理、中国料理の応用した調理ができる□
 ことを目的とする。秋・冬に出回る食材の適切な取り扱いやより品質の良い調理ができるように、調理のポイントを指示し指□
 導する。また、日常食の他、季節および地域の食材をを取り入れた供応食、行事食、郷土料理について実習献立を通して学修し、□
 食事の献立構成、食事の整え方、食事の提供の仕方、食事作法等を日本料理を中心に指導する。□

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 季節の食材の種類や調理特性を理解し、適切な扱いができる。			0.25	0.35	0.25	0.15
・ 日本料理、西洋料理、中国料理の応用的な調理技術を理解し調理ができる。						
・ 各行事を意味をふまえ、秋彼岸、正月等、ひな祭り等の行事食の献立構成を理解し調理ができる。						
・ 郷土料理についてグループワーク学習により、献立の作成、食材の準備、調理ができる。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 講義 : 実習について、調理学実習Ⅰの復習、郷土料理について□ □ (献立作成・グループワーク)、実習ノートの書き方・ルーブリック評価について	教科書P8、P33、P139~P150を読んでおくこと□ □ 献立の提出
第2回 日本料理① : 秋彼岸の献立 (湯炊き法によるおはぎ作り、□ 小豆あん、ずんだあん、吸い物 (菊花豆腐))	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第3回 日本料理② : 秋の献立 (しょう油味炊き込み飯、魚 (幽庵焼き) 、□ 野菜の料理)	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第4回 西洋料理① : 朝食メニュー (ヨーロッパスタイル)、ジャム□ □ の調製	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第5回 中国料理① : 飲茶献立 (甜點心と鹹点心)	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第6回 西洋料理② : 秋の献立 (肉料理、りんごの焼き菓子等)	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第7回 講義 : 日本料理の特徴、行事食、食卓作法、食文化等について□ □ 郷土料理の食材購入表作成、栄養価計算 (グループワーク)	教科書P3~P7を読んでおくこと□ 実習ノートの提出①
第8回 郷土料理 : 作成した献立の実習 (グループワーク)	各班で実習の準備をしておくこと
第9回 中国料理②秋の献立 (拌菜、点心等)	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第10回 西洋料理③ : クリスマスディナーメニュー	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第11回 日本料理④ : 正月料理 (重詰め料理)	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第12回 中国料理③ : 冬の献立 (前菜、湯菜等)	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第13回 日本料理⑤ : ひな祭り献立 (ちらしずし、はまぐりの潮汁等)	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第14回 実技確認と評価、使用食材を用いた調理	実技確認の準備をしておくこと
第15回 試験、調理器具の整理	実習ノート提出②
第16回 試験の振り返り、後期まとめ	

■ 履修上の注意

電卓は各自で準備してください。材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。実習後は毎回□
 回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出してもらいます。□

■ 成績評価方法・基準

試験(30%)、実習ノート(30%) (ルーブリック評価)、実技確認(15%) 課題(郷土料理献立) 15%、受講態度(実習への参

加状況、提出物) 10%で総合的に評価します。試験、実習ノート、課題は後日添削して返却します。□

■ 教科書

〔改訂新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3, 650円〕□

〔調理実習ノート〕〔基本調理研究会〕〔アイケイコーポレーション〕〔660円〕□

■ 参考書

〔日本食品成分表8訂〕〔医歯薬出版〕〕〔1, 5400円〕、〔調理のためのベーシックデータ第6版〕〔女子栄養大学出版部〕〔2, 2000円〕□

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付けます。

調理学実習Ⅲ

(30136)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (45 + 15)

対象学科: 食専2年

授業形態: 実習 学期: 前期 必・選: 選択 栄 (必)

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

宮 地 洋 子

■ 授業の概要

「調理学」「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」で学んだ知識・技術をもとに、栄養士として調理現場で求められる実践的な能力を総合的に身につけることを目的とする。献立作成から調理に至るまで、材料購入計画やテーブルコーディネートも含めて、学生自身が主体的に計画・実習し評価を行う。さらに、官能評価方法や調理による食材の変化などを理論的に理解し、調理技術と調理理論との統合を図り、実際の調理に応用できる力を養えるように指導する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 献立作成に必要な知識・技術を理解し献立作成、食材の準備ができる。			0.25	0.15	0.35	0.25
・ 食事基準や食品構成に基づいた献立の調理、テーブルコーディネートができる。						
・ 官能評価法や調理理論を理解し、実際の調理に応用できる。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	1. 講義: 授業の進め方, 献立作成のための解説, 実技確認のための解説, 災害食のためのDVD鑑賞	レポートの整理
第2回	2. ①昼食の献立作成, 20才代女子食事摂取基準量および食品構成に基づき作成する (グループワーク)	各班で献立 (案) を考えてくる
第3回	3. ①昼食献立の栄養価計算、材料の購入表の作成 (グループワーク)	授業内に提出すること
第4回	4. ①昼食献立の調理実習 (グループワーク)	食材の準備をする、レポートの整理
第5回	5. 魚の半身を使用した調理実習 (たたき, 角煮, 汁物)	レポートの整理
第6回	6. ②夕食の献立作成, 20才代女子食事摂取基準量および食品構成に基づき作成する (グループワーク)	各班で献立 (案) を考えてくる
第7回	7. ②夕食の献立の栄養価計算、材料の購入表の作成 (グループワーク)	授業内に提出すること
第8回	8. ②夕食の献立の調理実習 (グループワーク)	食材の準備をする、レポートの整理
第9回	9. ③災害食、④アフタヌーンティー (焼き菓子) の献立の作成 (グループワーク)	各班で献立 (案) を考えてくる
第10回	10. ③災害食、④アフタヌーンティー (焼き菓子) の献立の栄養価計算、材料の購入表の作成 (グループワーク)	授業内に提出すること
第11回	11. ③災害食の調理実習 (グループワーク)	食材の準備をする、レポートの整理
第12回	12. ④アフタヌーンティー献立の調理実習, テーブルコーディネート (グループワーク)	レポートの整理
第13回	13. 食品の目測・実測実験、寒天ゼリーの順位法による官能評価	レポートの整理
第14回	14. 実技確認, 使用食材を用いた調理実習	レポートの整理
第15回	15. 試験、理器具の整理	試験の準備をしておくこと
第16回	16. 日本料理のテーブルマナー講習会 (学外授業)	レポートの整理

■ 履修上の注意

計量器と電卓は各自で準備してください。

材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。

実習後は各回の実習内容をレポートにまとめ、指示に従って提出して貰います。実習献立のプリントを配布するので、よく読み調理手順を確認して授業に臨んでください。

■ 成績評価方法・基準

授業内課題40%, レポート30%, 実技評価20%, 受講態度 (メモをとる, 実習班での協調性、積極性等) 10%等総合的に評価します。

期末試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックします。レポートは後日添削して返却します。

■ 教科書

[改訂新版調理学実習おいしさと健康] [早坂千枝子監修] [アイ・ケイコーポレーション] [3, 650円]
[日本食品成分表8訂] [医歯薬出版]

■ 参考書

[食品の官能評価・鑑別演習] [日本フードスペシャリスト協会編] [建帛社]
[調理のためのベーシックデータ第6版] [女子栄養大学出版部]

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付けます。

給食管理学

(30137)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益田裕司

■ 授業の概要

給食の目標を達成するために、給食管理に必要な事柄を食事摂取基準、給与栄養目標量の算出、献立作成に必要な食品構成、食事計画および、安全衛生管理について順序だてて解説する。また、特定給食施設における大量調理を想定した集団給食の献立作成、作業工程、作業の標準化について教員の現場経験（管理栄養士）を取り入れた視点から解説を行う。更に代表的な特定給食施設である事業所、病院、福祉施設、学校、保育所などの給食施設の特徴や栄養士の果たす役割について概説する。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・給食の計画を立てるために必要な基礎知識を身につける。					0.35	
・食事摂取基準を用いた給与栄養目標量の算出ができるようになる。					0.25	
・給食計画に基づいた安全かつ衛生的な献立を作成できるようになる。					0.25	0.15

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 給食管理の概念	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第2回 安全衛生管理 食中毒の予防	衛生管理についてテキストを復習する
第3回 栄養計算の基礎知識①（食品成分表の扱い方）	栄養計算の方法を理解する
第4回 栄養計算の基礎知識②（廃棄率を用いた考え方について）	食品成分表を更に活用できるようにする
第5回 給食の計画 食事摂取基準	食事摂取基準と特徴を理解する
第6回 栄養・食事管理の計画① 給与栄養目標量・食事計画	給与栄養目標量を算出できるようにする
第7回 栄養・食事管理の計画② 食品構成 献立作成の基礎知識	食品構成の考え方を理解する
第8回 栄養・食事管理の計画③ 献立作成の基礎知識	食品構成と献立作成の関連性を理解する
第9回 施設・設備管理（施設・設備と機器、食環境）	施設環境についてテキストを参照する
第10回 作業管理①（作業工程・作業の標準化）	大量調理の特徴を理解する
第11回 作業管理②（大量調理における調理の工夫と安全性、合理化）	大量調理の特徴を理解する
第12回 危機管理・食物アレルギー・災害時の備蓄について	危機管理の重要性を理解する
第13回 特定給食施設の種類と特徴および栄養士の役割①（保育所・学校・事業所給食）	特定給食施設の特徴を理解する
第14回 特定給食施設の種類と特徴および栄養士の役割②（高齢者福祉施設給食・病院給食）	特定給食施設の特徴を理解する
第15回 まとめ 給食における評価と改善	これまでの講義を振り返りまとめる
第16回 期末試験	これまでの講義を振り返り理解する

■ 履修上の注意

栄養士として給食管理業務は基本かつ重要な役割であるため、各自、目的意識をもって受講すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験50％ 平常点30％（平常点は、受講態度（発言や質問等、積極性）で総合的に判断する。） 提出物20％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書

〔給食経営管理テキスト 第6版〕〔加藤由美子〕〔学建書院〕〔2, 800+税〕

〔八訂「大量調理施設衛生管理のポイント」〕〔中央法規〕〔2, 800+税〕

■ 参考書

〔給食運営・経営管理実習のてびき第6版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2, 600+税〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理基礎演習Ⅰ

(30138)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益田裕司

■ 授業の概要

2年次の校外実習に向けた心構えや実務について概説する。また2年生による校外実習報告会に参加する。更に本授業では保育園・給食センターなどの給食施設を赴き、施設見学を通して該当する給食施設の特性を直接学びとる。また給食施設に向けた献立作成については、これまで学習した内容に加え更に実践的な視点で現実的な献立が作成できるように指導を行う。これらの学びを通して、栄養士の多様性を学び、実際に施設で働く栄養士の給食管理業務について理解を深められるよう教員の現場経験（管理栄養士）を取り入れた視点で講義を行う。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・給食施設で活躍する栄養士の責任と役割を理解することができる。					0.25	0.35
・安全で衛生的な食事の提供に必要な環境を理解できるようになる。					0.25	0.15
・基本的な条件を満たした給食の献立を作成できるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 施設見学の意義・目的	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第2回 校外実習先の説明・希望調査・実習内容や流れについて	実習先で学べる内容を理解しておく
第3回 挨拶の練習 身だしなみチェック 報告書・お礼状について	実習に必要な身だしなみやマナー、ルールを理解する
第4回 各施設への見学事前準備（施設の特徴や学習に必要な着眼点など）	施設の特徴を理解し、目的をもって見学する
第5回 保育園見学	見学後レポートを提出する
第6回 センtralキッチン見学	見学後レポートを提出する
第7回 施設見学後指導 校外実習に向けた対策と準備	見学時に配布された資料等を復習する
第8回 施設ごとの喫食者の特徴、給食栄養管理の要点	給食対象者の状況を理解する
第9回 大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく安全な献立計画	大量調理施設衛生管理マニュアルの復習
第10回 給食施設献立の要点確認	献立作成に必要な情報を確認する
第11回 給食施設献立の作成（基礎）	栄養基準に沿った献立の作成
第12回 給食施設献立の展開方法（応用）	連続した献立の作成練習
第13回 給食施設献立の完成	総合的に基準（条件）を満たした献立を完成させる（試験として評価する）
第14回 校外実習報告会①（2年生前半グループ）への参加	校外実習に向け自分の課題を検討する。
第15回 校外実習報告会②（2年生後半グループ）への参加	校外実習に向け自分の課題を検討する。
第16回 期末試験（提出課題による）	これまでの学習をよく理解しておくこと。

■ 履修上の注意

本科目への取り組み状況（提出物・遅刻・欠席・受講態度（積極性）など）によっては2年次の校外実習が出来ないことがある。また、各施設においては、心構え、身だしなみに十分注意すること。また見学では、遅刻は認められず欠席扱いとなる場合もあるため十分に注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点50%（平常点は、受講態度（発言や質問など積極的な取り組み）で総合的に判断する。）期末試験20%、レポート30%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書

〔給食運営・経営管理実習のてびき第6版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2, 600+税〕

■ 参考書

〔給食経営管理テキスト 第6版〕〔加藤裕美子〕〔学建書院〕〔2, 800+税〕

■ 備考

見学等の時期に関しては施設や行事の都合上、変動があります。

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理基礎演習Ⅱ

(30139)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益田裕司

■ 授業の概要

「栄養士」資格取得のために必須な給食管理校外実習について、実習前の心構えや、給食の目的、実習先の業務内容について教員の現場経験（管理栄養士）を基に解説し、それぞれが自分の学習テーマをもって実習に臨めるようにする。実習期間中に作成する実習ノート（日誌）への記述法、要点のまとめかた等について学習する。更に、年度末に報告会を行い、各自実習で得た成果や反省点、今後の課題を整理して発表する。実習先それぞれの報告内容を共有し、自分の実習先だけでなく幅広い給食管理業務を理解できるようにする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・実習で何を学びとるか心構えや目的を明確化できるようになる。			0.25	0.35	0.25	0.15
・自分の学習テーマ（自主研究）を考える力を身につける。						
・実習先で体験できる栄養業務からその要点を学びとる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 給食管理校外実習の意義・目的の明確化	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第2回 実習の心構えについての確認 身だしなみチェック	心構えの確認、実習前の整理
第3回 実習先の情報収集および確認 校外実習オリエンテーションについて	実習先の情報から学ぶべきテーマを検討する
第4回 実習内容について 実習計画立案（小学校・自衛隊駐屯地）	実習で学ぶべき内容の整理
第5回 実習日誌等記録の書き方について ①様式の説明・注意点	記録方法の演習実施
第6回 実習日誌等記録の書き方について ②報告書の目的とポイント	要点のまとめ方を理解する
第7回 実習日誌等記録の書き方について ③表現法・言葉使い	記録する際に使用する表現を理解する
第8回 施設職員との接し方・コミュニケーションのとり方について	実習先の職員や給食対象者への接し方を理解する
第9回 実習前課題についての準備と対策	施設ごと課題への取り組みについて
第10回 自主研究のテーマについて	自ら関心がもてる研究テーマを検討する
第11回 実習内容について 実習計画案作成（保育所・高齢者施設・その他）	実習で学ぶべき内容の整理
第12回 校外実習終了後のまとめ、反省点について	校外実習ノートに記録を残す
第13回 校外実習報告会に向けた取り組み方法と重要点について	実習先で学んだことを報告できるように整理する
第14回 校外実習報告会①（前半グループ）	校外実習で得た成果と課題を報告する
第15回 校外実習報告会②（後半グループ）	校外実習で得た成果と課題を報告する
第16回 期末試験（課題提出による）	校外実習での学びを表現できるようにする

■ 履修上の注意

本科目への取り組み状況（遅刻、欠席、受講態度（積極性）、提出物）によっては校外実習に参加できないこともあるので注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点50%（平常点は、受講態度（発言や質問など積極的な取り組み）で総合的に判断する。）期末試験30%（校外実習報告会での個別評価）レポート20%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書

〔給食運営・経営管理実習のてびき第6版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2, 600+税〕

〔給食経営管理テキスト 第6版〕〔加藤由美子〕〔学建書院〕〔2, 800+税〕

■ 参考書

〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1, 800+税〕

■ 備考

校外実習報告会については、実習期間の都合上、後期に実施することがある。

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理実習 I

(30140)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (45 + 15)

対象学科: 食専1年

授業形態: 実習 学期: 前期 必・選: 必修 栄 (必)

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益 田 裕 司

■ 授業の概要

栄養士には給食を運営する技術が必要である。「調理科学論」「調理実習」で学んだ知識や教員が管理栄養士として集団給食施設で得た経験と技術をもとに給食管理実務を学習する。対象者に必要な食事摂取基準に基づいた栄養量および嗜好に合った献立の作成、調理者の技術や厨房施設を考慮した調理法の選択、大量調理施設衛生管理マニュアルに則した衛生的かつ安全な食事の提供、適時適温サービスの手法、発注作業、給食関連書類の作成など給食管理業務について習得できるようにする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・給食の計画を立てるために必要な基礎知識と実務を身につける。			0.3	0.4	0.3	
・計画に基づいた集団給食の調理提供が行なえるようになる。						
・大量調理施設衛生管理マニュアルに則した安全かつ衛生的な給食管理ができるようになる。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス 給食管理実習の目的	シラバスの内容を理解し今後の実習に備える
第2回 HACCP 大量調理衛生管理マニュアル	大量調理施設衛生管理マニュアルの内容を覚える
第3回 大量調理器具機材の使い方と特徴について	器具機材の名称を復習して覚える
第4回 既定献立による大量調理の実施	大量調理の調理法と献立を復習する
第5回 給与栄養目標量 献立組み合わせ検討	栄養計算、献立の作成、作業計画立案
第6回 試作調理の実施	試作調理、適正量の確認
第7回 予定献立提示 発注書作成	試作後の献立見直しと発注書の作成
第8回 アンケート作成 検食簿	実施献立の作成と喫食評価の準備
第9回 予定献立による調理実習① (2グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等)	調理前: 調理計画・検収。調理後: 実施後のまとめ
第10回 予定献立による調理実習② (2グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等)	調理前: 調理計画・検収。調理後: 実施後のまとめ
第11回 調理および作業計画等の確認	これまでに実施した実習を振り返り、次週の実習計画の内容を確認する
第12回 予定献立による調理実習③ (2グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等)	調理前: 調理計画・検収。調理後: 実施後のまとめ
第13回 予定献立による調理実習④ (2グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等)	調理前: 調理計画・検収。調理後: 実施後のまとめ
第14回 アンケート結果集計・報告の準備 調理室清掃	集計作業、反省報告、レポートのまとめ
第15回 実習後の報告と反省・まとめ	次年度に向けた実習の振り返り
第16回 期末試験 (提出課題による)	これまでの学習をまとめておくこと

■ 履修上の注意

実習はグループ間での作業となるため学生間の連携を重視すること。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点70% (平常点は、実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する) レポート30% (必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する)

■ 教科書

〔給食運営・経営管理実習のてびき第6版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2, 600+税〕

〔改定 栄養・食事管理のための対象者別給食献立〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2, 500+税〕

■ 参考書

〔食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1, 400+税〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理実習Ⅱ

(30141)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益田裕司

■ 授業の概要

給食管理の実務について更に理解を深め給食の対象者に合わせた献立作成と作業計画（衛生管理を含む）を立てられるよう教員が持つ実務経験（管理栄養士）を基に実習を通して説明を行う。1年次の「給食管理実習Ⅰ」で学習した内容について、復習を行いながら主体的に実習する。対象者に適した栄養量や献立、価格であることはもちろん、喫食者の楽しみになるような給食の提供をできるようにする。また、実習後には改善策を検討し、より実践的な技術を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・給食の対象者に合わせた献立作成と作業計画が立てられるようになる。			0.3	0.4	0.3	
・定められた調理時間内に計画通りの給食調理ができるようになる。						
・大量調理施設衛生管理マニュアルに則した安全かつ衛生的な給食管理を自ら指示し実践できるようにする。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 班編成 献立計画	シラバスの内容を理解し今後の実習に備える
第2回	献立作成・検討 調理室清掃	食材、器具類の殺菌消毒法を確認する
第3回	大量調理機器を使った調理法の確認（前半グループ） 試作計画、食材購入計画	大量調理の応用法を習得する。実施献立の検討
第4回	大量調理機器を使った調理法の確認（後半グループ） 試作計画、食材購入計画	大量調理の応用法を習得する。実施献立の検討
第5回	試作調理 献立再検討	試作調理および献立見直し
第6回	対象者に向けた栄養媒体作り 書籍の利用 アンケート作成 発注書作成	献立説明、アンケート内容の検討
第7回	実習準備 作業工程表作成 衛生関連の書類確認	作業工程、衛生管理の点検
第8回	実習準備 献立調理指示、作業工程、アンケート等の見直し確認	給食実習の事前準備を確認
第9回	調理実習①（4グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第10回	調理実習②（4グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第11回	調理実習③（4グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第12回	調理実習④（4グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第13回	アンケート結果集計・報告の準備 調理室清掃	集計作業、反省報告、レポートのまとめ
第14回	報告用スライドの作成	報告内容を発表用に整理する
第15回	実習後の報告と反省・まとめ	実習の成果と課題を情報共有する
第16回	期末試験（提出課題による）	これまでの学習をまとめておくこと

■ 履修上の注意

応用力が必要となるため、担当作業だけでなく給食調理作業全体を注視すること。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点70%（平常点は、実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート30%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）

■ 教科書

〔給食運営・経営管理実習のてびき第6版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2, 100+税〕

〔改定 栄養・食事管理のための対象者別給食献立〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2, 500+税〕

■ 参考書

〔食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1, 400+税〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理実習Ⅲ（給食運営に係る校外実習）

(30142)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益田裕司

■ 授業の概要

給食管理についてこれまで学んできたことの総まとめとして、一週間、給食管理校外実習として特定給食施設において施設の管理栄養士を中心に給食管理業務の指導を受ける。実習施設は原則として保育所、小中学校、自衛隊、病院、福祉施設のいずれかとなる。一週間の校外実習を通して、給食業務を行うために必要な技術を習得し、食事の計画や調理など、社会に通用する栄養士として具備すべき知識及び技能を習得する。実習後は教員が給食施設で得た実務経験（管理栄養士）を基に事後指導を行う。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・実習の目的を明確にし、実習先で栄養士に必要な視点を身につける。					0.2	0.2
・自ら学習テーマ（自主研究）整理し報告できるようになる。					0.2	0.4
・社会人、栄養士として通用するコミュニケーション能力を身につける。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 給食業務に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収業務、食数管理、調理作業、配膳など基本的業務に加え、実習施設ごとの対象者に対する栄養食事管理についても学ぶ。	施設ごとの給食の目的を理解し、対象者に則した食事の要点を把握しておく。
第2回 実習前に施設を事前訪問し、実習計画や施設の概要を知る。	実習施設の特徴を理解した上で訪問する。
第3回 実習期間中に必要な課題や自主研究に取り組む。	今までの学習成果を生かし課題に着手する。
第4回 実習期間中は毎日校外実習ノートに記録を残す。	実習先で受けた指導内容を理解し、実習ノートにその記録を残す。
第5回 実習終了後は、反省点等の振り返りを事後指導として行う。	学内で事後指導を受け、実習での学びをまとめ、成果と反省、課題を見出す。

■ 履修上の注意

この科目は学内で定期的に行われる授業ではなく、指定された期間（5日間）、学外で学ぶものです。校外実習期間中、遅刻や欠席により定められた時間数で実習ができない場合、評価の対象からはずれる場合もある。実習に支障がないよう体調管理にも十分注意すること。

■ 成績評価方法・基準

実習前の評価（50％）積極性、準備や課題への取り組み状況（計画性）。実習中の評価（30％）実習態度（挨拶、積極性）、課題達成度。実習後の評価（20％）実習後の報告、事後指導、校外実習ノートの評価。校外実習ノートは評価して返却する。

■ 教科書

〔給食運営・経営管理実習のてびき第6版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2, 600+税〕

〔給食経営管理テキスト 第6版〕〔加藤由美子〕〔学建書院〕〔2, 800+税〕

■ 参考書

〔八訂 大量調理施設衛生管理のポイント〕〔中央法規〕〔2, 800+税〕

〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田上貞一郎〕〔萌文書林〕〔1, 800+税〕

■ 備考

校外実習については、実習先との都合上、夏季休暇中や後期に実施することがあります。

質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

栄養士基礎演習

(30143)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益田裕司

■ 授業の概要

2年次の校外実習の準備として、給食施設の特徴や献立作成、衛生管理などの基本的内容、及び社会の一員として学習するために必要なマナーや心構えについて教員の現場経験（管理栄養士）を取り入れた視点から解説する。また、校外実習をより効果的に行なえるよう、実際の給食施設で勤務実績のある栄養士、管理栄養士より施設ごとの栄養給食管理業務の講話をいただき、栄養士に求められる知識と技能、コミュニケーション能力について理解する。更に校外実習対策として事前課題に必要な知識について演習を通して学習する。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 社会で活躍する栄養士の責任と役割を理解することができる。					0.25	0.35
・ 施設ごとに求められる栄養士の技能を理解することができる。					0.25	0.15
・ 多職種と連携およびコミュニケーションの重要性を知る。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス 栄養士の職場環境について	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第2回 保育所・学校・事業所・病院・老人介護施設給食について	栄養士の活躍の場を理解する
第3回 聴講でのマナー、服装等の注意点、レポートの書き方について	聴講に必要な身だしなみやマナー、ルールを理解する
第4回 栄養士の職務内容と実習①保育所（講演）	聴講後レポートを提出する。
第5回 栄養士の職務内容と実習②学校（講演）	聴講後レポートを提出する。
第6回 栄養士の職務内容と実習③事業所（講演）	聴講後レポートを提出する。
第7回 栄養士の職務内容と実習④病院（講演）	聴講後レポートを提出する。
第8回 栄養士の職務内容と実習⑤老人介護施設（講演）	聴講後レポートを提出する。
第9回 円滑な業務を行うための職場の仕組み①保育所・学校・事業所	聴講時に配布された資料を復習する
第10回 円滑な業務を行うための職場の仕組み②病院・老人介護施設	聴講時に配布された資料を復習する
第11回 対象者との接し方、コミュニケーションについて	多職種との連携の重要性を理解する
第12回 校外実習に向けたトレーニング①（対象者の把握）	給食の対象者との特性を理解する
第13回 校外実習に向けたトレーニング②（栄養業務の演習）	演習内容を復習し理解する
第14回 校外実習に向けたトレーニング③（安全・衛生・危機管理の実務について）	実務と連携できるよう復習する
第15回 まとめ	校外実習前に理解しておくべき基礎事項の確認
第16回 期末試験（提出課題による）	これまでの学習をまとめておくこと

■ 履修上の注意

各職場で栄養業務を行うために必要な知識となります。各自、目的意識を明確にもつこと。また、聴講においては身だしなみにも注意すること。また聴講授業では、遅刻は認められず欠席扱いとなる場合もあるため十分に注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点50%（平常点は、受講態度（発言や質問など積極的な取り組み）で総合的に判断する。）期末試験20%、レポート30%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書

〔給食経営管理テキスト 第6版〕〔加藤由美子〕〔学建書院〕〔2, 800+税〕

■ 参考書

〔各施設における講演時の配布資料〕

■ 備考

各講演の時期に関しては講師の都合により変動します。

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食文化論

(30144)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

宮地 洋子

■ 授業の概要

日本の自然環境と社会環境の中で形成されてきた食文化について、古代から現代までどのように変遷してきたかを説明する。□

また、各時代の特徴と大陸、南蛮、欧米などの異文化と係わり、どのように取り入れて日本独特の食文化を発展したかも説明□

する。さらに、年中行事や儀礼食及び郷土料理の学修を通じて食文化の伝承と継承の大切さを教授する。□

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食文化の定義、その変遷を理解できる。	0.2	0.2	0.5			0.1
・各時代の特徴と諸外国との関わりを理解できる。						
・年中行事、通過儀礼食や郷土食を理解し、各自の食体験を整理できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 講義の進め方について、「和食」：日本人の伝統的な食文化	教科書P1～P9を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第2回 食文化の定義、食に関する思想	教科書P11～P19を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第3回 世界の食文化の形成 ①世界の食文化類型とその特徴	教科書P21～P25を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第4回 世界の食文化の形成 ②粉食文化と粒食文化	教科書P26～P30を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第5回 日本の食文化形成と展開	教科書P31～P40を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第6回 異文化接触と受容	教科書P41～P50を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第7回 主食の文化 ①木の実、いも類と米	教科書P51～P55を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第8回 主食の文化 ②大麦、小麦と雑穀	教科書P56～P60を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第9回 副食の文化、調味料	教科書P61～P75を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第10回 行事と地域の食文化 課題「通過儀礼食」についての説明	教科書P141～P149を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第11回 日本料理の形成と発展 ①日本料理の系譜と本膳料理 和食の□ マナー(DVD)の視聴 小テスト①	教科書P91～P95を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第12回 日本料理の形成と発展 ②懐石料理、会席料理、精進料理□ 洋食のマナー(DVD)の視聴 小テスト②	教科書P96～P100を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第13回 台所、食器、食卓の文化	教科書P101～P110を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出

第14回 日常の食生活	パーの提出 教科書P111～P120を読んでおくこと/ミニットペ ー□
第15回 非常の食生活、災害食(DVD)の視聴、まとめ	パーの提出 教科書P12～P130を読んでおくこと/ミニットペ ー□
第16回 期末試験	パーの提出 試験の準備をしておくこと

■ 履修上の注意

1. 授業前にプリントを配布しますが、講義予定の教科書内容を熟読して受講してください。□
2. 教科書及びスライドで提示された専門用語のうち、わからないものについては調べておいてください。□
3. 課題については提出期限を守ってください。□

■ 成績評価方法・基準

試験（50%）、小テスト（20%）、課題（20%・提出された課題は後日添削して返却します）、受講態度（10%・ミニットペ
 ー□
 パーや提出物の提出状況、発言、質問等）、試験は問題と解答例をまとめたレジュメを配布し、フィードバックとします。
 □

■ 教科書

〔新版 日本の食文化「和食」の継承と食育〕〔江原絢子・石川尚子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2, 500円+税別〕 □

■ 参考書

〔食文化入門〕〔石毛直道〕〔講談社〕〔2, 200円〕、〔近代の食文化〕〔石川寛子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕 □
 □
 [2, 640円]、□

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付けます。

食生活支援論

(30145)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（24＋12）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

松尾 広 益田 裕司

■ 授業の概要

食生活を消費者・生活者の視点から概観し、食生活のアドバイスができるようになるために、食生活アドバイザー検定試験の内容について学ぶ授業である。栄養や食生活、ダイエット、健康、食文化、行事食、調理方法、食事におけるマナー、食品の分類や表示、保存・加工食品の目的、食品添加物、食品衛生、食マーケット、流通システム、税金や法律、経済など、「食」を取り巻く消費生活と社会の仕組みなどについて説明し、演習問題を解いていく。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食生活や健康管理のアドバイスができるようになること。	0.2	0.2	0.6			
・食文化や食品表示、食品衛生に関する知識を身につける。						
・食マーケットの概要について理解すること。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンスと1章前半：栄養に関する知識（松尾、益田）	配布プリント、教科書1章を復習
第2回 1章後半：健康に関する知識（益田）	配布プリント、教科書1章を復習
第3回 2章前半：食文化（益田）	配布プリント、教科書2章を復習
第4回 2章後半：調理・食材・マナー（益田）	配布プリント、教科書2章を復習
第5回 3章前半：食品の分類（益田）	配布プリント、教科書3章を復習
第6回 3章後半：食品表示（益田）	配布プリント、教科書3章を復習
第7回 4章前半：食中毒の予防（益田）	配布プリント、教科書4章を復習
第8回 4章後半：食品の安全（益田）	配布プリント、教科書4章を復習
第9回 5章前半：食マーケット（松尾）	配布プリント、教科書5章を復習
第10回 5章後半：流通システム（松尾）	配布プリント、教科書5章を復習
第11回 6章前半：暮らしと経済（松尾）	配布プリント、教科書6章を復習
第12回 6章後半：食品に関する法律（松尾）	配布プリント、教科書6章を復習
第13回 期末試験（食生活アドバイザーの模擬試験）（松尾）	模擬試験の復習（提出課題あり）

■ 履修上の注意

食生活アドバイザー検定試験の日程に合わせ講義日程（時間帯）を調整することがあるので、注意すること。

■ 成績評価方法・基準

各回の提出物等の受講態度（60%）、期末試験（40%）。提出物はコメント等をして返却する。

■ 教科書

食生活アドバイザー3級公式テキスト&問題集 FLAネットワーク協会/編 1980円

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

特別演習

(30146)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（52＋26）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子 鈴 木 裕 行 益 田 裕 司 高 瀬 清 美

■ 授業の概要

本演習では、栄養士実力認定試験の試験範囲について総合的に復習を行い、栄養士としての資質向上を目指し授業を行う。栄養士に必要な知識は「授業計画」にあるように大変多岐にわたるが、その内容を集中的に復習することで、散逸している知識を再統合する。また、栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去問題を解くことにより、知識が不足している個所を再確認させるとともに、卒業までおよび卒業後の復習につなげる。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・栄養士実力認定試験のメリット、試験範囲、出題形式が理解できる。	0.3		0.7			
・栄養士に必要な知識を、総合的に身につける。						
・選択式の問題を解くための読解力と思考力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、模擬試験I	模擬試験の自己採点、誤った問題についての再学習。
第2回 食品学総論（永沼）授業の復習と練習問題解説I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第3回 食品学総論（永沼）授業の復習と練習問題解説II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第4回 栄養学総論（永沼）授業の復習と過去問題の解説I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第5回 生化学（鈴木）重要ポイントおよび過去問題の解説I	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第6回 生化学（鈴木）重要ポイントおよび過去問題の解説II	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第7回 第6回までのまとめ 模擬試験II	自己採点、誤った問題についての再学習。
第8回 食品学各論（永沼）重要ポイントの解説と過去問題の解説I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第9回 食品学各論（永沼）重要ポイントの解説と過去問題の解説II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第10回 食品衛生学（高瀬）重要ポイントの解説と過去問題の解説I	配布資料と練習問題の復習。
第11回 食品衛生学（高瀬）重要ポイントの解説と過去問題・演習問題の解説II	配布資料と練習問題の復習。
第12回 栄養学総論（永沼）授業の復習と過去問題の解説II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第13回 栄養学総論（永沼）授業の復習と過去問題の解説III	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第14回 栄養学各論（永沼）重要ポイントおよび過去問題の解説I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第15回 栄養学各論（永沼）重要ポイントおよび過去問題の解説II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第16回 第15回までのまとめと模擬試験III	自己採点、誤った問題についての再学習。
第17回 臨床栄養学概論（益田）問題の傾向と対策I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。 模擬試験の自己採点、誤った問題についての再学習。
第18回 臨床栄養学概論（益田）問題の傾向と対策II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第19回 調理学・食品学各論（永沼）要点の復習と演習問題の解説I	配布資料・教科書・練習問題の復習。
第20回 調理学・食品学各論（永沼）要点の復習と演習問題の解説II	配布資料・教科書・練習問題の復習。
第21回 生化学（鈴木）重要ポイントの解説III	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第22回 生化学（鈴木）重要ポイントの解説IV	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第23回 臨床栄養学概論（益田）重要ポイントの解説III	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第24回 給食管理論（益田）問題の傾向と対策I	給食管理論（益田）問題の傾向と対策
第25回 給食管理論（益田）問題の傾向と対策II	給食管理論（益田）問題の傾向と対策
第26回 給食管理論（益田）問題の傾向と対策III	給食管理論（益田）問題の傾向と対策
第27回 まとめと 模擬試験IV	自己採点、誤った問題についての再学習

■ 履修上の注意

授業は、原則各科目の担当教員によるオムニバス形式。毎回配布資料があるので、ファイルに綴じて整理すること。授業で終わらない課題は、各自で時間外に行うこと。疑問点は、各科目の担当教員に、授業終了時もしくはオフィスアワーを使って質問する。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか）30%、提出物及び模擬試験・実力認定試験の成績70%。試験答案などの提出物は後日添削して返却する。模擬試験については試験終了時に正答を配布する。必要に応じ返却時に解説を行う。各科目の授業で使用した教科書を持参すること。

■ 教科書

■ 参考書

栄養士実力認定試験過去問題集 （健帛社）

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいは担当教員オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。集中講義の日程などの連絡に注意すること。授業の順番には変更がある。

テーブルコーディネート I (テーブルマナーを含む。)

(30147)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科 : 食専1年

授業形態 : 演習 学期 : 前期 必・選 : 選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

小林 知恵子

■ 授業の概要

基本理論、アイテム・セッティング・カラー・テーブルマナーの基礎知識に加え、和・洋・中、各国の食文化に対応した正しいアイテム選び食卓の表現方法が習得出来る様指導。食空間コーディネーターとして、作り手・企業・協会等、業界との繋がりを持ち、全国区で活動する講師が、時代に即した知識を積極的に授業に展開。社会に出た後も自信を持ち主体的に行動出来る、知識と教養を身に付けた人材を育成する。また、本校はNPO法人食空間コーディネート協会認定校である為TALK食空間コーディネーター3級資格も基準達成で取得可能。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・食空間演出の必要性と効果を理解する事が出来る様になる。	0.2	0.2	0.3	0.1		0.2
・テーブルウェアの基礎知識を習得し和・洋・中の基本的テーブルセッティングが出来る様になる。						
・カラーの特性を生かし、テーブルコーディネートに活用できる様になる。						
・旬な知識・マナーを習得し、社会人となる上での自信を持つ事が出来る。						

■ 授業計画

	自習 (事前・事後学修の内容)
第1回 導入:講義の目的と授業展開。フードコーディネーターとは?	テキストp.2-3をよく読んでおく
第2回 食空間のあり方～テーブルコーディネートの基礎倫理～	テキストp.6-7をよく読んでおく
第3回 テーブルウェアの知識 ①リネンについて	テキストp.68-72をよく読んでおく
第4回 テーブルウェアの知識 ②陶磁器の基礎知識	テキストp.10-17をよく読んでおく
第5回 テーブルウェアの知識 ③洋陶磁器について	テキストp.26-31をよく読んでおく
第6回 テーブルウェアの知識 ④ガラス、カトラリーについて	テキストp.32-39 p.54-58をよく読んでおく
第7回 食空間におけるカラーコーディネート (実習)	テキストp.82-96をよく読んでおく
第8回 テーブルウェアの知識 ⑤センターピースフィギュア、フラワーアレンジ(実習)	テキストp.60-67p.73-80をよく読んでおく
第9回 食空間構成①洋食の基本セッティング (実習)	実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事
第10回 テーブルウェアの知識 ⑥和陶磁器について	テキストp.18-25をよく読んでおく
第11回 テーブルウェアの知識 ⑦漆器・箸について	テキストp.50-53をよく読んでおく
第12回 食空間構成②和食の基本セッティング (実習)	実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事
第13回 食空間構成③中国料理の基本セッティング (実習)	実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事
第14回 プランニングシートの作成について (テーマ自由)・卓育	自由テーマのプランを練っておく
第15回 プレゼンテーション	自由テーマのプランニングシート提出
第16回 期末試験	テキスト、配布資料をよく学習しておく

■ 履修上の注意

グループ作品の製作実習の際、積極的に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験 (50%)、提出課題 (20%)、受講態度 (学習と関係のない私語。忘れ物。グループワークへの積極性・協調性。) (30%)

・提出されたプランニングシートは、後日添削して返却。

■ 教科書

[フードコーディネーター 教本3級] [柴田書店] [3, 300円]

[食空間コーディネーターテキスト3級] [NPO法人食空間コーディネート協会] [2, 381円+税]

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

テーブルコーディネートⅡ

(30148)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：実習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

小林 知恵子

■ 授業の概要

各国のテーブル・サービスマナー、プロトコルの基礎知識、空間デザインについて講義。校外学習では地元プロの作品展に参加・見学し、実社会で要求される到達目標を体感。各自プランニングとプレゼンテーションを重ねる事で、相互理解を深め主体的に行動できる能力を養う。講師は業界コンテスト全国1位、出版の経歴を持ち東京ドームTWFではアリーナ出演・講座講師を務めるなど全国区で活躍。実習で生徒の作品を基に時代に即した表現方法・芸術的創造性を披露するなど実社会に繋がる様指導。本校はTALK認定校の為、食空間コーディネーター3級資格も基準達成で取得可能。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・テーブルマナー、サービスマナー、プロトコルの基礎知識を習得。	0.2	0.2	0.3	0.1		0.2
・料理の特性、季節や祭事に合わせたコーディネートが出来る様になる。						
・プランニング・プレゼンテーションで相互理解を深めると共に、実践力を身に付ける。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 食空間演出：ハロウィン（実習）外国の行事や祭事	ハロウィンプランニングシートの練習
第2回 食空間演出：七五三（実習）日本の行事や祭事	七五三プランニングシートの提出
第3回 食空間演出：クリスマス（実習）酒類・飲料	クリスマスプランニングシートの提出 テキストp.133-137をよく読んでおく
第4回 食空間演出：母の日（実習）	母の日プランニングシートの提出
第5回 テーブル展搬入（校外学習）	
第6回 テーブル展見学（校外学習）	感想レポートをまとめ次回提出
第7回 テーブルマナーとサービスマナー（日本料理）	テキストp.115-121p.138-139をよく読んでおく 端午の節句プランニングシートの提出
第8回 食空間演出：端午の節句（実習）	お正月プランニングシートの提出
第9回 食空間演出：お正月（実習） テーブルマナーとサービスマナー（西洋料理） アフタヌーンティーについて	テキストp.122-128p.140をよく読んでおく
第10回 テーブルマナーとサービスマナー（中国料理） ホームパーティー	テキストp.130-132p.141-142をよく読んでおく 上巳の節句プランニングシートの提出
第11回 食空間演出：上巳の節句（実習）	バレンタインプランニングシートの提出
第12回 食空間演出：バレンタイン（実習） プロトコル（国際儀礼）の基礎知識	
第13回 フードサービスにおける空間デザイン	ウェディングプランニングシートの提出 テキストフードp.205p.231をよく読んでおく
第14回 食空間演出：ウェディング（実習）、期末試験対策	
第15回 3級資格認定対策	テキスト全体を復習
第16回 期末試験	テキスト、配布資料をよく学習しておく

■ 履修上の注意

行事の慣習の知識を深め、実習の際には創意工夫をもって、積極的に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

学年末の試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（学習と関係のない私語・グループワークへの積極性・協調性・外部団体との関わりの上でのマナー）（20%）

- ・提出されたプランニングシートは、次回授業内でフィードバックし、後日添削して返却。

■ 教科書

〔フードコーディネーター 教本3級〕〔柴田書店〕〔3, 300円〕

〔食空間コーディネーターテキスト3級〕〔NPO法人食空間コーディネート協会〕〔2, 381円＋税〕

■ 参考書

無し

■ 備考

- ・ 質問等については、授業終了時に受け付けます。

フードマネジメント

(30149)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

森田 明 作田 竜一 丹治 朋子

■ 授業の概要

本授業では、フードシステムの考え方を基礎としてフードマネジメントの基礎を学びます。フードシステムとは、食に関する流れです。食の起点としての農業生産に始まり、企業体としての経営やそのマーケティング、製造・加工、流通・販売など生産から消費に至るサプライチェーン、食の安全・安心をつかさどる品質管理や品質保証、食品ロスや食料自給率など食にかかわる今日的な課題を取り上げ、持続可能な食の未来について考察します。特に制度としての部分については、森田・作田は農林水産省等での実務経験を活かした授業を行います。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・食全体の仕組み（フードシステム）を説明できる。			0.5		0.5	
・食品企業の経営について説明できる。						
・食産業の課題を説明できる。						

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 インTRODクシヨN（森田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として次回の講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第2回 食生活を考える（森田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第3回 フードシステムとその進化（森田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第4回 食品小売業と流通（森田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第5回 外食産業（丹治）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第6回 中食産業（丹治）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第7回 食品製造業（森田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第8回 日本の農業と六次産業化（森田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第9回 食の安全、安心、信頼（作田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第10回 食品の表示（作田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第11回 食品消費と環境問題、フードロス（作田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第12回 食ビジネスの計数管理（森田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。
第13回 食ビジネスの計数管理（損益分岐）（森田）	事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習す

第14回 食品マーケティング (森田)

ること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。事後学習としてこの講義の内容をしっかりと復習すること。また、次回のための事前学習として講義内容について参考書等を読んで講義に望むこと。まとめの講義を参考にこの科目の復習を行い科目の内容を身につけること。

第15回 小テストとまとめの講義 (森田)

■ 履修上の注意

本授業は対面で実施します。
前の席に座るようにしましょう。
教室内の他の学生に迷惑をかけないよう私語はしない。
スマートフォンはマナーモードに。

■ 成績評価方法・基準

試験70%、受講後の質問やコメントなど（ミニットペーパーを含む。）の総合評価（30%）受講後の質問やコメントなど（ミニットペーパーを含む。）で重要なものについては次回の授業内でフィードバックします。

■ 教科書

とくになし。授業時pdfを配付します。

■ 参考書

〔フードシステム入門 - 基礎からの食料経済学〕〔薬師寺哲郎・中川隆 編著〕〔建帛社〕〔2, 530円〕
〔新・フードコーディネーター教本2026〕〔日本フードコーディネーター協会〕〔柴田書店〕〔3, 520円〕（第5章：食の経済・経営・運営）

■ 備考

質問等については授業終了後、または講師のメールアドレスにて随時受け付けます。何でも気軽に質問してください。

コンピューターサイエンス概論

(30150)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 食専2年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

池田展敏

■ 授業の概要

情報社会を生きる私たちにとって、コンピュータやネットワークの仕組み・危険性に関する基礎知識は不可欠なものである。本講義では、情報がどのようにデジタル化されコンピュータや記録媒体等で扱われるのか、ハードとソフトの両面から学習したのち、情報社会で生活するための情報倫理やセキュリティについて学べるように授業を行う。授業の方法としては、アクティブラーニングの手法を取り入れ、項目ごとにチーム学習と発表を行っていく。

■ 授業の到達目標

	学習成果との関連					
	①	②	③	④	⑤	⑥
・デジタルデータ (ソフトウェア) とコンピュータの仕組み (ハードウェア) を理解する。	0.5				0.3	0.2
・インターネットやLANなどのネットワークの仕組みを理解する。						
・ネットワーク社会で必要となるセキュリティの知識とモラルを習得する。						
・チームで協力して情報収集と発表ができる。						

■ 授業計画

	自習 (事前・事後学修の内容)
第1回 ネットワーク社会と情報。アクティブラーニングの手法について	配布プリントの復習。
第2回 「デジタル (ビット) がコンピュータのデータの基本」の調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第3回 「デジタル (ビット) がコンピュータのデータの基本」の発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第4回 「デジタル (ビット) がコンピュータのデータの基本」の発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第5回 「コンピュータの5大機能とハードウェア」の調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第6回 「コンピュータの5大機能とハードウェア」の発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第7回 「コンピュータの5大機能とハードウェア」の発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第8回 「インターネットの仕組み」に関する調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第9回 「インターネットの仕組み」に関する発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第10回 「インターネットの仕組み」に関する発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第11回 「インターネットを安全に使うために」の調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第12回 「インターネットを安全に使うために」の発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第13回 「インターネットを安全に使うために」の発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第14回 補足事項1) コンピュータのハードとソフトの発展	課題プリントの学習。
第15回 補足事項2) データサイエンス・AIと社会の変化。情報モラルに関するビデオを使った学習	それまでの配布プリントを復習。作文の提出
第16回 期末試験 (提出課題による)	配布プリントによる全体の復習

■ 履修上の注意

- ・一部、遠隔授業、集中講義、の形態で授業を行う可能性もあるので、クラスルームの連絡をよく読むこと。
- ・各テーマに対して、教科書などを読み込むなどの予習をしておかないとチーム学習が成り立たない。よって、発表資料作成の際には十分な予習を心がけること。

■ 成績評価方法・基準

発表の準備と内容 (12×4 = 48%)、期末試験の代替課題提出 (48%)、提出物 (4%)。グループ発表の資料後日はプリントして配布する。テストは添削して返却する。

■ 教科書

〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1, 800円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

ループリックはクラスルームにて配布します。質問等については、授業終了時、および、クラスルームで随時受けつけます

スポーツ栄養学

(30151)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 60)

対象学科 : 食専1年

授業形態 : 講義 学期 : 後期 必・選 : 選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

青 柳 公 大

■ 授業の概要

日常生活において運動・スポーツを取り入れることはQOLの向上の1つである。その中にはオリンピック等といったプロアスリートとして活躍している者もあり、彼らのベストパフォーマンスを支える「食事」への関心が高い。そこで運動と栄養の関わりをライフステージなどを含めて考慮すべき点や科学的知見に基づいて講義を行う。各種栄養素の摂取方法、アセスメント、コンディショニングについて学習を行い、食事面からのサポートが提案、実践できるようにする。

■ 授業の到達目標

学習成果との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・運動、スポーツと各種栄養素の関わりについて理解できる。			0.5	0.3		0.2
・各ライフステージ期における栄養を含めて考慮すべき点について理解し、計画・指導できる。						
・適切な栄養補給 (食事、水分等) を理解し、実践できるようにする。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 スポーツ選手における栄養摂取の考え方 (体作りやコンディショニング維持)	配布プリントの復習
第2回 運動によるエネルギー消費、必要エネルギー量について	配布プリントの復習
第3回 スポーツ・健康と栄養素① (糖質、たんぱく質、脂質)	配布プリントの復習
第4回 スポーツ・健康と栄養素② (ビタミン、ミネラル)	配布プリントの復習
第5回 スポーツ選手の食事摂取基準・サプリメントについて	配布プリントの復習
第6回 コンディショニングについて (期分け、ライフスタイル別: 女性アスリート、ジュニア期、シニア期、障害者)	配布プリントの復習、年間サポート計画の立案と発表
第7回 熱中症と水分補給	配布プリントの復習
第8回 栄養サポートについて、スポーツ選手向けの献立作成	配布プリントの復習、栄養サポート計画案 (指導と食事) の作成と提出 (発表も含む)
第9回 スポーツ選手 (陸上長距離選手) 向けの食事の実際① (食事提供の基礎)	配布プリントで予め内容を確認しておくこと
第10回 スポーツ選手 (陸上長距離選手) 向けの食事の実際② (競技特性に合わせた食事提供)	配布プリントで予め内容を確認しておくこと
第11回 期末試験 (レポート)	

■ 履修上の注意

栄養学、ライフステージ栄養学と関連させながら講義を行うので、必要に応じて関連科目の復習を行うこと。□

-

■ 成績評価方法・基準

レポート試験60%、平常点・受講態度 (20%) (授業への参加状況 (発言、質問等、及び小テストの結果等で総合的に評価する)、課題作成 (20%)) で総合的に評価します。□

-

■ 教科書

なし□

-

■ 参考書

[理論と実践スポーツ栄養学] [鈴木志保子著] [日本文芸社] [2, 200円] □

-

■ 備考

質問等は授業終了時またはオフィスアワーで受け付ける。□